

ブラジル国
環境省シコメンデス生物多様性保全院(ICMBio)

ブラジル国
ジャラポン地域生態系コリドー
プロジェクト
プロジェクト事業完了報告書

平成 25 年 11 月
(2013 年 11 月)

独立行政法人
国際協力機構(JICA)

日本工営株式会社

ブラ事
J R
13-003

本プロジェクトの対象地域



Legenda

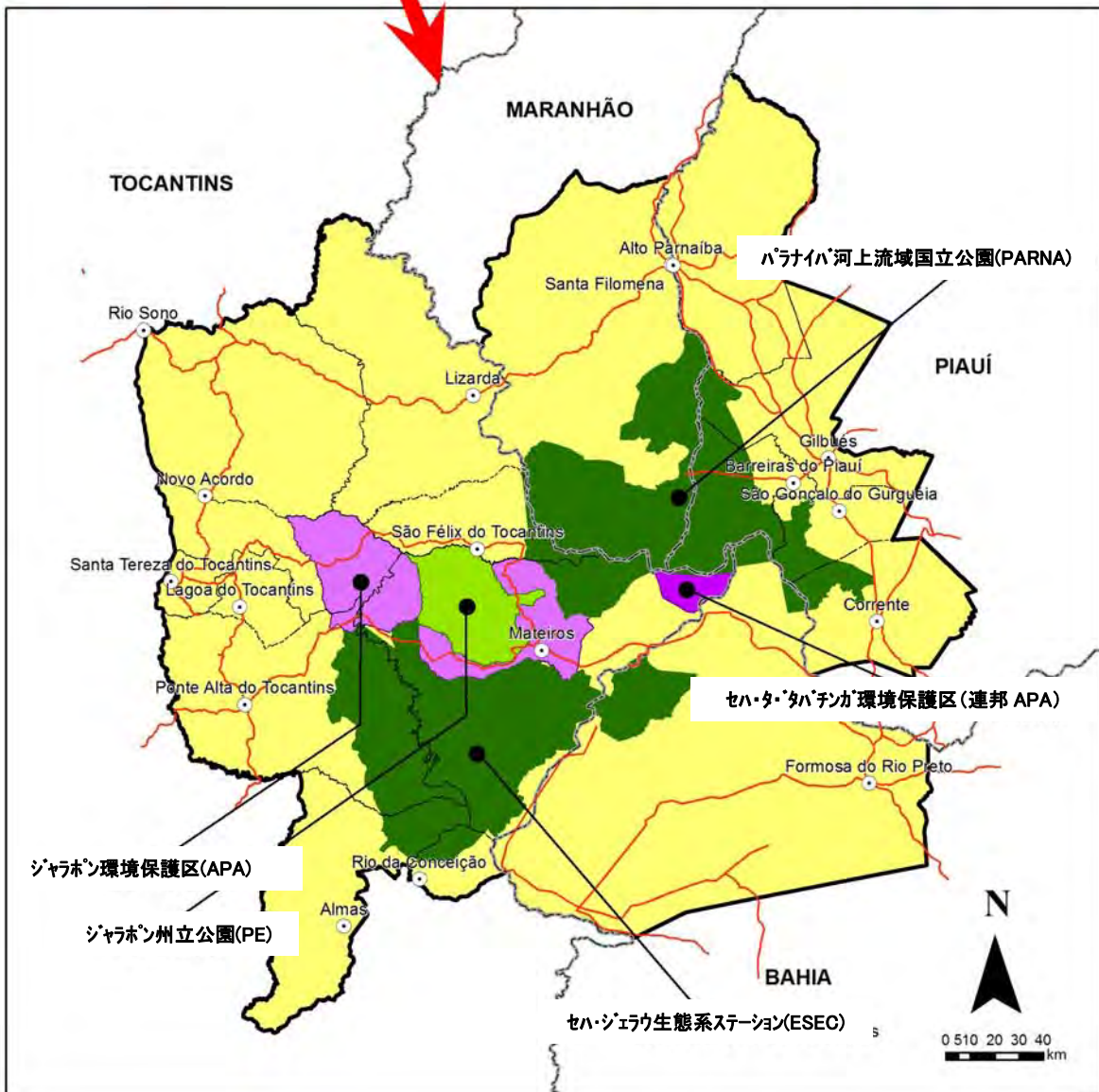
- Sedes Municipais
- Acessos Principais
- Estados
- Municípios
- Área Alvo

UCs Federais

- Proteção Integral
- Uso Sustentável

UCs Estaduais

- Proteção Integral
- Uso Sustentável



活動の写真記録 - 2010

1. 合同調整委員会(JCC)



ブラジリア

2. キックオフセミナー



パルマス

3. ワーキンググループ会議



パルマス

4. ワーキンググループ会議



パルマス

5. ワーキンググループ会議



パルマス

6. ICMBio-NATURATINS-SHRMA-JICA会議



パルマス

7. 合同エクспедиション(1)



サンフェリックス

8. 合同エクспедиション(2)



サンフェリックス

9. 合同エクспедиション(3)



サンフェリックス

10. 合同エクспедиション(4)



サンフェリックス

11. ローカルワークショップの風景(Almas)



アルマス

12. サンパウロ大学の湿地試験区



マテイロ

13. データベースに関する内部会議



ブラジリア

14. GIS・GPS研修



ブラジリア

15. GIS・GPS研修の終了証書



ブラジリア

16. 第3回C/P定期会議



ヒオデコンセイソン

17. 協定文書策定の会議



パルマス

18. ICMBio-NATURATINS-SHRMA-JICA会議



マテイロ

活動の写真記録 - 2011

1. 合同調整委員会でのPDM改定の承認



ブラジル

2. Web-GISに関する州政府との協力



パルマス

3. サンフェリックス市でのワークショップ



サンフェリックス

4. マテイロ市でのワークショップ



マテイロ

5. 環境省生物多様性・森林局長官との会議



ブラジル

6. GIS研修の実施



パルマス

7. 戦略文書(成果5)作成の第一回会議



パルマス

8. 民有地保護区(RPPN)セミナー



パルマス

9. 協力協定書の署名



パルマス

10. 協力協定書の署名イベント



パルマス

11. 生態系コリドーとモザイクに関する技術セミナー



タクアラス

12. C/P定期会議



パルマス

13. 自治体の能力強化研修



ポンチアルタ

14. 環境教育リーダー養成研修



マテイロ

15. 自治体環境法の策定会議



ポンチアルタ

16. 自治体の能力強化研修



ポンチアルタ

17. 環境教育の成果発表のためのイベント



ヒオデコンセイソン

18. 環境教育の活動の様子



ヒオデコンセイソン

活動の写真記録 - 2012

1. 環境教育リーダー養成研修の様子



サンフェリックス

2. バイア州環境長官へのモザイクのブリーフィング



サルバドール

3. 環境教育リーダー養成研修の様子



ヒオデコンセイソン

4. マテイロ市環境審議会との会議



マテイロ

5. GIS-データベース”Geo-Jalapao”の公式披露イベント



パルマス

6. 連邦環境省生物多様性・森林局長へのモザイクのブリーフィング



ブラジリア

7. モザイク設立プロポーザルの完成記念撮影



サルバドール

8. 自治体立保護区(MNCCRS)管理計画の公聴会



サンフェリックス

9. 環境保全交付金の適正利用推進セミナー



ラジアド州立公園

10. 自治体向けの研修ビデオの作成風景



パルマス

11. ヒオデコンセイソン環境審議会の会議



ヒオデコンセイソン

12. 自治体保護区(MNCCRS)の境界設定の議論



サンフェリックス

13. 観光資源特定の為の現地調査



ヒオデコンセイソ

14. 環境教育の国内類似案件との技術交流会



ブラジリア

15. 小学校での環境教育の実習風景



サンフェリックス

16. 市環境審議会の市民フォーラム



ヒオデコンセイソ

17. 環境教育の成果発表会-”環境の歌”披露



ヒオデコンセイソ

18. 環境管理能力強化のための合同セミナー



パルマス

活動の写真記録 - 2013

1. トカンチンス州環境局長官との会議の様子



パルマス

2. モザイク設立のための準備会議の風景



マテイロ

3. モザイク設立準備会議の参加者



マテイロ

4. コスタリカでの技術交換の様子



コスタリカ

5. コスタリカでの技術交換の様子



コスタリカ

6. バイア州環境局長官に対する優先保護地域の説明



サルバドール

目 次

第 1 章 プロジェクトの概要.....	1-1
1.1. プロジェクトの背景.....	1-1
1.2. プロジェクトの目的.....	1-1
1.3. プロジェクトの対象地域	1-1
1.4. プロジェクトの枠組・プロジェクト・デザイン・マトリックス(PDM).....	1-3
1.4.1 PDM 第 3 版 (2012 年 12 月改訂) – 最終版 PDM.....	1-3
1.4.2 PDM 第 2 版 (2011 年 6 月改訂).....	1-4
1.4.3 PDM 第 1 版 (2010 年 4 月).....	1-5
1.5. PDM の変遷.....	1-7
1.5.1 第一回改訂(2011 年 6 月).....	1-7
1.5.2 第二回改訂(2012 年 12 月).....	1-11
第 2 章 業務の実施方法.....	2-1
2.1. PDM から想定される作業項目	2-1
2.2. プロジェクト目標達成に向けた成果間の関係	2-1
2.3. プロジェクトが目指す体制強化 = 地域保全メカニズムの構築	2-2
2.3.1 プロジェクト以前のベースライン – Without Project Scenario.....	2-2
2.3.2 地域保全メカニズムの定義	2-3
2.3.3 プロジェクトの目指す未来 – With Project Scenario.....	2-4
2.3.4 職員の能力向上のために取り組むプロジェクト活動.....	2-5
2.4. 各成果を構成するコンポーネント	2-6
2.5. 各成果の活動と実施方法	2-6
2.5.1 成果 1：関連情報の整備と共有.....	2-6
2.5.2 成果 2：関係機関が連携するための枠組の構築.....	2-7
2.5.3 成果 3：ICMBio 及び関係機関の職員の能力向上.....	2-7
2.5.4 成果 4：地域住民の保全活動への参加促進.....	2-8
2.5.5 成果 5：戦略文書の作成	2-9
2.6. 業務フローチャート.....	2-9
2.7. プロジェクト実施体制	2-11
2.7.1 ICMBio カウンターパートの配置.....	2-11
2.7.2 JICA 専門家の配置	2-12
2.7.3 合同調整委員会(JCC)	2-12
2.7.4 JICA 専門家チームのアサイン期間	2-12
第 3 章 活動実施スケジュール(実績).....	3-1
3.1. 業務行程(Plan of Operations)	3-1
3.2. 第一年次(2010 年 4 月～12 月)	3-2
3.3. 第二年次(2011 年 3 月～12 月)	3-4
3.4. 第三年次(2012 年 4 月～2013 年 2 月).....	3-7

3.5. 第四年次(2013年3月～10月)	3-10
第4章 成果ごとの活動実績	4-1
4.1. 全成果共通	4-1
4.1.1 既存資料の収集・分析【0-1】	4-1
4.1.2 インセプションレポート案の作成・説明・協議・承認【0-2】【0-4】	4-1
4.1.3 調達機材の選定及び調達に対する技術支援【0-3】	4-1
4.1.4 技術移転/CD計画の策定【0-5】	4-1
4.1.5 業務完了報告書の作成【0-6】	4-1
4.1.6 第2年次の活動計画案の作成【0-7】	4-2
4.1.7 第2年次の活動方針案の説明・協議・承認【0-8】	4-2
4.1.8 業務完了報告書の作成【0-9】	4-2
4.1.9 第3年次の活動計画案の作成【0-10】	4-2
4.1.10 第3年次の活動方針案の説明・協議・承認【0-11】	4-2
4.1.11 業務完了報告書の作成【0-12】	4-2
4.1.12 プロジェクト事業完了報告書の作成【0-12】	4-2
4.1.13 延長フェーズ(第4年次)の活動計画案の作成【0-12】	4-2
4.1.14 延長フェーズ(第4年次)の活動方針案の説明・協議・承認【0-13】	4-3
4.1.15 延長フェーズ(第4年次)のモニタリング, プロジェクト全体の評価【0-14】	4-3
4.1.16 プロジェクトの教訓の整理【0-15】	4-3
4.1.17 プロジェクト事業完了報告書の作成・提出【0-16】	4-3
4.2. 【成果1】自然保護区のバッファゾーンを含むJREC運営に必要な情報が収集, 分析, 整理される。	4-3
4.2.1 生態系コリドーに関する情報の収集・分析【1-1】	4-3
4.2.2 活用可能な人的リソース, 手法及びツールの特定【1-2】	4-4
4.2.3 対象地域の環境・社会・経済に関する情報の収集【1-3】	4-4
4.2.4 プロジェクト・ホームページの作成	4-4
4.2.5 生態系コリドーに関する情報の収集・分析【1-4】	4-5
4.2.6 活用可能な人的リソース, 手法及びツールの特定【1-5】	4-5
4.2.7 対象地域の環境・社会・経済に関する情報の収集【1-6】	4-5
4.2.8 関係機関のネットワークの維持及びプロジェクト情報の普及【1-7】	4-5
4.2.9 生態系コリドーに関する情報の収集・分析【1-8】	4-6
4.2.10 活用可能な人的リソース, 手法及びツールの特定【1-9】	4-7
4.2.11 対象地域の環境・社会・経済に関する情報の収集【1-10】	4-7
4.2.12 関係機関のネットワークの維持及びプロジェクト情報の普及【1-11】	4-8
4.3. 【成果2】JREC実施のための組織的な連携が構築される。	4-9
4.3.1 プロジェクト・スタッフ定期会議の開催【2-1】	4-9
4.3.2 JREC審議会の設立準備【2-2】	4-9
4.3.3 プロジェクト・スタッフ定期会議の開催【2-3】	4-12
4.3.4 JREC審議会の設立支援【2-4】	4-12
4.3.5 プロジェクト・スタッフ定期会議の開催【2-5】	4-14

4.3.6	協力協定書に準拠した関係機関の参加した会議の開催【2-6】	4-15
4.3.7	プロジェクト・スタッフ定期会議の開催【2-7】	4-16
4.3.8	ジャラポン・モザイク審議会の設置と定款の作成【2-8】	4-16
4.3.9	モザイク審議会のメンバーを対象に能力向上研修の実施【2-9】	4-16
4.4.	【成果 3】 JREC 保全に必要な ICMBio 職員及び関係機関職員の能力向上が実施される。	4-17
4.4.1	研修テーマの把握【3-1】	4-17
4.4.2	研修計画の策定・実施【3-2】	4-19
4.4.3	研修テーマの把握【3-3】	4-20
4.4.4	研修計画の策定・実施【3-4】	4-21
4.4.5	研修受講者の活動に対するフォローアップ体制の構築【3-5】	4-22
4.4.6	JREC 保全に関する公開セミナーの開催【3-6】	4-22
4.4.7	本邦研修	4-22
4.4.8	研修テーマの特定と職員研修プログラムの作成【3-7】	4-23
4.4.9	職員研修プログラムの計画策定・実施【3-8】	4-23
4.4.10	研修受講者の活動に対するフォローアップ体制の構築【3-9】	4-25
4.4.11	本邦研修	4-25
4.4.12	バイア州内の新規保護区プロポーザル作成の支援【3-10】	4-26
4.4.13	コスタリカの生態系コリドーの技術視察の実施【3-11】	4-26
4.4.14	ジャラポン・モザイク設立に関する知見・経験の整理【3-12】	4-27
4.4.15	JREC 保全に関する公開セミナーの準備と開催【3-13】	4-27
4.5.	【成果 4】 JREC 保全に関する関係機関と地域住民との連携が強化される。	4-28
4.5.1	地域住民へのプロジェクト情報の伝達【4-1】	4-28
4.5.2	地域住民への研修テーマ及び方法の特定【4-2】	4-28
4.5.3	地域住民への研修の実施【4-3】	4-28
4.5.4	地域住民へのプロジェクト情報の伝達【4-1】	4-29
4.5.5	地域住民への研修テーマ及び方法の特定【4-2】	4-29
4.5.6	地域住民への研修の実施【4-3】	4-29
4.5.7	地域住民への研修後のフォローアップの実施【4-4】	4-31
4.5.8	地域住民へのプロジェクト情報の伝達【4-5】	4-31
4.5.9	地域住民への研修テーマ及び方法の特定【4-6】	4-31
4.5.10	現地リソースを最大限に活用した地域住民への研修等の実施【4-7】	4-31
4.5.11	地域住民への研修後のフォローアップの実施【4-8】	4-34
4.5.12	自治体環境審議会強化、環境教育リーダー養成などのキャパシティ・ディベロップメントの実施【4-9】	4-34
4.5.13	自治体環境審議会の環境管理のための活動実施の支援【4-10】	4-36
4.5.14	環境援助交付金(ICMS Ecologico)の適正利用の促進【4-11】	4-37
4.5.15	環境教育マニュアルの作成【4-12】	4-37
4.5.16	自治体環境審議会の活動に関する他州の技術視察【4-13】	4-38
4.6.	【成果 5】 JREC 保全のための戦略文書/ガイドラインが作成される。	4-38

4.6.1	JREC 運営管理に関するモニタリング対象の特定【5-1】	4-38
4.6.2	JREC 運営管理に関するモニタリング手法の明確化【5-2】	4-39
4.6.3	JREC 運営管理に関するモニタリング対象の特定【5-1】	4-39
4.6.4	JREC 運営管理に関するモニタリング手法の明確化【5-2】	4-39
4.6.5	JREC 保全のための戦略の明確化【5-3】	4-39
4.6.6	JREC 導入と実施のための方法と活動の定義【5-4】	4-39
4.6.7	JREC 導入と実施のための戦略文書/ガイドラインの作成【5-5】	4-39
4.6.8	戦略文書の活用に係る州機関との協議【5-6】	4-39
4.6.9	戦略文書の改訂【5-7】	4-40
第 5 章	プロジェクトによる広域生態系保全の実現	5-1
5.1.	広域生態系保全とプロジェクトの 3 つのアプローチについて	5-1
5.1.1	生物多様性保全の世界の潮流の分析	5-1
5.1.2	ブラジルの自然保護区と広域生態系保全に関する行政の分析	5-1
5.1.3	プロジェクト開始時の状況分析	5-2
5.1.4	上位目標「広域生態系保全の促進」のため問題分析と目的分析	5-2
5.1.5	プロジェクト目標達成のための 3 つのアプローチ	5-3
5.2.	アプローチ毎のプロジェクトの実績	5-4
5.2.1	アプローチ 1: 連携を可能にする「組織横断的な枠組」を立ち上げる。	5-4
5.2.2	アプローチ 2: 連携活動を促進する「共通方針」を参加型で作成する。	5-7
5.2.3	アプローチ 3: 環境保全に取り組むための「地方行政基盤」を強化する。	5-12
第 6 章	プロジェクトの総括, 教訓, 提言	6-1
6.1.	プロジェクトの総括(プロジェクトが達成したこと)	6-1
6.1.1	プロジェクト目標を踏まえた総括	6-1
6.1.2	上位目標を踏まえた総括	6-1
6.2.	プロジェクト実施運営上の工夫, 教訓	6-2
6.2.1	プロジェクト実施運営上の工夫	6-2
6.2.2	プロジェクト実施運営上の教訓	6-2
6.3.	今後の生態系コリドー保全政策を推進する上での提言	6-4
第 7 章	技術移転/キャパシティ・ディベロップメント(CD)	7-1
7.1.	キャパシティ・ディベロップメント計画	7-1
7.2.	キャパシティ・ディベロップメントの結果	7-2

添付資料

添付資料 1: 投入実績

- 1.1 専門家派遣実績(氏名、指導分野、派遣期間、業務概要等)
- 1.2 ブラジル側カウンターパート
 - 1.2.1 ICMBio のカウンターパート
 - 1.2.2 州政府機関のカウンターパート(トカンチンス州及びバイア州)
 - 1.2.3 自治体のカウンターパート(裨益者)
- 1.3 研修実績(研修分野、研修期間、研修参加者数、研修概要等)
 - 1.3.1 ICMBio 並びに州政府機関に対する研修
 - 1.3.2 自治体関係者に対する研修
 - 1.3.3 環境教育に関する研修
 - 1.3.4 本邦研修
- 1.4 供与機材実績(リスト、機材到着日、研修確認日、設置場所、利用・管理状況等)
- 1.5 現地業務費実績(年度ごとの実績、再委託業務の成果等)
 - 1.5.1 JICA の実績
 - 1.5.2 ICMBio の実績

添付資料 2: プロジェクトの成果一覧(PDM に基づいた成果の達成状況)

- 2.1 達成度グリッド I (PDM 指標に基づいた実績の整理)
- 2.2 達成度グリッド II (PDM 活動に基づいた実績の整理)
- 2.3 成果品一覧

添付資料 3: プロジェクト評価の結果

- 3.1 中間レビュー(2011 年 11 月)
- 3.2 終了時評価(2012 年 10 月)
- 3.3 プロジェクト終了に際しての自己評価(2013 年 10 月)

添付資料 4: 会議議事録

- 4.1 合同調整委員会開催記録
- 4.2 その他の会議開催記録

添付資料 5: 収集資料一覧表

付 属 C D

<技術協力成果品>

- 1 主要な成果品 Principal Outputs of the Project
 - 1.1 The Atlas of Jalapao
 - 1.2 Proposal for the creation of “Jalapao Mosaic”
 - 1.3 MONA video DVD
 - 1.4 Management Plan, MONA (to be delivered in March, 2013)
 - 1.5 The Strategic Plan for Jalapao Mosaic
 - 1.6 Final Technical Report on Land Use Mapping of Sao Felix
 - 1.7 Final Technical Report on the Priority and Connectivity Analysis for Biodiversity Conservation
 - 1.8 Environmental Education (ASAS) Guidelines
 - 1.9 ICMS Ecologico Guidelines
 - 1.10 Manual for Project Elaboration
- 2 主要な活動報告書
- 3 協定書,覚書及び自治体レベルの法制度
- 4 プロジェクトホームページ

図 表 番 号

図 1-1	プロジェクトのターゲット・エリア(左図)及びコア・エリア(右図).....	1-2
図 2-1	各成果に対する分野課題・個別課題・想定される作業項目.....	2-1
図 2-2	各成果とプロジェクト目標, 上位目標の関係.....	2-2
図 2-3	広域生態系保全を実現するための3つのアプローチ.....	2-4
図 2-4	プロジェクトが実現する体制強化 = 地域保全メカニズムの構築.....	2-5
図 2-5	プロジェクトの実施体制.....	2-11
図 4-1	生態系コリドー導入の問題分析ツリー.....	4-17
図 4-2	生態系コリドー導入の目的分析ツリー.....	4-18
図 4-3	研修テーマ把握のプロセス.....	4-19
図 5-1	協力協定書からモザイク審議会への発展.....	5-6
図 5-2	モザイク審議会の構成(暫定).....	5-6
図 5-3	共通方針策定までのサイクル.....	5-7
図 5-4	保全の最優先地域の特定.....	5-9
図 5-5	指標種の分布可能図の作成と保全優先地域の特定のプロセス.....	5-9
図 5-6	生態学的クライテリアによる分析の結果導き出された4箇所の保全優先地域	5-10
図 5-7	コネクティビティ分析の結果の例.....	5-10
図 5-8	共通方針策定までのサイクルとスパイラルアップ.....	5-12
図 5-9	本プロジェクトが構築した地方行政基盤の概念図.....	5-13
図 5-10	地方行政基盤を整備するためのプロジェクトの支援プロセス.....	5-14
図 5-11	環境保全交付金の適正管理のためのプロジェクトの支援プロセス.....	5-15
図 6-1	広域生態系保全へのプロジェクトの貢献.....	6-1
表 1-1	セハ・ジェラウ生態系ステーションとパルナイバ河上流域国立公園の間の4自治 体(トカンチンス州).....	1-2
表 2-1	ブラジル側カウンターパート.....	2-11
表 2-2	JICA チーム(JET)のメンバー.....	2-12
表 2-3	合同調整委員会のメンバー.....	2-12
表 4-1	JICA 調達機材リスト.....	4-1
表 4-2	協定書に記載された各機関協力内容.....	4-10
表 4-3	協定書に記載された各機関の協力内容.....	4-13
表 4-4	ジャラポン・モザイク設立趣意書に参加した保護区.....	4-15
表 4-5	類似案件との技術交流.....	4-24
表 5-1	問題分析と目的分析により導き出された課題と対策.....	5-3
表 5-2	地域保全メカニズムのためのアプローチとプロジェクトの活動.....	5-4
表 5-3	戦略文書の構成.....	5-11

略 語 表

	ポルトガル語	英語
ABC	Agência Brasileira de Cooperação	Brazilian Cooperation Agency
ALOS	Advanced Land Observing Satellite	Advanced Land Observing Satellite
AP	Plano Anual da Operação	Annual Plan of Operation
APA	Área de Proteção Ambiental	Environmental Protection Area
APP	Área de Preservação Permanente	Permanent Preservation Area
ASAS	Agentes de Sensibilização Ambiental	Agents of Environmental Awareness Raising
BMU	Bundesministerium für Umwelt, Naturschutz und Reaktorsicherheit	Federal Ministry for the Environment, Nature Conservation and Nuclear Safety of Germany
CA/CdE	Chefe da Equipe	Chief Adviser
CAOMA	Centro de Apoio Operacional do Meio Ambiente	Center for Operational Support for the Environment
CEIT	Centro de Exposição e Informação Turística	Center for Exposition and Touristic Information
CEULP	Centro Universitario Luterano de Palmas	Lutheran University Center of Palmas
CD/DC	Desenvolvimento de Capacidades	Capacity Development
CGCAP	Coordenação Geral de Criação, Planejamento e Avaliação de Unidades de Conservação	General Coordination of Creation, Planning and Evaluation of Conservation Units)
C/P	Contraparte	Counterpart
COEMA	Conselho Estadual de Meio Ambiente	State Council for the Environment
COMATUR	Conselho Estadual de Meio Ambiente	State Council for the Environment
COMTURMA	Conselho Municipal de Turismo e Meio Ambiente	Municipal Council for Tourism and the Environment
DIMAN	Diretoria de Criação e Manejo de Unidades de Conservação	Mosaic and Ecological Corridor Division, ICMBio
DMOC	Divisão de Mosaicos e Corredores	Directorate of Creation and Management of Protected Areas, ICMBio
EESGT	Estação Ecológica da Serra Geral do Tocantins	Serra Geral of Tocantins Ecological Station
GEF	Fundo Global para o Meio Ambiente	Global Environment Facility
GIS/SIG	Sistema de informação geográfica	Geographic Information System
GIZ	Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit GmbH	German Agency for International Cooperation
Ic/R	Relatório Preliminar	Inception Report
IBAMA	Instituto Brasileiro do Meio Ambiente e dos Recursos Naturais Renováveis	Brazilian Institute of Environment and Natural Resources
ICMBio	Instituto Chico Mendes de Conservação da Biodiversidade	Chico Mendes Institute for Biodiversity Conservation
ICMS-Ecológico	Imposto sobre a Circulação de Mercadorias e Serviços-Ecológico	Merchandise and Service Circulation Tax for Ecological Preservation
INCRA	Instituto Nacional de Colonização e Reforma Agrária	National Institute of Colonization and Agrarian Reform
INEMA	Instituto do Meio Ambiente e Recursos Hídricos da Bahia	Institute for the Environment and Water Resources of Bahia
JCC/CCC	Comitê de Coordenação Conjunta	Joint Coordinating Committee
JET	Equipe da JICA	JICA Expert Team
JICA	Agência Cooperação Internacional do Japao	Japan International Cooperation Agency
JREC/CERJ	Corredor Ecológico da Região do Jalapão	Jalapão Region Ecological Corridor
MMA	Ministério do Meio Ambiente	Ministry of the Environment

MNCCRS	Monumento Natural Municipal Canions e Corredeiras do Rio Sono	Canyons and Rapids of Sono River Municipal Natural Monument
NATURATINS	Instituto Natureza do Tocantins	Tocantins Institute of Nature
NGO	Organização Não-Governamental	Non-Governmental Organization
OIC	Officer In Charge	Officer In Charge
OJT	On the Job Training	On the Job Training
PEGAM	Programa Estadual de Gestão Ambiental Municipal	State Program for Municipal Environmental Management
PEJ	Parque Estadual do Jalapão	State Park of Jalapão
PDM	Matriz Lógica	Project Design Matrix
PN	Parque Nacional	National Park
PNNRP	Parque Nacional das Nascentes do Rio Parnaíba	Nascentes do Rio Parnaíba National Park
PO	Plano de Operações	Plan of Operation
RPPN	Reserva Particular do Patrimônio Natural	Private Reserve of Natural Heritage
RL	Reserva Legal	Legal Reserves
RURALTINS	Instituto de Desenvolvimento Rural do Tocantins	Tocantins Institute of Rural Development
SEMA	Secretaria de Meio Ambiente do Estado da Bahia	Bahia State Government Environmental Secretariat
SEMADES	Secretaria de Meio Ambiente e Desenvolvimento Sustentável do Estado do Tocantins	Secretariat of Environment and Sustainable Development of the State of Tocantins
SEPLAN	Secretaria de Planejamento do Tocantins	Tocantins Planning Secretary
SMUC	Sistema Municipal de Unidades de Conservação	Municipal System of Conservation Units
SNUC	Sistema Nacional de Unidades de Conservação	National System of Conservation Units
ULBRA	Universidade Luterana do Brasil	Lutheran University of Brazil
WG	Grupo de Trabalho	Working Group

特に重要な用語

1. ECOLOGICAL CORRIDOR:

The Ecological Corridor is an important tool for landscape planning, under the National System of Conservation Units - SNUC (Law 9.985/2000), aims to promote the structural and ecological connectivity between conservation units through the maintenance or restoration of ecosystems, sustainable use of natural resources and appropriate land use.

2. MOSAIC:

The mosaic is a tool for integrate the management of conservation units, proposed under the National System of Conservation Units - SNUC (Law 9.985/2000), aiming to promote the integration of federal, state and municipal conservation units, that are close, overlapping or juxtaposed with the purpose of optimize the material and human resources, plan and execute actions together, integrate the communities, attract investment for the region, solve conflicts, among others.

3. TARGET AREAS:

The target area is composed of the buffer zones and the area surrounding the five conservation units of the Jalapão region, which involves 12 municipalities, distributed in four states. In this area the project will carry out basic studies and diagnostic to understand the socio-economic and environmental potential of the region as a whole.

4. CORE AREAS:

The core area represents the sites of connection between the conservation units of integral protection in the Jalapão region, where there is a necessity to prioritize the conservation actions to ensure the permanence of biological flow.

5. CONCERNED INSTITUTIONS

Institutions responsible for the management of conservation units in the Jalapão region and other institutions that participate directly in the actions for deployment and maintenance of the ecological corridor.

第 1 章 プロジェクトの概要

1.1. プロジェクトの背景

ブラジル中西部に広がるセラード地帯(半乾燥地域)は、広大な農牧草地を有し世界の食糧庫としての重要性が増す一方、生物多様性の観点から残された自然資源の保護が急務となっている。本プロジェクトの対象地域であるジャラポン地域は、ブラジルの重要な3つのバイオーム(生態系群)であるセラード、アマゾン、カアチンガの移行地帯であり貴重な生態系が残されている上、パルナイバ河、サンフランシスコ河、トカンチンス河等の重要河川の水源地帯である。ブラジル国政府及びトカンチンス州政府は、最重要環境保全地域として、それぞれ本地域に保護区を指定している。しかし周辺では農地を始めとする大規模開発が進んでおり、貴重な自然資源や水源地としての機能を保全し、更に地域住民の環境管理能力を高めることが緊急の課題となっていた。

1.2. プロジェクトの目的

本プロジェクトは、2009年11月に日本側とブラジル側との間で合意・署名された討議議事録(R/D)に基づき、プロジェクト期間を通して段階的に5つの成果を達成することにより、プロジェクト終了時にプロジェクト目標を達成することを目指すものである。プロジェクト計画の概要は以下のとおり。

【上位目標】

生態系コリドーの導入によりジャラポン地域の生態系保全が促進される。

【プロジェクト目標】

ジャラポン地域で生態系コリドーを導入・実施のため、ICMBioに必要な体制が強化される。

【成果】

- 1) 自然保護区のバッファゾーンを含むジャラポン地域生態系コリドー(JREC)実施に必要な情報が収集、分析、整理される。
- 2) JREC 実施のための組織的な連携が構築される。
- 3) JREC の実施に必要な ICMBio 職員及び関係機関職員の能力向上が実施される。
- 4) JREC 保全に関する関係機関と地域住民との連携が強化される。
- 5) JREC 保全のための戦略文書/ガイドラインが作成される。

(出典:PDM 第 2 & 3 版)

1.3. プロジェクトの対象地域

プロジェクトの対象地域は、ブラジル北東部に位置し「ジャラポン地域」と呼ばれ、5つの連邦・州の保護区が集中して設立されており、4州(トカンチンス州、バイア州、マラニョン州、ピアウイ州)の接する地帯である。両保護区のバッファゾーンは、行政区域としては4州15自治体に跨っている(図1-1参照)。この地域をプロジェクトの「ターゲット・エリア」と呼称する。その中で特に優先的に保全が必要な「セハ・ジェ

ラウ生態系ステーション」と「パラナイバ河上流域国立公園」をつなぐ地域をプロジェクトの「コア・エリア」と呼称し、主要な活動の対象地域とする。

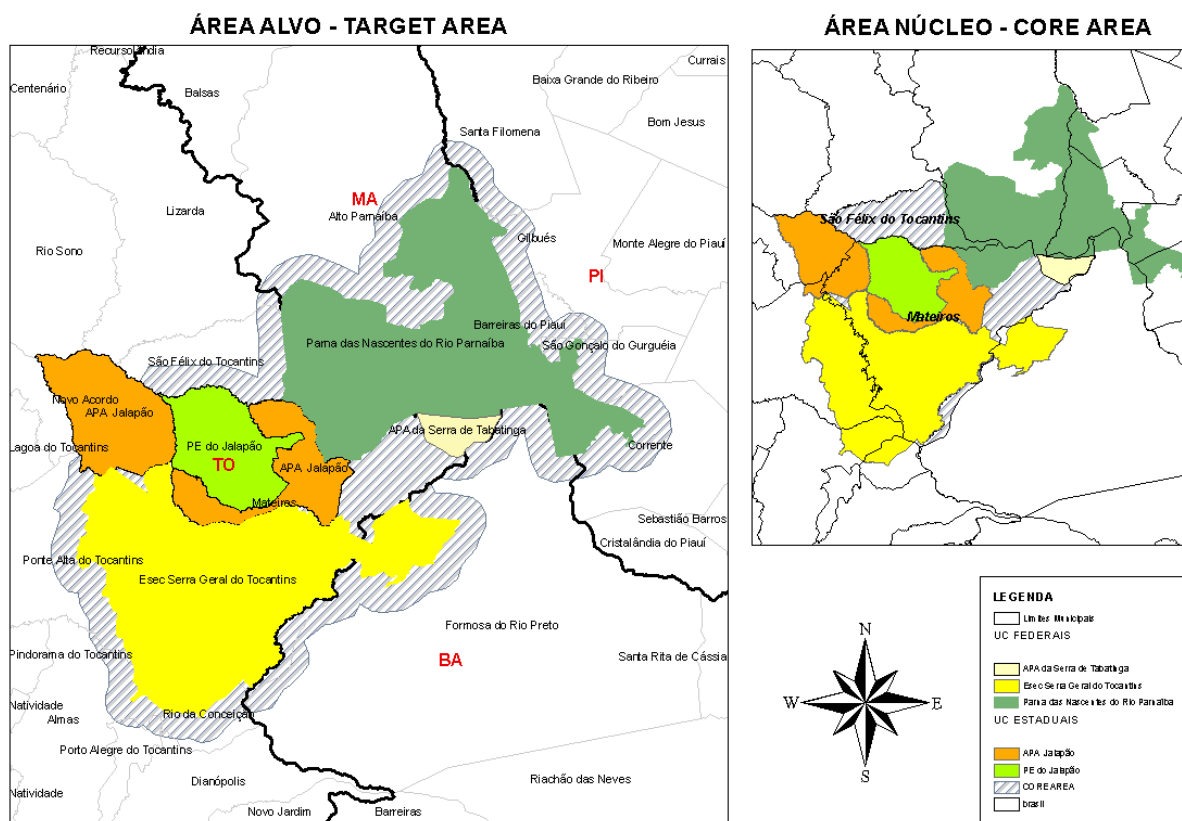


図 1-1 プロジェクトのターゲット・エリア(左図)及びコア・エリア(右図)

自治体を対象とする活動では、「コア・エリア」の中でもトカンチンス州内で両保護区の間位置する3つの自治体(Ponte Alta do Tocantins, São Felix do Tocantins, Mateiros)と、「セハ・ジェラウ生態系ステーション」の事務所が所在する自治体(Rio de Conceicao)の4自治体である(表 1-1 参照)。

表 1-1 セハ・ジェラウ生態系ステーションとパルナイバ河上流域国立公園の間の4自治体(トカンチンス州)

自治体名	人口(人)	面積(ha)
Mateiros	2,223	9,592
Ponte Alta do Tocantins	7,180	6,491
São Félix do Tocantins	1,437	1,909
Rio da Conceição	1,714	771

出典:2010. ブラジル国土地理統計院(IBGE)

1.4. プロジェクトの枠組 - プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)

業務の進捗状況、ICMBio やトカンチンス州関係機関の組織改編や人事異動と、その後のプロジェクト関係者の期待とニーズに対応して、プロジェクト期間中、計 2 回の PDM, PO の改訂を行った。以下に PDM 第 1 版から第 3 版を示す。各改訂の経緯と内容については「1.5. PDM の変遷」で説明する。

1.4.1 PDM 第 3 版 (2012 年 12 月改訂) - 最終版 PDM

Project Design Matrix (PDM)

Technical Cooperation Duration: 3 years and 8 months

Implementing Institution: Chico Mendes Institute for the Conservation of Biodiversity - ICMBio

Target region: Jalapão Region, i.e., connecting area between the Serra Geral do Tocantins Ecological Station and the Nascentes do Rio Parnaíba National Park

Beneficiary groups: Governmental institutions (federal, state, municipal), non-governmental organizations, local populations, local organizations and private sector in the Jalapão Region Ecological Corridor.

Version 3, January 2013

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal:</p> <p>The ecosystem conservation in the Jalapão region is enhanced through the introduction of the Ecological Corridor.</p>	<p>The Strategic Plan for introducing and managing Jalapão Region Ecological Corridors (JREC) is implemented.</p>	<p>1. Evaluation survey</p>	<p>Ecological Corridor is maintained as a strategic and political priority among concerned institutions.</p>
<p>Project Purpose:</p> <p>The institutional capacity of ICMBio is strengthened to introduce and implement Ecological Corridor in the Jalapão region.</p>	<p>The Strategic Plan for introducing and managing JREC has consensus among concerned institutions by the coordination of ICMBio.</p> <p>Mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region is developed by the coordination of ICMBio.</p>	<p>1. Project report 2. Evaluation survey</p>	<p>The priority and support for the Conservation Units in the Jalapão region towards the implementation of JREC is maintained by the Ministry of Environment.</p>
<p>Outputs:</p> <p>1. Information necessary for JREC management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and organized.</p> <p>2. Institutional arrangements for the JREC management are structured.</p> <p>3. Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted.</p> <p>4. The linkage between local populations and institutions concerned with JREC conservation is strengthened.</p> <p>5. The strategic plan/guideline for introducing and managing JREC is developed.</p>	<p>1.1 The database with the collected information is developed.</p> <p>1.2 The project homepage in ICMBio website is updated at least four times a year.</p> <p>1.3 Information necessary for JREC management is distributed and shared among concerned institutions.</p> <p>1.4 Information sharing materials are developed.</p> <p>2.1 The Reciprocity Term for JREC management obtains institutional consensus among concerned institutions.</p> <p>2.2 Meetings among concerned institutions for JREC management are held at least three times a year.</p> <p>2.3 Jalapão Mosaic Council is established, and its bylaw and management capacity are built</p> <p>3.1 Training, visits and other capacity developing activities for concerned institutions are held at least two times during the period of the Project.</p> <p>3.2 During the period of project, at least two seminars for JREC conservation are held.</p> <p>4.1 At least two training programs for local populations are conducted.</p> <p>4.2 Municipal environmental legislation is strengthened with assistance from concerned institutions.</p> <p>4.3 The amounts of ICMS Ecológico allocated to the four target municipalities are increased.</p> <p>5.1 "Diagnosis & Justification", "Strategic Action Plans" and "Operational Guidelines" are developed and a part of "Strategic Action Plan" is implemented.</p>	<p>1.1 Database 1.2 ICMBio Homepage 1.3 Information sharing materials 1.4 Project report</p> <p>2.1 Reciprocity Term 2.2 Meeting records</p> <p>3.1 Project report 3.2 Seminar report</p> <p>4.1 Training program report 4.2 Project report</p> <p>5.1 The Strategic Plan</p>	<p>The support of the concerned institutions does not drastically change.</p>

Activities:	Inputs: (Japanese side)	Inputs: (Brazilian side)	
1.1 To collect information concerned with ecological corridors			ICMBio and its budgets are not greatly affected by

<p>in Brazil.</p> <p>1.2 To collect baseline information for ecological monitoring.</p> <p>1.3 To develop information sharing materials, and disseminate project information in appropriate media.</p> <p>2.1 To hold periodical meetings of the project counterparts, discuss and promote the project management.</p> <p>2.2 To define roles and actions of concerned institutions in the reciprocity term.</p> <p>2.3 To obtain institutional consensus on reciprocity term among concerned institutions.</p> <p>2.4 To hold meetings among concerned institutions based on the rationale of reciprocity term.</p> <p>2.5 To establish the Jalapao Mosaic Council and the bylaw of the Council</p> <p>3.1 To identify necessary themes for training the staff from ICMBio and concerned institutions with the Project.</p> <p>3.2 To plan and implement trainings for ICMBio and concerned institutions with the Project.</p> <p>3.3 To follow up activities of the trained staff.</p> <p>3.4 To hold seminars on the JREC conservation.</p> <p>4.1 To communicate project information to local populations.</p> <p>4.2 To identify themes and methodologies suitable for capacitating local populations.</p> <p>4.3 To implement training and other activities for local populations for the better management of the natural resources.</p> <p>4.4 To follow up activities of the trained local populations.</p> <p>5.1 To identify strategies for introducing and managing JREC.</p> <p>5.2 To define methodologies and actions for introducing and managing JREC.</p> <p>5.3 To develop the strategic plan/guideline for introducing and managing JREC with participation of concerned institutions.</p>	<p>-Experts</p> <ul style="list-style-type: none"> • Ecosystem preservation / organization strengthening / participatory management of natural resources / administration etc. - Local experts • Participatory development, monitoring and other activities - Training in Japan (six people in total) - Financial resources for local activities - Necessary equipment • Vehicles • Geoprocessing equipments • Necessary materials 	<p>-Counterparts (ICMBio Headquarters, Serra Geral do Tocantins Ecological Station - 2 people dedicated to the project - and Nascentes do Rio Parnaiba National Park).</p> <ul style="list-style-type: none"> - Training in Brazil - Administrative facilities - Communication media - Secretary, driver - Operating costs - Infrastructure 	<p>political change.</p> <p>The stakeholders present in the project area are willing to collaborate with the project activities.</p> <p>Pre-conditions ICMBio allocates personnel and budget for the execution of project activities.</p>
--	---	---	---

1.4.2 PDM 第2版 (2011年6月改訂)

Project Design Matrix (PDM)

Technical Cooperation Duration: 3 years

Implementing Institution: Chico Mendes Institute for the Conservation of Biodiversity - ICMBio

Target region: Jalapão Region, i.e., connecting area between the Serra Geral do Tocantins Ecological Station and the Nascentes do Rio Parnaiba National Park

Beneficiary groups: Governmental institutions (federal, state, municipal), non-governmental organizations, local populations, local organizations and private sector in the Jalapão Region Ecological Corridor.

Version 2, 05.05.2011

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal:</p> <p>The ecosystem conservation in the Jalapão region is enhanced through the introduction of the Ecological Corridor.</p>	<p>The Strategic Plan for introducing and managing Jalapão Region Ecological Corridors (JREC) is implemented.</p>	<p>1. Evaluation survey</p>	<p>Ecological Corridor is maintained as a strategic and political priority among concerned institutions.</p>
<p>Project Purpose:</p> <p>The institutional capacity of ICMBio is strengthened to introduce and implement Ecological Corridor in the Jalapão region.</p>	<p>The Strategic Plan for introducing and managing JREC has consensus among concerned institutions by the coordination of ICMBio.</p> <p>Mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region is developed by the coordination of ICMBio.</p>	<p>3. Project report 4. Evaluation survey</p>	<p>The priority and support for the Conservation Units in the Jalapão region towards the implementation of JREC is maintained by the Ministry of Environment.</p>
<p>Outputs:</p> <p>1. Information necessary for JREC management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and organized.</p> <p>2. Institutional arrangements for the JREC management are structured.</p> <p>3. Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on</p>	<p>1.1 The database with the collected information is developed.</p> <p>1.2 The project homepage in ICMBio website is updated at least four times a year.</p> <p>1.3 Information necessary for JREC management is distributed and shared among concerned institutions.</p> <p>1.4 Information sharing materials are developed.</p> <p>2.1 The Reciprocity Term for JREC management obtains institutional consensus among concerned institutions.</p> <p>2.2 Meetings among concerned institutions for JREC management are held at least three times a year.</p> <p>3.1 Training, visits and other capacity developing</p>	<p>1.1 Database 1.2 ICMBio Homepage 1.3 Information sharing materials 1.4 Project report</p> <p>2.1 Reciprocity Term 2.2 Meeting records</p> <p>3.1 Project report 3.2 Seminar report</p> <p>4.1 Training program report</p>	<p>The support of the concerned institutions does not drastically change.</p>

<p>implementation needs of the JREC, are conducted.</p> <p>4. The linkage between local populations and institutions concerned with JREC conservation is strengthened.</p> <p>5. The strategic plan/guideline for introducing and managing JREC is developed.</p>	<p>activities for concerned institutions are held at least two times during the period of the Project.</p> <p>3.2 During the period of project, at least two seminars for JREC conservation are held.</p> <p>4.1 At least two training programs for local populations are conducted.</p> <p>4.2 Municipal environmental legislation is strengthened with assistance from concerned institutions.</p> <p>5.1 Diagnosis & Justification", "Strategic Action Plans" and "Operational Guidelines" are developed.</p>	<p>4.2 Project report</p> <p>5.1 The Strategic Plan</p>	
---	--	---	--

<p>Activities:</p> <p>1.1 To collect information concerned with ecological corridors in Brazil.</p> <p>1.2 To collect baseline information for ecological monitoring.</p> <p>1.3 To develop information sharing materials, and disseminate project information in appropriate media.</p> <p>2.1 To hold periodical meetings of the project counterparts, discuss and promote the project management.</p> <p>2.2 To define roles and actions of concerned institutions in the reciprocity term.</p> <p>2.3 To obtain institutional consensus on reciprocity term among concerned institutions.</p> <p>2.4 To hold meetings among concerned institutions based on the rationale of reciprocity term.</p> <p>3.1 To identify necessary themes for training the staff from ICMBio and concerned institutions with the Project.</p> <p>3.2 To plan and implement trainings for ICMBio and concerned institutions with the Project.</p> <p>3.3 To follow up activities of the trained staff.</p> <p>3.4 To hold seminars on the JREC conservation.</p> <p>4.1 To communicate project information to local populations.</p> <p>4.2 To identify themes and methodologies suitable for capacitating local populations.</p> <p>4.3 To implement training and other activities for local populations for the better management of the natural resources.</p> <p>4.4 To follow up activities of the trained local populations.</p> <p>5.1 To identify strategies for introducing and managing JREC.</p> <p>5.2 To define methodologies and actions for introducing and managing JREC.</p> <p>5.3 To develop the strategic plan/guideline for introducing and managing JREC with participation of concerned institutions.</p>	<p>Inputs: (Japanese side)</p> <ul style="list-style-type: none"> -Experts -Ecosystem preservation / organization strengthening / participatory management of natural resources / administration etc. - Local experts - Participatory development, monitoring and other activities - Training in Japan (six people in total) - Financial resources for local activities - Necessary equipment - Vehicles - Geoprocessing equipments - Necessary materials 	<p>Inputs: (Brazilian side)</p> <ul style="list-style-type: none"> - Counterparts (ICMBio Headquarters, Serra Geral do Tocantins Ecological Station - 2 people dedicated to the project - and Nascentes do Rio Parnaíba National Park). - Training in Brazil - Administrative facilities - Communication media - Secretary, driver - Operating costs - Infrastructure 	<p>ICMBio and its budgets are not greatly affected by political change.</p> <p>The stakeholders present in the project area are willing to collaborate with the project activities.</p> <p>Pre-conditions ICMBio allocates personnel and budget for the execution of project activities.</p>
---	--	---	--

1.4.3 PDM 第1版 (2010年4月)

Project Design Matrix (PDM)

Technical Cooperation Duration: 3 years

Implementing Institution: Chico Mendes Institute for the Conservation of Biodiversity - ICMBio

Target region: Jalapão Region, i.e., connecting area between the Serra Geral do Tocantins Ecological Station and the Nascentes do Rio Parnaíba National Park

Beneficiary groups: Governmental institutions (federal, state, municipal), non-governmental organizations, local populations, local organizations and private sector in the Jalapão Region Ecological Corridor.

Version 1 of 10.12.2008

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal: The ecosystem conservation in the Jalapão region is enhanced through the introduction of the Ecological Corridor.</p>	<p>Agricultural development in the Jalapão region is promoted according to the guidelines of ICMBio for preservation of ecosystem corridor.</p> <p>The number of local participants of ecosystem preservation increases X%.</p>	<p>ICMBio annual report, Monitoring report, GEF – PROBIO II and Sustainable Cerrado report, Waters National Agency (ANA) Plan. Documents of the State Agriculture Division reporting agricultural developments.</p>	<p>Ecological Corridor is maintained as a strategic and political priority in the Brazilian environmental policy.</p>
<p>Project Purpose: The institutional capacity of ICMBio is strengthened to introduce and implement Ecological Corridor in the</p>	<p>X% of ICMBio employees use the manuals elaborated by the project in their daily activities.</p> <p>The guidelines of ICMBio for preservation of</p>	<p>1. Project reports 2. ICMBio organization chart. 3. ICMBio annual</p>	<p>The priority and support for the Conservation Units in the Jalapão region towards the implementation of</p>

Jalapão region.	ecosystem corridor receive the individual or collective approval and cooperation of related institutions.	report	JREC is maintained by the Ministry of Environment.
Outputs 1. Information necessary for the Jalapão region Ecological Corridor (JREC) management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed organized into a policy and shared among related institutions. 2. Institutional arrangements for the JREC management are structured. 3. Training and public seminars for capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted. 4. The linkage between local people and institutions related to the JREC conservation is strengthened. 5. The monitoring manual for the JREC is developed.	1.1 The database with the collected information is developed. 1.2 The Project homepage in ICMBio website is updated at least four times a year. 1.3 X copies (electronic or paper) are sent to concerned institutions. 1.4 Information sharing materials related to the Project reaches at least 30% of the Project region population. 2.1 The project counterparts meeting is held at least six times a year 2.2 The JREC Council meeting is held at least two times a year. 3.1 Trainings, visits and other capacity developing activities for at least 30 employees are held during the period of project. 3.2 During the period of project, at least 6 public seminars are held. 4.1 Explaining materials about the project are distributed to at least 30% of local population. 4.2 At least three trainings for local people or organizations are conducted. 4.3 xx% of trained people with improved awareness. 5.1 The JREC monitoring is conducted at least four times. 5.2 The monitoring manual for JREC is developed.	1.1 Database 1.2 ICMBio Home-page 1.3 ICMBio Home-page 1.4 Project reports 2.1 Meeting records 2.2 Council records 3.1 Training report 3.2 Seminar report 4.1 Training report 4.2 Training follow up report 5.1 Corridor monitoring reports 5.2 Corridor monitoring manual	-The Counterpart Institutions continue project activities. -The support of the related institutions does not drastically change.

Activities: 1.1 To make a literature survey and interviews about other projects in the Jalapão region or related to ecological corridors in Brazil, and to identify useful information for the JREC management. 1.2 To identify human resources and developed methodologies and tools that may be useful for this project based on activity 1.1. 1.3 To collect baseline information on the environmental, social and economical situation in the target region. 1.4 To develop information sharing materials, build a network of institutions related to the project, and disseminate the project information in appropriate media. 2.1 To hold periodical meetings of the project counterparts, discuss and promote the project management. 2.2 To define the role of the JREC Council and to identify its members. 2.3 To establish the JREC Council. 2.4 To define each member's role and actions in the JREC Council statute. 3.1 To identify necessary themes for training the staff from ICMBio and institutions related to the project. 3.2 To plan and implement trainings for ICMBio and institutions related to the project. 3.3 To follow up activities of the trained staff. 3.4 To hold public seminars on the JREC conservation. 4.1 To communicate project information to concerned local communities. 4.2 To identify themes and methodologies suitable for the demands of local communities. 4.3 To implement training and other activities for the local communities, making the best use of local resources. 4.4 To follow up activities of the trained local communities. 5.1 To identify monitoring targets for JREC management. 5.2 To define monitoring methodologies for each identified target. 5.3 To implement monitoring. 5.4 To take necessary measures based on monitoring results. 5.5 To develop the JREC monitoring manual.	Inputs: (Japanese side) -Experts (xx) Ecosystem preservation / organization strengthening / participatory management of natural resources / administration etc. - Local experts (xx) Participatory development, monitoring and other activities -Training in Japan (two people per year) -Financial resources for local activities - Necessary equipment • Vehicles • Reprocessing equipments • Necessary materials	Inputs: (Brazilian side) -Counterparts (ICMBio Headquarters, Serra Geral do Tocantins Ecological Station - 2 people dedicated to the project -and Nascentes do Rio Parnaíba National Park). -Training in Brazil -Administrative facilities -Communication media -Secretary, driver -Operating costs -Infrastructure	The Counterpart Institutions or their budgets are not greatly affected by political change. The stakeholders present in the project area are willing to collaborate with the project activities. Pre-conditions ICMBio allocates personnel and budget for the execution of Project activities.
---	---	--	---

1.5. PDM の変遷

以下に「1.4. プロジェクトの枠組」で示した PDM の各改訂の経緯と変更内容を記す。

1.5.1 第一回改訂(2011年6月)

(1) PDM 改訂の背景

2005年にIBAMA(ブラジル環境再生可能天然資源院)が要請した本プロジェクトは、もともと「IBAMA トカンチンス支局」が実施機関として想定されていた。IBAMA は連邦環境省(MMA)の下部機関として、保護区行政に加えて、環境犯罪取締りなど環境関連法に幅広く関わっており、それらの業務を通じて保護区周辺自治体や農業など関連セクターの関係者ともネットワークを有していた。「IBAMA トカンチンス支局」はパルマス市内の本庁舎に加えて、州内に出張所を有しており、プロジェクトが推進する「統合型生態系保全」のため、州レベルの関係機関を牽引しながら連邦との連携を促進し、主体的に生態系コリドー保全を実施する役割(mandate)と組織体制を有していた。

その後、連邦政府改革の一環で、2007年にIBAMAの保護区管理部門(生態系部)が独立する形でICMBioが設立され、その際本プロジェクトの所管もICMBioへ引き継がれた。ICMBioは保護区管理行政に特化しており、管轄地域も保護区内部とその周辺であったため、自治体や農業セクターなどとの関係も薄くなり、彼らと人的ネットワークを構築する機会も減った。また本部はブラジリアで、パルマス市内に庁舎を有していないため、州レベルの関係機関を調整するには物理的にも限界を有していた。

(2) PDM 変更の経緯

初年次である1年次は、PDMに沿って活動を実施する上で様々な問題が発生し、それらの対応方針について、JICA 専門家とICMBio職員の間で継続的に協議を行った。その結果ICMBioの役割(mandate)と組織体制の下では、実施困難な活動があることが明らかとなった。加えてR/Dで合意されたプロジェクト専門要員の配置や予算確保が充分でないなど、実施体制にも不備が見つかった。かかる状況の下、プロジェクトの効率性や効果を高め、同時に持続性へ繋げて行くためには、早急にPDMを現状に見合った形へ改定する必要性が、JICA並びにICMBioの双方で確認された。

(3) プロジェクト全体に係る課題と対応方針

以下に、PDM改訂の際に考慮した課題と対応方針を記述する。これらの対応方針に従ってPDM改訂案がプロジェクトチームによって作成され、2011年5月の第2回合同調整委員会(JCC)にて議論された。JCCでの意見やコメントを反映させたPDM第2版は、同年6月に協議議事録(MM)により正式に合意された。

1) 保護区の実施能力に見合った活動計画が必要である。

<課題>

セハ・ジェラウ生態系ステーションやパラナイバ河上流域国立公園では、プロジェクト専門の要員はおらず、すべての活動は通常業務との兼務となっている。両保護区の人員や予算は限られているため、多くのプロジェクト活動を実施する事は困難であった。

両保護区が中心となって行う想定であった活動も、ICMBio 本部のプロジェクト・マネージャーと JICA 専門家が中心となって行った。

<対応方針>

2 年次以降の活動は、両保護区の持つ人的・予算的な制約を考慮した上で最優先の活動を取捨選択するとともに、一部活動を正式に本部 C/P の担当とする。また両保護区の C/P の考え方や関係機関のニーズなどを反映させてコミットメントを確保した上で、PDM の変更にも柔軟に対応する。

2) 保護区管理体制や能力強化への関与が必要である。

<課題>

生態系コリドーは保護区の間で生態系の連続性を向上させる事を目指しており、その導入はコアとなる保護区内の保全が適切に為されている事が前提である。しかしながら、コアとなるセハ・ジェラウ生態系ステーションやパラナイバ河上流域国立公園での保全が十分に機能しているとは言い難い。例えば両保護区とも公園管理計画は作成されておらず、また土地の取得は生態系ステーションで約 3%、国立公園で 0%しか進んでいない。更に両保護区とも法律で求められている審議会は未だ設置されていない。

<対応方針>

生態系コリドーを実現するには、先ず保護区管理のための体制や能力の強化が必要不可欠である。2 年次以降の活動は、保護区の管理委員会の設立や公園管理計画の作成など、プロジェクトの枠組みの中で保護区管理に直接的に関与する方法を検討する。

3) 移動の難しさを考慮した活動の選択が必要である。

<課題>

プロジェクトの対象地域は交通インフラが未発達である。大半が未舗装路であるため移動には長時間を要し、雨季には移動が極めて困難となる。またすべての C/P は地理的に離れており、例えば 2 つの保護区事務所は陸路で 7 時間の距離である。更にすべての現場への移動は宿泊が伴い、出張扱いとして 2 週間前に申請することが求められるため、柔軟なスケジュール調整は困難である。また ICMBio の出張予算は極めて限られている。

<対応方針>

2 年次以降の C/P 定期会議は、C/P の負担を最低限とするため、メールや電話を活用して年 2-3 回程度とすることや、プロジェクトの対象自治体を IC/R で定めた 2 つの保護区を繋ぐ地域に限定せず、アルマス市、ヒオデコンセイソン市など、公園事務所から容易にアクセスできる自治体も含めるなど、柔軟な対応を検討する。

(4) 成果ごとの課題と対応方針

1) 成果 2 : JREC 審議会の定義と位置付けに対する柔軟な対応

<課題>

成果 2 で設立を目指す JREC 審議会のような多くの政府機関が参加して、将来に渡って活動を継続出来るような組織を立ち上げるためには、その法的な根拠と関係者全員が共有できる動機が必要であるが、現実には両方とも欠如している。

<対応方針>

JREC 審議会のような広域・マルチセクトラルな組織を立ち上げるのではなく、先ずプロジェクトの枠組みで、関係機関が共通の目的の下、必要に応じて協力するための「協力協定書」を策定・合意し、将来の JREC 審議会のような組織を立ち上げる環境を整える。

2) 成果 3：職員研修の位置付けの整理

<課題>

ICMBio では、「年次能力強化プログラム(PAC)」の中で GIS や保護区管理などの個別技術に関する研修を、C/P 全員を対象に実施している。PDM 成果 3 で扱うテクニカルキャパシティは、こういった既存の研修で対応することが可能であり、既存のものに加えてプロジェクトで新たに研修を実施することは、人的・予算的な効率性を考えると望ましいとは言えない。

<対応方針>

2 年次以降の活動では、ICMBio の既存の研修プログラムとの相補完を図りながら、特に 1) OJT を通じた能力向上、2) 実施に直接関連した特定技術分野(GPS を使用したモニタリング技術や生物調査法等)の技術研修、3) ブラジル国内の類似案件との技術交流、の 3 つを柱として、既存のプログラムと重ならず相補完的なテーマに重点を置く。

3) 成果 4：住民研修の位置付けの整理

<課題>

住民研修計画では、公園内部や周辺に点在する小規模集落を対象とする事が検討されていた。しかしながら、小規模集落の人口割合は自治体全体に対して極めて限られていること、むしろ自治体政府やコミュニティーリーダーの環境管理能力の向上が急務であることが判明した。

<方針>

「地域住民」を「コミュニティー(周辺自治体)のリーダー(自治体職員、教師、団体代表など)」と解釈して、彼らの環境管理能力向上をプロジェクト活動として優先する。(業務完了報告書(第 1 年次)参照)

4) 成果 5：モニタリング・マニュアルの定義や位置付けに対する柔軟な対応

<課題>

第 1 年次にはモニタリング・マニュアルの定義や位置付け、ニーズについて関係者と議論をしたが、現段階では必ずしも「マニュアル」という位置づけの文書が求められていない事が判明した。

<対応方針>

保全が十分に機能していないジャラポン地域では、先ず関係機関の間で、地域の問題や将来像、また活動を共同で実施する方針などを共有する事が先決である。その為成果 5 では、「成果 2：協力協定文書」と関連させながら、生態系コリドー導入の目的や活動方針、各機関に求められるアクションなどを整理した「戦略文書」や、その方法論を整

理した「活動ガイドライン」を策定する。

(5) PDM の変更内容

以下に、PDM の変更内容を整理する(変更箇所のみ)。

変更前	変更後
Narrative Summary	Narrative Summary
<p>Outputs</p> <ol style="list-style-type: none"> Information necessary for the Jalapão region Ecological Corridor (JREC) management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed, organized into a policy and shared among related institutions. Institutional arrangements for the JREC management are structured. Training and public seminars for capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted. 	<p>Outputs</p> <ol style="list-style-type: none"> Information necessary for the Jalapão region Ecological Corridor (JREC) management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed, organized. Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted. The JREC strategic plan/guideline is developed.
<p>Activities:</p> <ol style="list-style-type: none"> To make a literature survey and interviews about other projects in the Jalapão region or related to ecological corridors in Brazil, and to identify useful information for the JREC management. To identify human resources and developed methodologies and tools that may be useful for this project based on activity. To collect baseline information on the environmental, social and economical situation in the target region. To develop information sharing materials, build a network of institutions related to the project, and disseminate the project information in appropriate media. <ol style="list-style-type: none"> To define the role of the JREC Council and to identify its members. To establish the JREC Council. To define each member's role and actions in the JREC Council statute. To hold public seminars on the JREC conservation. <ol style="list-style-type: none"> To communicate project information to concerned local communities. To identify themes and methodologies suitable for the demands of local communities. To implement training and other activities for the local communities, making the best use of local resources. To follow up activities of the trained local communities. <ol style="list-style-type: none"> To identify monitoring targets for JREC management. To define monitoring methodologies for each identified target. To implement monitoring. To take necessary measures based on monitoring results. To develop the JREC monitoring manual. 	<p>Activities:</p> <ol style="list-style-type: none"> To collect information concerned with ecological corridors in Brazil. To collect baseline information for ecological monitoring. To develop information sharing materials, and disseminate project information in appropriate media. <ol style="list-style-type: none"> To define roles and actions of concerned institutions in the reciprocity term. To obtain institutional consensus on reciprocity term among concerned institutions. To hold meetings among concerned institutions based on the rationale of reciprocity term. To hold seminars on the JREC conservation. <ol style="list-style-type: none"> To communicate project information to local populations. To identify themes and methodologies suitable for capacitating local populations. To implement training and other activities for local populations for the better management of the natural resources. To follow up activities of the trained local populations. <ol style="list-style-type: none"> To identify strategies for introducing and managing JREC. To define methodologies and actions for introducing and managing JREC. To develop the strategic plan/guideline for introducing and managing JREC with participation of concerned institutions.
Objectively Verifiable Indicators	Objectively Verifiable Indicators
<p>Overall Goal: Agricultural development in the Jalapão region is promoted according to the guidelines of ICMBio for preservation of ecosystem corridor.</p> <p>The number of local participants of ecosystem preservation increases X%.</p>	<p>Overall Goal: The Strategic Plan for introducing and managing Jalapão Region Ecological Corridors (JREC) is implemented.</p>
<p>Project Purpose: X% of ICMBio employees use the manuals elaborated by the project in their daily activities.</p> <p>The guidelines of ICMBio for preservation of ecosystem corridor have received the individual or collective approval and cooperation of related institutions.</p>	<p>Project Purpose: The Strategic Plan for introducing and managing JREC has consensus among concerned institutions by the coordination of ICMBio.</p> <p>Mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region is developed by the coordination of ICMBio.</p>
<p>Outputs:</p> <ol style="list-style-type: none"> X copies (electronic or paper) are sent to concerned institutions. Information sharing materials related to the Project reaches at least 30% of the Project region population. <ol style="list-style-type: none"> The project counterparts meeting is held at least six times a year The JREC Council meeting is held at least two times a year. <ol style="list-style-type: none"> Trainings, visits and other capacity developing activities for at least 30 employees are held during the period of project. During the period of project, at least 6 public seminars are held. <ol style="list-style-type: none"> Explaining materials about the project are distributed to at least 	<p>Outputs:</p> <ol style="list-style-type: none"> Information necessary for JREC management is distributed and shared among concerned institutions. Information sharing materials are developed. <ol style="list-style-type: none"> The Reciprocity Term for JREC management obtains institutional consensus among concerned institutions. Meetings among concerned institutions for JREC management are held at least three times a year. <ol style="list-style-type: none"> Training, visits and other capacity developing activities for concerned institutions are held at least two times during the period of the Project.

<p>30% of local population.</p> <p>5.3 At least three trainings for local people or organizations are conducted.</p> <p>5.4 xx% of trained people with improved awareness.</p> <p>5.1 The JREC monitoring is conducted at least four times.</p> <p>5.2 The monitoring manual for JREC is developed.</p>	<p>3.2 During the period of project, at least two seminars for JREC conservation are held.</p> <p>4.1 At least two training programs for local populations are conducted.</p> <p>4.2 Municipal environmental legislation is strengthened with assistance from concerned institutions.</p> <p>5.1 "Diagnosis & Justification", "Strategic Action Plans" and "Operational Guidelines" are developed.</p>
---	--

1.5.2 第二回改訂(2012年12月)

(1) PDM 改訂の経緯

プロジェクト終了を6カ月後にひかえて、その成果の総合的な評価を行うとともに、日本側、ブラジル側が取るべき措置などの提言を取りまとめることを目的として、2012年10月14日～11月03日にかけて、JICA、MMA、ABCの3機関の合同による終了時評価調査が実施された。

終了時評価では、所期の活動計画は順調に実施され、プロジェクトによりジャラポン地域の生物多様性保全のための地域保全メカニズムが構築されるなど、プロジェクト目標はほぼ達成したと判断されたが、その一方で、プロジェクトが支援した「自治体環境審議会」や、プロジェクト終了後に「ジャラポン・モザイク」への移行が期待される「協力協定書」による連携の枠組については、持続性に懸念が残ると評価された。

プロジェクトの持続性を高め、将来の上位目標の達成を確固たるものにするため、終了時評価調査報告書の中で、プロジェクト期間の延長が提言された。この提言を受けてJICAとICMBioが協議した結果、8カ月間(2013年12月末まで)の延長とPDM改訂が、12月に協議議事録(M/M)にて正式に合意された。

(2) プロジェクト全体に係る課題と対応方針

以下にPDM改訂の際に考慮した課題と対応方針を記述する。延長期間はPDMで計画された活動の中から、継続して更なる支援が必要なものに限って行うこととする。活動は大きく1)プロジェクト成果の持続性を高めるもの、2)上位目標の効果的な発現のためのものの2つに分けられる。

1) プロジェクト成果の持続性を高めるもの

第3年次は、プロジェクト活動により環境基本法と環境審議会が設置された4市(Mateiros, Sao Felix, Ponte Alta, Rio da Conceicao)において、審議会の機能強化のため、1)組織・基盤、2)計画策定・事業管理能力、3)財政監理能力、の3つの強化を目指し、モデル事業の実施や環境保全交付金(ICMS-Ecológico)の適正利用に係る支援を行った。

しかしながら、各市では2013年1月に市長選挙後の新政府が発足し、新市長のもと人事異動が行われたので、持続性を確保するためには、審議会の再編成を支援し、更に新メンバーに対する能力強化が必要である。延長期間の活動では、引き続き4市を対象に、以下の課題に対応する。

- <組織・基盤整備>環境審議会の組織の再構築(メンバー選定・承認等)及び組織運営に関する指導・助言

- <計画策定・事業管理能力強化>市環境管理計画の策定と2012年に引き続きモデル事業の実施管理の支援
- <財政管理能力強化>環境保全交付金(ICMC-Ecológico)の利用に関する合意文書(Terms of Commitment)の内容を反映させた、「2014年度環境管理計画」策定及び実施の支援
- <環境教育リーダー育成事業(ASAS)> ASASの持続性を高めるため、実施体制が強化され、環境教育手法が確立される。具体的には、関係機関の連携の枠組が構築され、またASASの手法を体系化し他地域へ普及するための実施マニュアルが作成される。

2) 上位目標の効果的な発現のためのもの

プロジェクト活動の対象地域はトカンチンス州のみであったが、それを拡大してバイア州も対象とし、プロジェクトが作成した「ジャラポン・モザイク」「戦略文書」などを、より広域の地域保全メカニズムへと適応させる。トカンチンス州とバイア州は、ジャラポンで州境を接しているものの、今までほとんど協力して来なかった。延長期間の活動では、以下の課題に対応する。

- 連邦環境省、バイア州、トカンチンス州との協働作業による手続きを経て、「ジャラポン・モザイク」が連邦政府により正式に設立される。
- 「ジャラポン・モザイク」を自立発展的に管理するための「戦略文書」が、バイア州政府との協働により、より広域を対象とした総合的且つ効果的な文書へと改訂される。
- 「戦略文書」により、ジャラポン地域に「システムチック・コンサベーション・プランニング」が導入され、将来の新たな保護区の設立が加速される環境が整う。

(3) PDMの変更内容

課題と変更方針に従って改訂されたPDMの変更内容を、以下の対比表に整理する。

変更前	変更後
Narrative Summary	Narrative Summary
Activities:	Activities: (追加) 2.5 To establish the Jalapao Mosaic Council and the bylaw of the Council.
Objectively Verifiable Indicators	Objectively Verifiable Indicators
Outputs: 1.5 "Diagnosis & Justification", "Strategic Action Plans" and "Operational Guidelines" are developed.	Outputs: (追加) 2.1 Jalapao Mosaic Council is established and its bylaw and management capacity are built. (追加) 4.3 The amount of ICMS Ecologico allocated to the four target municipalities are increased. (変更) 5.1 "Diagnosis & Justification", "Strategic Action Plans" and "Operational Guidelines" are developed and a part of "Strategic Action Plan" is implemented.

第 2 章 業務の実施方法

2.1. PDM から想定される作業項目

本プロジェクトは、プロジェクト目標の下に設定された 5 つの成果を段階的に達成することにより、ICMBio において生態系コリドーを導入・実施するためのキャパシティ・ディベロップメント(CD)を目指すものである。PDM の各成果は CD のための分野課題に対応しており、各分野課題では様々な個別課題が想定される。PDM に記載された活動は、これらの個別課題に対応して設定されていると理解できる。各成果の分野課題、個別課題、PDM から想定される作業項目を図 2-1 に整理した。

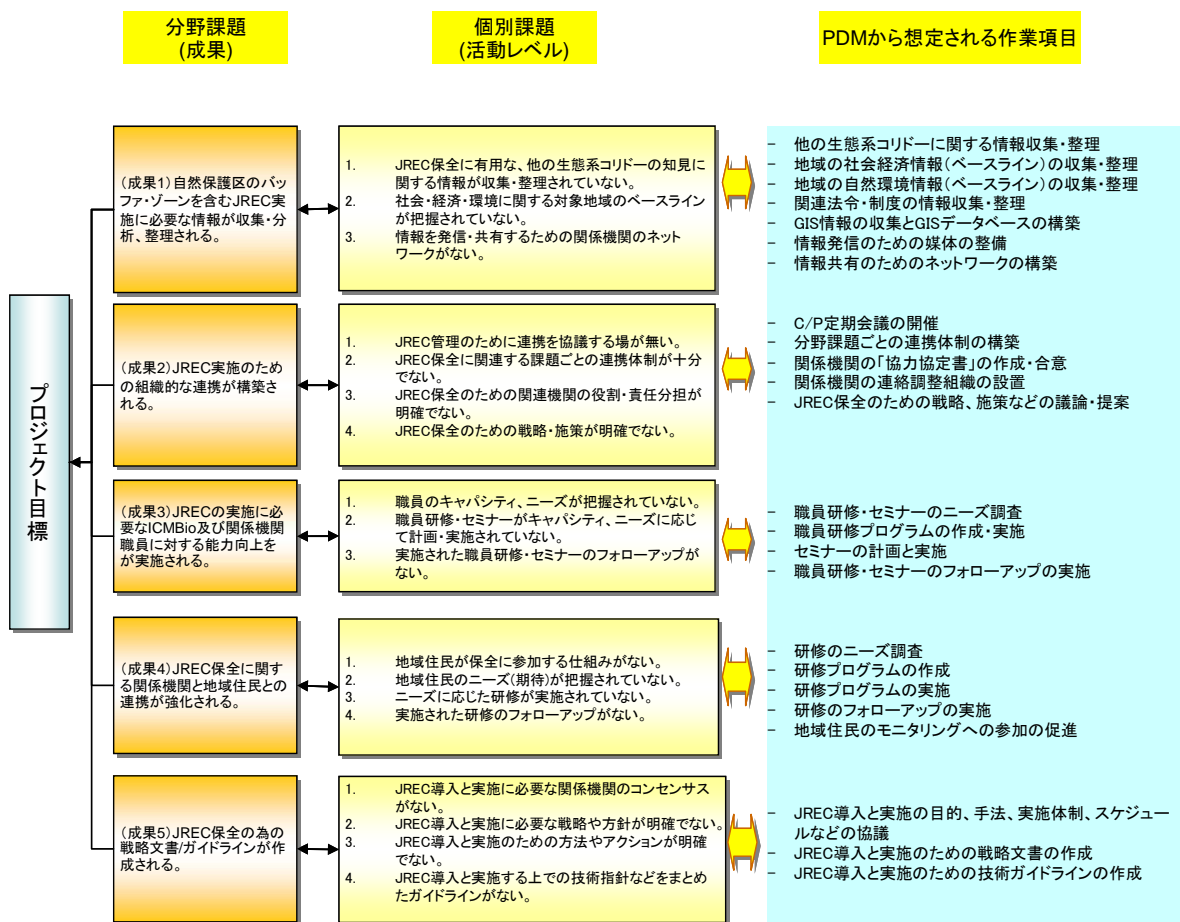


図 2-1 各成果に対する分野課題・個別課題・想定される作業項目

2.2. プロジェクト目標達成に向けた成果間の関係

生態系コリドーの導入・実施に際しては、その主体となる ICMBio の機能強化が必要であり、そのためには、ICMBio の「個人レベル」のキャパシティ・ディベロップメント(CD)とともに、「組織レベル」のCDが必要である。加えて、生態系コリドーの導入・

実施に向けた地域総体として「社会/地域レベル」のCDにも着目する必要がある。

PDM ではプロジェクト目標の達成に向けて5つの成果が設定されているが、各成果において達成する事項は、「成果1：関連情報の整備と共有」、「成果2：関係機関が連携するための枠組の構築」、「成果3：関係機関の職員の能力向上」、「成果4：地域住民の保全活動への参加促進」、「成果5：関係機関が共有できる活動計画(戦略文書)の策定」に要約できる。これら5つの成果を、個人・組織・社会/地域レベルの各レベルでのCDとして整理すると図2-2に示すとおりである。

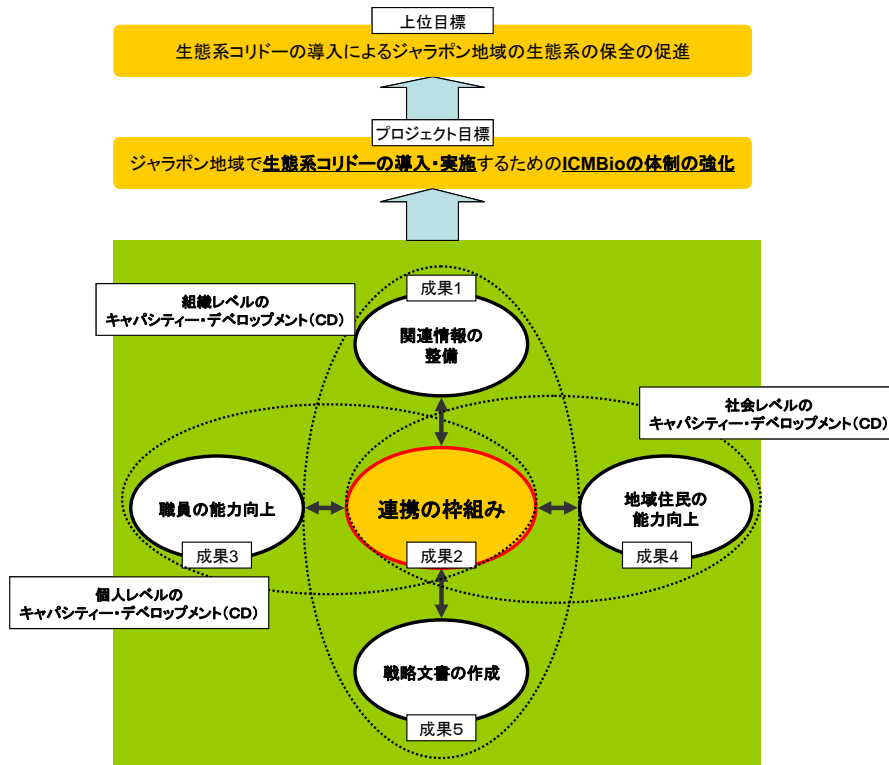


図 2-2 各成果とプロジェクト目標, 上位目標の関係

2.3. プロジェクトが目指す体制強化 = 地域保全メカニズムの構築

本プロジェクトは、生態系コリドーの導入・実施のための「体制 (institutional capacity)」の強化をプロジェクト目標としている。プロジェクト活動を推進するに際しては、この「体制」の定義について明らかにし、関係者で共有する事が必要である。

2.3.1 プロジェクト以前のベースライン - Without Project Scenario

本プロジェクトが進めるキャパシティー・ディベロップメント(CD)とは、「個人レベル」だけでなく「組織レベル」「社会/地域レベル」を含めた3つのレベルにおける総合的な能力向上を指す。したがって「体制 (capacity)」とは、職員や地域住民などアクター個人の能力向上だけでなく、保全を進めるための組織体制や方針、更に地方自治体の行政基盤など、生態系コリドーの導入・実施に必要な総合的な体制を意味する。

プロジェクト開始以前のジャラポン地域は、連邦・州レベルで5つの保護区が設定されていたものの、各関係機関の連携は職員個人の繋がりがベースのため限定的であり、また保護区の管理は個別で場当たりのであった。またジャラポン地域の自治体政府は環境保全のための活動を実施しておらず、多くの地域住民は環境に無関心であった。

生態系コリドーに代表される「広域生態系保全」の取組を進めるためには、現状のアクター個別の場当たりの管理から脱却し、連邦・州レベルの関係機関と自治体政府、地域住民が技術的・人的資源を集約させ、長期的視点に立った計画的な保全活動を連携して実施することが必要だと考えられた。

2.3.2 地域保全メカニズムの定義

この認識の下で本プロジェクトでは「体制(institutional capacity)」を、1. 多くの関係機関の連携を可能にする「組織横断的な枠組」、2. 関係機関による連携活動を促進するための「共通方針」、更に3. 地域住民が主体的に環境保全に取り組むための「地方行政基盤」の3つと定義し、それらを総体として「地域保全メカニズム」と呼ぶ事とした。

この「地域保全メカニズム」を実現するために、プロジェクトでは様々なツールを導入・構築するための活動を実施する。以下にプロジェクトが導入・構築を目指すツールを記述する。

(1) 関係機関の連携を可能にする「組織横断的な枠組」

「組織横断的な枠組」とは、連邦・州・自治体レベルの関係機関が縦割り行政を排除し、個人でなく組織的な合意の下に連携・協力して保全活動を実施することを可能にする協力協定や定期会議などのツール群である。

- 連邦・トカンチンス州の関係機関が連携する根拠となる **協力協定書(多機関)**
- 連邦・トカンチンス州の関係機関が効果的・効率的な連携を話し合う **調整会議**
- 連邦・トカンチンス州・バイア州・地元自治体が連携する枠組である **ジャラポン・モザイク**と連携を推進する **モザイク審議会**
- 主要な政府機関の間で協力・連携する根拠となる **技術協力協定書(2機関)**
- 自然保護区周辺の主要アクターが参加する **保護区管理委員会**

(2) 連携活動を促進する「共通方針」

「共通方針」とは、連邦・州の関係機関、また保護区周辺の自治体、NGOなどが、中・長期的視点に立った計画的な活動を連携して行うための、参加型で作成された方針、指針、データベースなどのツール群である。

- すべてのアクター間で現状認識を共有する **戦略文書(状況分析, 妥当性分析, 戦略, ビジョン, 課題)**
- 主要なアクターのコミットメントを確保した **アクション・プラン**
- すべてのアクターが実施手法や内容を共有する **活動ガイドライン**
- すべてのアクターがアクセスし情報を取得・共有することが出来る **情報発信・共有媒体 = GIS データベース**

- すべてのアクターがプロジェクト情報を共有する **プロジェクト・ホームページ**
- 環境教育の実施者が、実施手法や内容を標準化する **環境教育ガイドライン**

(3) 地域住民が保全に取り組む参加型の「地方行政基盤」

「地方行政基盤」とは、自然保護区周辺の自治体が環境保全に取り組むための環境法と環境審議会，更に地域住民が自然環境の尊さと環境保全の必要性を理解し，参加型の環境保全をサポートする啓発者(教育者グループ)などのツール群である。

- 自然保護区周辺の自治体の **市環境関連法**と **市環境基本計画**
- 自然保護区周辺の自治体の **市環境審議会**
- 自然保護区周辺に位置する自治体が設立する **市立自然保護区** (Sao Felix 市)
- 地域住民の意識を啓発し保全への参加を後押しする **教育者グループ**

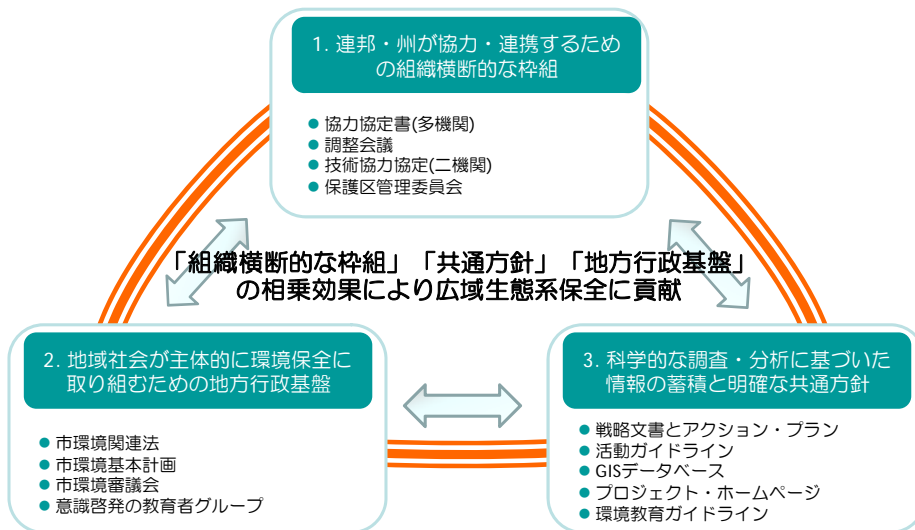


図 2-3 広域生態系保全を実現するための3つのアプローチ

2.3.3 プロジェクトの目指す未来 - With Project Scenario

プロジェクトの目指す未来の姿とは、プロジェクトが構築した「組織横断的な枠組」により、関係機関が組織的なコンセンサスの下で連携・協力しながら、「共通方針」により場当たりの無計画な広域生態系保全を実現させている。更に参加型の「地方行政基盤」により、自治体政府が環境保全の主要なアクターとなり、また住民も自ら進んで保全活動に参加している。加えて地域住民が連邦・州・自治体による地域開発の意思決定に関与出来るようになっている姿であり、ジャラポンの広域生態系保全が実現している未来である。

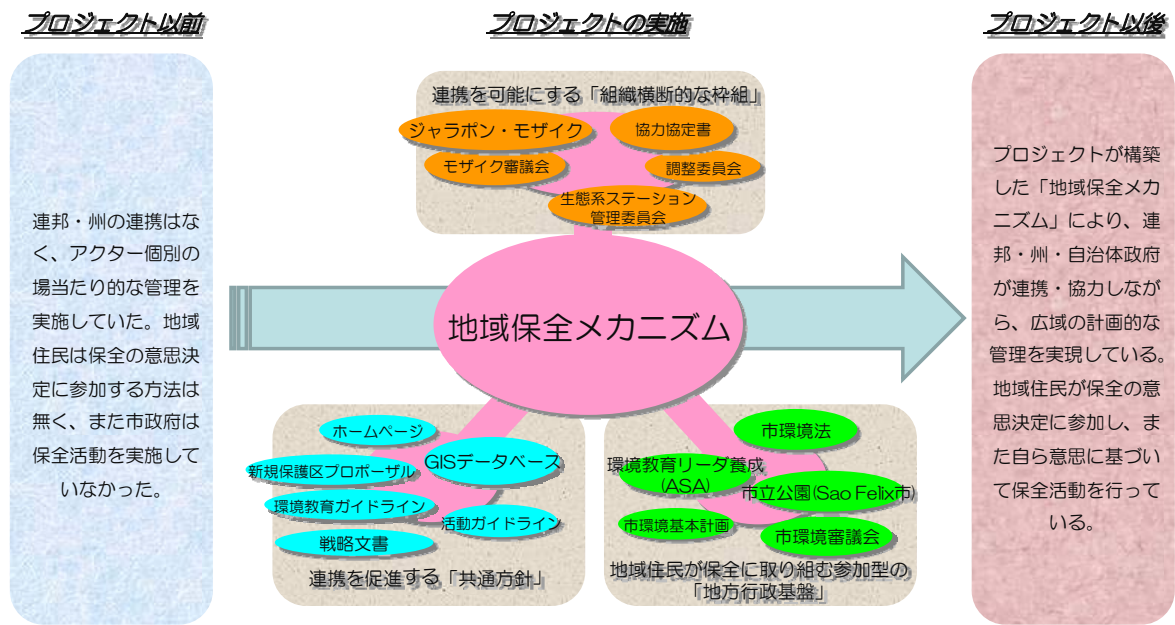


図 2-4 プロジェクトが実現する体制強化 = 地域保全メカニズムの構築

2.3.4 職員の能力向上のために取り組むプロジェクト活動

プロジェクト目標である「体制強化」を実現するためには、「地域保全メカニズム」の構築・導入に加えて、更にそれらを持続的に維持管理するための「個人レベル」の能力向上も必要である。そのためのプロジェクト活動を以下に整理する。

- ❑ 実施上のニーズに即した職員向けの技術研修
- ❑ 国内外の類似プロジェクトとの技術交換
- ❑ 地域保全メカニズムの構築・導入の過程に参加することによる OJT(On the Job Training)
- ❑ 情報の収集・整理
- ❑ 情報共有のための媒体(GIS データベース, プロジェクト・ホームページ等)の作成
- ❑ 情報発信媒体(パンフレット, バナー, カレンダー等)の作成
- ❑ 公開セミナーの実施

2.4. 各成果を構成するコンポーネント

上述した「体制強化」のための活動は広範である。本プロジェクトではPDMの5つの成果に分け、更にその下に13コンポーネントに細分化し活動を実施した。下表に各成果とコンポーネントを示す。

成果	各成果を構成するコンポーネント
成果 1: 関連情報の整備と共有	1. GIS データベースの構築・共有
	2. プロジェクト・ホームページの作成
	3. 情報発信媒体の作成
成果 2: 関連機関が連携するための枠組の構築	4. 協力協定書の作成・合意→ジャラボン・モザイク設立
	5. 調整会議の設置→ジャラボン・モザイク審議会の設置
	6. 短期アクション・プランの作成→ジャラボン・モザイク戦略文書の作成
成果 3: ICMBio 及び関係機関の職員の能力向上	7. 業務に直結した短期研修の実施
	8. 国内の類似案件との技術交流
成果 4: 地域住民の保全活動への参加促進	9. 自治体の環境管理能力(環境法, 環境審議会)の強化
	10. 環境教育リーダー養成
	11. 生態系ステーション審議会の設立
成果 5: 戦略文書の作成	12. 戦略文書の作成
	13. 運営ガイドラインの作成

2.5. 各成果の活動と実施方法

本プロジェクトの業務は、関係機関と協力しC/Pの実践的な能力向上に留意しながら、後述する「フローチャート」に沿って実施した。PDMで計画された成果ごとに、方針、実施主体、作業項目等を以下の表に整理した。

2.5.1 成果1：関連情報の整備と共有

ベースラインの状況 (問題の設定)	ジャラボン地域で生物多様性保全を推進する上で、必要な情報が整備されていない。また、関係機関で情報が共有されていない。	
成果の目的	周辺地域を含むジャラボン地域で、生態系コリドーの導入と運営に必要な情報を収集し、それらを共有する。	
成果の方針	実際の連携活動に繋がる情報を収集・整理する。 明確な優先順位を付けて、効率的・効果的な情報収集・整理を行う。	
対象とする地域	「プロジェクト・ターゲット・エリア- ジャラボン地域」(4州15自治体)	
担当者	<ICMBio> Mariuz Antoni Szmuchrowsky (COMOC - 本部モザイク・生態系コリドー課) Karina Forge Diano (COMOC - 本部モザイク・生態系コリドー課) プロジェクト・ローカル・コーディネーター Ana Carolina Barradas (セハ・ジェラウ生態系ステーション) Janeil Lustosa (パラナイバ河上流域国立公園) <JET> 川口 学(参加型資源管理(2)/GIS) 浅野 剛史(チーフアドバイザー/生態系保全)	
関係機関	トカンチンス州計画庁(SEPLAN) トカンチンス州環境庁(SEMADES) トカンチンス州自然院(NATURATINS)	
フェーズ毎の主な作業項目	フェーズ1	- 実施計画(PO)の策定, 目標, マイルストーンの設定 - 情報収集・共有の目的, 対象, 手法, 実施体制, スケジュール等の協議・決定 - ワーキング・グループの設立 - 関連情報の収集・整理

		<ul style="list-style-type: none"> - GIS情報の収集とGISデータベースの構築 - プロジェクト・ホームページの構築作業 - 情報発信媒体の作成(リーフレット等)
	フェーズ2	<ul style="list-style-type: none"> - 実施計画(PO), マイルストーンの見直し - 関連情報の収集・整理 - GIS情報の収集とGISデータベースの構築 - 情報発信媒体の作成(リーフレット等) - プロジェクト・ホームページの立ち上げ, 更新
	フェーズ3	<ul style="list-style-type: none"> - 情報インベントリーの作成と引継ぎ - GISデータベースの利用促進と引継ぎ - 中長期の情報整備・共有方針の策定 - プロジェクト・ホームページの更新と引継ぎ - 情報発信媒体の作成(バナー, リーフレット等)

2.5.2 成果2：関係機関が連携するための枠組の構築

ベースラインの状況 (問題の設定)	ジャラボン地域における持続可能な生態系保全を推進する上で、関係機関が連携するための枠組やルールが整備されていない。また関係機関の役割分担が明確でない。	
成果の目的	ジャラボン地域における生態系コリドー導入と管理に関して、組織間のスムーズな連携を促進するため「枠組」を構築する。	
成果の方針	プロジェクト実施上の意思決定の経路と権限、責任の所在を明確化する。 「中央-地方」の縦のコミュニケーションと、「地方-地方」の横のコミュニケーションを両立する。	
対象とする地域	「プロジェクト・コア・エリア」(トカンチンス州, 4自治体)	
担当者	<ICMBio> Allan Crema (COMOC - 本部モザイク・生態系コリドー課) セミナー担当 Ana Carolina Barradas (セハ・ジェラウ生態系ステーション) Janeil Lustosa (パラナイバ河上流域国立公園) <JET> 浅野 剛史(チーフアドバイザー / 生態系保全) 本城 正行(組織強化(1)) セミナー担当 菊池 淳子(参加型資源管理(1))	
関係機関	連邦環境省(MMA) トカンチンス州計画庁(SEPLAN) トカンチンス州環境庁(SEMADES) トカンチンス州自然院(NATURATINS) バイア州環境水資源院(INEMA)	
フェーズ毎の主な作業項目	フェーズ1	<ul style="list-style-type: none"> - 実施計画(PO)の策定, 目標, マイルストーンの設定 - プロジェクト・スタッフ定期会議の開催 - 分野課題ごとの連携体制の構築(各成果のワーキング・グループの立ち上げ) - ICMBioを中心としたキックオフ会議の開催 - JREC 保全のための「協力協定書」案の作成
	フェーズ2	<ul style="list-style-type: none"> - 実施計画(PO), マイルストーンの見直し - 「協力協定書」の最終化と合意 - 「協力協定書」に基づいた実施メカニズム(Executive Coordination)の議論 - 「協力協定書」に基づいた行動計画に関する議論
	フェーズ3	<ul style="list-style-type: none"> - 実施メカニズム(Executive Coordination)の関係機関との合意 - 実施メカニズム(Executive Coordination)の定款作成 - 「協力協定書」に基づいた行動計画の合意

2.5.3 成果3：ICMBio及び関係機関の職員の能力向上

ベースラインの状況 (問題の設定)	生物多様性保全を推進する上で関係機関職員の能力が十分でない。
成果の目的	生態系コリドーの導入・実施のために、ICMBio職員及び関係機関職員の能力を強化する。
成果の方針	生態系保全に直接貢献する能力を向上させる。 ICMBioの既存の人材育成との相補間を目指す。 類似プロジェクトとの連携を重視する。
対象とする地域	「プロジェクト・コア・エリア」(トカンチンス州, 4自治体)
担当者	<ICMBio> Allan Crema (COMOC - 本部モザイク・生態系コリドー課)

		<p>Mariuz Antoni Szmuchrowsky (COMOC – 本部モザイク・生態系コリドー課) プロジェクト・ローカル・コーディネーター Ana Carolina Barradas (セハ・ジェラウ生態系ステーション) Janeil Lustosa (パラナイバ河上流域国立公園)</p> <p><JET> 本城 正行(組織強化(1)) 谷本 晋一郎 (組織強化(2)) 辻 新一郎(組織強化(2)) 菊池 淳子(組織強化(2))</p>
関係機関		<p>トカンチンス州計画庁(SEPLAN) トカンチンス州環境庁(SEMADES) トカンチンス州自然院(NATURATINS)</p>
フェーズ毎の主な作業項目	フェーズ 1	<ul style="list-style-type: none"> - 実施計画(PO)の策定, 目標, マイルストーンの設定 - 職員研修の目的, 対象, 手法, 実施体制, スケジュール等の協議・決定 - ワーキング・グループの設立 - 職員研修・セミナーのニーズ調査 - キャパシティ・アセスメントの実施 - 活用可能な人的リソース, 手法, ツールの特定(主に政府関係機関)(成果 1 と協働) - 研修テーマの特定と研修プログラムの作成 - 研修プログラムの実施
	フェーズ 2	<ul style="list-style-type: none"> - 実施計画(PO), マイルストーンの見直し - 研修テーマの特定と研修プログラムの作成 - 研修プログラムの実施 - セミナーの企画, 実施計画の作成 - セミナーの実施 - 研修のフォローアップの実施
	フェーズ 3	<ul style="list-style-type: none"> - 研修テーマの特定と職員研修プログラムの作成 - 職員研修プログラムの実施 - セミナーの企画, 実施計画の作成 - セミナーの実施 - 研修・セミナーのフォローアップの実施

2.5.4 成果 4：地域住民の保全活動への参加促進

ベースラインの状況 (問題の設定)	<p>地域住民が生物多様性保全のための活動に参加していない。関係機関が実施する保全活動と地域住民とのリンケージが明確でない。</p>	
成果の目的	<p>生態系コリドーの導入・実施のための関係機関と地域住民との連携を促進する。保全活動と地域コミュニティとのリンケージを明らかにし、地域住民の役割分担を促進にする。</p>	
成果の方針	<p>地域住民の生活と自然環境の繋がりが、相互依存の関係を分析・整理し、理想とする将来像について共通理解形成を支援する。 自治体政府の環境管理能力の強化を支援する。 生態系コリドーや保護区管理に貢献できる体制整備を支援する。</p>	
対象とする地域	<p>保護区周辺自治体(トカンチンス州)</p>	
担当者	<p><ICMBio> Ana Carolina Barradas (セハ・ジェラウ生態系ステーション) Janeil Lustosa (パラナイバ河上流域国立公園)</p> <p><JET> 谷本 晋一郎 (組織強化(2)) 辻 新一郎(組織強化(2)) 菊池 淳子(参加型資源管理(1))</p>	
関係機関	<p>トカンチンス州環境庁(SEMADES) トカンチンス州自然院(NATURATINS) 自治体政府</p>	
フェーズ毎の主な作業項目	フェーズ 1	<ul style="list-style-type: none"> - ワーキング・グループの設立 - 活用可能な人的リソース, 手法, ツールの特定(主に政府関係機関)(成果 1 と協働) - 住民研修の目的, 対象, 手法, 実施体制, スケジュール等の協議・決定 - 第 2 年次住民研修の優先テーマの特定 - 情報発信媒体の作成(リーフレット等)(成果 1 との協働)
	フェーズ 2	<ul style="list-style-type: none"> - 実施計画(PO)の策定, 目標, マイルストーンの設定 - 住民研修の企画, 実施計画の策定 - 住民研修の実施 - 情報公開(資料の展示, イベントへの出展等)(成果 1 と協働) - 情報発信媒体の作成(リーフレット等)(成果 1 との協働) - 研修のフォローアップの実施

	フェーズ 3	<ul style="list-style-type: none"> - 住民研修の企画, 実施計画の策定 - 住民研修の実施 - 情報公開(資料の展示, イベントへの出展等)(成果 1 と協働) - 情報発信媒体の作成(リーフレット等)(成果 1 との協働) - 研修のフォローアップの実施
--	---------------	---

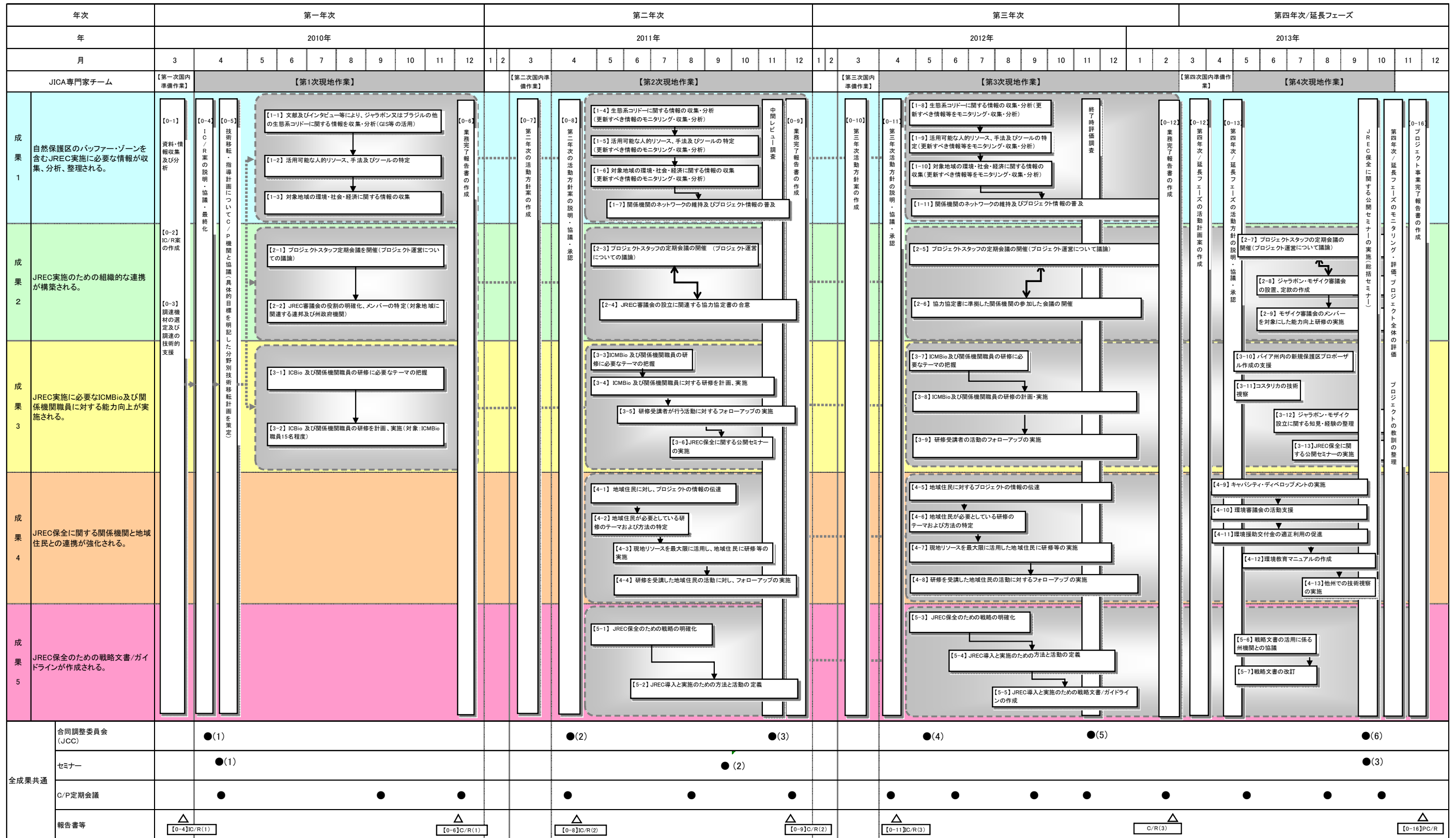
2.5.5 成果 5 : 戦略文書の作成

ベースラインの状況 (問題の設定)	<p>高まる開発圧力に対抗し貴重なジャラポンの生物多様性を保全するには、現状の場当たりの生態系保全には限界がある。関係機関が連携した「統合型生態系保全」並びに、科学的な情報に基づき生態系の連続性(コネクティビティ)を促進する「科学的管理(予防的管理と順応的管理)」へ移行する必要がある。しかしながら、そのため必要な、関係機関が共有出来る指針(課題, 目的, 方法など)がない。</p>	
成果の目的	<p>生態系コリドー導入のため、また関係機関並びに地域社会が参加した保護区の「統合型生態系保全」を実現するため、関係機関が共有出来る課題や目的, 方法などを整理した「戦略文書」を、関係機関の参加の下で作成する。</p>	
成果の方針	<p>生態系に関連する情報は、既存のものを関係機関の参加で共有しながら活用する。 リモートセンシング・GIS に関する情報や技術を活用する。 連邦・州・自治体が連携した「統合型生態系保全」を、成果の過程で促進する。 フィールド事務所と自治体政府の現場での横の連携を、成果の過程で促進する。</p>	
対象とする地域	<p>「プロジェクト・コア・エリア」(トカンチンス州, 4 自治体)</p>	
担当者	<p><ICMBio> Allan Crema (COMOC - 本部モザイク・生態系コリドー課) Mariuz Antoni Szmuchrowsky (COMOC - 本部モザイク・生態系コリドー課) プロジェクト・ローカル・コーディネーター Ana Carolina Barradas (セハ・ジェラウ生態系ステーション) Janeil Lustosa (パラナイバ河上流域国立公園) <JET> 浅野 剛史(チーフアドバイザー/生態系保全) 川口 学(参加型資源管理(2)/GIS)</p>	
関係機関	<p>連邦環境省(MMA) トカンチンス州計画庁(SEPLAN) トカンチンス州環境庁(SEMADES) トカンチンス州自然院(NATURATINS) バイア州環境水資源院(INEMA)</p>	
フェーズ毎の 主な作業項目	フェーズ 1	<ul style="list-style-type: none"> - 生態系モニタリングのための指標種の予備的検討 - 生態系(植生)タイプごとのモニタリング重点サイトの予備的検討 - 保護区間や残された自然植生とのコネクションポイント(生態系ネットワーク)の予備的検討
	フェーズ 2	<ul style="list-style-type: none"> - 実施計画(PO)の策定, 目標, マイルストーンの設定 - ワーキング・グループの設立 - 「戦略文書」作成にかかる計画の作成 - 州政府関係者との目的, 対象, 手法, 実施体制, スケジュール等の協議 - 「戦略文書」案の作成
	フェーズ 3	<ul style="list-style-type: none"> - 「戦略文書」のリバイス, 完成 - プロジェクト終了後のロードマップの作成 - 生態系コリドー導入の為にアクション・プランのリバイス

2.6. 業務フローチャート

第 1 年次から第 4 年次までの業務フローチャートを次項に示す。

業務フローチャート



IC/R: インセプションレポート P/R: プロジェクト事業進捗報告書 C/R: 業務完了報告書 PC/R: プロジェクト事業完了報告書

2.7. プロジェクト実施体制

本プロジェクトは2009年11月に日本側とブラジル側との間で合意・署名された討議議事録(R/D)に基づき実施する。ワーキング・グループを加えたプロジェクトの実施体制は以下のとおりである。

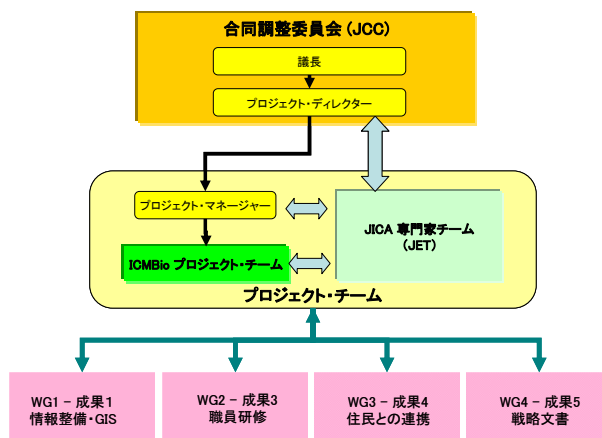


図 2-5 プロジェクトの実施体制

2.7.1 ICMBio カウンターパートの配置

2009年11月に日本側とブラジル側との間で合意・署名された討議議事録(R/D)に基づき、ICMBioのカウンターパートは以下のとおりである。

表 2-1 ブラジル側カウンターパート

	Name	Title and Organization	Period
1	Mr. Ricardo Soavinsky	Director of DIMAN / ICMBio	Apr 2010-Dec 2011
2	Mr. Pedro de Castro da Cunha e Menezes	Director of DIMAN / ICMBio	Jan 2012-Mar 2013
3	Ms. Giovanna Palazzi	Director of DIMAN / ICMBio	Apr 2013-now
4	Mr. Allan Crema	Chief of DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	Apr 2010-now
5	Mr. Mariusz Antoni Szmuchrowski	DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	Apr 2010-Apr 2013
6	Ms. Juliana Shiraishi	DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	Apr 2010-Dec 2011
7	Ms. Karina Jorge Diano	DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	Apr 2011-Apr 2013
8	Ms. Andréa Curi Zarattini	DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	Apr 2013-now
9	Ms. Lilian de Carvalho Lindoso	Chief of EESGT / ICMBio	Apr 2010-Nov 2010
10	Mr. Áquilas Ferreira Mascarenhas	Chief of EESGT / ICMBio	Feb 2011-now
11	Mr. Rodrigo Leal Morais	EESGT / ICMBio	Apr 2010-Feb 2011
11	Ms. Ana Carolina Sena Barradas	EESGT / ICMBio	Nov 2010-now
13	Mr. Máximo Menezes Costa	EESGT / ICMBio	Dec 2010-now
14	Ms. Lara Gomes Corte	EESGT / ICMBio	Apr 2010-Feb 2013
15	Ms. Luciana Gosi Pacca Berardi	EESGT / ICMBio	Apr 2010-Nov 2010
16	Ms. Cristiana Castro Lima Aguiar	Chief of PNNRP / ICMBio	Apr 2010-Jan 2013
17	Mr. Janeil Lustosa de Oliveira	PNNRP / ICMBio Chief of PNNRP / ICMBio	Apr 2010-May 2013 Jan 2013-now

DIMAN: *Diretoria de Criação e Manejo de Unidades de Conservação* (Directorate of Creation and Management of Protected Areas, ICMBio)

CGCAP: *Coordenação Geral de Criação, Planejamento e Avaliação de Unidades de Conservação* (General Coordination of Creation, Planning and Evaluation of Conservation Units)

DMOC: *Divisão de Mosaicos e Corredores* (Mosaic and Ecological Corridor Division)

EESGT: *Estação Ecológica da Serra Geral do Tocantins* (Serra Geral of Tocantins Ecological Station)

PNNRP: *Parque Nacional das Nascentes do Rio Parnaíba* (Nascentes do Rio Parnaíba National Park)

2.7.2 JICA 専門家の配置

JICA 専門家の配置と活動期間を以下に示す。

表 2-2 JICA チーム(JET)のメンバー

	Name	Title and Organization	Period
Japanese Experts			
1	Mr. Koji Asano	Chief Advisor/ Ecosystem Management /JICA	Apr 2010-Oct 2013
2	Mr. Masayuki Honjo	Institutional Strengthening/ JICA	Jun 2010-May 2011
3	Mr. Shin-ichiro Tanimoto	Participatory Natural Resource Management/ JICA	Apr 2010-Dec 2010
4	Mr. Shin-ichiro Tsuji	Institutional Strengthening/ JICA	Apr 2010-now
5	Ms. Yukiko Watanabe	Participatory Natural Resource Management/ JICA	Sep 2011-Jul 2012
6	Ms. Junko Kikuchi	Institutional Strengthening/ Participatory Natural Resource Management/ JICA	Jun 2012-Oct 2013
7	Mr. Manabu Kawaguchi	GIS/ Participatory Natural Resource Management/JICA	Apr 2010-Nov 2012
Brazilian Experts			
1	Mr. Roberto Kurokawa	Local Consultant for Output 2/ JICA	Apr 2010-Oct 2013
2	Ms. Selene Maria da Costa Solteiro	Local Consultant for Output 4/ JICA	Apr 2010-Oct 2013
3	Mr. Renato Prado dos Santos	Local Consultant for Output 1&4/ JICA	May 2011-Oct 2013
4	Mr. James Possap	Local Consultant for Output 2& 4/ JICA	May 2012-Oct 2013

<Task-Base Temporarily Consultants>

Mr Michiel Meijer(Capacity and Needs Assessment), Mr. Bruno Machado Carneiro(Cartographic Map), Mr. Andre Paulo(Cartographic Map), Ms. Maria de Fatima Rocha Medina(Environmental Education Guidelines), Mr. Mariano Federico Pascual(GIS Database System Engennering), Mr. Cristiano de Campos Nogueira(Priority Ecosystem Analysis), Mr. Reinaldo Lourival(Ecosystem Connectivity Analysis), Mr. Marcos Pinheiro(Mosaic Orhanization Establishment)

2.7.3 合同調整委員会 (JCC)

討議議事録(R/D)に基づき、本プロジェクトでは合同調整委員会 (JCC) が設置された。合同調整委員会 (JCC) の役割は以下のとおりである。また、合同調整委員会 (JCC) のメンバーを表 2-3 に示す。

- プロジェクト管理と調整に係る全体戦略を策定する。
- プロジェクトの年次業務計画をレビュー・承認する。
- プロジェクトの進捗をモニタリング・評価する。
- プロジェクト管理に必要な意思決定を行う。

表 2-3 合同調整委員会のメンバー

	プロジェクトでの役職	所属, 役職
1	Chairman	President – ICMBio
2	Member	Project Director – ICMBio
3	Member	Project Manager – ICMBio
4	Member	Representative of Brazilian Cooperation Agency – ABC
5	Members	Experts for the Project – JICA
6	Member	Coordinator for Technical Cooperation of Japan in Brazil – JICA Brazil
7	Member	Others appointed by the Chairman
8	Observer(s)	Official(s) of Embassy of Japan
9	Secretariat	Coordinator for the Mosaic and Ecological Corridors - ICMBio

2.7.4 JICA 専門家チームのアサイン期間

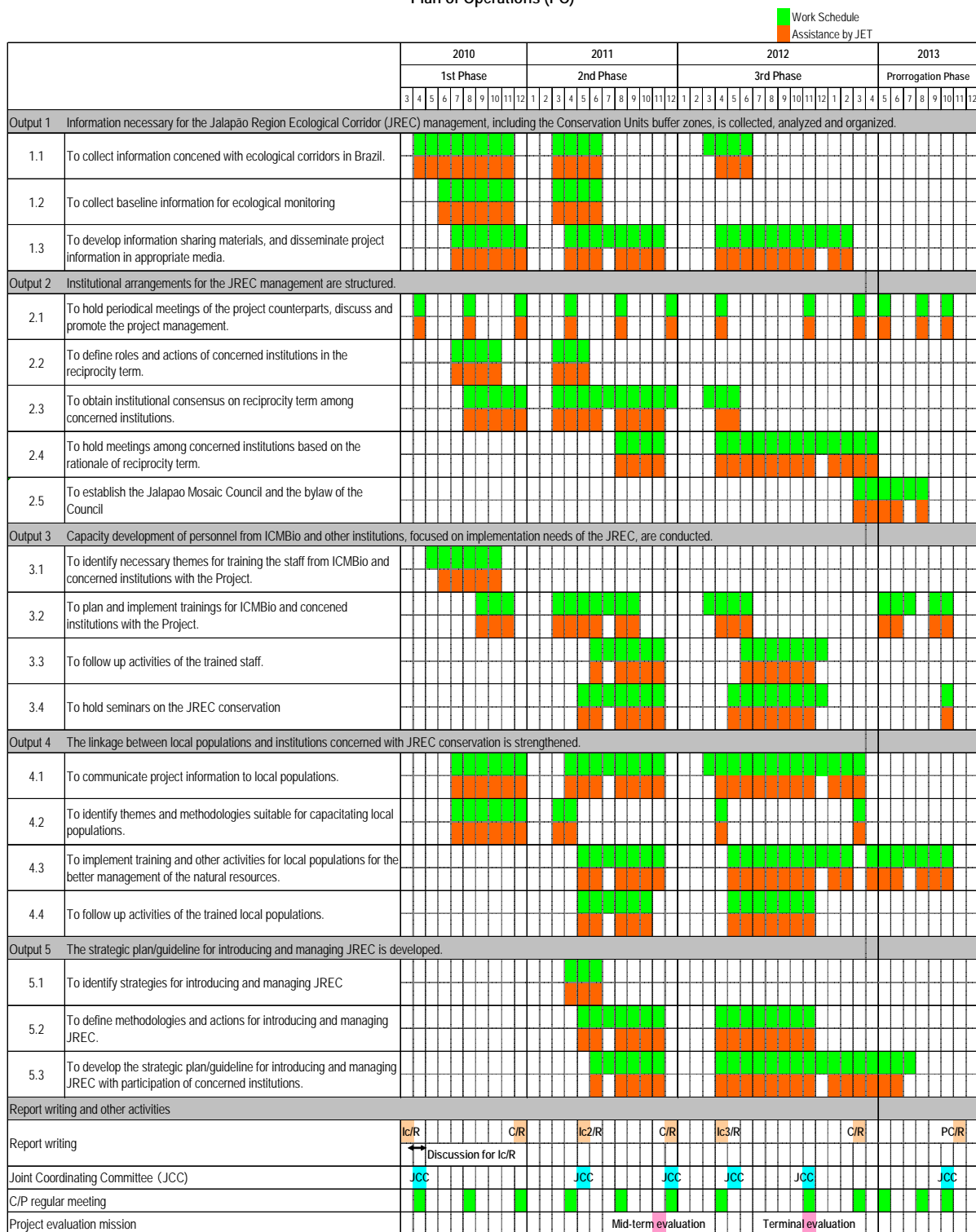
第1年次(2010年)から4年次(2013年)までのJICA 専門家チームのアサイン期間の実績を次頁に示す。

第 3 章 活動実施スケジュール(実績)

3.1. 業務行程(Plan of Operations)

第 1 年次から第 4 年次までの業務工程(Plan of Operations)を以下に示す。

Plan of Operations (PO)



Note Ic/R: Inception Report Ic2,3/R: Annual Inception Report (2nd and 3rd year) C/R: Annual Completion Report PC/R: Project Completion Report JCC: Joint Coordinating Committee

3.2. 第一年次(2010年4月~12月)

Plan of Actions (PA) 2010

Activity	2010												Completion	Major Achievements	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12						
Output 1: Information necessary for the Jalapa region Ecological Corridor (JREC) management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and organized.															
Activity 1: To make a literature survey and interviews about other projects in the Jalapa region or related to ecological corridors in Brazil, and to identify useful information for the JREC management.															
Action 1.1: To make a literature survey.															
Action 1.2: To collect existing GIS data from ICMBio & IBAMA															
Action 2: To identify human resources and developed methodologies and tools that may be useful for this project based on activity 1.1.															
Action 2.1: To identify human resources and developed methodologies and tools															
Action 2.2: To establish Working Groups															
Activity 3: To collect baseline information on the environmental, social and economical situation in the target region.															
Action 3.1: To collect information on the indicator species for ecological corridor management															
Activity 4: To develop information sharing materials, build a network of institutions related to the project, and disseminate the project information in appropriate media.															
Action 4.1: To create project web site															
Action 4.2: To create information materials (leaflet, calendar etc.)															
Action 4.3: To develop "Project Web-GIS" data base system by local engagement															
Output 2: Institutional arrangements for the JREC management are structured.															
Activity 1: To hold periodical meetings of the project counterparts, discuss and promote the project management.															
Action 1.1: Establish the Working Groups.															
Action 1.2: Prepare and implement the Kick off Meeting.															
Action 1.3: Hold C/P regular meetings and prepare minutes of the meetings.															
Activity 2: To define the role of the JREC Council and to identify its members.															
Action 2.1: Discuss the role, strategy etc. of the JREC Council in the C/P regular meetings.															
Action 2.2: Identify potential members of JREC Council in the C/P regular meetings.															
Output 3: Training and public seminars for capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on identification of necessary "capacity" and "ability" for introduction/implementation of the ecological															
Action 1.1: Identification of capacity and needs assessment															
Action 1.2: Implementation of capacity and needs assessment															
Action 1.3: Identification of target issues and approach															
Activity 2: To plan and implement trainings for ICMBio institutions related to the project															
Action 2.1: Preparation of capacity development program															
Action 2.2: Implementation of training															

Output 4: The linkage between local people and institutions related to the JREC conservation is strengthened	2010												Milestones	Completion	Major Achievements					
	Phase 1						Phase 2													
Activity 1: To communicate project information to concerned local communities	4	5	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
Action 1.1 To create information materials (leaflet, calendar etc...)																			Mid Nov	1) Pen with project logo → 300 2) Mouse Pad with project logo → 100 4) Desk Calendar with Project information → 500 5) Memo Pad with project logo → 200 6) File Binder with project logo → 100 7) Project Brochure(2010) → 200 9) Environmental Education Book (Vamos Conhecer o Cerrado) → 200
Activity 2 To identify themes and methodologies suitable for the demands of local communities																				
Action 2.1 To establish a Working Group																			End May	• Working group, by 11th May
Action 2.2 Selection of target communities																			End Aug	• Selection: by 13th Aug.
Action 2.3 Implementation of situation analysis																			End Oct	• Implementation of analysis: by 10th Sep. • Needs assessment: by 22nd Oct.
Action 2.4 Implementation of workshops in municipalities																			End Dec	• Report: by 29th Oct.
Action 2.5 Discuss and plan for environmental education for community leaders																			End Dec	• Environmental education plan
Output 5: The monitoring manual for the JREC is developed																			Completion	Major Achievements
Activity 1 To identify monitoring targets for JREC operation and management																				
Action 1.1 To collect information on the indicator species for ecological corridor management																			End Nov	• Report on baseline survey • Meeting records
Activity 2 To define monitoring methodologies. (Draft) for each identified target																				
Action 2.1 To create thematic(land cover and land use) maps																			Mid Nov	• Thematic maps: end October
Action 2.2 To plan training course on species database for ICMBio and related agencies.																			End Nov	• Report on Training course: end Dec.
Action 2.3 To implement training course on species database for ICMBio and related agencies.																				• Report on Training course: end Dec.
Reports & JCC																				
JCC																				
C/P Regular Meeting																				

* Ic/R: Inception Report P/R: Progress Report C/R: Annual Completion Report JCC: Joint Coordinating Committee

3.3. 第二年次(2011年3月~12月)

Plan of Actions (PA) 2011

Activity	2011												Completion	Milestones	Major Achievements		
	Planned	Actual	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
Output 1: Information necessary for the Jalapa region Ecological Corridor (UREC) management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and organized.																	
Activity 1 To collect information concerned with ecological corridors in Brazil.																	
Action 1.4 To make supplemental literature survey based on necessary.																	
Action 1.5 To collect existing GIS data from ICMBio & IBAMA based on necessity.																	
Activity 2 To collect baseline information for ecological monitoring.																	
Action 2.1 To collect information for the elaboration of the Strategic Plan.																	
Activity 3 To develop information sharing materials, and disseminate project information in appropriate media.																	
Action 3.1 To create and maintain project web site																	
Action 3.2 To create information materials utilizing GIS data collected (leaflet, calendar etc..)																	
Action 3.3 To construct a database for "Project Web-GIS" using collected data.																	
Action 3.4 To have dialogues with related institutions for utilizing "Project Web-GIS" system.																	
Action 3.5 To maintain "Project Web-GIS".																	
Output 2: Institutional arrangements for the UREC management are structured.																	
Activity 1 To hold periodical meetings of the project counterparts, discuss and promote the project management.																	
Action 1.3 Hold C/P regular meetings and prepare minutes.																	
Activity 2 To define role and actions of concerned institutions in the reciprocity term.																	
Action 2.1 Discuss objectives and role of reciprocity term.																	
Action 2.2 Identify potential members of reciprocity term.																	
Activity 3 To obtain institutional consensus on reciprocity term among concerned institutions.																	
Action 3.1 Obtain institutional consensus on the terms for reciprocity with state institutions.																	
Action 3.2 Obtain institutional consensus on the terms for reciprocity with federal institutions.																	
Action 3.3 Discuss on the executive mechanism on reciprocity.																	
Action 3.4 Discuss on the internal regime for the executive coordination body.																	
Activity 4 To hold meetings among concerned institutions based on the rationale of reciprocity term.																	
Action 4.1 Discuss on the institutional decree or internal decree for reciprocity.																	
Action 4.2 Discuss on Joint Action Plan - Short Term																	

Activity	2011												Completion	Major Achievements	
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
Output 3: Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are	Phase 2														
Activity 2 To plan and implement trainings for ICMBio and concerned institutions with the Project	Phase 2														
Action 2.1 Elaboration of capacity development plan (mini-trainings, technical visits)														End Apr	•Counterpart Training in Japan 1st: 10 - 26 Jun 2011 •RPPN technical seminar at NATURATINS 29-30 Sep 2011
Action 2.2 Preparation and implementation of mini-trainings														End Nov	
Action 2.3 Preparation and implementation of a technical visit														Mid Dec	
Activity 3 To follow up activities of the trained staff														End Oct	•Mini-course on institutional framework for Promoting a participatory biodiversity conservation - cases from the Philippines and India in Oct 2011 at ICMBio (Brasilia), Mateiros, and Ponte Alta •Mini-course on institutional framework for Promoting a participatory biodiversity conservation in Nov 2011 at Sítio Félix, Mateiros, Rio da Conceição, and Ponte Alta •Study Visit for the exchange of experience to Central Fluminense Mosaic on 12-16 Dec 2011
Action 3.1 Implement follow up in OJT															
Activity 4 To hold public seminars on the JREC conservation														Beginning Oct	•Kick Off Seminar on 13 May 2010 •RPPN technical seminar on 29-30 Sep 2011 •Technical Mid-term seminar for JREC conservation on 29 Nov 2011 in Taquarussu, Tocantins.
Action 4.1 Prepare proposal for mid-term seminar														End Nov	
Action 4.2 Implement various works for seminar preparation														End Nov	
Action 4.3 Hold seminar														Completion	
Output 4: The linkage between local population and institutions concerned with JREC conservation is strengthened	Phase 2														
Activity 1 To communicate project information to concerned local populations														Beginning Nov	1) 7 types of folder (project pamphlet) → 3000 2) RIO VIVO (ASAS brochure) → 700 3) Calendar 2012 → 500 4) T-shirt → 300 5) Banner for each municipality → 4 types
Action 1.1 To create information materials (leaflet, calendar etc.,)															
Activity 2 To identify themes and methodologies suitable for the demands of local populations														End May	•Field Reconnaissance (May 2011) to identify target communities and approaches. •Hearing survey by JICA consultant (Ms. Selene) on municipal environmental council and analysis.
Action 2.6 Review of needs and themes of training and other activities															

Activity	To implement training and other activities for the local populations for the better management of the natural resources.	2011												Milestones	Major Achievements	
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
Activity 3	To implement training and other activities for the local populations for the better management of the natural resources.															
Action 3.1	Preparation of capacity development program (Capacity of municipal environmental council, capacitation of environmental education, establishment of ESEC council)															1) Municipal Environmental Councils • Training course on structure for environmental management (municipal environmental council) for total 101 participants (19 municipal officers, 14 city council member, 68 others) in July 2011 at Almas, in May 2011 at Mateiros, Ponte Alta, Rio de Conceição, São Félix do Tocantins • Technical meeting for a proposal to revise the law on regional environmental councils at Mateiros (Oct 2011), Ponte Alta do Tocantins (Nov 2011), Rio de Conceição (Aug 2011), São Félix do Tocantins (Sep 2011) • Advice to environment and tourism division for the establishment of regional environmental council in Oct 2011 at Ponte Alta do Tocantins, Rio de Conceição, in Nov 2011 at São Félix do Tocantins • Planning meeting for the regional environmental council in Nov 2011 at Mateiros, Ponte Alta do Tocantins, Rio de Conceição, São Félix do Tocantins • Memorandum of Agreement signed among the Project, CAOMA, NATURATINS and SEMADES for cooperation. 2) Legislation and Statute at the Municipality Level (Apr 2010 – Dec 2011) • Formation of municipal legislation by the Project for COMATUR (COMTURMA in São Félix) and MONA Municipality • Ponte Alta 1. Revision of municipal environmental ordinance (Oct 2011) 2. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 3. Statute of the Council (Nov 2011) Rio de Conceição 1. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 2. Statute of the Council (Nov 2011) 3. Law on the alteration of the environmental fund (Oct 2010) 4. Law on the reform of COMATUR (Oct 2010) São Félix 1. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 2. Statute of the Council (Nov 2011) 3. Law on SMUC (Nov 2011) 3) Environmental education • Development of JREC project environmental education action plan (17 Feb 2011). 'ASAS' to provide public school teachers of Rio de Conceição and Mateiros with 100 hour training course. 1st phase (preparation of action plan, Aug 2011) 2nd phase (implementation of the action plan, Aug-Nov 2011) 3rd phase (completion certificate, Nov-Dec 2011)
Action 3.2	Implementation of capacitation for municipal environmental council															• Preparation of working plan: by Mid Apr. • 1st training: by end May, 2nd training: by end Aug.
Action 3.3	Implementation of capacitation for environmental education															• Training: by end Aug
Action 3.4	Implementation of capacitation for establishment of ESEC council															• Report by Nov
Action 3.5	Preparation of report and plan for next year															
Activity 4	To follow up activities of the trained local populations															
Action 4.1	Implement follow up during capacity development program															
Output 5: The JREC strategic plan/guideline is developed.																
Activity 1	To identify strategies for introducing and managing JREC.															
Action 1.1	To establish a Working Group															
Action 1.2	To make a work plan															• ToR & contract document • Proposal/work plan
Action 1.3	To make dialogues with resource persons															• Bi-monthly reports
Activity 2	To define methodologies and actions for introducing and managing JREC.															
Action 2.1	To implement works on preparing "Diagnosis and Justification" for the Strategic Plan.															• Bi-monthly reports • Draft report
Action 2.2	To create thematic (land cover and land use) maps															• Bi-monthly reports
Activity 3	To develop the strategic plan/guideline for introducing and managing JREC with participation of concerned institutions.															• Bi-monthly reports • Draft report
Action 3.1	To implement works on preparing "Strategic Action Plans"															• Bi-monthly reports
Action 3.2	To implement works on preparing "Operational Guidelines"															• Meeting records
Action 3.3	To have dialogues with officials from state institutions to reflect their ideas in the "strategic Reports & JCC"															
Reports & JCC																
JCC																
C/P Regular Meeting																
* I/c/R: Inception Report. A/P: Annual Plan. AC/R: Annual Completion Report. JCC: Joint Coordinating Committee																

Activity	To hold meetings among concerned institutions based on the rationale of the reciprocity term.	2012												2013			Completion	Major Achievements			
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3							
Activity 4	To hold meetings among concerned institutions based on the rationale of the reciprocity term.																		End May, Nov, Mar	<ul style="list-style-type: none"> -Meeting records -Meeting records 	<ul style="list-style-type: none"> -Meeting of JREC Coordination Committee based on the Reciprocity Term 1) 30 Nov. 2011 (Seminar held with participants from Bahia State Government) 2) 8-9 May 2012 3) 18-19 Jul 2012 4) 28-29 Aug at Salvador, Bahia -Promotion regarding the establishment of mosaic in the Jalapaço region 1) Working group and a mailing list were set up, including those concerned in Bahia, in May 2012. 2) Agreement on Mosaic participation signed by authorities of nine related protected areas in Aug 2012. 3) Proposal to establish the "Jalapaço Mosaic" prepared and submitted to MMA in Sep 2012. 4) The establishment of the Jalapaço Mosaic is expected to be recognized by MMA in as early as Dec 2012.
Activity 2	To plan and implement trainings for ICMBio and concerned institutions with the project																		Completion	<ul style="list-style-type: none"> 1. Training -Web-GIS Training for staff from NATURATINS, SEMADES and SEPLAN, 25 May 2012 -Training on prevention and control of forest fire, 16-17 Aug 2012. -Counterpart Training in Japan 2. Technical Exchange -Technical exchange meetings for ICMBio and officers of Tocantins on integrated ecosystem conservation management of protected area and the establishment/management of Mosaic. 1) 8-9 May 2012 2) 18-19 Jun 2012 3) 28-29 Aug 2012 4) 12-14 Nov 2012 planned 3. Training on MONA in Palmas with participants from state counterpart institutions 1) 5 Jul 2012 (draft MONA management plan was discussed) 2) 11 Oct 2012 (consultation on the 1st draft MONA management plan) 	
Activity 3	To follow up activities of the trained staff																		Mid May	<ul style="list-style-type: none"> -Review of themes 	<ul style="list-style-type: none"> 1) Training -Web-GIS Training for staff from NATURATINS, SEMADES and SEPLAN, 25 May 2012 -Training on prevention and control of forest fire, 16-17 Aug 2012. -Counterpart Training in Japan 2. Technical Exchange -Technical exchange meetings for ICMBio and officers of Tocantins on integrated ecosystem conservation management of protected area and the establishment/management of Mosaic. 1) 8-9 May 2012 2) 18-19 Jun 2012 3) 28-29 Aug 2012 4) 12-14 Nov 2012 planned 3. Training on MONA in Palmas with participants from state counterpart institutions 1) 5 Jul 2012 (draft MONA management plan was discussed) 2) 11 Oct 2012 (consultation on the 1st draft MONA management plan)
Action 2.4	Elaboration of capacity development plan (mini-trainings, technical visits, etc.)																		End Aug	<ul style="list-style-type: none"> -Training to be completed -Activity report 	<ul style="list-style-type: none"> 1) Training -Web-GIS Training for staff from NATURATINS, SEMADES and SEPLAN, 25 May 2012 -Training on prevention and control of forest fire, 16-17 Aug 2012. -Counterpart Training in Japan 2. Technical Exchange -Technical exchange meetings for ICMBio and officers of Tocantins on integrated ecosystem conservation management of protected area and the establishment/management of Mosaic. 1) 8-9 May 2012 2) 18-19 Jun 2012 3) 28-29 Aug 2012 4) 12-14 Nov 2012 planned 3. Training on MONA in Palmas with participants from state counterpart institutions 1) 5 Jul 2012 (draft MONA management plan was discussed) 2) 11 Oct 2012 (consultation on the 1st draft MONA management plan)
Action 2.5	Preparations and implementation of mini-trainings and technical visit.																		End Aug	<ul style="list-style-type: none"> -Visit to be completed. 	<ul style="list-style-type: none"> 1) Training -Web-GIS Training for staff from NATURATINS, SEMADES and SEPLAN, 25 May 2012 -Training on prevention and control of forest fire, 16-17 Aug 2012. -Counterpart Training in Japan 2. Technical Exchange -Technical exchange meetings for ICMBio and officers of Tocantins on integrated ecosystem conservation management of protected area and the establishment/management of Mosaic. 1) 8-9 May 2012 2) 18-19 Jun 2012 3) 28-29 Aug 2012 4) 12-14 Nov 2012 planned 3. Training on MONA in Palmas with participants from state counterpart institutions 1) 5 Jul 2012 (draft MONA management plan was discussed) 2) 11 Oct 2012 (consultation on the 1st draft MONA management plan)
Action 2.6	Preparation and implementation of a technical visit																		End Aug	<ul style="list-style-type: none"> -Regular visits by Experts 	<ul style="list-style-type: none"> 1) Training -Web-GIS Training for staff from NATURATINS, SEMADES and SEPLAN, 25 May 2012 -Training on prevention and control of forest fire, 16-17 Aug 2012. -Counterpart Training in Japan 2. Technical Exchange -Technical exchange meetings for ICMBio and officers of Tocantins on integrated ecosystem conservation management of protected area and the establishment/management of Mosaic. 1) 8-9 May 2012 2) 18-19 Jun 2012 3) 28-29 Aug 2012 4) 12-14 Nov 2012 planned 3. Training on MONA in Palmas with participants from state counterpart institutions 1) 5 Jul 2012 (draft MONA management plan was discussed) 2) 11 Oct 2012 (consultation on the 1st draft MONA management plan)
Activity 3.1	Implement follow up in OJT																		End Mar 2013	<ul style="list-style-type: none"> -Seminar proposal -Activity report -Seminar report 	<ul style="list-style-type: none"> -Follow-up conducted through opportunities such as training, WS and seminars. -Capacity development of CP and state counterparts on municipal environmental councils, environmental education, EESSCT management
Activity 4.4	To hold public seminars on the JREC conservation																		End May	<ul style="list-style-type: none"> -Project Conclusion Seminar for the Municipal Level Activities was held on 26 Oct. 2012. 	<ul style="list-style-type: none"> 1) LOGO (card game) → 100 2) Bookmark leaf → 2000 3) Folder (Natural Monument/Public Consultation) pamphlet → 1000 4) Panel(Rio de Conceição) → 7 types 5) Educational video (MONA establishment procedure) → 1 6) Panel for CETI(Mateiros) → 8 types 7) Panel for São Félix → 3 types
Activity 4.5	Prepare proposal for terminal seminar for the project																		End Sep	<ul style="list-style-type: none"> -List of information materials -Products -Distribution records 	<ul style="list-style-type: none"> -Field Reconnaissance to re-identify target communities and approaches (Ponte Alta, São Félix, Rio de Conceição, Mateiros). 19-24 April 2012 -Hearing survey to state counterpart institutions. April 2012
Activity 4.6	Implement the terminal seminar.																		End Oct	<ul style="list-style-type: none"> -Report of CP meeting 	<ul style="list-style-type: none"> -Field Reconnaissance to re-identify target communities and approaches (Ponte Alta, São Félix, Rio de Conceição, Mateiros). 19-24 April 2012 -Hearing survey to state counterpart institutions. April 2012
Activity 1.1	Create information materials (leaflet, calendar etc.)																		Completion	<ul style="list-style-type: none"> -List of information materials -Products -Distribution records 	<ul style="list-style-type: none"> 1) LOGO (card game) → 100 2) Bookmark leaf → 2000 3) Folder (Natural Monument/Public Consultation) pamphlet → 1000 4) Panel(Rio de Conceição) → 7 types 5) Educational video (MONA establishment procedure) → 1 6) Panel for CETI(Mateiros) → 8 types 7) Panel for São Félix → 3 types
Activity 2	To identify themes and methodologies suitable for the demands of local populations																		Completion	<ul style="list-style-type: none"> -Report of CP meeting 	<ul style="list-style-type: none"> -Field Reconnaissance to re-identify target communities and approaches (Ponte Alta, São Félix, Rio de Conceição, Mateiros). 19-24 April 2012 -Hearing survey to state counterpart institutions. April 2012
Action 2.6	Review of needs and themes of training and other activities																		End May	<ul style="list-style-type: none"> -Report of CP meeting 	<ul style="list-style-type: none"> -Field Reconnaissance to re-identify target communities and approaches (Ponte Alta, São Félix, Rio de Conceição, Mateiros). 19-24 April 2012 -Hearing survey to state counterpart institutions. April 2012

Activity	To implement training and other activities for the local populations for the better management of the natural resources.	2012												2013			Plan of Activities	End Date	Description of Activities
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
Activity 3	To implement training and other activities for the local populations for the better management of the natural resources.																		
Action 3.6	Prepare capacity development programs (implementation of model projects, capacitation for municipal councils and environmental education mini-projects)																		
Action 3.7	Implementation of model projects by the municipal environmental councils in coordination with concerned institutions.																		
Action 3.8	Implementation of capacitation for municipal environmental councils.																		
Action 3.9	Implementation of environmental education mini-projects.																		
Action 3.10	Preparation of capacity development program (Capacitation of management councils for UCs)																		
Action 3.11	Implementation of capacitation for ecological station council.																		
Activity 4	To follow up activities of the trained local populations																		
Action 4.1	Implementation of follow-up activities during capacity development programs.																		
Output 5	The UREC strategic plan/guideline is developed.																		
Activity 2	To define methodologies and actions for introducing and managing UREC.																		
Action 2.3	To implement works for finalizing "Diagnosis and Justification"																		
Action 2.4	To implement supplemental works for thematic/land cover and land use maps																		
Activity 3	To develop the strategic plan/guideline for introducing and managing UREC with participation of concerned institutions.																		
Action 3.4	To implement works on finalizing "Strategic Action Plans"																		
Action 3.5	To implement works on preparing & finalizing "Operational Guidelines for institutions to approve the Strategic Plan/Guidelines"																		
Action 3.6	To have dialogues with state institutions to approve "the Strategic Plan/Guidelines"																		
Action 3.7	To have dialogues with state institutions for utilizing "the Strategic Plan/Guidelines" after project termination.																		
Reports & JCC																			
Reports																			
JCC																			
C/P	Regular Meeting																		
C/R	Inception Report / A/P Annual Plan / C/R Completion Report / JCC Joint Coordinating Committee																		

3. 5. 第四年次 (2013 年 3 月 ~ 10 月)

Plan of Actions (PA) 2013

Output 2: Institutional arrangements for the JREC management are structured.	2013											Milestones	Completion	Major Achievements
	4	5	6	7	8	9	10	11						
Activity 1 To hold periodical meetings of the project counterparts, discuss and promote the project management.														
Action 1.3 Hold C/P regular meetings and prepare minutes.													End May, Sep, Oct	<ul style="list-style-type: none"> JCC 6th : 22 Oct 2013 (Review of activities in 2013, Project wrap up) Project Conclusion Seminar 1) 2-3 Oct 2013(Palmas) Periodical Counterpart Meeting 1) 13-15 May 2013 (Mateiros) 2) 17-19 Sep 2013(Palmas) 3) 2-3 Oct 2013 (Palmas)
Activity 4 To hold meetings among concerned institutions based on the rationale of the reciprocity term.														
Action 4.1 To hold meetings of "coordination committee" among concerned institutions based on the rationale of reciprocity term.													End May, Sep, Oct	<ul style="list-style-type: none"> Meeting of JREC Coordination Committee based on the Reciprocity Term 1) 13-15 May 2013 (Mateiros) 2) 17-19 Sep 2013(Palmas) 3) 2-3 Oct 2013 (Palmas)
Action 4.2 Discuss on Annual Action Plan.														<ul style="list-style-type: none"> Roles and actions of concerned institutions were defined also in the Strategic Plan.
Action 4.3 To promote actions regarding the establishment of mosaic in the Jalapaao region.														
Action 4.4 To hold meetings of "Mosaic Council" among concerned institutions based on the rationale of the bylaw.													End Sep, Oct	<ul style="list-style-type: none"> Revised Strategic Plan for the "Jalapaao Mosaic" has attained consensus by all prospected council members in the first Mosaic meeting held from 17 to 19 September 2013, in Palmas. First Mosaic meeting with prospected Council members was held from 17-19 Sep. However, since the Mosaic has not yet recognized, the gathering was not officially recognized. Draft bylaw was elaborated in the above mentioned meeting.
Output 3: Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are														
Activity 2 To plan and implement trainings for ICMBio and concerned institutions with the project														
Action 2.7 Support of the establishment of the Jalapaao Mosaic Council and the establishment of a bylaw of the Council													Beginning Oct	<ul style="list-style-type: none"> Training for capacity development on creation of mosaic council in May 2013, Sep 2013, Oct 2013
Action 2.8 Support of the establishment of the proposal to create new prospected areas in the state of Bahia, Costa Rica.													End Jun	<ul style="list-style-type: none"> Technical Visit for study of corridor ecosystem in Costa Rica.
Action 2.9 Technical visit for study of corridor ecosystem in Costa Rica.													End May	<ul style="list-style-type: none"> Technical Exchange Visit to Costa Rica, 19-26 May 2013
Action 2.10 Record and organize knowledge and experience gained from establishment of Jalapaao Mosaic, and its establishment process.													Beginning Oct	<ul style="list-style-type: none"> Participants: <ICMBio> Allan Crema, Bernaldo Brito, <NATURATINS> Veronica Amahai, <JICA> Koji Asano
Activity 4 To hold public seminars on the JREC conservation														
Action 4.5 Prepare proposal for terminal seminar for the project													End June	
Action 4.6 Implement various works for preparing for the terminal seminar.													End Sep	<ul style="list-style-type: none"> Project Termination Seminar was held in 2-3 Oct 2013
Action 4.7 Implement the terminal seminar.													Beginning Oct	

Output 4: The linkage between local populations and institutions concerned with JREC conservation is strengthened.	2013												Milestones	Completion	Major Achievements	
	Phase 4															
Activity 1 To communicate project information to concerned local populations	4	5	6	7	8	9	10	11					List of information materials • Products • Distribution records	Mid Oct	1) Panel(Rio de Conceição) → 38 types 2) Panel for CEIT(Mateiros) → 11 types 3) Panel for São Félix → 16 types 4) Logo sticker for MONACC (São Félix) → 500 5) Banner for Jalapaço Mosaic → 20 6) ICMS-Ecológico Guideline → 1,000 7) Manual of Project Elaboration → 1,000 8) Environmental Education-ASAs do Jalapaço- Guideline → 4,000	
Action 1.1 Create information materials (leaflet, calendar etc...)																
Activity 3 To implement training and other activities for the local populations for the better management of the natural resources.																
Action 3.6 Prepare capacity development programs (implementation of model projects, capacitation for municipal environmental councils and environmental education mini-projects)																1) Capacity Development of COMATUR/COMTURMA on planning, implementation and monitoring of municipal environmental plan (=5years master plan and annual plan 2013) 2) Capacity development of COMATUR/COMTURMA on project implementation through model project 3 times WS at Ponte Alta, Mateiros, Rio da Conceição, São Félix 3) Capacity Development of COMATUR/COMTURMA on financial management - utilization of ICMS Ecológico • Training WS on ICMS Ecológico for COMTURMA and municipalities 7-10 May 2013 in Ponte Alta, Rio da Conceição, São Félix, Mateiros • Revision of the technical orientation manual of ICMS Ecológico of Tocantins was published in Aug 2013 for 1,000 copies. 4) Environmental Education (ASAS) • Training of teachers for environmental education - Mar 2013 in Ponte Alta, São Félix, Rio da Conceição, Mateiros May in Mateiros May in São Félix - Sep-1 Oct 2013 in Ponte Alta • Technical exchange forum with Ponte Alta, Rio da Conceição, Mateiros and São Félix, and COMTURMA member. Sep 2013 in Ponte Alta. • Handbook of ASAs was published in Oct 2013 for 4,000 copies. 5) Technical Exchange Visit to Chapada dos Veadeiros National Park in the state of Goiás. 3-6 Oct 2013 6) Legislation and Statute at the Municipality Level Ponte Alta : Decree on the regulation of the environmental municipal fund (July 2013) São Félix : Decree on the appointment of council members of MONA(Sep 2013) Mateiros : Decree on the creation of the environmental municipal fund (July 2013)
Action 3.7 Implementation of model projects by the municipal environmental councils in coordination with concerned institutions.																
Action 3.8 Implementation of capacitation for municipal environmental councils.																
Action 3.9 Implementation of environmental education mini-projects.																
Output 5: The JREC strategic plan/guideline is developed.	2013															
Activity 3 To develop the strategic plan/guideline for introducing and managing JREC with participation of concerned institutions.	Phase 4															
Action 3.4 To implement works on finalizing "Strategic Action Plans"																
Action 3.5 To implement works on preparing & finalizing Operational Guidelines																
Action 3.6 To have dialogues with state institutions to approve the Strategic Plan/Guidelines																
Action 3.7 To have dialogues with state institutions for utilizing "the Strategic Plan/Guidelines" after project termination.																
Reports & JCC																
JCC																
C/P Regular Meeting																
* I2/ R: Inception Report A/ P: Annual Plan C/ R: Completion Rep																

第 4 章 成果ごとの活動実績

4.1. 全成果共通

第 1 年次 (2010 年 4 月～12 月)

4.1.1 既存資料の収集・分析【0-1】

JICA 専門家チームは、本プロジェクトに関連する GIS 情報、衛星画像、地形図および植生図などを収集した。また連邦・州レベルの環境法、その他関連法規などのブラジルの一般情報を収集・分析した。

4.1.2 インセプションレポート案の作成・説明・協議・承認【0-2】【0-4】

JICA 専門家チームはインセプションレポート案を作成し、その内容について ICMBio 本部及び生態系ステーションにおいてプレゼンテーションを行った。その後 ICMBio プロジェクトチームと JICA 専門家チームは、プロジェクト対象地域における現状や生態系コリドー導入・実施に向けた課題などについて協議した上で、インセプションレポートを最終化した。最終案は第一回 C/P 定期会議と合同調整委員会(JCC)での議論を経て合意され、JICA ブラジル事務所及び ICMBio へ提出された。

4.1.3 調達機材の選定及び調達に対する技術支援【0-3】

JICA 専門家チームは、JICA 調達機材の選定及び調達に対する技術的支援を行った。以下に技術支援が行われた供与機材のリストを示す。

表 4-1 JICA 調達機材リスト

No.	Item	Quantity	Specification	Remarks
1	Vehicles	2	Pickup 4X4, Double Cabin (4Door), Air conditioner and necessary specification	Procured in 2010 Procured in 2011
2	GIS Data Server	1	Data Server PC (Tower Type), LCD Monitor, UPS, Battery, OS and necessary specification.	Procured in 2011
3	GIS Server Software	1	ESRI ArcGIS Server Basic (Dual Core Type) and necessary specification.	Procured in 2011
4	Remote Sensing Software	1	ITT ENVI ver.4.7 and necessary specification.-One license.	Procured in 2010
5	ALOS(PRISM) Satellite Image Data	1 set	JAXA ALOS(PRISM) 2.5m resolution Satellite image data.-Two seasons.	Procured in 2010
6	ALOS(AVNIR-2) Satellite Image Data	1 set	JAXA ALOS(AVNIR-2) 2.5m resolution Satellite image data.-Two seasons.	Procured in 2010

4.1.4 技術移転/CD 計画の策定【0-5】

ICMBio 職員の CD を効果的に実施するため、具体的な項目や目標などを明記した技術移転/CD 計画(案)を策定した。ただし本プロジェクトでは、クラスルーム型の研修を主体としておらず、プロジェクト成果に関連した実際の活動を通じた能力向上(OJT)に重点を置いている。したがって技術移転/CD 計画は、プロジェクト活動内容と密接に関係しており、その変化に応じて継続的に見直していく必要がある。

4.1.5 業務完了報告書の作成【0-6】

JICA 専門家チームは、2010 年 4 月から 12 月までの活動実績を整理し、業務完了報告書(第 1 年次)として製本し ICMBio 及び JICA 事務所へ提出した。業務完了報告書の案は、

12月に開催される合同調整委員会(JCC)の資料となる予定であったが、同委員会は日程調整の問題で開催されなかったため、第2年次の始めに開催されるJCCにて説明される。

第2年次(2011年1月～12月)

4.1.6 第2年次の活動計画書の作成【0-7】

JICA 専門家チームは、第1年次の活動の経験から得られた教訓などを踏まえ、ICMBio カウンターパートと協議しながら、第2年次業務計画書を作成した。

4.1.7 第2年次の活動方針書の説明・協議・承認【0-8】

JICA 専門家チームは ICMBio 及び JICA ブラジル事務所に対し、第2年次業務計画書と PDM 修正案について説明するとともに、必要な修正に関して協議した。PDM 修正案並びに、それに則った第2年次業務計画は、2011年5月に開催された合同調整委員会(JCC)の承認を得た後、印刷・製本され関係者へ配布された。

4.1.8 業務完了報告書の作成【0-9】

JICA 専門家チームは、12月に開催された合同調整委員会並びに11月に開催された第3回C/P定期会議の結果を踏まえて、第2年次業務完了報告書を作成し、印刷・製本したものを ICMBio 及び JICA ブラジル事務所へ提出した。

第3年次(2012年4月～2013年2月)

4.1.9 第3年次の活動計画書の作成【0-10】

JICA 専門家チームは、第1～2年次の活動の経験から得られた教訓などを踏まえ、ICMBio カウンターパートと協議しながら、当該年次の業務計画書を作成した。

4.1.10 第3年次の活動方針書の説明・協議・承認【0-11】

JICA 専門家チームは、ICMBio 及び JICA ブラジル事務所に対し、当該年次の業務計画を説明するとともに、第3年次業務計画書を完成させて提出した。

4.1.11 業務完了報告書の作成【0-12】

2013年2月末までの業務を取りまとめた、第3年次業務完了報告書を作成し、ICMBio 及び JICA ブラジル事務所へ提出した。

4.1.12 プロジェクト事業完了報告書の作成【0-12】

3年間のプロジェクト期間全体を総括した「プロジェクト事業完了報告書」を2013年3月に作成する予定であったが、2012年10月に実施された終了時評価調査団からの提言を受け、2013年12月までの8カ月間のプロジェクト期間の延長が決定された。この措置に伴い、「プロジェクト事業完了報告書」は、2013年10月頃に作成するものとする。

第4年次(2013年3月～10月)

4.1.13 延長フェーズ(第4年次)の活動計画書の作成【0-12】

JICA 専門家チームは、第1～3年次の活動の経験から得られた教訓などを踏まえ、ICMBio カウンターパートと協議しながら、延長フェーズ(第4年次)の業務計画書案を

作成した。

4.1.14 延長フェーズ(第4年次)の活動方針案の説明・協議・承認【0-13】

JICA 専門家チームは、ICMBio 及び JICA ブラジル事務所に対し、延長フェーズ(第4年次)の業務計画書案を説明するとともに必要な修正を施し、最終案を作成して提出した。

4.1.15 延長フェーズ(第4年次)のモニタリング、プロジェクト全体の評価【0-14】

会議の場などで事業進捗や効果について適宜モニタリングするとともに、プロジェクト全体の成果について、終了時評価の際に作成された評価表(Result Grid, Evaluation Grid)をアップデートする形で、プロジェクト終了間近の10月に自己評価を行った(本報告書添付資料3.3参照)。

4.1.16 プロジェクトの教訓の整理【0-15】

プロジェクト終了後において JICA が類似案件を実施する際の参考とするため、プロジェクト活動全体を通じて得られた教訓を整理した(本報告書第6章参照)。

4.1.17 プロジェクト事業完了報告書の作成・提出【0-16】

【0-14】の評価結果に基づき、【0-15】を含むプロジェクトの活動内容、活動結果及び提言等を取りまとめた「プロジェクト事業完了報告書」案を作成し、その内容を合同調整委員会(JCC)並びに JICA ブラジル事務所への説明し、必要な協議を行った。協議結果を踏まえ適宜修正した上でプロジェクト事業完了報告書を完成させ、JICA ブラジル事務所及びブラジル国側関係者に提出した。

4.2. 【成果1】自然保護区のバッファゾーンを含む JREC 運営に必要な情報が収集、分析、整理される。

第1年次(2010年4月～12月)

4.2.1 生態系コリドーに関する情報の収集・分析【1-1】

(1) 情報の収集・分析

ブラジルの他の生態系コリドーに関する情報は、モザイク・生態系コリドー課長でもあるプロジェクト・マネージャーが中心となって収集された。また生態系コリドーに関連する政府機関の情報も収集・分析し、その役割、法的権限等を理解した。関係保護区に関しては、その設置法などを確認し目的および法的規制範囲を明確にした。その他の環境法に関しては、連邦法、州法に関する情報を収集し、その規制、罰則などを整理した。

(2) GIS データベースの構築

生態系コリドーに関する情報は、視覚的に分析するため可能な範囲で GIS 化し、それらを整理して第一段階の GIS データベースを構築した。なお GIS データベースは、以下の点に注意しながら構築した。

- 各機関の情報交換に障害のない共通 GIS データベースの構築
- オープンソース系 GIS インターフェースを用いたシステムによる改修/追加コストの低減
- 現場情報を GIS で活用するためのツールの追加・拡張の検討
- KML(Google Earth ファイル形式)を用いた情報発信・情報共有

プロジェクトで構築した GIS データベースは ICMBio ネットワーク内に設置し、外部からのアクセスを許可する方針であったが、所管部署(CTI/ 情報技術センター)と数度の協議の結果、セキュリティ上の問題から ICMBio ネットワーク内に直ちに設置しないこととなった。そのため、2010年10～11月は外部のサーバーサービスを利用し、試行的な運用を行った。試行的運用期間に判明したセキュリティや技術的な問題を解決させた上で、第2年次は ICMBio のネットワーク内への設置作業をする予定である。なおデータベースは、JICA が調達する新規サーバに構築する。

情報は ICMBio の情報に加えて、トカンチンス州環境局などの関係機関が保有している情報も収集した。また JICA が調達した ALOS 衛星画像を解析し、土地利用/植物被覆図を作成した。更にそれを利用してコリドーネットワーク図などのテーマ図を作成した。なお衛星画像は雨季、乾季の異なる季節の画像を調達して、植生などの季節的变化も含めて分析した。

本プロジェクトによる衛星画像解析結果などは、関連活動を踏まえて常に関係機関へフィードバックするように心がけた。関係機関では既にランドサットなどの衛星画像を用いて独自に解析を行っている。第2・3年次においては、そういった関係機関の持つ情報を共有するとともに、解析元によるアップデートを確認しながら、必要に応じて更新していく。

4.2.2 活用可能な人的リソース、手法及びツールの特定【1-2】

本プロジェクトは「ICMBio の体制強化」を目指して様々な活動を実施するが、すべての活動は、生態系コリドー導入・実施に繋がる必要がある。その為、先ず成果3の活動の中で問題分析、目的分析を行い、生態系コリドーの導入・実施に必要なとされる分野と要求される能力について分析・整理した。また、具体的な能力向上のための手法、ツール、人的リソースについては、ニーズ・アセスメントの中でC/Pも参加して議論し整理した(業務完了報告書(1年次)添付資料B-3-2参照)。

4.2.3 対象地域の環境・社会・経済に関する情報の収集【1-3】

プロジェクト活動を実施する上で必要な、対象地域の環境・社会・経済に関する基礎情報を収集した。これらの情報の一部は【1-2】で構築した GIS データベースの中に整理した。

4.2.4 プロジェクト・ホームページの作成

本年次は、ホームページ内容の検討、情報の整理などの準備作業を主に進めた。ICMBio 公式サイト内にプロジェクト情報を紹介するホームページを開設する作業が計画されていたが、ICMBio 公式サイト自体が大幅な変更過程にあり、近い将来書式・全体デザインの統一性等を求められるため、今年次はプロジェクト紹介ページのみ作成し、次年

次に正式なホームページを開設する事とした。

なおプロジェクト・ホームページには、Web-GIS やプロジェクト関係者間でスケジュールや情報を共有するためのツールやリンクを設置し、プロジェクト運営やモニタリングのツールとして有効に利用できる内容とし、第2年次以降にその作業が行われる予定である。

第2年次(2011年3月～12月)

4.2.5 生態系コリドーに関する情報の収集・分析【1-4】(収集すべき情報のモニタリング・収集・分析)

第1年次に収集・分析した情報に基づき、必要に応じて情報を更新するとともに、追加的に必要な情報を収集・分析した。調査項目の中には、季節的、経時的な変化が予想されるものが含まれるため、そういった点も考慮しながら最新の情報収集に努めた。成果2において締結した「協力協定書」の内容を踏まえて、必要に応じて関係機関の持つ情報との共有を行った。

4.2.6 活用可能な人的リソース、手法及びツールの特定【1-5】(収集すべき情報のモニタリング・収集・分析)

第1年次における人的リソース、手法及びツールの特定の対象は、関係機関や生態系ベースライン調査に参加した研究機関などが主であったが、第2年次では自治体政府関係者とも協議しながら、具体的なプロジェクト活動と関連させて、地域社会まで広く人的リソースを把握した。

4.2.7 対象地域の環境・社会・経済に関する情報の収集【1-6】(収集すべき情報のモニタリング・収集・分析)

第1年次に収集した環境・社会・経済の情報についてモニタリングし、必要に応じて更新した。GIS情報は【1-2】で構築したGISデータベース上で利用可能なデータフォーマットへ変換し、更にデータベース上にアップロードを行った。

4.2.8 関係機関のネットワークの維持及びプロジェクト情報の普及【1-7】

(1) 情報発信媒体の作成と配布

情報発信媒体は、広報資材や研修資材として以下を作成し配布した。

<p>研修資材</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ RPPN 研修の冊子 “Cartilha sobre RPPN como estratégia de conectividade no Corredor Ecológico do Jalapão” ▪ 衛星画像を利用したバナー 5種 ▪ 各研修で利用した情報冊子
<p>パンフレット類</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ジャラボン地域生態系コリドープロジェクト ▪ RPPN の設置 ▪ RioVivo Project の活動(環境教育) ▪ ESEC Serra Geral の紹介 ▪ PARNA Nascentes do Rio Parnaíba の紹介 ▪ PEJ の紹介
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Tシャツ ▪ ジャラボン地域アトラス第1版 ▪ 2012年カレンダー

情報の共有・普及は、州政府と自治体政府の関係者と適宜連絡を取りながら行った。プロジェクト情報について、パンフレットの改訂版を作成するとともに、ホームページを通して発信した。

(2) GIS データベースの構築

GIS データベースは、昨年度 JICA が調達した新規サーバマシン内に構築しており、ネットワークへ設置する前の段階であった。本年度は収集した GIS 情報を GIS データベース上で利用出来るデータフォーマットへ整理した上で、データベースへのアップロードを行った。第 2 年次は先ず構築した GIS データベースを ICMBio ネットワーク内に設置し、外部からのアクセスを許可する予定であったが、所管部署(CTI/ 情報技術センター)との協議の結果、セキュリティー問題やインストールする際の技術上の問題が発生し、2011 年 11 月現在、未だ設置出来ていない。2011 年 11 月より外部サービスを利用し、関係者が外部接続できる環境を構築した。第 3 年次は、この外部サービスを継続して利用し、関係者の外部接続を通して判明したセキュリティーや技術的な問題を解決させ、より信頼のあるシステムへと発展させる。他方、ICMBio のネットワーク内への設置のための調整や支援は継続する。

(3) プロジェクト・ホームページの公開

ポルトガル語版並びに英語版のホームページを ICMBio の公式サイト内に開設し、10 月より ICMBio の内部公開、11 月より一般公開を開始した。当初にプロジェクトで想定していたデザインと異なり、ICMBio の統一デザインへ変更するなどの作業が生じた。ホームページには、Web-GIS やプロジェクト関係者間でスケジュールや情報を共有するためのツールやリンクを設置するなど、プロジェクト運営やモニタリングのツールとしても有効に利用する方法を模索したが、ホームページの設置に時間を要し、そういった作業は出来なかった。

第 3 年次 (2012 年 4 月～2013 年 2 月)

4.2.9 生態系コリドーに関する情報の収集・分析【1-8】(収集すべき情報のモニタリング・収集・分析)

第 1・2 年次に収集・分析した情報を見直し、GIS 情報に関してはアップデートとともに追加情報を収集した。

(1) 「システムチック・コンサベーション・プランニング」による分析

第 3 年次は、新たに「システムチック・コンサベーション・プランニング」の手法を導入して、ジャラボン全体を対象に、保全優先地域や保護区管理体制について分析した。この結果を利用して、特に開発圧力の高いバイア州側の新規保護区の設立プロポーザルの作成がバイア州環境水資源院(INEMA)において始まった。

(2) ジャラボン地域の土地利用、地籍情報の収集・整備

トカンチンス州政府の複数のプロジェクトで、高解像度の衛星画像を利用した州内の土地利用、地籍データの収集・整備が行われている。ジャラボン地域についてはマテイロ市が対象となっているが、それ以外の市は対象となっていない。土地利用、地籍デー

タは、将来生態系コリドーを導入する際に極めて重要となるため、SEMADES と SEPLAN との協働作業により、サンフェリックス市を対象に土地利用、地籍情報の整備を行った。以下に作業の概要を示す。作業は4カ月間で実施されたが、毎月 SEMADES, SEPLAN 関係者とともに進捗を確認し、適宜修正を加えながら実施した。整備されたデータの一部は、GIS データベースに追加された(業務完了報告書(3年次)添付資料 B-1-6 参照)。

作業名	Land Use Mapping and Geographic Data Base Updating of São Félix Area with Emphasis on Canyons and Rapids of the Sono River Natural Monument(MNCCRS) and its Buffer Zone directed with ALOS Images of PRISM and AVNIR 2 Sensors for the Year 2009 and 2010
作業者	Mr. Manabu Kawaguchi Mr. Bruno Machado Carneiro Mr. André Paulo de Morais
作業期間	7. 2012 - 10. 2012
作業の目的	The project aims to provide the town and the region of ecological corridor project a geospatial database enabling municipal managers and environmental agencies view the process use and occupation of the municipal territory identifying points of anthropogenic pressure on natural resources, especially in environmentally protected areas (areas of legal reserve and permanent preservation conservation units) with the main objective of protecting fauna, flora and especially water resources of the region. Specific Objectives: 1 - Generate an image database of ALOS (PRISM and AVNIR 2) with a resolution of 2.5 m (PRISM) and 10 m (AVNIR 2) merged, geometrically corrected and cropped to a buffer of 1 km from the municipal limits of San Félix and based on the geographical boundary provided by the Brazilian Institute of Geography and Statistics - IBGE and 1:25, 000 scale hydrography with adjusted; 2 - Upgrade geographic database of São Felix do Tocantins to the scale of 1: 25, 000, with an emphasis on the Influence of the swamp and MNCCRS St. Felix The Following topics including: Transportation Systems, Boundaries, Hydrography, Localities, Contour Lines, Reference Points, Permanent Preservation Areas in planimetric coordinate system UTM, Zone 23 South Datum SIRGAS 2000 (geodatabase) updated; 3 - Generate a mosaic with the ALOS images geometrically corrected to the area of São Felix do Tocantins. 4 - Mapping of landcover and landuse in the municipality of São Felix do Tocantins and buffer zone of MNCCRS in the scale of 1: 25, 000 5 - Geo-environmental registration of rural properties in the river bank and marsh of St. Felix river and Soninho river in the area of influence of MNCCRS, which enable the environmental agency calculate their respective percentages of the statutory reserve and to propose allocation of these contiguous areas of permanent preservation in order to increase the environmentally protected area along the bed of the water course and its tributary.
作業構成と各成果物	Step 01 - Digital image processing Product 01 - Stock of Images Step 02 - Updating the geographic database for MNCCRS Product 02 - Geographic database of buffer zone of MNCCRS in shape file format Step 03 - Land Use Mapping of MNCCRS Product 03 - Maps of Land Use in scale 1:25, 000 Step 04 - Registration of geo-environmental properties in rural zone of MNCCRS Product 04 - Delineation of areas conducted in the field with GPS navigation Step 05 - Cartographic products of buffer zone of MNCCRS Product 05 - Topographic maps and landuse maps in the scale of 1:25, 000

4.2.10 活用可能な人的リソース、手法及びツールの特定【1-9】(収集すべき情報のモニタリング・収集・分析)

第1・2年次に特定した人的リソース、手法及びツールを再確認した。

4.2.11 対象地域の環境・社会・経済に関する情報の収集【1-10】(収集すべき情報のモニタリング・収集・分析)

第1・2年次に収集した環境・社会・経済の情報についてモニタリングし、必要に応じて更新した。追加で収集したGIS情報は、GISデータベースで利用可能なデータフォーマットへ変換し、GISデータベース上にアップロードを行った。本作業は、トカンチ

ンス州計画局 (SEPLAN) が中心となって行った。

4.2.12 関係機関のネットワークの維持及びプロジェクト情報の普及【1-11】

(1) 情報発信媒体の作成と配布

情報発信媒体として広報資材や研修資材を作成し、州政府と自治体政府の関係者と適宜相談しながら配布した。プロジェクトの進捗やニュースについては、主にホームページを通して発信した。以下に、第3年次に作成した情報発信媒体を示す(業務完了報告書(3年次)添付資料 B-1-4 参照)。

情報発信媒体名	作成数
Logo sticker (big)	100 units
Logo sticker (small)	100 units
JOGO (card game)	100 units
Bookmark leaf	2000 units
Folder (PILOES) project pamphlet	5000 units
Folder (MANUEL ALVES) pamphlet	5000 units
Folder (Natural Monument/Public Consultation) pamphlet	1000 units
Panel	7 types
Educational video (MNCCRS establishment procedure)	100 units
Panel for CEIT	8 types/units
Panel for São Felix	3 types/units

(2) GIS データベースの再構築と移設

データサーバを ICMBio 内に設置するまでの移行的な措置として、プロジェクト関係者が GIS データベースに外部接続できるように、2011 年 11 月から外部の業者を利用していた。ICMBio 情報管理担当課の対応が遅れる中、ICMBio、JICA、トカンチンス州政府機関との間で今後の方針について協議した結果、情報管理についてはブラジリアの ICMBio 本部が行うより、現場に近いトカンチンス州政府機関が中心となる方が、情報の収集・整理や共有を持続的に行う面から望ましいとの結論に至った。

このため、トカンチンス州計画局 (SEPLAN) へ GIS データサーバを譲渡し、その後の管理を任せることとし、2012 年 6 月に ICMBio から依頼を受け、JICA から SEPLAN へデータサーバが正式に譲渡され、JICA 専門家チームによって設置された。設置に際して、データベースのシステムのアップデートが JICA 専門家により行われ、また JICA 専門家の技術的支援の下でトカンチンス州計画局 (SEPLAN) の作業チームが中心となって GIS 情報の追加が行われた。また再構築されたデータベースに対応する形で、操作マニュアルが改訂された(業務完了報告書(3年次)添付資料 B-1-1 & 2 参照)。

Web-GIS のアドレス: <http://corredorjalapao.seplan.to.gov.br/jalapao>

(3) GIS データベース” Geo-Jalapao” の公式披露セレモニーの実施

GIS データベースの公式な披露セレモニーは、2012 年 11 月 9 日に行われた。セレモニーに際し、連邦・州・自治体レベルの関係機関とデータを提供した機関に対しては、招待状が SEPLAN 総裁名で出された(下表参照)。合計 32 名が参加した。セレモニーに先立ち、州レベルのプロジェクト・ホームページの立ち上げと、「Geo-Jalapao」と名付けられた GIS データベースの紹介パンフレットが作成された(業務完了報告書(3年次)添付資料 B-1-3 参照)。

<p><Federal Government></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Chico Mendes Institute for Biodiversity Conservation (ICMBio); ▪ Institute of Environment and Renewable Natural Resources (IBAMA); <p><Tocantins State Government></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Secretariat of Planning and Modernisation of Public Administration (Seplan); ▪ Secretariat of the Environment and Sustainable Development (SEMADES); ▪ Secretariat of Agriculture, Livestock and Agricultural Development (Seagro); ▪ Secretariat of Cities and Urban Development (SecID); ▪ Secretariat of Finance (Sefaz); ▪ Secretariat of Education (Seduc); ▪ Secretariat of Science and Technology (Sect); ▪ Mining Company (Mineratis); ▪ Rural Development Institute of the State of Tocantins (Itertins); ▪ Nature Institute of Tocantins (Naturatins) ▪ Foundation University of Tocantins (Unitins) ▪ State Prosecutor <p><Municipal Government></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ City of Palms - Secretary of Housing and Urban Development - Coordinator of GIS ▪ Municipality of São Felix do Tocantins - technicians who participated in the Project
--

(4) プロジェクト・ホームページの更新

プロジェクト・ホームページは、2週間に一回程度の頻度で定期的なアップデートが行われ、その都度情報が追加された。訪問者数のカウンターを設置するなど、ページデザインの一部も変更された。2012年4月～12月の期間に、合計20のプロジェクト記事が掲載された。

4.3. 【成果2】JREC実施のための組織的な連携が構築される。

第1年次(2010年4月～12月)

4.3.1 プロジェクト・スタッフ定期会議の開催【2-1】

プロジェクトに関する情報や進捗状況を共有し、更に効率的な運営と活動に資する議論の場として、C/P定期会議を3回開催した。当初は6回を想定していたが、C/Pが広範囲に分散しており調整が極めて困難であることや、Eメールや電話ベースでの情報交換が可能であり、必ずしも集まって議論する必要性はないことなどから3回の実施となった。来年次も2-3回(開始時、中間時、終了時など)の実施を想定する。

C/P定期会議で対象となるプロジェクト・スタッフには、ICMBioの管轄する3つの保護区と、ICMBio本部で本プロジェクトを担当する職員に加えて、トカンチンス州環境公社(NATURATINS)の関係職員とした。議長はICMBioのプロジェクト・マネージャーで、開催場所は第1回はパルマスで、第2・3回はセハ・ジェラウ生態系ステーション管理事務所で開催した。会議の議事録を添付する((業務完了報告書(1年次)添付資料A-2参照)。

4.3.2 JREC審議会の設立準備【2-2】

(1) JREC審議会の設立について

JREC審議会の定義と必要性に関して意見交換を行った。その結果、JREC審議会は対象地域に関連する行政機関、自治体、住民組織、NGOなどの代表者から構成され、保護区とそのバッファーにおける保全のための課題や対応方針を共有し、更に人的、経済的資源を効率的に活用しながら活動を統合的に実施することを目的とする組織であるこ

とが確認された。更にトカンチンス州環境公社 (NATURATINS) などの関連機関の責任、また対象地域における活動状況を把握した上で、JREC 審議会の候補メンバーに関する分析を行った。

(2) 関係機関の協力協定書の策定準備

関係機関との協力を促進するための第一段階としては、先ず ICMBio とトカンチンス州政府の関連機関との協力体制の構築が最も重要である。本年次はジャラボン地域の保全のために州政府を中心とした関係機関と協議し、統合的に活動を協力して実施するための協定書案を作成した。協定書の目的は以下のとおりとした。

- 生態系コリドー構築に向け、ICMBio とトカンチンス州政府が共同で取り組む事を促進する。
- 関係機関の情報交換を容易にする。
- 生態系コリドー構築に寄与できる機関の支援体制を引き出し、具体的な事業実施への根拠となる。
- 当該地区の持続的開発に戦略をおいている局・機関等と協調できる体制を構築する。

また、第1年次に協定書への参画を働きかけ、また実際に協議に参加した機関は以下の通りである。

- ICMBio(連邦生物多様性保全院)
- MMA(連邦環境省)
- SRHMA(トカンチンス州水資源環境局)
- NATURATINS(トカンチンス州環境公社)
- RURALTINS(トカンチンス州地方開発公社)
- SEPLAN(トカンチンス州計画局)
- SEAGRO(トカンチンス州農業局)
- EMBRAPA(連邦農業公社)

協定書最終案を作成するため、2010年8月に上記機関の責任者が集まり、各関係機関の協力内容が検討された。各機関の協力内容は下記の通りである。本年次は選挙の影響などもあり、合意・署名まで至らなかったが、第2年次は意見交換を継続し、年次末までに合意・署名することを予定する。協定書最終案を添付する(業務完了報告書(1年次)添付資料 B-2-2 参照)。

表 4-2 協定書に記載された各機関協力内容

機関	協力内容
生物多様性保全院 (ICMBio)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ジャラボン保全域の管理強化および連続性確保に向けての NATURATINS との協力 ▪ トカンチンス州に対する優先地区、プログラム実施、生態系コリドーに関する活動/プロジェクト、農村部優先地区に対する計画策定での支援 ▪ ジャラボン地区保護地区および生態系コリドー実施にて得られた結果の広報 ▪ ジャラボン地区生態系コリドー構築に向けてのトレーニングおよび人的資源育成への協力 ▪ ジャラボン生態系コリドーに関する情報の提供 ▪ 州環境保全地区活動への支援
連邦環境省(MMA)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ジャラボン保全域の管理強化および連続性確保に向けてのトカンチンス州との協力 ▪ 保全に向けた土地利用図策定および環境管理に関する支援 ▪ ジャラボン生態系コリドー構築に向けた協力 ▪ ジャラボン地区自然保全のための開発および戦略策定プログラムへの支援 ▪ ジャラボン周辺地区における生産物付加価値付与への支援

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ジャラポン地区保護地区および生態系コリドー実施にて得られた結果の広報
水資源環境局 (SRHMA)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ジャラポン保全域の管理強化および連続性確保に向けての活動 ▪ 人員の配置 ▪ ジャラポン生態系コリドー構築に向けたトレーニングへの参画 ▪ 生態系コリドー構築に向けた優先活動内容の検討 ▪ 情報のアップデート化 ▪ 情報の広報 ▪ ロジスティックでの支援 ▪ 生態系コリドー構築の持続性確保のための事業の実施 ▪ 州間協調体制構築への支援
環境公社 (NATURATINS)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ジャラポン保全域の管理強化および連続性確保に向けての ICMBio との協力 ▪ 人員の配置 ▪ ジャラポン生態系コリドー構築に向けたトレーニングへの参画 ▪ 生態系コリドー構築に向けた優先活動内容の検討 ▪ 情報のアップデート化 ▪ 情報の広報 ▪ ロジスティックでの支援 ▪ 生態系コリドー構築の持続性確保のための事業の実施 ▪ 州間協調体制構築への支援 ▪ ジャラポン周辺地区における環境改善事業への支援
農業局(SEAGRO)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ジャラポン保全域の管理強化および連続性確保に向けての ICMBio との協力 ▪ ジャラポン周辺域におけるモデル圃場の事業への支援 ▪ 実施事業アップデート化 ▪ 人員の配置 ▪ 情報の広報 ▪ ロジスティックでの支援 ▪ 生態系コリドー構築の持続性確保のための事業の実施 ▪ 州間協調体制構築への支援 ▪ ジャラポン生態系コリドー構築に必要な技術支援の実施
農業公社(EMBRAPA)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ICMBio および農業局と一体となり、当地区に適した農産物および水産漁業に関する研究支援 ▪ モデル圃場建設での支援 ▪ 人員の配置 ▪ 情報の公布 ▪ ロジスティックでの支援 ▪ 生態系コリドー構築の持続性確保のための事業の実施
地方開発局 (RURALTINS)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ICMBio と一体となり、当地区に適した農産物および水産漁業に関する研究支援 ▪ 当該地区持続可能農業導入のための技術支援 ▪ 情報のアップデート化 ▪ 人員の配置 ▪ 情報の公布 ▪ ロジスティックでの支援 ▪ 生態系コリドー構築の持続性確保のための事業の実施
開発局(SEPLAN)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 協調体制構築への支援 ▪ 土地利用図作成での支援 ▪ 人員の配置 ▪ 生態系コリドー地区における優先事業の検討 ▪ 情報のアップデート化 ▪ 情報の広報 ▪ ロジスティックでの支援 ▪ 生態系コリドー構築の持続性確保のための事業の実施

(3) ワーキング・グループの設立

成果ごとの分野課題に対応するため、キックオフ・セミナーにてワーキング・グループを形成した。ただしワーキング・グループは実際の連携活動への便宜を図ることを前提とし、お互いの業務内容などを関係者間で共有し、情報交換などのネットワーキングを促進する事を主たる目的とした。メンバーは JREC において具体的な活動を実施している者を対象とし、調整業務を効率的に行うため参加人数は必要最低限とすることを考慮した。

第2年次(2011年3月～12月)

4.3.3 プロジェクト・スタッフ定期会議の開催【2-3】

プロジェクトに関する情報や進捗状況を共有し、更に効率的な運営と活動に資する議論の場として、C/P 定期会議を計3回開催した。会議は、ICMBio の管轄する3つの保護区と、ICMBio 本部で本プロジェクトを担当する職員に加えて、トカンチンス州政府の環境持続的開発庁(SEMADES)、環境公社(NATURATINS)並びに計画庁(SEPLAN)の関係職員を対象とした。議長はICMBioのプロジェクト・マネージャーであった。

第1回会議は4月28日にパルマスにおいて、主に州政府機関の関係者を招き開催した。C/Pが広範囲に分散しており、パルマスへの出張が極めて困難であったため、生態系ステーションと国立公園の関係者とは、JICA 専門家の巡回により共通理解を図った。第2回会議は9月6日にパルマスにおいて開催した。第3回会議は、パルマス郊外のタクアラス(Taquaruçu)において11月29-30日にセミナー方式で多くの関係者を招き開催した。第3回会議においては、主要自治体の環境局長にも参加してもらい、来年度計画に関するコミットメントを確保した。

4.3.4 JREC 審議会の設立支援【2-4】

(1) JREC 審議会の定義付けと「協力協定書」案の策定

トカンチンス州では2010年10月の州知事選挙の結果政権交代が行われ、翌2011年1月から各機関の長とその下の管理ポストのすべてが刷新された。4月には州環境水資源庁(SRHMA)は、州環境持続的開発庁(SEMADES)へ改編され、組織が大幅に変わるとともに執務場所も移った。また、州環境公社(NATURATINS)は州知事官房の直下に位置付けられていたが、SEMADESの下となった。これらの変更に対応するため、現状を分析してキーパーソンを特定する作業が必要であった。再びゼロからの人脈を構築するため、3-5月は多くの時間を割いて関係者との協議を重ねた。第1年次に作成した生態系コリドー導入と実施に関する「協力協定書」は、現政権関係者の考えを反映させ改訂版を作成した。

(2) 「協力協定書」の合意

ジャラポン地域において「統合的生態系保全」を推進するために最も重要なのは、連邦政府とトカンチンス州政府の環境セクター機関の協力体制の構築である。州政府の新体制の考えを反映させた「協力協定書」の最終版は、2011年9月29日にトカンチンス州知事公邸において署名式を実施し合意された(業務完了報告書(2年次)添付資料B-2-1参照)。署名には連邦政府からICMBio 総裁、ICMBio 保護区管理局長、またトカンチンス州政府からはシケイラ・カンポ州知事、州環境持続的開発庁(SEMADES)長官、州環境公社(NATURATINS)総裁、州計画庁(SEPLAN)長官代理が参加した。また来賓として、州観光庁(AGTUR)長官、トカンチンス州立大学学長とともに、ジャラポン地域の自治体代表を迎えた。

協力協定書には、ジャラポン地域に生態系コリドーを導入し実施することを目標に、審議会の結成、年次計画の作成とともに、各参加機関の役割などが規定されている。「協力協定書」に機関した各機関の役割は下表の通りである。

表 4-3 協定書に記載された各機関の協力内容

機関	協力内容
シコメンデス生物多様性保全院 (ICMBio)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Moderate the meetings of the Steering Committee; ▪ Promote the integration of actions among the protected areas of federal and state in Jalapao region in order to make the joint actions more efficient management and participatory, with a view to consolidating the mosaic of protected areas; ▪ Seek alignment and reconciliation of programs and projects of federal and state related to the establishment of ecological corridors, a mosaic of protected areas, creation of conservation unit and environmental suitability of rural properties in the region of Jalapao, in order to optimize efforts and maximize results; ▪ Analyzing and disseminating the results obtained in joint actions for the implementation of the Ecological Corridor; ▪ Promote environmental education activities in the region of Jalapao, as a strategy for dissemination of knowledge about the environment to society in order to encourage awareness of communities about the importance of preserving protected areas and natural resources; ▪ Support the strengthening of municipal environmental management in the Ecological Corridor of the Jalapao region; ▪ Support training and capacitation of human resources with the partner institutions for the implementation of the Ecological Corridor in the Jalapao region; ▪ Provide technical, administrative and logistical support to the implementation of activities under the Ecological Corridor in the Jalapao region ▪ Promote actions for environmental adaptation of rural properties in the area around and inside protected areas of the Jalapao region, aiming at maintaining ecosystem connectivity between protected areas; ▪ Share information relevant to biodiversity conservation, natural resource protection, sustainable development and implementation of the Ecological Corridor of the Jalapao region; ▪ Exercise inter-institutional coordination within the Union for the implementation of the Ecological Corridor of the Jalapao region;
連邦環境省生物多様性森林局 (MMA)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ To monitor and evaluate the implementation of the Ecological Corridor of the Jalapao region through analysis of performance reports; ▪ Attend meetings of the Steering Committee of the Ecological Corridor of Jalapão; ▪ Analyze requests for recognition of the instruments of territorial management and the National System of Conservation Units (Mosaic and Ecological Corridors); ▪ Identify under the Sustainable Cerrado Initiative, possibilities for supporting the Ecological Corridor of the Jalapao Region, which result in the establishment of protected areas existing in their service area;
環境持続的開発庁(SEMADES)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Support sustainable development and contribute to strengthening the integration between the conservation areas of federal and state in the Jalapao region with a view to consolidating the mosaic of conservation units in the Jalapao region; ▪ Seek alignment and reconciliation programs, projects and federal and state actions related to the establishment of ecological corridors, a mosaic of protected areas, creation of conservation unit and environmental suitability of rural properties in the region of Jalapao, in order to optimize efforts and maximize results; ▪ Provide technical responsible for monitoring and implementation of activities envisaged in the planning of the Ecological Corridor of the Jalapao region; ▪ Support environmental education activities in the region of Jalapao, as a strategy for dissemination of knowledge about the environment to society in order to encourage awareness of communities about the importance of preserving protected areas and natural resources; ▪ Promote the strengthening of municipal environmental management in the Ecological Corridor of the Jalapao region; ▪ Support training and capacitation of human resources with the partner institutions in implementing the Ecological Corridor in the Jalapao region; ▪ Identify priority environmental actions of the state in order to implement the Ecological Corridor Jalapão; ▪ Share updated data Management System of Conservation Units (GESTO); ▪ Disseminate results and support the dissemination of knowledge generated through the implementation of the Ecological Corridor in the Jalapao region; ▪ Provide logistical and administrative support necessary for the development of the planned activities such as meetings and / or seminars to be conducted in the State; ▪ Exercise inter-institutional coordination within the State for the implementation of the ecological corridor of the Jalapao region;
環境公社 (NATURATINS)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Moderate the meetings of the Steering Committee; ▪ Promote the integration of actions among the protected areas of federal and state in the Jalapao region in order to make joint actions more efficient management and participatory, with a view to consolidating the mosaic of protected areas; ▪ Seek alignment and reconciliation programs, projects and federal and state actions related to the establishment of ecological corridors, a mosaic of protected areas, creation of conservation and

	<p>environmental suitability of farms in the region of Jalapao, in order to optimize efforts and maximize results;</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Provide technical managers in conservation and administrative headquarters to monitor and implement the activities foreseen in the planning of the Ecological Corridor of the Jalapao region; ▪ Promote environmental education activities in the region of Jalapao, as a strategy for dissemination of knowledge about the environment to society in order to encourage awareness of communities about the importance of preserving protected areas and natural resources; ▪ Support the strengthening of municipal environmental management in the Ecological Corridor of the Jalapao region; ▪ Share updated information relating to biodiversity conservation, natural resource protection, sustainable development and implementation of the Ecological Corridor of the Jalapao region; ▪ Analyze and disseminate the results obtained in joint actions for the implementation of the Ecological Corridor; ▪ Support training and capacitating of human resources with the partner institutions in implementing the Ecological Corridor in the Jalapao region; ▪ Provide technical, administrative and logistical support to the implementation of activities under the Ecological Corridor in the Jalapao region; ▪ Inter-institutional exercise, under the rule for the implementation of the Ecological Corridor of the Jalapao region; ▪ Actions supporting environmental adaptation of rural properties in the area around and inside protected areas of the Jalapao region, aiming at maintaining ecosystem connectivity between protected areas;
<p>開発庁(SEPLAN)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Exercise inter-institutional coordination within the State for the implementation and consolidation of planning tools and management with a view to strengthening regional development, in support of the Ecological Corridor of the Jalapao region; ▪ Consolidate and implement the tools for planning and management, taking into account the need for physical connection between the protected areas for biodiversity conservation and sustainable use of natural resources in the region of Jalapao, in support of the Ecological Corridor of the Jalapao region; ▪ Integrate the proposed Ecological Corridor region of Jalapao instruments of planning and management with a view to strengthening regional planning in the State; ▪ Provide technical responsible for monitoring and implementing the Ecological Corridor of the Jalapao region; ▪ Identify priority actions of the state in order to implement the Ecological Corridor Jalapão; ▪ Share data of the State Geographic Information System database(GESTO) and the socioeconomic state of Tocantins in support of the actions foreseen in the Ecological Corridor of the Jalapao region; ▪ Support the dissemination of results and dissemination of knowledge generated through the implementation of the Ecological Corridor of the Jalapao region; ▪ Give the necessary logistical and administrative support to the activities provided, such as meetings and / or seminars to be conducted in the State;

第3年次(2012年4月～2013年2月)

4.3.5 プロジェクト・スタッフ定期会議の開催【2-5】

関係者の間でプロジェクトの進捗状況を共有し、また更なる効率的な運営と活動のための議論の場として、プロジェクト・スタッフ定期会議を計4回開催した。第1・2年次は、ICMBioの管轄する3つの保護区とICMBio本部の職員に加えて、トカンチンス州環境持続的開発庁(SEMADES)、州自然院(NATURATINS)並びに州計画庁(SEPLAN)の関係職員を対象としたが、第3年次は、更にバイア州環境水資源院(INEMA)の職員も対象とした(業務完了報告書(3年次)添付資料B-2-2参照)。

第1回会議は5月8-9日にパルマスにおいて開催した。欠席者に対しては、メールや電話、またJICA専門家の巡回により、会議内容の共通認識を図った。第2回会議は7月18-19日にパルマスにて開催した。第3回会議は、8月28-29日にバイア州サルバドール市にて開催した。第4回会議は、11月12-14日にブラジルにて開催した。第1回会議にて活動計画を策定し、第4回会議においては一年間の活動を総括し、また次年度の活動計画について議論した。

また、合同調整委員会(JCC)を計2回開催した。第4回となる会議は5月17日にブラ

ジャリアにおいて、2011年活動の総括と2012年の活動計画の承認を目的に行われ、第5回会議は終了時評価報告書の承認を主目的に行われた。

4.3.6 協力協定書に準拠した関係機関の参加した会議の開催【2-6】

(1) 調整委員会の実施

第2年次に合意・署名した協力協定書では、調整委員会の設置を規定しており、第3年次では計4回の会議を、プロジェクト・スタッフ定期会議を発展させた形で、同じ参加者と日程で同時に開催した。本会議はモザイク設立準備会議としても位置付けられた。

(2) ジャラポン地域でのモザイク設立に関する活動

ジャラポン地域の生物多様性保全では、保護区単位でなく保護区群として保全活動を関係機関が連携して推進する「モザイク」の設立が有効だと考えられる。第3年次は、ジャラポン地域が連邦政府に正式な「モザイク」として承認されるための活動と、将来の「モザイク」管理のための審議会設立や活動計画作成に繋がる活動を、協力協定書の枠組を発展させた形で実施した。

ジャラポン地域は4州の州境に位置するが、農業開発の圧力が最も高いのはバイア州側(特に Formosa do Rio Preto 市)であり、ここは戦略文書でも生物多様性保全上最も優先すべき地域の一つとしている。そのためプロジェクト終了後の広域生態系保全の発展を見据えて、第3年次は、バイア州環境水資源院(INEMA)の関係者をすべての調整会議に招いた。更にバイア州の実情を知るため、トカンチンス州政府関係者を招いた技術交換をバイア州の州都サルバドール市にて行った。

これらの活動の結果、2012年8月には、ジャラポン地域に位置する9つの保護区すべての管理責任者及び管理機関長から、モザイク参加の同意書を取り付け、さらに同年9月にはジャラポン・モザイク設立趣意書(承認の申請書)を、バイア州関係者も招いた調整会議にて参加型で完成させ、連邦環境省(MMA)へ提出した(業務完了報告書(3年次)添付資料B-2-1参照)。

表 4-4 ジャラポン・モザイク設立趣意書に参加した保護区

No	Name	Manager	Registration Number in the National Conservation Unit System	Area (ha)
1	Parque Nacional das Nascentes do Rio Parnaíba (PNNRP)	ICMBio	000.00.0156	729,814
2	Estacao Ecologica Serra Geral do Tocantins (EESGT)	ICMBio	0000.00.0076	716,306
3	Area de Protecao Ambiental (APA) da Serra Tabatinga	ICMBio	Not registered yet	61,000
4	APA do Rio Preto	INEMA	000.29.1016	1,146,162
5	Estacao Ecologica (EE) do Rio Preto	INEMA	0000.29.0898	4,536
6	APA do Jalapão	NATURATINS	0000.17.1499	461,730
7	Parque Estadual (PE) do Jalapão	NATURATINS	0000.17.1486	158,885
8	Reserva Particular do Patrimônio Natural (RPPN) Catedral do Jalapão	Private (Mr. Lucio-Favio)	0000.00.2082	326
9	MONA dos Canyons e Corredeiras do Rio do Sono	Prefecture of São Félix do Tocantins	2015.17.1792	1,286
TOTAL				3,280,045

第4年次(2013年3月～10月)

4.3.7 プロジェクト・スタッフ定期会議の開催【2-7】

プロジェクト活動の推進を図るため計3回のプロジェクト・スタッフ定期会議を開催した(開始時, 中間時, 終了時)。第1回会議において当年次の実施計画を策定し, 第2回会議において各活動の進捗報告, 第3回会議において各活動の最終報告並びにプロジェクト総括を行った。

4.3.8 ジャラポン・モザイク審議会の設置と定款の作成【2-8】

(1) ジャラポン・モザイク審議会の役割, メンバー構成及び役割分担の明確化, 審議会定款の作成

2012年10月に連邦環境省(MMA)に提出した設立趣意書(Proposata de Reconhecimento do Mosaico do Jalapao)の内容と, モザイク関連法令に沿って, ジャラポン・モザイク審議会の設立準備を行った。バイア州関係者も含めて計3回行った調整会議兼「モザイク設立準備会議」では, 審議会の役割, メンバー構成, 会議の実施方法などを議論し, 定款案として取りまとめた。ジャラポン・モザイクは, 想定では2013年始めに連邦環境省(MMA)により承認され, その後すぐに関係機関の代表によるモザイク審議会が正式に設立され, その第一回会議において定款が承認される計画であった。しかしながら連邦環境省(MMA)の突然の方針の変更により, 2013年10月現在, 未だジャラポン・モザイクは承認されていない。本プロジェクトでは, 承認を待つばかりの定款を作成し, モザイク審議会の構成とメンバーを決定し, メンバーの所属する各組織から正式な任命状を取り付けた。したがって, すぐにでもモザイク審議会を設立出来る状況となっている。

(2) ジャラポン・モザイク審議会の定期会議の開催

2013年に計3回開催したモザイク設立準備会議は, ジャラポン・モザイク承認後にジャラポン・モザイク審議会の定期会議へと移行する予定であったが, 上述したとおり連邦環境省によりジャラポン・モザイクが承認されていないため, 正式化されたモザイク審議会は開催されていない。

第2回モザイク設立準備会議では, バイア州, トカンチンス州からモザイク審議会のメンバーとして想定される関係者すべてを招き, 審議会定款を議論してその内容を合意した。第2回会議では, プロジェクトが作成した戦略文書をジャラポン・モザイク戦略文書として位置付けるための議論を行い, 改定案について合意した。この戦略文書は, ジャラポン・モザイクが承認された後に承認・正式化される予定である。ジャラポン・モザイクが未承認の現状では, 戦略文書に対する各関係機関(ICMBio, NATURATINS, INEMA等)の組織としてのコミットメントは, 協力協定書(多機関), 技術協力協定書(2機関)並びに, モザイク審議会メンバーに対する任命状などから確保されたと判断される。

4.3.9 モザイク審議会のメンバーを対象に能力向上研修の実施【2-9】

ジャラポン・モザイクの関係者は, 審議会メンバー任命や定款作成などの経験が無く, 彼らの力だけでモザイク審議会を立ち上げる事が技術的に困難であったため, JICAはローカル・コンサルタントを講師として雇い, モザイク設立準備会議と同時に能力向上

研修を実施した。3回実施された能力向上研修では、モザイク審議会の目的、メンバー構成及び役割分担、審議会定款の内容などについてワークショップを通じて見識を深めた。

4.4. 【成果3】 JREC 保全に必要な ICMBio 職員及び関係機関職員の能力向上が実施される。

第1年次(2010年4月~12月)

4.4.1 研修テーマの把握【3-1】

職員研修テーマの把握では、上位目標である「ジャラポン地域生態系保全の促進」を根底に置き、プロジェクト目標「JREC 保全に向けての ICMBio の体制強化」を達成するために、どういった能力強化が必要かについて、ICMBio および関係機関と検討した。具体的には、PDM, PO, 技術移転/CD 計画表に基づき、問題分析と目的分析による JREC 導入のための対策案の検討、キャパシティ・アセスメント及びニーズ・アセスメントの実施を通して研修テーマの把握を JICA 専門家チームと ICMBio が協働で行った。以下にその概要を記述する(業務完了報告書(1年次)添付資料 B-2-1 参照)。

(1) 問題分析と目的分析による JREC 導入のための対策案の検討

1) JREC 導入の問題分析

JREC 導入の問題分析ツリーを以下のように整理した。

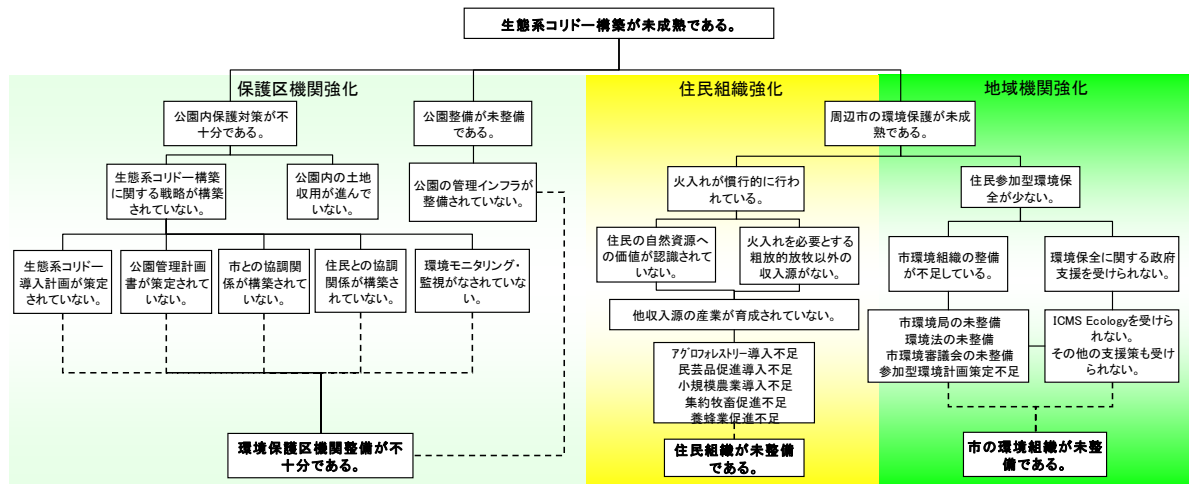


図 4-1 生態系コリドー導入の問題分析ツリー

JREC 導入上の問題は、保護区機関強化、住民組織強化、および地域機関強化に関わる問題に大きく分類される。保護区機関強化に関しては、保護区管理計画書が未策定であること、市政府や住民との協調関係が構築されていないこと、環境モニタリング・監視が十分に行われていないことなどが、具体的な問題点として認識された。住民組織強化に関しては、地域住民による慣行的な火入れが、自然資源の破壊・劣化へとつながっていることを中心問題として、その原因として、自然資源の価値が認識されていないこ

と、火入れを必要とする粗放的放牧以外の収入源がないことなどが、具体的な問題として認識された。地域機関強化に関しては、市の環境組織が未整備であること、環境保全に関する政府からの支援が受けられない(市政府に環境保全の資金がない)ことなどが、具体的な問題として認識された。

2) JREC 導入の目的分析と対策案

上記の JREC 導入の問題分析ツリーから導かれる目的分析ツリーを以下に示す。

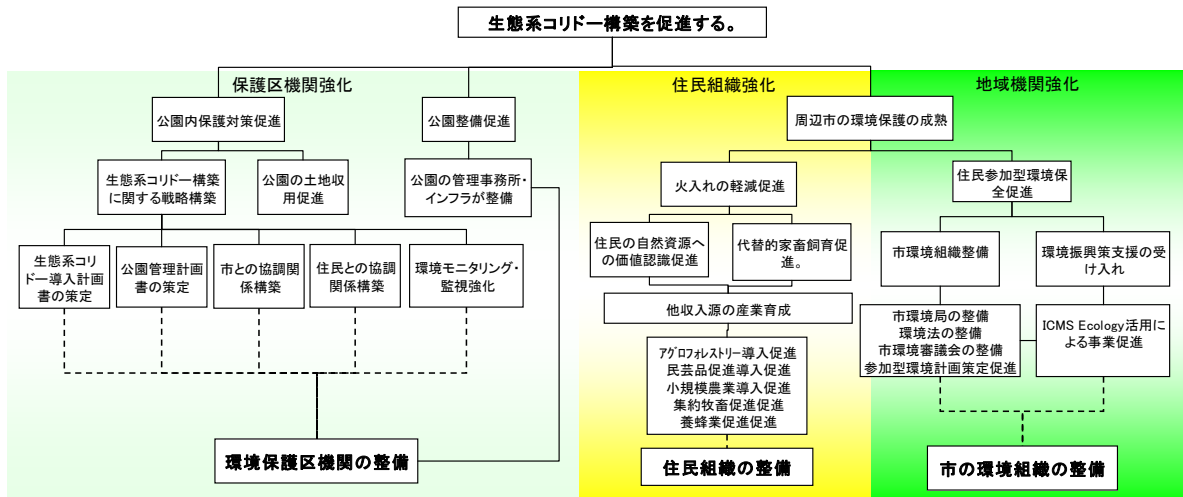


図 4-2 生態系コリドー導入の目的分析ツリー

保護区機関強化では、国家保護区システム法(SNUC)に基づき保護区管理機関の整備を促進していく必要がある。具体的には、①生態系コリドー導入計画策定、②公園管理計画策定、③市との協調関係構築、④住民との協調関係構築、⑤環境モニタリング・監視強化、などが目的として挙げられる。

住民組織に関しては、地域住民の組織を構築し、火入れを必要とせず山火事の起きにくい産業代替案を導入する必要がある。具体的には、①アグロフォレストリー導入促進、②民芸品製作・販売促進、③小規模農業導入促進、④集約牧畜促進、⑤観光促進および⑥養蜂業促進等が考えられる。これらの活動により住民組織の強化と経済の改善が期待される。現状の問題は、山火事が引き起こす自然劣化の重大性を理解していないことによる慣行的な火入れと山火事であることから、環境教育と産業育成を一体化させた産業導入が必要と考えられる。

地域機関に関しては、市の環境組織が未整備であり、環境保全への政府からの支援が受けられない状況にあることから、環境組織の整備と住民参加型環境保全の促進が必要である。そのためには、①市環境局の整備、②環境法の整備、③市環境審議会の整備および④参加型環境保全計画策定促進が必要と考えられる。

(2) キャパシティ・アセスメント及びニーズ・アセスメント

能力向上を目的とした研修及びセミナーのテーマの把握のために、JREC 導入に係る職員(アクター)の現在の能力を評価した。キャパシティ・アセスメントの実施にあ

たつては質問表を作成し、ICMBio, Naturatins, SHRMA のアクターに配布して記入を依頼した。その後記入された質問表を回収し、アクターが有するキャパシティの現状分析・特定を行った。その結果は別添(業務完了報告書(1年次)添付資料 B-3-2)に記すとおりであり、生態系や社会状況のモニタリング計画・実施能力や土地管理能力など JREC 導入に必要な大半の能力が不足していると評価された。

次にアクターによるワークショップを開催し、キャパシティ・アセスメントの結果を共有してどのようなトレーニングが JREC 保全の実施のために必要か ICMBio および関係機関と協議・評価した。本ニーズ・アセスメントは 2010 年 12 月 2 日に経験のあるファシリテーターを雇用して行われ、アクターの権限、責務、必要な技術の確認、それらの実施を妨げている課題の抽出などを議論し、優先度や緊急性を考慮に入れて必要なトレーニングのテーマの把握が行なわれた。ニーズ・アセスメントの結果を添付する(業務完了報告書(1年次)添付資料 B-3-2)。

(3) 当初計画の達成状況

IC/R ではワーキング・グループが設立された後、ワーキング・グループ内の専門的な知見を活用する計画であった。ワーキング・グループは 5 月 13 日に設立され、今後の活動について意見交換が行われた。しかし、ワーキング・グループのメンバーが遠隔地に分散しているため協議の機会を作ることが難しく、個別の活動になっている。しかし、研修テーマの把握は IC/R の図に示されたステップに沿って行われ、優先アクター、優先活動の特定、及び研修テーマの特定は当初計画通り実施された。IC/R に記載した図とプロジェクトで実際に行われた活動との対応は以下の通りである。

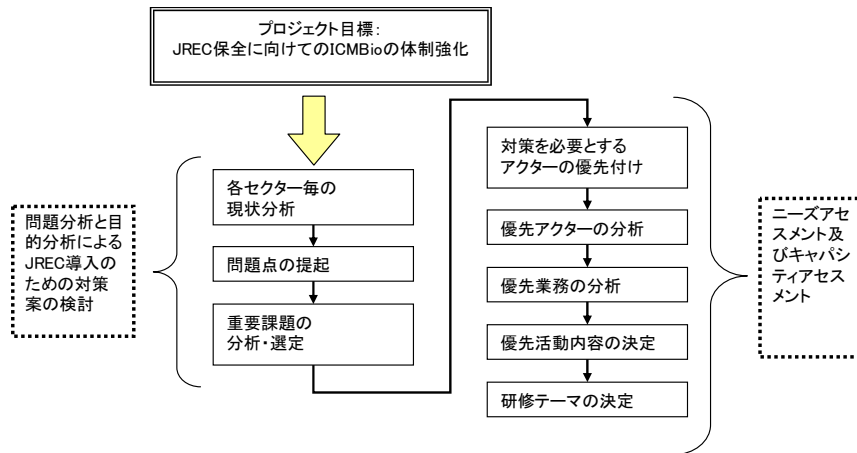


図 4-3 研修テーマ把握のプロセス

4.4.2 研修計画の策定・実施【3-2】

第 2 年次及び第 3 年次の研修計画案は、上記の作業で把握されたニーズやキャパシティに基づいて策定された。この研修計画案は、第 1 年次にパイロット的に実施された研修の効果や課題をフィードバックし、第 2 年次開始時に関係者で再検討して、より現状に見合った形へ柔軟に変更した。第 2 年次、第 3 年次研修計画案は添付のとおり(業務完了報告書(1年次)添付資料 B-3-2)。

また第 1 年次は、①問題分析、②目的分析、③ニーズ・アセスメント、④キャパシテ

イ・アセスメントと並行し、ICMBio 及び関係機関に対するヒアリングにより緊急に必要なとされる研修テーマを特定して、パイロット的に研修を計画・実施した。その内容は以下の通りである。

(1) GIS・GPS 研修の実施

2010年11月初旬、ICMBio 本部においてGPS/GIS 研修を2日間の日程で実施した。なお、研修は基礎コース(約10名)とし、ジオタグ(GPS 座標付写真)の利用等、実践的で日常業務の改善に即効性のある内容で実施した。本研修に関する資料を添付する(業務完了報告書(1年次)添付資料B-3-1)。

(2) 合同エクスペディションの実施

2010年9月19日から25日にかけて、ICMBio, NATURATINS, SRHMA, JICA の4機関から12名の参加者を得て、合同エクスペディションを実施した。このエクスペディションの目的は、プロジェクト実施に関連して、1) 関係者間で共通の現状認識や問題意識を形成すること、2) 社会経済や生態系に関する基礎情報を合同で収集すること、3) 調査結果を分析し今後の活動を計画することであった。エクスペディションは、参加者全員での議論をマテイロス市において行った後、1) 生態系/生物多様性保全チーム、2) GIS/景観分析チーム、3) 社会経済チームの3チームによる、各課題に関する調査をグループ個別に分かれて行った。本合同エクスペディションに関する詳細報告を添付する(業務完了報告書(1年次)添付資料B-3-3)。

(3) 当初計画の達成状況

当初計画どおり、研修計画の策定、実施ともに達成されたが、活動には若干の変更があった。当初計画では第1年次の研修テーマをキャパシティやニーズ分析の結果を踏まえて特定する予定であった。しかし、第1年次の研修テーマとしてICMBio 側から具体的な要望があったほか、すでにICMBio 側で今年次の活動計画と予算がある程度決まっていたことから、大規模または長期にわたる研修が出来ないなどの制約があった。加えて関係者が地理的に離れており頻繁に会う事が出来ず、またプロジェクトに関する理解を深めた上でニーズ、キャパシティのアセスメントを実施する必要があるため、時間を要した。その結果、第1年次の後半に実施することとなり、第1年次の研修はICMBio 側の経験に基づく計画を採用し、その結果を第2年次、第3年次の研修計画策定に活かすこととした。

第2年次(2011年3月～12月)

4.4.3 研修テーマの把握【3-3】

第1年次(2010年)に実施した研修ニーズ・アセスメントでは、1) 生物多様性モニタリング、2) GIS・リモートセンシング、3) 社会経済モニタリング、が優先研修テーマとして挙げられていた。本年度、関係者とともに研修ニーズを再考した結果、1) と 3) のモニタリングに関する研修は、自治体レベルの環境審議会が設立され、また成果5の戦略文書の内容が固まってモニタリングの重要性を実感できるようになってから再検討することとなった。一方、環境審議会の設立を支援する過程で、適正な審議会の組織体制・運営方法に関するポリシー策定や、審議会設立後の活動計画策定などに関して研修

ニーズが高いことが明らかとなった。

4.4.4 研修計画の策定・実施【3-4】

(1) 実施に直接関連した特定分野の技術研修

再考された研修ニーズをもとに、以下の4つの分野を特定し、研修計画を策定した上で実施した。

1) GIS研修の実施

2011年5月中旬、トカンチンス州パルマス市のSEMADES庁舎において、GIS研修を2日間の日程で実施した。今年次は主に州政府機関から14名の参加を得て、Web-GISや衛星画像解析の利用等、実践的で日常業務の改善に即効性のある内容を研修した。研修の最終日には参加者へ対し終了証が授与された。

2) 民有地保護区(RPPN)¹研修/セミナーの実施

2011年9月29日から30日にかけて、ICMBio、NATURATINS、SEMADES、自治体関係者などから55名の参加者を得て、民有地保護区(Reservas Particulares do Patrimônio Natural/RPPN)の設立促進のための研修/セミナーを、ブラジル全国から講師を招き開催した。RPPNは将来生態系コリドーの構成要素として大きな役割を果たす事が期待されており、本研修が州レベルの法律制定を後押しし、更に本研修で得た知見を利用し自治体環境審議会などによりRPPNの新規の設置が促進されることが期待される。研修内容については、業務完了報告書(2年次)添付資料B-3-2にある。

3) 参加型生物多様性保全を推進するために組織機構に関する研修：フィリピンとインドの事例を元に

2011年10月14日から20日にかけて、ICMBioとNATURATINS、自治体職員、自治体環境審議会委員など、3箇所34名(うちC/P機関職員5名、州政府機関職員1名、自治体職員6名)を対象として、日本人専門家による上記の研修を行った。参加型による生物多様性保全のための組織機構とひとくちに言っても、様々なタイプやパターンがあり、日本人専門家が実際に携わった事例をもとに、その長所・短所や特徴を紹介した。実際の事例からの教訓は、本事業が支援する自治体や保護区の参加型管理委員会の形成や運営に多くの示唆を与えるものである。研修内容については、業務完了報告書(2年次)添付資料B-3-3、4にある。

4) 参加型生物多様性保全の管理研修：計画から実践まで

2011年11月09日から22日にかけて、4箇所においてICMBioとNATURATINS、SEMADES、自治体職員、自治体環境審議会参加住民など、72名(うちC/P機関職員2名、州政府機関職員4名、自治体職員10名)を対象として、日本人専門家とブラジル人専門家の協働による上記の研修を行った。2年次の後半には、いくつかの自治体で環境審議会が設立されるとともに、保護区での管理委員会の設立も近づきつつある。そこで、実際に審議

¹ 民有地保護区(RPPN)とは、ブラジル保護区システム(SNUC)に規定された保護区形態であり、生物多様性や景観に重要性を持ちかつ危機状態にある民有地が、その保護のために登録されたものである。RPPNに登録されると、税制上の優遇措置や銀行から低利子で融資を受けられ、また連邦・州の関係機関から技術的な支援も受けられるなどのメリットがある。2011年現在トカンチンス州には8か所設置されている。

会・管理委員会が設立された折に、どのような活動があるかを具体例をもとに紹介するとともに、来年度に向けて優先活動を特定し、その実施方法を討議する研修を行った。研修内容については、業務完了報告書(2年次)添付資料 B-3-5, 6, 7 にある。

(2) 類似案件との技術交流

2011年12月12日から16日にかけて、ICMBioとNATURATINS, SEMADES, JICA 専門家チームの4機関から7名が参加し、リオ・デ・ジャネイロ州で先駆的な環境モザイク設立・強化に取り組む Mosaico Central Fluminense を訪問した。その成果は、ジャラポン地域の環境コリドー・モザイク設立と強化に反映される。技術交流のプログラムは、業務完了報告書(2年次)添付資料 B-3-8 にある。

4.4.5 研修受講者の活動に対するフォローアップ体制の構築【3-5】

(1) GIS・GPS 研修のフォローアップ

第1年次に実施したGIS・GPS研修の参加者に対して、要望に応じてJICA 専門家より技術的な支援を行った。また参加者に対して質問票を配布し、研修で学んだ技術の活用状況や新たな研修のニーズに関して情報収集を行った。質問票にて判明した要望については、第3年次の計画策定に反映させる。

(2) その他の研修のフォローアップ

RPPN 研修で学んだ知見に関しては、州政府から参加した研修参加者を日本人専門家が実施した住民研修の講師補助として選び、研修で学んだ事項を説明してもらい知見を確認した。また専門家から必要な技術的なフォローアップを実施した。その他の研修は、殆どが2011年10月以降に実施されたもので、フォローアップを行うには時期尚早であるため、来年度に実施する。

4.4.6 JREC 保全に関する公開セミナーの開催【3-6】

第2年次は「生態系コリドーとモザイクに関する技術セミナー」と題して、2011年11月29日に、トカンチンス州パルマス市郊外にあるタクアラス(Taquaruçu)地区で、ICMBioとNATURATINS, SEMADES, SEPLAN, ADTUR, 自治体職員, その他の民間団体などの代表者が40名参加して開催された。セミナーでは、ブラジル各地でモザイク設立・強化の革新的な取り組みを行う事業の代表者を講師として招き、彼らの経験や知見を共有した。プロジェクトでは、「成果5」において、ジャラポン地域のモザイク・環境コリドー設立の戦略文書を作成中であるが、セミナーでの議論を戦略文書の第1稿に反映させる協議も行った。セミナーの詳細に関しては、プログラムおよび参考資料が業務完了報告書(2年次)添付資料 B-3-9 にある。

4.4.7 本邦研修

本研修は、日本の自然環境保全の知見や実例を紹介し、ICMBioのC/Pにプロジェクトやブラジルの自然環境管理施策改善に活用できる知見を吸収させるとともに、関係者と意見交換を行うことにより、本プロジェクトへの応用効果を高めることを目的として実施された。研修実施に際しては、下表に示す4つの到達目標を設定した。研修プログラムの詳細などは、研修報告書が業務完了報告書(2年次)添付資料 B-3-10 にある。

研修名	和文:ジャラポン地域生態系コリドープロジェクト C/P 研修 英文:Jalapão Region Ecological Corridor Project, Training course in Japan, Training course in Japan
研修期間	平成 23 年 6 月 10 日(金)~平成 23 年 6 月 26 日(火)
研修員	1. Mr. Allan Crema 2. Ms. Ana Carolina Sena Barradas Borges 3. Mr. Janeil Lustosa de Oliveira (計 3 名)
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 日本の自然環境保護制度と行政について理解し、ブラジルの制度と比較し分析出来る。 ▪ 日本の生物多様性モニタリング、生物多様性情報管理について理解し、ブラジルの技術と比較し分析出来る。 ▪ 地域社会の役割、環境教育、エコツーリズムについて理解し、ブラジルの状況と比較し分析出来る。 ▪ 保護区、湿地並びに生物多様性の保全とその適正な利用方法について理解し、ブラジルの状況と比較し分析できる。

講義については、日本の自然環境保護制度と行政、生物多様性モニタリング、生物多様性情報管理、保護区管理の実際、地域社会の役割、環境教育、エコツーリズム、湿地並びに生物多様性の保全とその適正な利用方法について学んだ。研修員は特に以下の内容が有益だったとしている。

- 釧路湿原国立公園での保護区管理における問題と対策の講義
- 林野庁緑の回廊プロジェクトの取組に関する講義
- 地域社会と協働の進め方の講義

視察については、林野庁緑の回廊プロジェクト(群馬県)、生物多様性センター、富士箱根国立公園、釧路野生動物保護センター、釧路湿原国立公園、釧路市立博物館、霧多布湿原の視察を実施した。研修員は、特に以下の内容が有益だったとしている。

- 釧路湿原国立公園の視察
- 富士箱根国立公園の視察
- 林野庁緑の回廊プロジェクトの視察
- 霧多布湿原での地域住民主体のトラスト運動の視察

第 3 年次 (2012 年 4 月~2013 年 2 月)

4.4.8 研修テーマの特定と職員研修プログラムの作成【3-7】

プロジェクトではこれまで、第 1 年次に把握された研修テーマを参考にして、プロジェクト関係者への聞き取りによりニーズの高いテーマを選択し、関係機関職員に対する能力向上を各種実施してきた。第 3 年次は、これまでに実施した聞き取り調査で明らかとなったニーズに加え、第 3 年次開始後に、新たに現場にて同定された課題への対処策として、次項(【3-8】)に示す研修を実施した。

第 2 年次の研修ニーズ調査では、自治体環境審議会の設立過程において、適正な審議会の組織体制・運営方法や、審議会設立後の活動計画策定などに高い関心が示されていた。この点については、プロジェクトが行う成果 4 の活動(自治体環境審議会の設立・機能強化支援活動)に、積極的に関係機関の職員を巻き込み、実際の活動を通じて、自治体レベルの環境管理能力向上の支援方法を体験・実践することで能力の向上を図った。

4.4.9 職員研修プログラムの計画策定・実施【3-8】

(1) モザイク設立のための能力強化研修の実施

成果2で署名された協力協定書の枠組を利用して、ジャラポン地域で統合的生態系保全を促進するための「モザイク」設立を支援した。モザイク設立のために、先ず関係機関の参加型で作成された「モザイク設立プロポーザル」が、ICMBio並びにトカンチンス州環境局、バイア州環境局の連名で連邦環境省へ提出され、その後法律に定められた手順を経る必要がある。手順がすべて問題無く進めば、最終的に環境大臣によりモザイクが正式に承認される。本年次はモザイク設立のための「モザイク設立プロポーザル」の作成及び、連邦環境省との一連の協働プロセスを、関係機関の能力研修を実施しながら実現に向けて支援を行った。

以下に研修内容の概要を示す(業務完了報告書(3年次)添付資料B-2-2参照)。

研修名	日付	場所	主な研修内容
モザイク設立能力強化研修	第1回 2012年5月8-9日	パルマス (SEMADES)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ モザイクの意義、役割 ▪ モザイク審議会の構成 ▪ モザイク効果
	第2回 2012年6月18-19日	パルマス (SEMADES)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ モザイク設立主旨の明確化 ▪ モザイク設立理由(Justificativa)の明確化(統合型生態系保全の促進) ▪ Operational Plan 策定のための情報収集・分析(状況分析, 関係者分析)
	第3回 2012年8月28-29日	サルバドール (INEMA)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ モザイク審議会の設立提案書(案)の作成 ▪ モザイク設立プロポーザルの最終化

(2) ミニトレーニングの実施

プロジェクト関係者への聞き取りから、よりニーズの高いテーマを選択し、ミニトレーニングを実施した。

1) Web-GIS 技術研修(2012年5月25日)

NATURATINS, SEMADES, 及び SEPLAN の情報管理を担当する職員に対し、プロジェクトでソフト開発支援を行ってきた Web-GIS を活用して、情報管理方法の技術研修を実施した。参加者 15 名。(業務完了報告書(3年次)添付資料 B-3-2)

2) 森林火災防止対策技術研修(2012年8月16, 17日)

森林火災防止を担当する NATURATINS や IBAMA の職員に対し森林火災防止技術研修を実施した。研修は、森林火災防止の他、プロジェクトの活動によるジャラポン地域の生態系保護、保護区の設立・管理方法、モザイク設立活動等についての啓発活動も併せて行われた(業務完了報告書(3年次)添付資料 B-3-3 参照)。

(3) 国内類似案件との技術交流

ICMBio 職員、並びにトカンチンス州関係機関職員(SEMADES, NATURATINS)に対して、バイア州サルバドールの環境水資源院(INEMA)が取り組む Projeto Corredores Ecologicos のプロジェクト事務所を訪問し、総合型生態系保全、保護区管理、及びモザイク設立・管理方法について関係者と意見交換並びに技術交流を行った。

表 4-5 類似案件との技術交流

研修名	国内類似案件との技術交流
技術交流先	バイア州サルバドール市
研修時期	2012年8月29日
参加者	ICMBio, SEMADES, NATURATINS (合計 10名)
研修目的	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 統合型生態系保全の理解

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ モザイク管理委員会設立に必要な活動の理解 ▪ 保護区バッファー、モザイク内での経済活動の実態視察 ▪ 関係者間での意見交換並びにネットワークの構築
--	---

(4) 市立保護区管理計画の策定能力強化支援の実施

プロジェクトでは、第2年次からトカンチンス州で初となる市立保護区の設立支援を、サンフェリックス市を対象に行ってきた。その結果、2012年7月に市立保護区(Municipal Natural Monument)が正式に設立され、その後、保護区管理計画の策定を支援してきた。管理計画策定にあたっては、市立保護区の設立・管理に従事する州関係者に対し、以下のとおり計画策定手法を学ぶための研修を実施し、研修を通じてサンフェリックス市の市立保護区の管理計画(ドラフト)の策定を行った(業務完了報告書(3年次)添付資料B-3-4参照)。係る管理計画は、第4年次/延長フェーズの2013年8月に最終化された。

日付	場所	参加者	内容
第1回 2012年7月5日	パルマス (NATURATINS 会議室)	SEMADES, NATURATINS 職員	MNCCRS 管理計画ドラフト策定
第2回 2012年10月11日	パルマス (NATURATINS 会議室)	SEMADES, NATURATINS 職員	MNCCRS 管理計画ドラフト最終化

4.4.10 研修受講者の活動に対するフォローアップ体制の構築【3-9】

第1年次より関係者の能力向上に資する研修、ワークショップ、セミナー等を多数実施してきており、各研修後には質問票等を用いて研修効果を図ってきた。

第3年次は、第1, 2年次に実施した活動の集大成として、これまで各種の研修で学んだ内容を現場活動で実際に生かすため、成果1, 2, 4に係る活動に昨年以上に関係者の参加を促してきた。プロジェクトでは、このように現場活動を関係機関と協働で実施する過程において研修効果をモニタリングし、必要に応じて活動のフォローアップを行なった。

4.4.11 本邦研修

第2年次に引き続き、日本の自然環境保全の知見や実例を紹介し、プロジェクトやブラジルの自然環境管理施策改善に応用できる知見を吸収させることを目的として、本邦研修を実施した。研修実施に際しては、下表に示す4つの到達目標を設定した。以下に、研修内容を示す(業務完了報告書(3年次)添付資料B-3-5参照)。

研修名	和文:ジャラポン地域生態系コリドープロジェクト C/P 研修 英文:Jalapão Region Ecological Corridor Project, Training course in Japan, Training course in Japan
研修期間	2012年11月25日(日)~2012年12月8日(土)
研修員	Mr. Mariusz Szmuchrowski (統合型保護区局 生態系コリドー・モザイク課 プロジェクト担当官) Mr. Aquilas Ferreira Mascarechas (セハド・ジェラウ生態系ステーション管理事務所 所長) Ms. Cristiana Castro Lima Aguiar (パラナイバ河上流域国立公園管理事務所 所長) 計3名
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 日本の自然環境保護制度と行政について理解し、ブラジルの制度と比較し分析出来る。 ▪ 日本の生物多様性モニタリング、生物多様性情報管理について理解し、ブラジルの技術と比較し分析出来る。 ▪ 日本の生物多様性保全における地域社会の役割について理解し、自国の状況と比較し分析出来る。 ▪ 日本の保護区管理、生物多様性保全の実例について理解し、自国の状況と比較し分析出来る。

講義については、日本の自然環境保護制度と行政、生物多様性モニタリング、生物多様性情報管理、保護区管理の実情(成果と課題)、保護区管理における地域社会の参加と役割、環境教育、エコツーリズム、生物多様性の保全とその適正な利用方法について学んだ。研修員は特に以下の内容が有益だったとしている。

- 「赤谷の森」緑の回廊プロジェクトの取組に関する講義
- 地域社会との協働による生態系保全の取組に関する講義
- 日本における環境教育とエコツーリズムの取組に関する講義
- 里山の概念及び里山イニシアチブの取組に関する講義

視察については、林野庁緑の回廊プロジェクト(群馬県)、生物多様性センター、田貫湖ふれあいセンター(NPO ホールアース自然学校)、阿蘇くじゅう国立公園(環境省阿蘇自然環境事務所、(財)阿蘇グリーンストック)、霧島錦江湾国立公園(環境省鹿児島自然保護官事務所、NPO くすの木自然館)における活動を体験・視察した。研修員は、特に以下の内容が有益だったとしている。

- 生物多様性保全にかかる調査実施と情報管理
- 環境教育とエコツーリズムの活動視察
- 野焼きによる草原管理の活動視察

第4年次(2013年3月～10月)

4.4.12 バイア州内の新規保護区プロポーザル作成の支援【3-10】

第3年次は、新たに「システムチック・コンサベーション・プランニング」の手法を導入して、ジャラポン全体を対象に、保全優先地域や保護区管理体制について分析した。この結果を利用して、特に開発圧力の高いバイア州側の新規保護区の設立プロポーザルの作成が環境水資源院(INEMA)において始まった。延長フェーズでは引き続き、必要に応じてINEMAに対して、新規保護区の設立プロポーザル作成の支援を行った。

4.4.13 コスタリカの生態系コリドーの技術視察の実施【3-11】

ブラジルにおける生態系コリドーの取組をより効果的・効率的に改良するため、類似した社会経済構造と問題意識・動機を持つ、中南米地域の他国の生態系コリドーの取組を視察することは有意義と考えられる。延長フェーズ(第4年次)においては、ブラジルの生態系コリドーに応用出来る技術を吸収するとともに、関係者間でネットワークを構築して、長期的な協力体制を構築することを目的として、コスタリカ国の生態系コリドーの先進的な取組を視察し、現地関係者との情報交換を行った。具体的な日程や研修内容は以下のとおりである。

研修名	コスタリカでの技術交換/短期研修
研修期間	2013年5月19日から26日(8日間)
研修員	<ICMBio> Mr. Bernard Brito (General Coordinator of Directory for Creation and Management of Conservation Units/DIMAN) Mr. Allan Crema (Project Manager, Environmental Analyst, Chief of Mosaic and Ecological Corridor Division/DMOC - DIMAN) <NATURATINS> Ms. Nilza Verônica Amaral (Director of Biodiversity and Protected Areas) <JICA(引率)> 浅野 剛史(チーフ・アドバイザー/生態系保全)

目的	(1) 広域での統合型生態系管理の先駆的な例として知られるメソ・アメリカ生物回廊計画の中核的な役割を担うコスタリカでの取組を学ぶ。 (2) コスタリカの生物多様性保全政策について関係者から意見聴取を行い、更に現場での取組を視察することにより、ブラジルで適用可能な技術を吸収する。 (3) コスタリカ・ブラジル双方のこれまでの生態系コリドーの経験と知見について意見交換を行い、さらに今後の両国間の当該分野における公式の協定のための協議を行う。
主な訪問先	環境・エネルギー省(MINAE/SINAC), 生物多様性研究所(INBio), Arenal-Tempisque (ACAT) エリア, マニユエル・アントニオ国立公園 他

4.4.14 ジャラポン・モザイク設立に関する知見・経験の整理【3-12】

本プロジェクトでは、「地域保全メカニズム」を実現するため、1) 連携を促進するための組織横断的な枠組、2) 連携して保全に取り組むための共通指針、また 3) アクターが保全に参加するための地方行政基盤、の3つに分類される様々なツールを導入した。プロジェクトの終了に際して、ジャラポン・モザイク設立プロセスを含めた、「地域保全メカニズム」導入の知見・経験を整理した。

第4年次は、第3年次に引き続き、以下のとおりモザイク設立能力強化研修を実施した。研修結果については、添付資料 XX を参照の事。

研修名	日付	場所	主な研修内容
モザイク設立能力強化研修	第1回 2013年5月13-14日	マテイロス	<ul style="list-style-type: none"> モザイク審議会の構成の決定 非政府セクターの構成員の選出
	第2回 2013年9月17-19日	パルマス	<ul style="list-style-type: none"> 第1回モザイク審議会の準備会議の開催 モザイクを構成する9保護区の管理内容の共有 モザイク審議会定款案の作成
	第3回 2013年10月2-3日	パルマス	<ul style="list-style-type: none"> 第1回モザイク審議会の準備会議の開催 モザイク審議会の定款案の最終化 戦略文書の改訂(アクション・プランの改訂)

4.4.15 JREC 保全に関する公開セミナーの準備と開催【3-13】

プロジェクト終了を控えて、プロジェクト成果の発信、全体総括とそれを踏まえた今後の展開について話し合おうことを目的に、2013年10月2-3日の二日間にわたってパルマスにてプロジェクト関係者を集めた公開の「最終セミナー」を開催した。セミナーには、ICMBio、州関係者、自治体(市)から約80名が参加し、プロジェクトの活動総括、教訓・提言、及び、プロジェクトで行ってきた活動各種の継続性を確保するため、今後の展開について議論を行い、活動計画として取りまとめた。係る最終セミナーの内容については、添付資料 XXX を参照のこと。

フォーラム名	ジャラポン地域生態系コリドープロジェクト 最終公開セミナー
日時	2013年10月2,3日(2日: 8:30~17:30, 3日: 8:30~12:30)
場所	パルマス市
参加者	対象4市の自治体環境審議会メンバー(Rio da Conceicon, Mateiros, San Felix, Ponte Alta) ICMBio, 州関係者 (SEMADES/PEGAM, NATURATINS/PEJ, SEPLAN), ジャラポン地域4自治体代表(Rio da Conceicon, Mateiros, San Felix, Ponte Alta, Almas), 大学関係者(ULBRA), IBAMA, NGOs, 民間団体 (合計 約80名)

4.5. 【成果4】JREC 保全に関する関係機関と地域住民との連携が強化される。

第1年次(2010年4月～12月)

本成果の活動は第2年次から開始する事になっていたが、C/P 定期会議や関係機関との議論から、地域住民との関係構築には時間が必要なため、出来るだけ早く開始する必要性が確認された。第1年次は第2年次以降の活動の準備フェーズと位置付け、地域住民の現状を把握し、鍵となる人物を特定することを最重要と定め活動を実施した。

4.5.1 地域住民へのプロジェクト情報の伝達【4-1】

プロジェクトに関連する情報を整理したリーフレットを作成し、周辺自治体へ配布した。JREC 保全に関する地域住民との連携を強化するためには、プロジェクトの情報のみならず、ICMBio や関係機関に関する情報や地域で実施されている活動に関する情報も提供する事が望ましい。これまでのプロジェクトを通じて収集された情報、生態系コリドー保全の重要性、住民に期待される役割などを取りまとめて、卓上型とポスター型のカレンダーを作成し、周辺自治体や関係機関へ配布した。またプロジェクト紹介バナーを作成し、保護区周辺の市役所へ配布した。今後多くの住民の眼にとまることが期待される。また、JICA のコミュニティ強化専門家が周辺自治体を訪問した際に、主要な関係者に対してリーフレットを配布しプロジェクトについて説明した。更にワークショップを実施し、プロジェクト紹介プレゼンテーションを行った。

4.5.2 地域住民への研修テーマ及び方法の特定【4-2】

地域住民への研修テーマ及び方法を特定するため、保護区周辺の自治体を対象として、コミュニティ代表などへのキー・インフォーマント・インタビューと質問票を組み合わせ、住民の状況調査及びニーズ調査を実施した。更にその結果を踏まえて、JICA 専門家が中心となって関係者への聞き取りをしながら問題分析を行った。

生態系コリドー構築には、特に地域住民と深い係わりを持つ自治体政府の環境管理能力強化が急務であることが確認された。生態系コリドー構築のための自治体政府の能力向上としては、大きく分けて1) 生態系コリドー構築を支援する体制構築に寄与できる能力向上、2) 保護区管理に貢献できる能力向上、3) 住民組織を強化できる能力向上、および4) 市環境組織を強化できる能力向上が求められる事が確認された。このように広範に渡った能力向上が必要とされるが、時間的、人的資源が限られているため、本プロジェクトではより優先度の高い項目について取り組んでいく必要がある。第1年次は上記の能力向上を包括する市環境審議会の設立支援を重点的に行うこととした。

4.5.3 地域住民への研修の実施【4-3】

生態系コリドー構築の上で必要とされる多くの能力を向上させるためには、市環境組織の強化促進が有効であることが確認された。そのためには、市環境審議会の設立支援を重点的に行うことがより効率的であると判断された。この活動の対象とする市は、コアである2つの保護区の間にある3市に加えて、生態系ステーションの管理事務所からのアクセスが容易な3つの市も加えて下記の6市とした。

- マテイロ市(Mateiros)

- ノボアコルド市(Novo Acordo)
- ポンテアウタ市(Ponte Alta do Tocantins)
- サンフェリックス市(São Félix do Tocantins)
- アルマス市(Almas)
- ヒオデコンセイソン市(Rio da Conceição)

2010年11月に、上記の各市において各1日のワークショップを実施した。本ワークショップでは、市政府関係者の協力や活動への参加を促進する事を念頭に置き、1) プロジェクトや環境保全に関する知識を深めることや、2) 市環境審議会の設立の手続きを理解することなど、将来において具体的な活動に繋がることに留意してプログラムを組んだ。全6回のワークショップでは、多くの環境課長や市長が参加し、プロジェクト活動に関するコミットメントを確保したことは大きな成果であった。今後はこの経験を踏まえて、市政府と協力してプロジェクト活動を実施する予定である。各市におけるワークショップの報告書を添付する(業務完了報告書(1年次)添付資料B-4-1)。

第2年次(2011年3月～12月)

4.5.4 地域住民へのプロジェクト情報の伝達【4-1】

成果1の枠組みで作成した情報発信媒体の多くは、成果4の活動を通じて JICA 専門家や ICMBio により自治体や関係者へ配布された。また GIS 情報を加工して作成したアトラス(地図帳)は、紙媒体と電子媒体の両方にて配布した。更に高解像度の衛星画像を利用して、各自治体向けに地図バナーを作成し、各自治体へ配布した。

4.5.5 地域住民への研修テーマ及び方法の特定(住民研修の企画、実施計画の策定)【4-2】

本年度は、1)自治体環境能力強化(環境審議会の設立支援)、2)地域住民の環境能力強化(自治体職員、教師、環境団体職員への環境教育研修)、3)保護区管理能力強化(生態系ステーション管理委員会の設立支援)の3つのテーマを特定した。3-4月にかけて活動計画をテーマ毎に作成した。自治体レベルの環境審議会の設立に一定の目処が立った本年度の後期には、その後の詳細な活動計画を策定した。

4.5.6 地域住民への研修の実施【4-3】

(1) 自治体環境能力強化(環境審議会の設立支援)

1) 環境審議会の設立支援(環境管理のための自治体レベルの組織構築)

2011年5月16日から7月13日にかけて、5自治体(São Félix, Mateiros, Ponte Alta do Tocantins, Rio da Conceição, Almas)において、自治体職員、自治体議会議員、住民など計101名(自治体職員19名、議会議員14名、その他の住民68名)を対象に、各2日間の研修を実施した。研修の目的は、自治体レベルの環境行政を担う担当官や、自治体環境審議会のメンバーになる可能性がある住民が、環境マネジメントを効果的に行うための基本的な組織構築に関する基礎知識を学ぶことであった。研修の内容については、業務完了報告書(2年次)添付資料B-4-4を参照。

2) 自治体環境審議会設立のための定期訪問と打ち合わせ

「成果4」の本年度の最重要目標は、自治体レベルで環境審議会が設立されることで

あった。そのために、日本人およびブラジル人専門家と C/P 機関職員が定期的に自治体を訪問し、自治体職員や議会議員、審議会メンバー候補などと繰り返し打ち合わせを行った。専門家からの支援としては、1) 必要な各種条例や定款などの下書き、2) それらの文書をメンバー候補が共同で推敲するファシリテーション、3) メンバーおよび役員選定の支援、4) 条例や定款の議会承認の支援、などが含まれる。自治体環境審議会設立の支援に関しては業務完了報告書(2年次)添付資料 B-4-4 にあるが、自治体審議会設立の現状に関するサマリーは下記の通りである。

項目	Ponte Alta	Rio da Conceição	São Félix	Mateiros	Almas	Novo Acordo
環境審議会設立準備打合せの回数	3	3	3	3	3	3
環境担当官の再任命法案の作成	○	○	○	○	×	×
環境担当官の再任命法令の議会承認	○	○	○	○	×	×
環境審議会設立条例の下書き	○	○	○	○	×	×
環境審議会設立の議会承認	○	○	○	○	×	×
環境審議会メンバーの正式指名	○	○	○	○	×	×
環境審議会メンバーの正式就任	○	○	○	×	×	×
環境審議会の定款の下書き	○	○	○	×	×	×
環境審議会の定款の議会承認	×	×	×	×	×	×

Ponte Alta, Rio da Conceição および São Félix に関しては、年内に審議会の定款が議会承認される見込みである。Mateiros は、来年早々になる見込みである。Almas と Nova Cordo の両自治体は、再三の働きかけに対しての反応が乏しく、上表の通り進捗もないので、第3年次は研修などへの招待等を行うのみとし、定期訪問やその他の率直的な事業投入は行わないこととした。

3) 自治体環境審議会メンバーの能力向上

「参加型生物多様性保全を推進するために組織機構に関する研修：フィリピンとインドの事例を元に」と「参加型生物多様性保全の管理研修：計画から実践まで」の両研修を、実施機関職員と地域住民(自治体環境審議会メンバー)の双方を対象に実施した。

特記すべき事項は、州レベルで自治体との調整を司る公共省(自治省)の傘下にある「環境業務支援センター(CAOMA)」が実施する「多セクター環境能力向上プログラム」との協力を合意したことである(業務完了報告書(2年次)添付資料 B-4-5)。このプログラムには NATURATINS と SEMADES が技術部隊として参加し、また教育省や観光省、農業省など、自治体との関連性が高い多くの機関が参加している。本プロジェクトも自治体レベルでの活動が本格化する中で、「成果 2」での活動に加えて、自治体レベルの多くの関係機関と調整・連携しながら事業を実施することが重要であり、その基盤づくりを行った。

(2) 地域住民の環境能力強化(自治体職員、教師、環境団体職員への環境教育研修)

生態系コリドー・モザイクによる生物多様性保全の将来の担い手を育成する目的で、小学校における環境教育の実施を支援した。第2年次は、2つの自治体(Rio da Conceicao と Mateiros)のそれぞれ2つの小学校(合計4校)で、環境合唱団の設立や環境写真・絵画展、リサイクル品作成、講演会、学校果樹園の設立、清掃活動などに関する環境教育を支援した。環境教育の活動内容については業務完了報告書(2年次)添付資料 B-4-2, 6 にある。

(3) 保護区管理能力強化(生態系ステーション管理委員会の設立支援)

連邦政府の規定により、セハ・ジェラル環境ステーション(ESEC)の管理計画(5ヶ年)の策定作業が10月から始まった。保護区の管理計画は5年ごとに更新される基本かつ重要な文書で、今後約2年にわたり調査と計画策定が行われる。プロジェクトとしてこれを支援すべく、必要資機材の一部を調達した上、日本人専門家による支援を行った。この活動がC/Pに評価され、ESEC 所長から感謝を表明する文書を受け取った。

4.5.7 地域住民への研修後のフォローアップの実施【4-4】

各自治体へは、専門家とC/P機関の職員が定期的に訪問し、それまでの研修後のフォローアップを実施している。また、カリキュラムや教材を使った研修は、審議会設立に目処がついた第2年次後期に実施したので、フォローアップは第3年次に実施した。

第3年次(2012年4月～2013年2月)

4.5.8 地域住民へのプロジェクト情報の伝達【4-5】

成果1で作成した情報発信媒体(パンフレット、チラシ、ステッカー、しおり、ビデオ等)を活用し、成果4の活動を通じて自治体住民や関係者へ広く配布及び公開され、広くプロジェクト活動の普及が図られた。またプロジェクト・ホームページを通じて、定期的にプロジェクト成果や近況を発信した。

4.5.9 地域住民への研修テーマ及び方法の特定【4-6】

第2年次のプロジェクト活動を通じて、自治体職員や地域住民の研修ニーズが把握されたが、第3年次の活動内容は、それらのニーズを参考にしながら、新たな聞き取り及び状況分析の結果を踏まえて特定された。ニーズ調査は、第3年次開始当初の2012年4月19～24日にかけて対象地区4市(Ponte Alta, Sao Felix, Rio da Conceicao, Mateiros)にて、自治体関係者、及び対象地区の連邦・州保護区関係者を対象に実施された。

ニーズ調査の結果、第3年次は以下の分野を重点項目として活動支援を行うことにした。各支援の活動内容については、次項【4-7】に記す。

- ① 環境審議会設立・能力強化支援
 - 組織・基盤整備能力強化
 - 事業計画策定・事業管理能力強化
 - 財政管理能力強化
- ② セハ・ジェラル環境ステーション管理能力強化支援
- ③ 環境教育リーダー育成事業支援

4.5.10 現地リソースを最大限に活用した地域住民への研修等の実施【4-7】

(1) 環境審議会設立・能力強化支援

- 1) 組織・基盤整備能力強化支援

自治体レベルの環境管理能力強化支援として、第2年次に引き続き、環境行政の基盤づくり(体制構築)を支援した。具体的には、自治体環境審議会の設立支援及び設立された審議会の組織マネジメント能力強化である。活動は、各市の状況に合わせて以下のとおり実施された(業務完了報告書(3年次)添付資料B-4-1参照)。

自治体名	活動内容
Ponte Alta	<ul style="list-style-type: none"> 環境審議会の組織整備に係る関係者協議(新市長就任に伴う環境審議会のメンバー選任・承認方法の技術指導)2012年5月 環境審議会の組織整備研修(審議会幹部(議長, 副議長, 事務局)選任支援, 審議会幹部の役割, 及び選任方法の技術指導)2012年8月7日 審議会の意義・役割に関する意識強化ワークショップ(審議会の意義・役割の理解促進)2012年8月7日 審議会の組織運営能力強化研修(定款説明, 定例会議開催準備, 議事録の記録方法, 関係者間のコミュニケーション方法などに関する技術指導)2012年8月21日 市民公聴会開催のための事前準備ワークショップ(公聴会の意義, 市民公聴会の開催手順, 公聴会発表内容の準備などに関する技術指導)2012年9月29日
Rio da Conceição	<ul style="list-style-type: none"> 環境審議会の組織整備に係る関係者協議(同上)2012年3-5月 環境審議会の組織整備研修(同上)2012年8月8日 審議会の意義・役割に関する意識強化ワークショップ(同上)2012年8月8日 審議会の組織運営能力強化研修(同上)2012年8月22日 市民公聴会開催のための事前準備ワークショップ(同上)2012年9月27-28日
Mateiros	<ul style="list-style-type: none"> 環境審議会設立ワークショップ(審議会メンバー承認, 審議会の定款策定, 及び審議会設立式の開催方法に関する技術指導)2012年7月30日 環境審議会の組織整備研修(同上)2012年7月29-30日 審議会の組織運営能力強化研修(同上)2012年8月20日 市民公聴会開催のための事前準備ワークショップ(同上)2012年9月25日
São Félix	<ul style="list-style-type: none"> 環境審議会活動のフォローアップワークショップ(審議会の活動実施状況聞き取り, 及び課題に対するフォローアップ)2012年7月1-2日, 8月1日 市民公聴会開催のための事前準備ワークショップ(同上)2012年9月24日

また、プロジェクトでは、各自治体の環境審議会設立支援の一環として、以下のとおり環境関連の法規整備を支援した。以下に、第2年次、第3年次にプロジェクト支援により新たに整備された法規をまとめる(業務完了報告書(3年次)添付資料B-4-2参照)。

Legal Act	Ponte Alta	Rio da Conceição	São Félix	Mateiros
Revision of municipal environmental ordinance	Oct 2011	N/A	N/A	N/A
Decree on the appointment of council member	Oct 2011	Oct 2011	Oct 2011	July2012
Decree on internal regiment of the Council	Nov 2011	Nov 2011	Nov 2011	July2012
Decree on SMUC	N/A	N/A	Nov 2011	N/A
Decree on Creation of MNCCRS	N/A	N/A	July2012	N/A
第2年次に整備された法規数	3	2	3	0
第3年次に整備された法規数	0	0	1	2

2) 事業計画策定・事業実施能力強化支援

上記1)の自治体レベルの環境行政体制の基盤整備に並行して、環境審議会の事業計画策定・事業実施能力強化を目指し、各市でモデル事業を選定し、モデル事業の計画策定・事業実施支援を行った。活動概要は以下のとおりである(業務完了報告書(3年次)添付資料B-4-1参照)。

自治体名	活動内容
Ponte Alta	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業『市街河川再生管理計画』計画策定ワークショップ 計5回(2012年6月21-22日, 7月18日, 8月21日, 9月29日) 市街河川再生管理計画に係る市民公聴会の開催 2012年10月17日
Rio da Conceição	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業『観光資源利用計画』計画策定ワークショップ 計5回(2012年6月22-23日, 7月16日, 8月8-9日, 8月22日, 9月27-28日) 観光資源利用計画に基づくパンフレット, チラシ作成 2012年9-10月 観光資源利用計画に係る市民公聴会の開催 2012年10月10日
Mateiros	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業『観光文化情報センター整備事業計画』計画策定ワークショップ 計5回(2012年7月1-2日, 7月29-31日, 8月20日, 9月6-7日, 9月25日)

	<ul style="list-style-type: none"> 観光文化情報センター整備事業計画に基づく環境保全パネル作成 2012年9-10月 観光文化情報センター整備事業計画に係る市民公聴会の開催 2012年10月11日
São Félix	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業: サンフェリックス市立保護区設立・保護区管理計画策定ワークショップ計6回(2012年5月5日, 7月1-2日, 7月7日, 8月1-2日, 9月24日, 10月13日) 市立保護区設立法の成立 2012年7月2日 市立保護区設立に係る市民公聴会の開催 2012年10月16日

3) 財政管理能力強化支援

環境審議会の機能強化の一環として、審議会活動の主体性と持続性を確保するために重要な要素である財政資源の確保を目指し、市の公共財源の一つである環境保全交付金(ICMS-Ecológico)の適正利用化に向けた支援を行った。活動内容概要は以下のとおりである(業務完了報告書(3年次)添付資料B-4-3 & 4参照)。

活動	日付	場所	参加者	内容
環境保全交付金意識啓発セミナー実施	2012年7月16日～8月9日	<ul style="list-style-type: none"> Ponte Alta:市議会会議室 Rio da Conceicao:市環境情報センター Mateiros: ジャラポン州立公園(PEJ) Sao Felix: 市会議室 	<ul style="list-style-type: none"> 環境審議会 市職員(財政担当) CAOMA SEMADES NATURATINS/PEJ 	州関係機関(SEMADES, NATURATINS, MPE(CAOMA)と対象4市を訪問し、審議会に対し環境保全交付金の理解を深めるための啓発セミナーを実施
環境保全交付金適正利用推進ワークショップ実施	2012年8月30, 31日	パルマ斯拉ジアーダ州立公園(PEL)	<ul style="list-style-type: none"> 環境審議会 市職員(財政担当) CAOMA SEMADES NATURATINS COEMA Sec of Finance (28名参加) 	<ul style="list-style-type: none"> SEMADES/PEGAM, NATURATINS, Ministry of Public (CAOMA), Secretary of Finance(Secretaria da Fazenda), COEMA を講師に、環境審議会と Municipality 職員に対し、環境保全交付金の意義、仕組み、算定方法、管理方法等の技術支援を実施 環境保全交付金の適正利用(交付金の環境活動への利用)を約束する、環境審議会と市の合意文書(案)の策定
環境保全交付金適正利用に係る合意文の最終化及び署名	Ponte Alta: 2012年10月9日 Rio da Conceicao: 2012年10月10日 Mateiros: 2012年10月11日 Sao Felix: 2012年10月16日	署名式会場 <ul style="list-style-type: none"> Ponte Alta:市庁舎 Rio da Conceicao: 市民会館 Mateiros: ジャラポン州立公園(PEJ) Sao Felix: 市庁舎 	<ul style="list-style-type: none"> 環境審議会 市長/副市長 一般市民 	<ul style="list-style-type: none"> 各市で、8月の上記ワークショップで策定した環境保全交付金の適正利用に係る合意書(案)の最終化支援を実施 最終化された合意書署名式の開催支援(署名者は市長と審議会議長)

(2) セハ・ジェラル環境ステーション(EESGT)管理能力強化支援

連邦政府の規定により、EESGTの管理計画(5ヶ年)の策定作業が2011年10月から始まった。保護区の管理計画は5年ごとに更新される基本かつ重要な文書であり、プロジェクトでは第2年次より係る支援を開始し、今年度は以下の活動支援を実施した(業務完了報告書(3年次)添付資料B-4-6参照)。

活動	日付	場所	内容
EESGT 管理委員会設立	2012年4月2日	-	EESGT 周辺自治体代表者、州関係者、EESGT 周辺保護区代表者、22名がメンバーとして選任
EESGT 管理計画策定ワークショップ	2012年8月1-3日	Palmas	管理委員会メンバー、ICMBio, NGOs, 州関係者が参加し、管理計画に必要な情報分析等を実施
EESGT 管理委員会定款策定ワークショップ(第1回)	2012年8月18-19日	Dianopolice	管理委員会の定款(案)について、管理委員会メンバーと協議し作成作業を実施
EESGT 管理委員会定款策定ワークショップ(第2回)	2012年10月19-21日	Ponte Alta	同上

(3) 環境教育リーダー育成事業 (ASAS) 支援

第2年次に引き続き、環境教育を通じて環境活動を実施する地域のリーダー、及び将来のリーダー候補の育成を目的に、環境教育リーダー育成事業 (ASAS) を支援した。プロジェクト対象地域である4市のうち、Mateiros と Sao Feli×は、第2年次に教員対象研修が実施された。第3年次は、Rio da Conceicao 及び Ponte Alta にて係る研修を実施した。本支援に係る主な活動は以下のとおりである (業務完了報告書 (3年次) 添付資料 B-4-5 参照)。

活動	日付	場所	内容
環境教育リーダー育成研修	2012年8月19-21日	Sao Feli× (市立小・中学校)	市内の小・中学校の教員代表に対し、環境教育の手法について研修を実施 (参加人数 35名)
環境教育リーダー育成研修	2012年8月23-25日	Ponte Alta (市議会会議室)	同上 (参加人数 28名)
国内類似案件との技術交流	2012年8月8-10日	Brasilia (ICMBio 会議室)	ブラジル国内の類似事業代表者による事業紹介、意見交換、及び今後の活動方針の協議 (参加人数 23名)
ジャラポン地域における技術交流	2012年10月22-23日	Rio da Conceicao (市立公民館)	対象4市において2011年、2012年に実施した ASAS の活動報告、意見交換、課題の同定、及び今後の活動方針の協議 (参加人数 27名)

(4) 環境管理能力強化に係る自治体全体フォーラムの開催

成果4に係る第1~3年次 (2012年10月まで) の活動成果の取りまとめ、自治体間の経験のシェア、自治体間のネットワーク構築、並びに自治体レベルでの今後の環境管理の方針について協議を行うことを目的に、成果4の関係者を参集し全体フォーラムを開催した (業務完了報告書 (3年次) 添付資料 B-4-1 参照)。また、本フォーラムでは、環境審議会の能力強化の一環として、審議会メンバーのプレゼンテーション能力やディスカッション能力の向上を目指し、審議会メンバーに活動発表及び意見交換の機会を提供した。

フォーラム名	環境管理能力強化に係る自治体全体フォーラム
日時	2012年10月26日 8:30~17:30
場所/会場	パルマス市/NATURATINS 講堂
参加者	対象4市の自治体環境審議会メンバー (Rio da Conceicao, Mateiros, San Feli×, Ponte Alta) ジャラポン地域5市の市役所代表 (Rio da Conceicao, Mateiros, San Feli×, Ponte Alta, Almas) 州関係者 (SEMADES/PEGAM, NATURATINS/PEJ, Ministry of Public (CAOMA), Secretary of Finance (Secretaria da Fazenda), SEPLAN, SEDUC) 大学関係者 (ULBRA) NGOs, 民間団体 (合計 65名)

4.5.11 地域住民への研修後のフォローアップの実施【4-8】

上記【4-7】の活動支援に係る現地訪問、研修、WS、セミナー各種の実施の際に、能力強化の成果をモニタリングしながら、必要に応じて州関係者と課題対処策を協議し、フォローアップを実施した。

第4年次 (2013年3月~10月)

4.5.12 自治体環境審議会強化、環境教育リーダー養成などのキャパシティ・ディベロップメントの実施【4-9】

(1) 自治体審議会能力強化

第3年次は、プロジェクト活動により環境法と環境審議会が整備された4市(Mateiros, Sao Felix, Ponte Alta, Rio de Conseicao)において、審議会の機能強化のため、1) 組織・基盤整備、2) 計画策定・事業管理能力、3) 財政管理能力、の3つの能力強化を目指し、モデル事業の実施や環境保全交付金(ICMC-Eco)の適正利用に係る支援を行った。各市では、2013年1月に選挙後の新政府が発足し、新市長のもと人事異動が行われているので、自立発展性を確保するためには、審議会の再編成や新メンバーに対する能力強化が求められている。これらの状況を踏まえ、プロジェクトの最終活動期間となる延長フェーズ(第4年次)では、環境審議会活動の自立発展性を高めることを重点とし、以下の活動を進めた。

1) 組織・基盤整備能力強化支援

自治体レベルの環境管理能力強化支援として、第3年次に実施した環境行政基盤の体制整備について、その体制が機能していくための組織強化を支援した。具体的には、環境審議会の組織の再構築(メンバー選定・承認等)及び組織運営に関する指導・助言を行った。活動は、以下のとおり実施された(添付資料 XXX 参照)。

<進捗確認、ニーズ分析調査>

自治体名	日程	活動内容
Ponte Alta	1/Fev/2013	審議会メンバー、新市長/副市長、並びに環境課長と協議を行った。訪問時には、市長選挙後、市役所の体制(課長の任命、課員の異動)が定まっておらず、環境審議会のメンバーも決定出来ない状態であった。そこで、プロジェクトでは各市の首長に迅速な体制決定と市役所側の審議会メンバーの選出・承認を滞りなく進められるよう助言を行った。
Rio da Conceição	6/Fev/2013	
Mateiros	5/Fev/2013	
São Féli x	4/Fev/2013	

<審議会メンバー任命・承認にかかる支援>

自治体名	日程	活動内容
Ponte Alta	5/Fev/2013	審議会メンバーと環境課長に対し、審議会メンバーの選出方法及び承認式の準備に係る手順について指導・助言を行い、審議会の組織再編成を支援した。その結果、各市において、左記の日程で、審議会新メンバーの承認及び任命式が執り行われた。
Rio da Conceição	4/Mar/2013	
Mateiros	28/Fev/2013	
São Féli x	7/Mar/2013	

2) 事業計画策定・事業実施能力強化支援

上記 1) の自治体レベルの環境行政体制の基盤整備に並行して、市環境管理基本計画の策定、並びにモデル事業の実施管理支援を行った。

<環境管理基本計画の策定支援>

環境管理基本計画は、長期計画『5カ年計画(2013-2017年)』(Plano de Acao Ambiental)と短期計画である『年間活動計画(2013年)』(Plano de Trabalho Annual)で構成される。5カ年計画は、自治体が環境管理を進めるうえで目指すビジョン、プログラム、5年間の間に実施予定の活動を示すもので、他方、年間活動計画は、2013年に実施する活動について活動実施時期、活動実施者、及び予算計画を含む。

支援の結果、対象4市では、2013年6月に市で初めてとなる環境管理基本計画が策定され、7月からは計画に沿った環境活動が実施され始めた。計画策定支援は、4回の計画策定能力強化WS、並びに、計画モニタリング・評価手法WS(下表参照)を通して行われた。各WSの概要については、添付資料 XXX を参照のこと。

自治体名	活動内容
Ponte Alta	1) 25-26 Mar 2013 (第1回 環境管理基本計画 5カ年計画策定 WS) 2) 3-4Apr 2013(第2回 環境管理基本計画 5カ年計画策定 WS) 3) 21May 2013(第3回 環境管理基本計画 5カ年計画策定 WS) 4) 12 Jun 2013(環境管理基本計画 年間活動計画策定 WS) 5) 27 Aug 2013 (年間活動計画 モニタリング・評価手法 WS)
Rio da Conceição	1) 20-2q Mar 2013 (第1回 環境管理基本計画 5カ年計画策定 WS) 2) 10-11 Apr 2013(第2回 環境管理基本計画 5カ年計画策定 WS) 3) 22May 2013. (第3回 環境管理基本計画 5カ年計画策定 WS) 4) 15 June 2013(環境管理基本計画 年間活動計画策定 WS) 5) 29Aug 2013 (年間活動計画 モニタリング・評価手法 WS)
Mateiros	1) 13-14 Mar 2013 (第1回 環境管理計画 5カ年計画策定 WS) 2) 12-13 Apr 2013(第2回 環境管理計画 5カ年計画策定 WS) 3) 28 May2013. (第3回 環境管理計画 5カ年計画策定 WS) 4) 14 Jun 2013(環境管理基本計画 年間活動計画策定 WS) 5) 2 Sep 2013 (年間活動計画 モニタリング・評価手法 WS)
São Félix	1) 11-12 Mar 2013 (第1回 環境管理基本計画 5カ年計画策定 WS) 2) 5-6 Apr 2013 (第2回 環境管理基本計画 5カ年計画策定 WS) 3) 29May 2013(第3回 環境管理基本計画 5カ年計画策定 WS) 4) 13Jun 2013 環境管理基本計画 年間活動計画策定 WS) 5) 3 Sep 2013 (年間活動計画 モニタリング・評価手法 WS)

3) モデル事業の実施

4. 5. 13 に活動内容を記す。

(2) 環境教育リーダー養成(ASAS)活動

延長フェーズ(第4年次)は、3年次に引き続き対象4市にて、小・中学校の教員に対して環境教育指導者としてリーダー研修を行った。活動概要は以下のとおりである。また、ASAS活動の持続性を高めるため、実施体制の強化及び活動方法の確立のため、ASASの手法・経験を取りまとめた実施マニュアル作成した(2013年10月)。マニュアルについては、添付資料XXXを参照のこと。

活動	日付	場所	内容
環境教育リーダー育成研修	2013年 3月19-26日	Ponte Alta, Rio da Conceicao, Mateiros, Sao Felix	市内の小・中学校の教員代表に対し、環境教育の手法について研修を実施
環境教育リーダー育成研修	2013年5月	Sao Felix, Mateiros	同上
環境教育リーダー育成研修	2013年9月	Ponte Alta, Rio da Conceicao	同上
ジャラポン地域における技術交流	2013年 9月23-24日	Ponte Alta	対象4市において2013年に実施したASASの活動報告、意見交換、課題の抽出、及び2014年の活動方針の協議

4. 5. 13 自治体環境審議会の環境管理のための活動実施の支援【4-10】

(1) 自治体環境審議会によるモデル活動の支援

自治体環境審議会の計画策定・事業管理能力強化のために、第3年次に開始したモデル事業について継続して支援した。これらのモデル事業は、上記の環境管理基本計画策定の際に、市の環境活動の一つとして計画に盛り込まれた。

モデル事業では、自然資源管理に関する啓発パネル、並びに観光案内サインボード各種が作成された(添付資料XX参照)。

活動概要は、以下のとおりである。

自治体名	活動内容
Ponte Alta	モデル事業『市立保護区設立能力強化』 活動計画策定 WS 2013年5月21日 市立保護区先進地視察 2013年9月11～13日(São Félixにて) 市民公聴会の開催 2013年9月24日
Rio da Conceição	モデル事業『自然資源を利用した観光地整備事業』 活動計画策定 WS 2013年5月22日 事業実施支援 2013年5～9月 市民公聴会の開催 2013年9月30日 自然資源保護、観光案内にかかるパネル・サインボード作成(38種類)
Mateiros	モデル事業：『観光文化情報センター整備事業』 活動計画策定 WS 2013年5月28日 事業実施支援 2013年5～9月 市民公聴会の開催 2013年8月27日 センター設置用の自然資源保護にかかる啓発パネル作成(4種類)
São Félix	モデル事業：『市立保護区整備事業』 活動計画策定 WS 2013年5月29日 事業実施支援 2013年5～9月 市民公聴会の開催 2013年9月26日 市立保護区の案内パネル、及び保護区内の観光資源案内サインボード作成(16種類)

4.5.14 環境援助交付金 (ICMS Ecologico) の適正利用の促進【4-11】

自治体審議会の財政管理能力強化のために、第3年次に開始した環境保全交付金の適正化を継続して支援する。主な活動は以下のとおりである。

1) 環境保全基金の整備

対象4市のうち環境保全交付金基金設置法が制定されていない Mateiros について、市の法規整備を支援し、2013年7月に係る法が制定されるに至った。

環境保全交付金基金設置法が既に制定されている Mateiros を除く3市(Sao Felix, Rio da Conceicao, Ponte Alta)において、基金の適正管理方法について指導・助言を行った。その結果、Ponte Altaにて、基金用の銀行口座が開設された。

2) 環境保全交付金基金の適正利用化

上記4.5.12にて既述の環境管理基本計画の策定過程において、2013年年間活動計画(Plano de Trabalho Annual 2013)の実施にかかる環境活動資金として環境保全交付金を使用することを明文化し、これまで不透明だった交付金の使途について、計画的に環境活動に使用するよう方針づけた。

3) 環境保全交付金の予算管理

交付金の適正管理を実現するため、対象4市の環境課と財政管理担当部署、並びに環境審議会に対し、交付金金額の算定方法、交付金の歳出・歳入管理方法、交付金使途の透明化についてWSを通して能力強化を行った(2013年5月)。

4.5.15 環境教育マニュアルの作成【4-12】

環境教育リーダー養成研修(ASA)の手法を体系的に確立するため、マニュアルの作成を支援した。マニュアルの作成は、ASAS手法の標準化、ASASの他地域への普及、並びに環境教育関係者間でASASへの理解を共有するために効果的であると考えられる。**(添付資料XXX)**。

4.5.16 自治体環境審議会の活動に関する他州の技術視察【4-13】

他州における参加型環境管理の先駆事例を視察研修し、他地域の経験を学ぶことで、各自治体の環境管理活動における改善点、並びに優位性を顧みる機会とした。研修の最後に、各自治体に、先進地視察で習得した知見を活かし自分たちの自治体で2014年に取り組むことが出来る環境活動について検討・提案してもらった。

技術交流先	ゴイアス州ベアデイロス平原国立公園 (ICMBio 管轄)
研修時期	2013年10月3-6日
参加者	4市代表各3名, NATURATINS (合計25名)
研修目的	国立公園周辺、公園内における自然保護と観光資源の活用方法を学ぶ 行政、NGO、住民による参加型資源管理について知見を深める 関係者間での意見交換並びにネットワークの構築

4.6. 【成果5】JREC 保全のための戦略文書/ガイドラインが作成される。

第1年次(2010年4月~12月)

本成果は第2年次から開始する予定であったが、本年次に再委託で実施した生態系ベースライン調査及び、GISを用いた生態系ネットワークや植生の分析は、生態系モニタリングの中心的な事項となる事が想定されるため、成果5の活動の一環として進める事とした。以下に第1年次の実績を記述する。

4.6.1 JREC 運営管理に関するモニタリング対象の特定【5-1】

モニタリング・マニュアルの作成作業は、プロジェクトの実施フェーズに応じて段階的に進めることが予定されている。第1年次では、成果1の基礎情報の収集と関連させ、生態系モニタリング対象に加えて重点サイトについて予備的な検討を行った。

ジャラポン地域は野生動植物にとって多様な生息環境を有している。その生息環境の多様性は世界でも類を見ないものであり、世界一の生物多様性を維持する基盤となっている。このため成果5で目指す生態系モニタリングでは、GISデータベースにより植生動態や土地利用の変化を確認して生息環境の量的変化をモニタリングするだけでなく、現地調査により生物多様性を維持している生息環境の質的变化をモニタリングすることも含まれることが望まれる。

第1年次はICMBio及び関連機関による生息環境の質的变化のモニタリング手法を予備的に検討するために、生態系ベースライン調査を実施した。現地再委託では、ICMBio及び関係機関と連携して現地調査からモニタリング手法案の策定までの一連の活動を実施した。再委託の調査仕様書には調査方法等を固定せず、モニタリング・マニュアル案策定のための手順を記載し、調査地点(モニタリング地点)の選定、指標の抽出(モニタリング種・群)の抽出、調査方法の設定、モニタリング案の検討を関係者や学識経験者と協議しながら自由に行えるようにした。

調査対象となる調査地点及び指標の選定では、全4回実施したワークショップ及び学識経験者との協議を通じて選定基準や候補となる種・群を仮定し、現地で検証することにより特定した。

4.6.2 JREC 運営管理に関するモニタリング手法の明確化【5-2】

現地調査を伴う生態系モニタリングの手法については、モニタリング対象及び重点サイトの候補となる調査指標及び地点の選定と同様に、現地再委託を通して検討を行った。ワークショップ及び学識経験者との協議を4回開催し、モニタリング手法案を作成した上で、10月中旬から下旬にかけてパイロット的な現地調査を行った。現地調査では生態系のベースライン情報を収集するとともに、事前に特定したモニタリングの調査地点、指標、手法の妥当性・適切性を検証し、調査の最終日にマテイロス市でワークショップを開催して検証結果についての議論を行った。さらに現地調査後にデータを整理して最後のワークショップを開催し、生態系モニタリング案として第1年次の案を提示した(業務完了報告書(1年次)添付資料B-5-2参照)。

第2年次(2011年3月～12月)

4.6.3 JREC 運営管理に関するモニタリング対象の特定【5-1】(JREC 保全のための戦略の明確化)

4.6.4 JREC 運営管理に関するモニタリング手法の明確化【5-2】(JREC 保全のための戦略文書/ガイドライン案の作成)

2011年5月に州政府機関の関係者とのワーキング・グループを立ち上げ、その後年間3回の会議を開催し、「戦略文書/技術ガイドライン」の内容について意見集約を図った。「戦略文書/技術ガイドライン」は、第1部「状況分析と妥当性分析」、第2部「戦略的アクション・プラン」、第3部「運用ガイドライン」から構成される予定であるが、本年は予定通り第1部「状況分析と妥当性分析」、第2部「戦略的アクション・プラン」、のドラフトが段階的に作成された。

第3年次(2012年4月～2013年2月)

4.6.5 JREC 保全のための戦略の明確化【5-3】

戦略文書は、大きく第1部「状況分析と妥当性分析」、第2部「戦略的アクション・プラン」、第3部「運用ガイドライン」に分けて作成を進めている。JREC 保全のための戦略は、第1部に整理された。

4.6.6 JREC 導入と実施のための方法と活動の定義【5-4】

JREC 導入と実施のための方法と活動については、第1部と第2部の中で整理された。

4.6.7 JREC 導入と実施のための戦略文書/ガイドラインの作成【5-5】

プロジェクトが作成した文書が、将来に渡って継続的に活用されるためには、関係機関のニーズに基づいて参加型で戦略文書/技術ガイドラインを作成する必要がある。第2年次に作成された戦略文書のドラフト(第1部、第2部)は、連絡会議/モザイク設立準備会議での議論を踏まえた複数回の改訂を経て、最終案となった(業務完了報告書(3年次)添付資料B-5-1参照)。

第4年次(2013年3月～10月)

4.6.8 戦略文書の活用に係る州機関との協議【5-6】

プロジェクトが作成した「戦略文書」は、関係機関によって利用され、また合意されたアクションを実施することによって有効な文書となる。戦略文書の活用に関して、トカンチンス州の関係機関(ICMBio, SEMADES, NATURATINS)のみでなく、バイア州の関係機関(SEMA, INEMA)も含めて参加型で協議した。

4.6.9 戦略文書の改訂【5-7】

「戦略文書」は協力協定書に基づいた調整会議によって議論され、何度かの修正を繰り返した後、第3年次の調整会議により最終案が作成された。この文書が将来に渡って継続的に活用されるためには、現場のニーズに基づいたものへ柔軟に改訂する必要がある。延長フェーズでは、「戦略文書」をバイア州も含めたジャラポン・モザイクの正式な文書として位置付けるため、関係者と議論し大幅に改定した。

第 5 章 プロジェクトによる広域生態系保全の実現

5.1. 広域生態系保全とプロジェクトの3つのアプローチについて

本プロジェクトを開始するに際しては、生物多様性保全の世界の潮流とブラジルの広域生態系保全(生態系コリドー政策等)の現状を分析し、ジャラポン地域で広域生態系保全を実現するための課題、目的、方法等を検討した結果、3つのアプローチを通じて広域生態系保全の実現を目指すこととした。44カ月間に渡るプロジェクト活動の結果、組織横断的な枠組、共通方針、また地方行政基盤に関連する多くの成果を得ており、それらの相乗効果により、将来広域生態系保全が実現することを期待している。本章では、各アプローチに至る背景と経緯を要約し、その後プロジェクト実績を各アプローチの視点から再整理する。

5.1.1 生物多様性保全の世界の潮流の分析

1872年にアメリカのイエローストーンにおいて世界で初めて国立公園が設立されて以降、自然保全は保護区域を設定してその中で動植物を保護することが中心であった。しかし1980年代には生物多様性の概念が生まれ、囲い込まれた自然保護専用の土地で人間活動を排除して自然を保護するのは限界があり、広域において人間活動を持続可能なバランスの中で制限しながら生態系保全を推進する「広域生態系保全」の必要性が、国際的な議論の中で認識された。UNESCOの「Biosphere Reserve」、WWFの「Ecoregion」、北アメリカの「Reserve Network」、ヨーロッパの「Ecological Network」といった施策は、いずれもそういった議論が基となっている。

「広域生態系保全」が世界的なコンセンサスを得る大きな契機となったのが、生物多様性条約第5回締約国会議(2000年)において採択された「エコシステム・アプローチ」である。これは生物多様性保全と持続可能な開発の理念・指針を示すもので、その12原則の中には、「土地資源、水資源、生物資源の管理目的は、社会的選択による(経済的、文化的、社会的ニーズの観点から、すべての利害関係者を意思決定に参加させる)」「管理は最も下位の適切なレベルで行う(管理の地方分権化、地域の利益と広域での公益のバランスを図る)」「常に経済的観点から生態系を理解し管理する(生物多様性に悪影響を及ぼす市場のゆがみを軽減し、コストと利益を内部化する)」などがある。本プロジェクトでは、「管理の地方分権化」、「地域社会による選択と住民参加」、「経済的観点の重視」、「ボトムアップとトップダウンの組み合わせ」などが、エコシステム・アプローチの重要な要件であると分析した。

5.1.2 ブラジルの自然保護区と広域生態系保全に関する行政の分析

ブラジルの自然保護区は「国家保全区システム法(Law No. 9, 985, SNUC, 2000)」の中で、目的や形態に応じて12種類に分類されている。それらの保護区は大きく「統合型保護区」と「持続的利用区」に分けられる。「統合型保護区」では土地を完全に保護する事が求められる一方、「持続的利用区」は何らかの規制の網掛けはあるものの、農業などの経済活動は法律の範囲で比較的自由に行える。「持続的利用区」の多くは「統合

型保護区」の周辺に設置されており、地域一帯を大きな生態系とみなして自然保全活動を進める上で、重要な法的根拠となっている。

SNUC 法では広域に跨った生態系の保全方法にも言及しており、統合型管理(Gestão Integrada)、生態系コリドー、保護区モザイクなどについて定めている。統合型管理について第2章第5条第13項には、「異なるカテゴリーの保護地域・各保護地域のバッファゾーン・生態系コリドーにおける、自然保護・自然資源の持続可能な利用・生態系復旧のための種々の活動を統合することにより、広域、広範な地域の保全を促進する」とある。本プロジェクトではこの文章から生態系保全には、1)異なるカテゴリーの保護区を縦割りで管理するのではなく、生態系の地理的な繋がりを考慮すること、2)関連するすべての活動を統合的に実施すること、の2要件が統合型管理には必要と理解し、プロジェクトの目指す「統合型生態系保全」の定義とした。

5.1.3 プロジェクト開始時の状況分析

プロジェクト開始以前のジャラポン地域は、連邦・州レベルで5つの保護区が設定されていたものの、各関係機関の連携は職員個人の繋がりがベースのため限定的であり、また保護区の管理は個別で場当たりのであった。またジャラポン地域の自治体政府は環境保全のための活動を実施しておらず、多くの地域住民は環境に無関心であった。

生態系コリドーに代表される「広域生態系保全」の取組を進めるためには、現状のアクター個別の場当たりの管理から脱却し、連邦・州レベルの関係機関と自治体政府、地域住民が技術的・人的資源を集約させ、長期的視点に立った計画的な保全活動を連携して実施することが急務であると考えられた。

5.1.4 上位目標「広域生態系保全の促進」のため問題分析と目的分析

第1年次には、プロジェクト開始以前のジャラポンの状況を踏まえて、R/Dに記載されたプロジェクト・デザインを精査した。先ず上位目標である「ジャラポン地域生態系保全の促進」を根底に置き、プロジェクト目標「JREC 保全に向けての ICMBio の体制強化」を達成するために、どういった活動が必要かについて、ICMBio および関係機関と議論した。具体的には、プロジェクト開始以前に作成された PDM, PO, 技術移転/CD 計画表に基づき、問題分析と目的分析による JREC 導入のための対策案を検討した。

JREC 導入上の課題は、保護区管理の強化、住民意識の啓発、地方行政機関の環境管理機能の強化の大きく3つに分類された。保護区管理に関しては、保護区管理計画書が未策定であること、市政府や住民との協調関係が構築されていないこと、環境モニタリング・監視が十分に行われていないことなどが、主要な問題点として認識された。住民意識に関しては、自然資源の価値が認識されていないこと、火入れを必要とする粗放的放牧以外の収入源がないことなどが、主要な問題として認識された。地方行政機関に関しては、市の環境組織が未整備であること、市政府に環境保全に関する資金が不足していることが、主要な問題として認識された。これらの問題に対して、以下のような目的(対策)が抽出された。

表 5-1 問題分析と目的分析により導き出された課題と対策

課題	主要な対策
1.保護区管理の強化	(1) 生態系コリドー導入計画策定 (2) 保護区管理計画策定 (3) 市との協調関係構築 (4) 住民との協調関係構築 (5) 環境モニタリング・監視強化
3.地方行政機関の環境管理機能の強化	(1) 市環境局の整備 (2) 環境法の整備 (3) 市環境審議会の整備 (4) 参加型環境保全計画策定促進
2.住民意識の啓発	(1) 環境教育 (2) 民芸品製作・販売促進 (3) 小規模農業導入促進 (4) 集約牧畜促進 (5) 観光促進 (6) 養蜂業促進

5.1.5 プロジェクト目標達成のための3つのアプローチ

広域生態系保全に必要な要件，ジャラポンの現状，問題分析/目的分析とともに，プロジェクトのリソース(人的，経済的，時間的)及びプロジェクト目標，成果，を詳細に分析して，活動の優先順位を総合的に判断した。ICMBio が主体的に取り組むために特に重要であったのは，SNUC に定められた統合型管理に必要な 2 要件であった。最終的に以下の3つをプロジェクトのアプローチとして定めた。

1. 連邦・州の多くの関係機関の連携を可能にする「組織横断的な枠組」を立ち上げる。

連邦・州・自治体レベルの関係機関が縦割り行政を排除し，個人でなく組織的な合意の下に連携・協力して保全活動を実施することを可能にする協力協定や定期会議などの「組織横断的な枠組」を立ち上げる。

2. 連邦・州の多くの関係機関による連携活動を促進する「共通方針」を参加型で作成する。

連邦・州の関係機関，また保護区周辺の自治体，NGO などが，中・長期的視点に立った計画的な活動を連携して行うための方針，指針，データベースなどの「共通方針」を参加型で作成する。

3. 地域住民が主体的に環境保全に取り組むための「地方行政基盤」を強化する。

自然保護区周辺の自治体が環境保全に取り組むための環境法と環境審議会，更に地域住民が自然環境の尊さと環境保全の必要性を理解し，参加型の環境保全をサポートする啓発者(教育者グループ)など，「地方行政基盤」を強化する。

これら3つがお互いに連携し相乗効果を生むことで，将来的に広域生態系保全が実現する環境(enabling environment)をつくる上げることを，プロジェクトのゴール(上位目標)と設定し，この状況を地域レベルで保全を推し進める「地域保全メカニズム」と呼んだ。表 5-2 に地域保全メカニズムの具体的な活動を要約する。

表 5-2 地域保全メカニズムのためのアプローチとプロジェクトの活動

アプローチ 1. 連邦・州の多くの関係機関の連携を可能にする「組織横断的な枠組」を立ち上げる。	
【活動】	(1) 複数の関係機関が連携する根拠となる協力協定の締結 (2) 複数の関係機関が連携方法を模索する調整会議/審議会の設立 (3) 2つの関係機関間で特定の業務を連携する技術協力協定の締結 (4) 保護区周辺の利害関係者による生態系ステーション審議会の設立
アプローチ 2. 連邦・州の多くの関係機関による連携活動を促進する「共通方針」を参加型で作成する。	
【活動】	(1) 関係機関が共有出来る事業政策(ビジョン, 課題, 戦略, 目的, 方法など)の策定 (2) 関係機関が共有出来る運営ガイドラインの作成 (3) 関係機関が共有出来る GIS データベースの構築 (4) 活動のコミットメントを確保するアクションプランの作成
アプローチ 3. 地域住民が主体的に環境保全に取り組むための「地方行政基盤」を強化する。	
【活動】	(1) 自然保護区周辺自治体の環境法の策定支援 (2) 自然保護区周辺自治体の環境基本計画の策定支援 (3) 自然保護区周辺自治体の環境審議会の設立支援 (4) 市立自然保護区の設立支援

5.2. アプローチ毎のプロジェクトの実績

5.2.1 アプローチ 1: 連携を可能にする「組織横断的な枠組」を立ち上げる。

(1) アプローチの背景と問題分析の要約

SNUC では統合型管理の要件として、関連するすべての活動を統合的に実施することを求めている。ジャラポン地域における自然環境保全の実施主体は、連邦レベルでは ICMBio、州レベルではトカンチンス州環境庁(NATURATINS)、バイア州環境庁(INEMA)である。それらの上位には政策策定機関としてそれぞれ連邦環境省(MMA)、トカンチンス州環境持続的発展局(SEMADES)、バイア州環境局(SEMA)がある。さらにトカンチンス州の土地ゾーニングと GIS 情報を統括するトカンチンス計画局(SEPLAN)を加えた7機関と保護区周辺の自治体政府の環境担当課が、ジャラポン地域の環境セクターの関係機関である。これらの機関が個別ではなく、技術的・人的資源を集約させ連携した保全活動を進める組織横断的な枠組が必要だと考えられた。

(2) 課題と解決方法の要約

連携を属人的な意思で行うことは、作業の効率を下げ、また特に人事異動が多い政府機関では持続性が期待出来ない。広域に跨る多くの関係機関が組織の意思で連携し、統合型管理を実施するためには、組織間の取り決めが必要不可欠である。プロジェクトは統合管理のための組織横断的な枠組づくりを、以下の3ステージに分けて行った。各段階では異なった問題意識と目的の下で連携を模索した。

1. 「州の政府関係機関のコンセンサス、環境セクターの統合」ステージ：トカンチンス州で初めてジャラポンに特化した自然環境保全を進める協定を、連邦政府と州政府のイニシアチブにより結ぶ。
2. 「管理レベルと実務レベルの両方による活動の活発化と連携の促進、必要性に応じた2機関協定の締結」ステージ：協定書の枠組を利用して、複数の関係者による定期会議と様々な活動のための個別会議を活発化させる。これにより、個別の

プロジェクトや業務で、実質的な連携を促進する効果を期待する。特定活動のために技術協力協定が必要である場合は、プロジェクトが積極的に支援して2機関協定を結ぶ。

3. 「政府関係機関と自治体、NGO、研究機関などを含めた、連携のための総合的なバックアップ体制の構築」ステージ：政府機関だけでなく、地域住民、民間セクター、NGO、研究機関などを含めて、ジャラポン地域の環境保全のための組織間調整組織を立ち上げる。トカンチンス州に限らず、他の州も順次参加させる。

(3) 主要な成果の要約

以下に本アプローチで達成した主要な成果の概要を示す。

1) 協力協定書

協力協定書の目的は、生物多様性保全を管轄する連邦政府機関とトカンチンス州政府機関の間で、プロジェクト活動に制限せず、ジャラポンの生態系保全の連携体制を構築すること、情報交換を促進すること、また支援体制を構築することなどであった。2010年5月から始まった議論では、農業や地方開発部局も含めた8機関が参加していたが、2010年10月の州知事選挙の結果を受けた組織改編と大幅な人事異動などを経て、最終的にはトカンチンス州知事と5機関の長の間で2011年9月に正式に合意された。署名式典には証人として、州観光庁(AGTUR)長官、州連邦大学長、JICA事務所次長とともに、ジャラポン地域の自治体の代表者が参加した。協力協定書の詳細については表4-3参照。

2) 調整会議とモザイク準備委員会

協力協定書の枠組で規定された定期調整会議を、2011年11月から2013年9月までの間に計6回開催した。2012年からはバイア州環境庁(INEMA)を招き、モザイク準備委員会を同時に開催した。調整会議から派生的に多くの活動の協力・連携が進み、また2機関の間で技術協力協定が結ばれた。

ジャラポン地域においてバイア州側は、最も農業開発が進んでおり開発圧力の最前線である一方、2つの州立保護区が設立されている。一年次の問題分析では、上流部に位置しているため農薬などの化学物質がジャラポン地域へ流入する原因となるなど、多くの負の影響が確認された。広域生態系保全を進めるためには、バイア州を巻き込む必要性は早くから認識されていたため、2010年11月のC/P定期会議には、講師としてINEMAの生態系コリドー課長を招いた。その後、モザイク準備委員会へ至るバイア州との連携が進んだ。

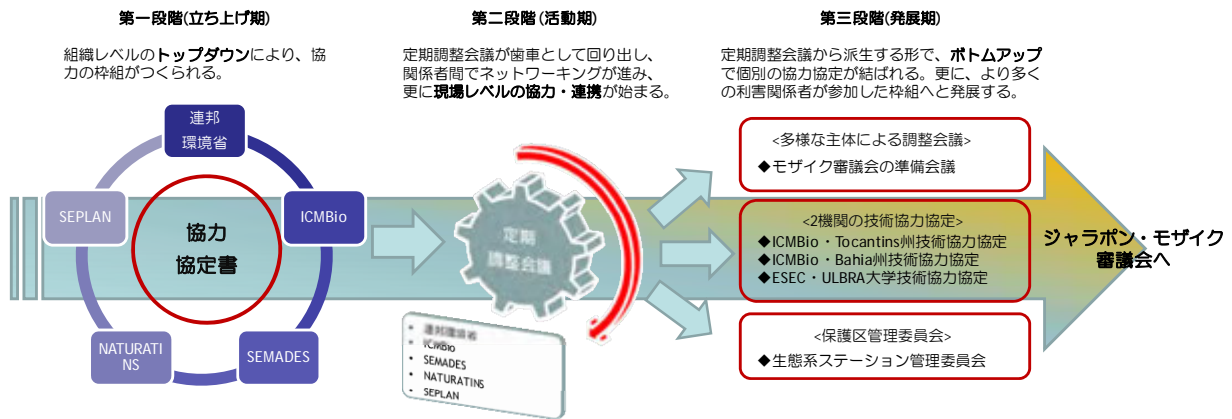


図 5-1 協力協定書からモザイク審議会への発展

3) モザイク審議会

協力協定をより多くの関係者を含めた総合的な枠組へと発展させるため、連邦政府の定めたモザイク関連の法令に則って、ジャラポン・モザイクを正式に設立する手続きを支援した。ジャラポン・モザイク承認のための申請書は、9カ所の保護区の管理者の連名で、2012年10月にMMAに対し提出された。2013年9月には、暫定的にジャラポン・モザイク審議会を設立し、その後2回の準備会議を実施した。図5-2に、モザイク審議会定款に示された審議会の構成を示す。

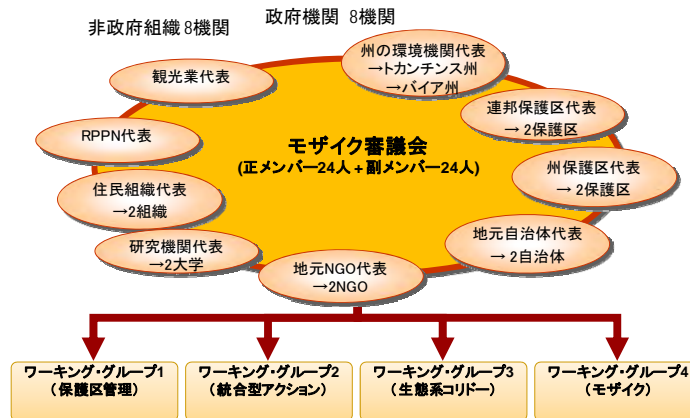


図 5-2 モザイク審議会の構成(暫定)

(4) アプローチの総括, 将来に向けた課題

広域に跨った連携の枠組を発展させるためには、先ずジャラポン・モザイク審議会を正式に設立し、戦略文書をジャラポン・モザイクの共通方針として審議会で承認する必要がある。また同時にモザイク審議会の事務局(担当機関)を選定し、事務局機関は役割を果たすために必要な人的、予算的な措置をとる。関係機関は、人材・機材・経費などの負担について協議し合意する。また活動統合の推進役としてのモザイク審議会定期会議の有効性を向上させる努力が必要である。更にメーリングリストで情報共有を促進したり、サポーター会員制度をつくるなど、ジャラポン・モザイクの人的、経済的な基盤を成長させる活動も必要である。

5.2.2 アプローチ2:連携活動を促進する「共通方針」を参加型で作成する。

(1) アプローチの背景と問題の要約

SNUC では統合型管理の要件として、異なるカテゴリーの保護区を縦割りで管理するのではなく、生態系の地理的な繋がりを考慮することを求めている。「広域生態系保全」では、生態系の地理的な繋がりを考慮した取組を、統合的に実施することが重要であるが、そのための共通の方針(方針、戦略など)がなかった。また情報の収集・分析と、それを踏まえた方針策定は一連のものであるべきだが、方針を策定するための科学的な情報・データが不足していた。更に広域に跨る多くの関係機関間で情報共有が全く行われていなかった。

(2) 課題と解決方法の要約

異なった組織間の協力を進めるには、1)方針を作成するために必要な情報を収集し、2)科学的な根拠に基づいた活動方針を合意し、3)情報と方針を共有する、の3種類の異なる活動が必要である。この分析を踏まえて本アプローチでは、以下のように連続した4つのステージによる共通方針の策定と共有を行った。

1. 「情報の収集と蓄積」ステージ： 一般情報の収集(他の生態系コリドー、モザイク情報、関連政府機関、対象地域の社会経済状況等)、ジャラポンの生態系ベースライン調査、衛星画像(ALOS)の購入と分析、GIS情報の収集を行った。
2. 「情報の整理と分析」ステージ： GISデータベースの構築、優先保護地域の分析、生態系の連続性の分析、新規保護区の設置エリアの分析を行った。
3. 「収集した情報と分析結果を行動へ反映(政策・施策、方針への反映)」ステージ： 関連する法律や政策等を踏まえて、生態系コリドー導入のための方針と方法、また活動計画を示した戦略文書及び活動ガイドラインの策定を、多くの関係機関による参加型で行った。
4. 「情報と方針の共有」ステージ： 適切なフォーマットへ加工した情報及び策定した共通方針を、GISデータベース、アトラス、プロジェクト・ホームページなどで共有した。同時に関係者に対し、情報のアップデートや方針の改訂のためのフィードバックを求めた。

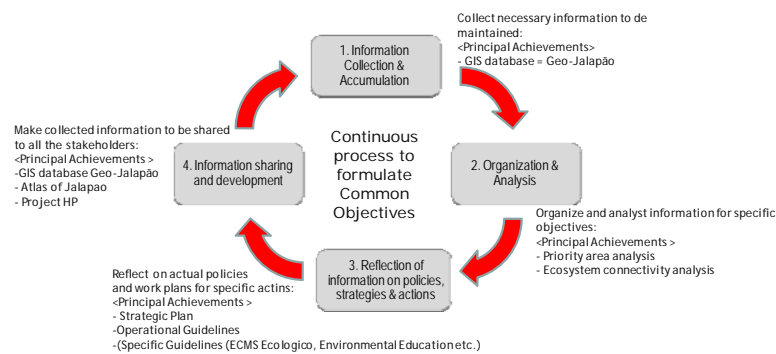


図 5-3 共通方針策定までのサイクル

(3) 主要な成果の要約

以下に本アプローチで達成した主な成果物の概要を示す。

1) GIS データベース “Geo-Jalapão”

広域に跨る多くの人々との情報共有で最も重要視したのは、情報の GIS による視覚化と、インターネットによる共有化であり、またそれに導き出された解り易い方針の策定である。GIS 情報のデータベース化と共有化は、関係者すべてがジャラポン全体を連続した生態系として捉え、統合型管理の必要性を認識するために有用であった。GIS データベースを構築する際に重要視したことは、1) 情報交換に障害のない共通フォーマットでのデータベースの構築、2) オープンソース系 GIS インターフェースを用いたシステムによる追加コストの低減、3) 現場情報を GIS で活用するためのツールの追加と拡張性の確保、4) KML(Google Earth ファイル形式)を用いた情報発信・情報共有であった。GIS データベースとともにインストール・マニュアル、ユーザ・マニュアルも作成した(業務完了報告書(1年次)参照)。GIS データベースは、トカンチンス州計画局(SEPLAN)のサイトに開設したプロジェクト・ホームページで公開中である。

Web-GIS のアドレス: <http://corredor.jalapao.seplan.to.gov.br/jalapao>

2) アトラス(地図帳)の作成

紙媒体の情報は、特にジャラポンの最奥部など、インターネットにアクセス出来ない人々にとって重要である。アトラスはそういった人々との地図情報の共有化を目的に作成された。2011年11月にアトラス第1版を全52ページで作成した。2012年からバイア州の関係機関がモザイク審議会の設立過程に加わり、戦略文書もバイア州の関係機関とともに改訂することになったので、それに合わせてアトラスも改訂した。2013年6月に全85ページで改訂したアトラスには、バイア州側の保護区や、新たに設立した市立保護区(MONACC)の地図も入れ、文章は大幅に加筆・修正した。

3) 保全優先地域の選定(2010年~2011年)

ジャラポン地域は約8万km²と広大かつ人口密度の低い粗放農地であること、特に農業改変圧力が高いこと、保全要員が少なく規制体制が脆弱であること等の課題を踏まえ、保全の優先地域を選定する必要があった。選定上の問題点として1) いかに関生態学的に重要な生息域を特定するか、2) いかに関農業開発圧力の高い地域を特定するか、3) いかに関既存の保護区域(森林法など)が活用出来る地域を特定するか、が挙げられ、更にこれらの総合的な検討による最優先地域の特定が求められた。プロジェクトでは、類似事例の分析、関係者への聞き取りと広範な情報の分析により、保全の優先地域に求められる条件をA. 生態学的条件、B. 社会経済的条件、C. 法律的条件の3つに分類し、更に各条件で個別解析を行った。

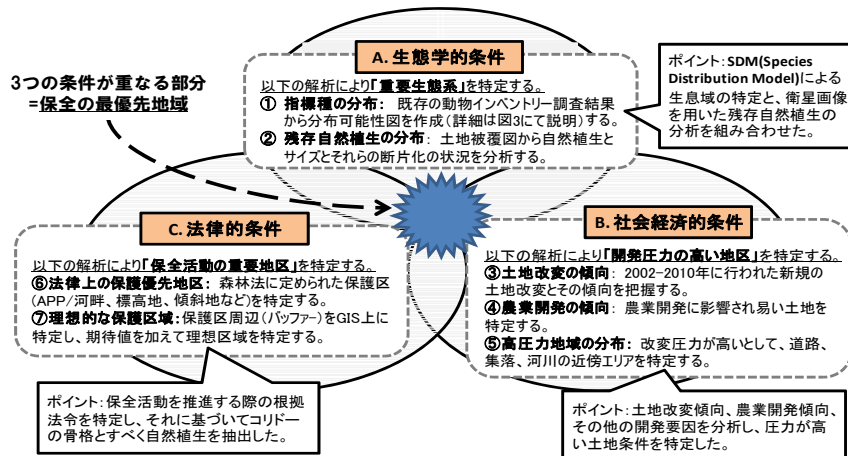


図 5-4 保全の最優先地域の特定

解析では GIS を用いた空間分析を最大限活用し、目的や入手可能な情報に応じてクライテリアとパラメーターを設定し、各種テーマ図を作成した。テーマ図は、最終的にオーバーレイによる比較分析を行い、最優先地域の特定を行った。図 5-4 示した 7 種類の解析の中で、特に種の保全に重要な「A. 生態学的条件」に用いたプロセスを図 5-5 に要約する。

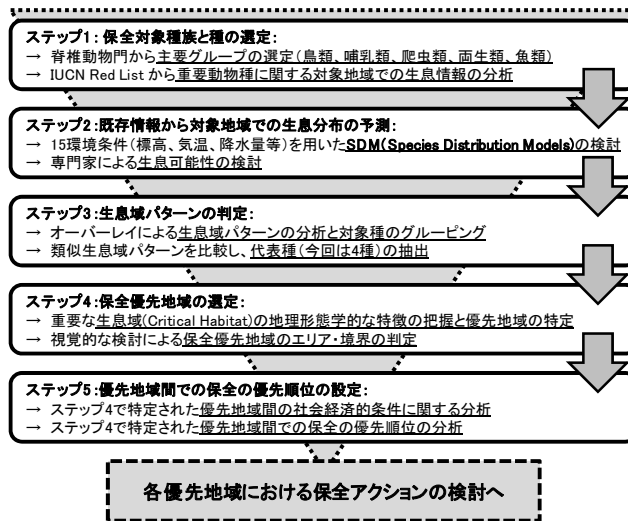


図 5-5 指標種の分布可能図の作成と保全優先地域の特定のプロセス

この技術的提案により、ブラジルでは例の少ない生態系コリドー設定の方法論が、ブラジルの他の地域でも応用可能な簡便な方法として示された。また広大なジャラポン地域で、今後の保全活動の選択と集中を可能にする優先地域が具体的に示され、更にそれらの保全優先順位が明確になり関係者で共有された。図 5-5 に示したプロセスの結果得られた保全優先地域を、図 5-6 に示す。

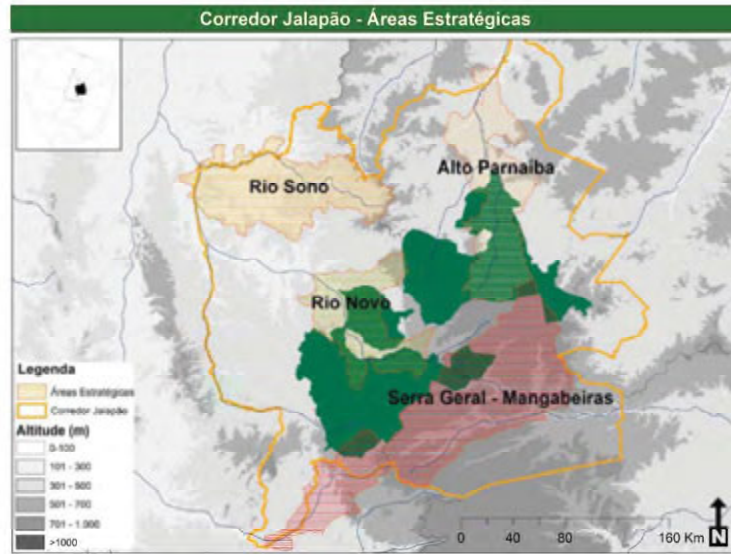


図 5-6 生態学的クライテリアによる 4 箇所の保全優先地域

4) 生態系のコネクティビティの分析 (2012 年)

2012 年は、新たに「システムチック・コンサベーション・プランニング」の手法を導入し、更に詳細な保全優先地域の分析を行うとともに、自然保護区並びに残された自然植生の連続性を保つために必要なギャップ分析(Gap Analysis)とコネクティビティ分析(Connectivity Analysis)を行った。本分析では、特に 1) 保護区間の連続性を向上させることによる保全機能向上の可能性を、複数のシナリオで比較検討する、2) バイア州のヒオ・プレト環境保護区(APA Rio Preto)の中に、新たな完全保護区を設定するための、最適なエリアを特定する、ことも目的であった。分析は主に無料で入手出来る *Connectivity Analysis Toolkit* (CAT) と MARXAN を使って行われた。分析結果の一部を図 5-7 に示す。詳細は付属 CD「主要な成果品 1.7」を参照。

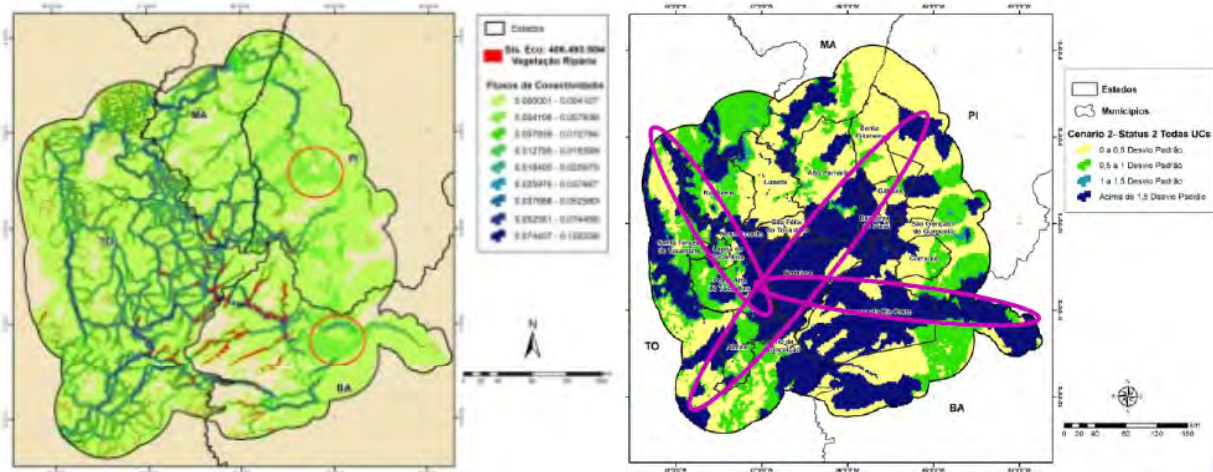


図 5-7 コネクティビティ分析の結果の例

[8c]

5) 戦略文書

戦略文書は、上述したすべての分析結果の内容を反映させた集大成と位置付けられる。数度の改訂を経て、最終的にはよりシンプルにした4章構成の全84ページとした(表5-3)。戦略文書は、付属CD「主要な成果物1.5」を参照。

表 5-3 戦略文書の構成

Capítulo 1: Gestão Integrada das Áreas Protegidas	
	1.1. Corredor Ecológico 1.2. Mosaico de Áreas Protegidas 1.3. Reserva da Biosfera
Capítulo 2: A Região do Jalapão	
	2.1. Contexto Geral 2.2. Diagnóstico para a conectividade biológica do Jalapão 2.3. Diagnóstico de contexto socioeconômico 2.4. Análises de pressões e ameaças 2.5. Definição das instituições envolvidas
Capítulo 3. Plano Integrado de Ações Estratégicas	
	3.1. Apresentação e procedimentos 3.2. Missão, Visão de Futuro e Objetivos do Mosaico do Jalapão 3.3. Plano Integrado de Ações Estratégicas
Capítulo 4: Diretrizes Operacionais	
	4.1. Sistema de governança 4.2. O conselho consultivo do Mosaico do Jalapão 4.3. Orientações para o conselho consultivo do Mosaico do Jalapão 4.4. Mecanismo de monitoramento 4.5. Mecanismo de divulgação e comunicação 4.6. Mecanismos financeiros para a implementação do plano integrado de ações estratégicas

6) ガイドライン

プロジェクトが中心となって作成したガイドラインとしては、統合型管理に関する「運営ガイドライン」を戦略文書第4章に記述し、また成果4の一環で取り組んだ環境保全のための教育者グループ養成研修の方法論等を取りまとめた「環境教育リーダー養成ガイドライン」を出版した。更にトカンチンス州の環境局(SEMADES)が中心となって作成し、プロジェクトが出版などを支援したものとして、「ICMS Ecologico ガイドライン(改訂版)」と「プロジェクト形成マニュアル」がある(付属CD「主要な成果物1.9, 10」を参照)。

(4) アプローチの総括, 将来に向けた課題

「情報の収集と蓄積」、「情報の整理と分析」、「収集した情報と分析結果を行動へ反映(政策・施策, 方針への反映)」、「情報と方針の共有」は一連の作業であり、継続的なプロセスであるべきである。つまり、新たな情報を収集・整理・分析し、それを基に活動方針を絶えず発展させて行く、一連の活動の繰り返しが必要であり、そのプロセスの繰り返しによる「スパイラル・アップ」により、情報収集と方針策定の総合的なスキルが将来的に向上して行くし、またより多くの関係者を巻き込む事が出来る(図5-8参照)。

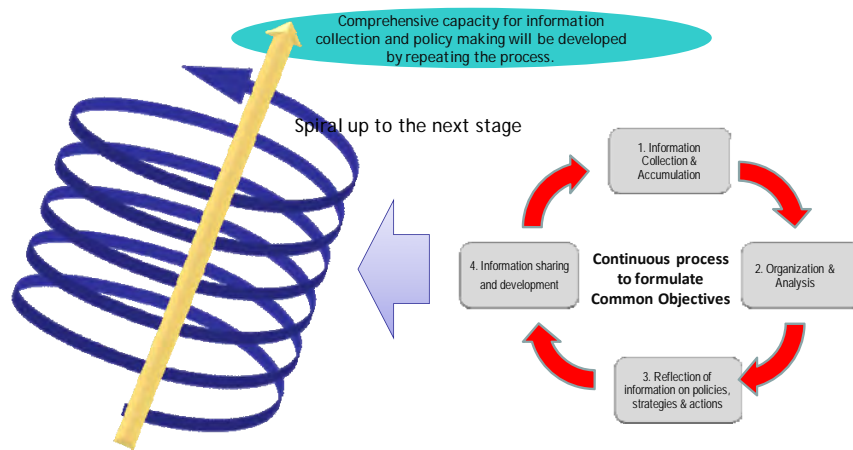


図 5-8 共通方針策定までのサイクルとスパイラルアップ

5.2.3 アプローチ 3: 環境保全に取り組むための「地方行政基盤」を強化する。

(1) アプローチの背景と問題の要約

広域生態系保全の実現には、保護区を管理する各政府関係機関だけでなく、地域の環境管理を担うべき市と地域住民の参加が必要不可欠である。その取組みを進めるためには、市政府（行政）と地域住民（民間）が一体となり人的資源・財政資源を集約させ、長期的視点に立った計画的な保全活動を実施する参加型環境管理の実現が肝要であると考えられる。「エコシステム・アプローチ」においても、その 12 原則の中には「管理の地方分権化」、「地域社会による選択と住民参加」、「ボトムアップとトップダウンの組み合わせ」など、生物多様性保全には市政府（行政）と地域住民（民間）の主体性が欠かせないことが示されている。

しかしながら、プロジェクト開始以前のジャラポン地域周辺の市では、環境活動の法的根拠となる制度の未整備、且つ、環境活動を担う人（組織）的・財政的資源の不足など、生物多様性保全のための地方行政基盤がほとんど整備されておらず、環境保全のための活動を実施していなかった。また、多くの地域住民は環境に無関心であったことが問題視されていた。

(2) 課題と解決方法の要約

前述した広域生態系保全の概念を基に、ジャラポン地域の周辺市が抱える地域特有の課題を特定するため、プロジェクトでは第 1 年次（2010 年）に問題分析及び目的分析を行った。その結果、参加型環境管理を支える地方行政基盤を整備することが緊急の課題であることが判明した。以下に、本プロジェクトで対処すべき課題、及び課題に対する具体的な支援を示す。

1. 参加型環境管理の行動規範の整備：市環境関連法規の整備，市環境管理基本計画の策定，環境保全交付金合意書の策定，環境保全交付金基金の整備，市立保護区の設立

2. 参加型環境管理の行動指針の整備：市環境管理基本計画の策定
3. 参加型環境管理の実施者の体制・機能強化：市環境審議会及び市環境課に対する個人・組織の体制・能力強化支援

[体制強化]

- (1) 市環境審議会の設立及び体制強化支援
- (2) 市環境課の体制強化支援

[能力強化]

- (1) 組織マネジメント能力向上支援
- (2) 計画策定/実施/モニタリング・評価能力向上支援
- (3) 財政管理能力向上支援

4. 地域住民が参加型環境管理を理解し参加するための意識啓発：小・中学校教員に対する環境教育リーダー研修

(3) 主要な成果の要約

本アプローチでは、市の行動規範となる環境関連法令を再整備しながら、行動指針となる環境基本計画を策定し、行動実施者となる環境審議会、市環境課及び地域住民の体制整備と能力強化を行った。その結果、市の地方環境行政基盤が整備され、関連する様々なアクターによる参加型環境管理体制・能力が強化された。図 5-9 に、本アプローチの概念図を示す。

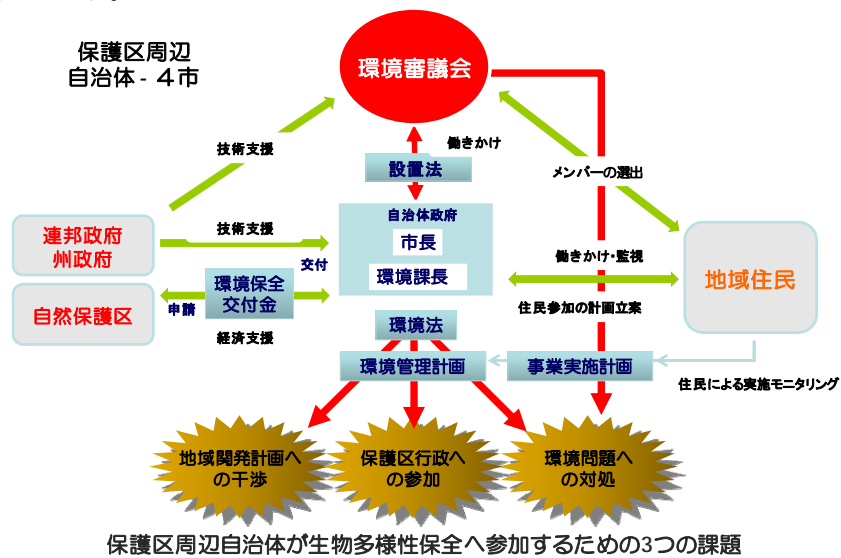


図 5-9 本プロジェクトが構築した地方行政基盤の概念図

プロジェクト開始前には、図の中心に位置する市環境課がかろうじて存在する状態であったものが、プロジェクト活動を経て、その他の行政基盤が整備され、矢印に示されるような相互作用が始まった。その結果、下方に示される三つの喫緊の課題「連邦・州

政府による開発計画への関与」「保護区行政への参加」「集落の環境問題(ゴミ問題や不法伐採など)への対処」が可能となった。図 5-10 に、プロジェクトの支援プロセスをフローで示す。

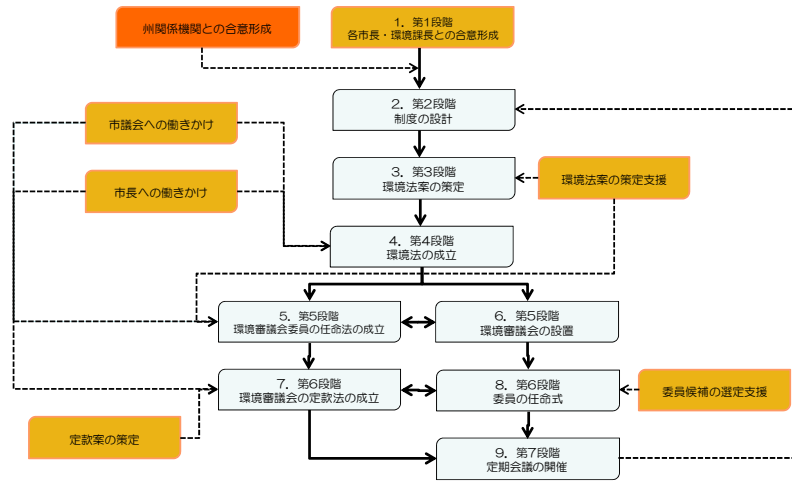


図 5-10 地方行政基盤を整備するためのプロジェクトの支援プロセス

1) 市環境関連法の策定支援

プロジェクトでは、市の行動規範となる市法令のうち、環境審議会設立(4市で達成)、新たな市環境課設立(1市で達成)、及び環境保全交付金の適正利用に係る合意書(4市で達成)、及び新たな環境保全基金設立に関する法令(1市で達成)の整備を支援した。また、環境審議会設立後は、審議会内規 (regiment interno) の策定・改訂(4市で達成)、審議会メンバー承認文書 (termo de posse) の策定支援(4市で達成)を行った。

2) 市環境基本計画の策定・実施支援

プロジェクトの支援により、4市において初めて環境基本計画が策定された。本計画は、長期計画(5年計画)と短期計画(年間活動計画)で構成され、市の環境管理活動を行うにあたっての行動指針となるものである。長期計画は、市が目指す環境都市像(ビジョン)、5年間の環境プログラム及び活動計画で構成されている。短期計画(年間活動計画)は、年間活動計画(事業計画)と活動予算(財政計画)で構成される。この基本計画には、市独自で実施している環境活動に加え、市内で実施されている組織・団体の環境活動が包括され、連邦・州保護区及びジャラポン・モザイク活動への参加・協力に係る活動も組み込まれており、市内の環境活動マップの役目も果たしている。

この環境基本計画の策定により、これまで場当たりに実施してきた環境活動の戦略的かつ計画的実施が可能となり、また、これまで用途不明であった環境保全交付金が環境基本計画(年間活動計画)に則り計画的に使用されるようになった。また、プロジェクトでは、短期計画(年間活動計画)の実施状況を定期的に管理するモニタリング体制・手法について技術支援を行い、市環境課及び環境審議会によるモニタリングが定期的に行われるようになった。

3) 環境審議会の設立・活動支援

プロジェクト対象4市において、環境審議会が設立された。市の環境審議会のメンバーは、市役所、住民組織、市内にある連邦・州保護区の代表から構成され、参加型環境管理のプラットフォームの役割を担う。

プロジェクトでは、審議会の設立支援後、組織運営能力の強化、並びにモデル事業の実施過程でOJTにより審議会の活動実施能力の向上を支援した。このモデル事業は、環境基本計画に含まれる活動であり、モデル事業の実施は基本計画の実施能力向上支援としても行われた。

4) 環境保全交付金の適正管理支援

プロジェクトでは、市環境課及び環境審議会が環境活動を実施する際の財源確保を目的に、環境保全交付金（ICMS-Ecológico）の適正利用化を支援した。プロジェクトの支援前は、市は交付金の意義、交付金額、管理方法などについて理解が乏しく、本来環境活動に使用されるべき交付金の使途は不透明であった。

そこで、プロジェクトでは、交付金の管理部署である市の環境課と財政課、及び交付金の監査機関である市環境審議会に対し、交付金の意義、算定方法、管理方法について意識啓発活動を実施した。その後、交付金の適正利用化に係る合意書（Termo de Compromisso）策定を支援し、その結果、交付金は環境基本計画に則って環境活動に計画的に使用されるよう義務付けられた。この合意書のひな型は、州の環境保全交付金ガイドラインにも盛り込まれ、州内の全139市（市）に広く周知された。

以上の一連の活動により、交付金の資金の流れが透明化され、交付金が計画的に環境活動に使用されるようになった。図5-11に、プロジェクトの支援プロセスをフローで示す。

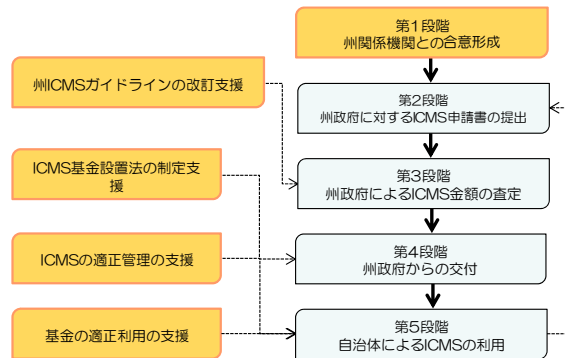


図 5-11 環境保全交付金の適正管理のためのプロジェクトの支援プロセス

5) 環境教育の実施とガイドライン策定支援

上記の市環境審議会、市環境関連部署は市における環境活動の指針を決定する政策決定に携わる組織である。ここで決定された環境活動を地域で広く展開していくためには、地域住民が環境問題に対する理解を深め、自発的な環境活動への参加・協力が肝要である。

そこで、プロジェクトでは、地域住民の環境活動への意識啓発を促進する目的で、特

に市の義務教育課程（初・中等教育）での持続的な環境教育の実施を目指し、教員を対象に環境教育リーダー研修を行った。研修では、連邦(ICMBio)・州保護区、大学、州関係機関が指導者となり、環境教育概要にかかる理論的な講義から、環境教育活動計画の策定、活動実施手法、モニタリング・評価手法にかかる技術指導が計画的に実施された。この環境教育のリーダー養成研修は ASAs と呼称され、これらの経験及び実施手法は、「ASAs-環境教育ガイドライン (Cartilha de Programa do ASAs do Jalapao)」にまとめられた。ガイドラインは、ASAs 手法の画一化、並びに他地域への ASAs 手法の普及を目的に連邦・州・NGOs の環境教育実施者、及び市関係者に共有された。

ASAs の活動は、プロジェクト対象 4 市の環境基本計画の活動にも含まれており、今後、連邦 (ICMBio)、大学、州関係機関、及び市と教員グループの協力により、プロジェクト終了後も継続して実施、展開されていく予定である。

(4) アプローチの総括、将来に向けた課題

本アプローチの柱となるローカル環境保全ガバナンスの推進には、市 (Município) が、環境行政を自ら政策決定・実施していくための体制と能力をつけることが肝要であった。この点において、プロジェクトでは、本アプローチの初期目標は達成できたといえる。これらの成果は、プロジェクトチームのみならず、対象市周辺の連邦・州保護区、大学、州関連機関などとの協働によるところが大きかった。今後の課題としては、以下の事項が考えられる。

1) 個人から組織へ

今後、本アプローチで整備された体制が持続的に運営・管理されていくことが期待されるが、支援の対象となった市では、まだまだ組織というよりも属人的に活動が行われている様子が見受けられる。他方、新たに導入された体制・組織が定着していくためには、活動実施者が試行錯誤を繰り返し経験と知見を蓄積していく必要があり、一定の時間を要するのも事実である。そのため、各市関係者には、今後、新たな制度・組織体制が定着するまで、個人の能力や場当たりの判断を基準とするのではなく、本アプローチで整備された環境関連法令、環境管理基本計画、環境保全交付金に係る合意書、及び環境教育ガイドライン等といった行動規範・指針に則ることで、活動を継続的に計画的に行っていくことを期待する。

2) 市の能力向上支援

現状としてジャラポン地域周辺の市は環境活動を計画的に実施するだけの能力が不足している。しかしながら、これは住民の意識不足や経験不足が大きく影響していると思われ、実際、本アプローチの支援対象となった 4 市 (Ponte Alta, Sao Felix, Rio da Conceicao, Mateiros) の支援後の変化 (効果) は目覚ましいものがあつた。

この点において、ジャラポン地域、ひいてはトカンチンス州の市の環境管理能力の向上を考えるにあたり、今後、市の能力向上をマנדートとする州の関係機関がイニシアチブをとり、市に対する能力向上支援策を打ち出し、計画的に連邦・州・民間機関と協働し支援を実施していくことが期待される。

第 6 章 プロジェクトの総括、教訓、提言

6.1. プロジェクトの総括(プロジェクトが達成したこと)

6.1.1 プロジェクト目標を踏まえた総括

本プロジェクトが目指したキャパシティ・ディベロップメント(CD)とは、職員や地域住民などアクター個人の能力向上だけでなく、環境保全活動を進めるための組織体制や方針、更に地方自治体の行政基盤など、生態系コリドーの導入・実施に必要な総合的な体制の強化であった。そのためにプロジェクトでは、第5章で述べたとおり3つのアプローチを定め、広域生態系保全の基礎となる「地域保全メカニズム」づくりに取り組むと同時に、ICMBio と関係機関の職員の能力向上を実施した。その結果、44 カ月間という限られた期間と本報告書添付資料 1 に示される投入で、所期の目標はすべて達成し、更に多くのインパクトを生む事が出来た。

6.1.2 上位目標を踏まえた総括

プロジェクトが期待する上位目標の達成は、プロジェクトが構築した「組織横断的な枠組」により、関係機関が組織的なコンセンサスの下で連携・協力しながら、「共通方針」により場当たりのではなく計画的な広域生態系保全を実現させ、更に参加型の「地方行政基盤」により、自治体政府が環境保全の主要なアクターとなり、また住民も自ら進んで保全活動に参加している。加えて地域住民が連邦・州・自治体による地域開発の意思決定に関与出来るようになってきていることであり、ジャラポンで広域生態系保全が実現している姿である。プロジェクト活動の推進に際しては、PDMにある5つの成果を独立したものでなく、互いに密接な関係性を持たせる事に留意した。これにより、プロジェクトが導入・強化した「組織横断的な枠組」「共通方針」「地方行政基盤」などが、お互いに連携し相乗効果を生むことで、将来的に広域生態系保全が自然に進む環境(enabling environment)が実現することが期待される。

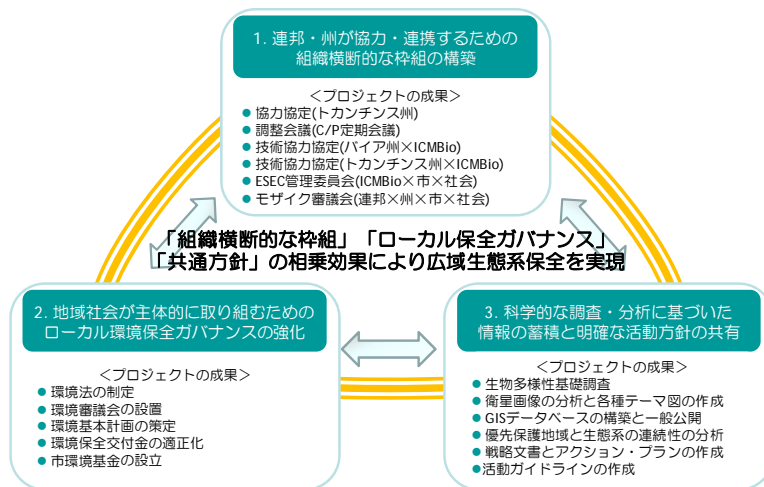


図 6-1 広域生態系保全へのプロジェクトの貢献

6.2. プロジェクト実施運営上の工夫、教訓

6.2.1 プロジェクト実施運営上の工夫

(1) 実施能力に見合った活動計画への柔軟な変更

セハ・ジェラウ生態系ステーションやパラナイバ河上流域国立公園では、プロジェクト専門の要員はおらず、すべての活動は通常業務との兼務となっている。両保護区の人員や予算は限られているため、PDM で予定された多くの活動を実施する事が困難であることが1年次に判明した。

2年次以降の活動では、両保護区の持つ人的・予算的な制約を考慮した上で最優先の活動を取捨選択するとともに、一部活動を本部 C/P の担当へと変更するなどの工夫をした。更に両保護区の C/P の考え方や関係機関のニーズなどを反映させてコミットメントを確保した上で、PDM を大幅に変更した。

(2) 保護区の管理体制の強化への関与

生態系コリドーは、保護区間で生態系の連続性を向上させる事を目指しており、その導入はコアとなる保護区の保全が適切に為されている事が前提である。しかしながら、コアとなるセハ・ジェラウ生態系ステーションやパラナイバ河上流域国立公園での保全が十分に機能しているとは言えない状況であった。例えば両保護区とも公園管理計画は作成されておらず、また土地の取得は生態系ステーションで約3%、国立公園で0%しか進んでいなかった。

生態系コリドーを実現するには、先ず保護区保全のための体制整備や能力強化が必要不可欠である。当初の PDM では想定されていなかったものの、保護区管理委員会の設立や公園管理計画の作成など、プロジェクトの枠組みの中で保護区管理に直接的に関与した。

(3) 移動の難しさを考慮した活動の優先化と取捨選択

ジャラポンは交通インフラが未発達で、大半が未舗装路であるため移動には長時間を要し、雨季には移動が極めて困難となる。またすべての C/P は地理的に離れており、例えば2つの保護区事務所は陸路で7時間の距離である。更にすべての現場への移動は宿泊が伴い、出張するには2週間前の事前申請が必要なため、柔軟なスケジュール調整は困難であった。

移動の難しさを考慮して、C/P 定期会議は負担を最低限とするため、メールや電話を活用して年2-3回へと減らすことや、プロジェクトの対象自治体を IC/R で定めた2つの保護区を繋ぐ地域に限定せず、ヒオデコンセイソン市など ESEC 事務所があり、アクセスも容易な自治体も含めるなど、移動の難しさを考慮した活動の取捨選択を行った。

6.2.2 プロジェクト実施運営上の教訓

(1) 頻繁な人事異動に対応した活動計画と実施体制の見直し

本プロジェクト期間中、2010年に州知事選挙が行われ、2012年には市長選挙が行われ、政権交代による各政府の主要人事が一新された。多くの場合は前任者からの引き継

ぎは行われず、また必ずしも分野や業務に精通した人材でなかった。プロジェクトでは、その都度多くの時間と労力をかけ、すべての関係者を個別に訪問し、新たな信頼関係を築くとともに、プロジェクト活動への理解と参加を得る事に成功した。

ブラジルにおいては、政府機関の人事異動による活動の停滞と混乱は避けられないものであり、プロジェクト実施者にとり極めて大きな負担となる。ブラジルでプロジェクトを実施する以上、それは外部条件としてではなく前提条件として明確に認識すること、人事異動後の変化を想定しながら臨機応変かつ大胆にプロジェクト内容を調整して行くこと、余裕を持った活動計画を作成することが重要である。

(2) 組織間での連携条件の明確化と正式な合意

本プロジェクトでは、組織間連携を促進するため、先ず 2011 年 9 月に ICMBio 総裁、トカンチンス州知事、州環境庁 (SEMADES) 長官、州環境公社 (NATURATINS) 総裁など、多くの関係者が一堂に会して協力協定書を結んだ。初めてジャラポンを対象に、連邦・州が協力して実効的な保全に取り組む画期的な合意であった。その後、ICMBio とトカンチンス州環境庁 (SEMADES)、また ICMBio とバイア州環境局 (SEMA) との間で技術協力協定が結ばれ、また生態系ステーションと ULBRA 大学との間で環境教育に関する協力協定が結ばれた。これらの協定をプロジェクトの最重要事項の一つとして、プロジェクト活動の早い時期に結べたため、その後の連携がスムーズに進んだ。

正式な協定を結ぶためには多くの調整と忍耐が必要であるが、組織間の連携を進めるためには、現場レベルで協力や連携を進めるだけでなく、組織レベルで連携方法と各種の条件等のルールを協議し、それを明文化して正式に合意することが必要不可欠である。

(3) 各組織の長のコミットメントの確保

本プロジェクトの成功要因の一つは、トカンチンス州政府機関のトップ並びに各自治体の首長のコミットメントを確保出来たことである。JICA 専門家は、プロジェクト実施レベルとだけでなく、同時に各組織の長と直接コミュニケーションをとり、定期的プロジェクト活動の進捗を共有するとともに、更なるコミットメントを働きかけた。これによりプロジェクトに対する信頼を得る事ができ、各機関の予算が限られる中で出張費がスムーズに出るなど、活動を計画通りに推進する上で大変重要であった。

(4) JICA 専門家と ICMBio の C/P との良好な信頼関係

プロジェクト関係者は、ブラジリア (ICMBio 本部) とジャラポン (保護区)、パルマス (JICA 専門家) と物理的に離れており、特にジャラポンは通信環境も悪いため、直接会う機会は限られ、また円滑にコミュニケーションを取る事は困難であった。そういった条件下で、プロジェクトを進める中で日常的に起こるトラブルに対応し、大小様々な決断を行うには、JICA 専門家と ICMBio の C/P との間に良好な信頼関係があることが極めて重要であった。良好な信頼関係により、お互いの誤解を避け、プロジェクト内部の人間関係による阻害要因が最少となった。

(5) 地域住民に対する JICA 専門家の直接的且つ継続的な関与

本プロジェクトで最も困難であった活動は、3 年間という限られた期間で、環境を守るための基本法律も持たず、今まで全く保全活動を実施していなかったジャラポン周辺

の自治体で、環境条例の起案から成立、環境審議会の発足までを行い、環境保全のローカルガバナンスのための基盤を迅速に整える事であった。

JICA 専門家とブラジル人コンサルタントは、周辺保護区と協力しながら、ジャラボン地域の6つの自治体を定期的に訪れ、約2年間かけて4つの市で環境条例の成立、環境審議会の発足までを達成した。保護区周辺の自治体は人口が1500人～7600人程度と小さく、またほとんどが未舗装路で孤立しており、州政府関係者もあまり頻りに訪れていなかったが、JICA 専門家が直接的且つ継続的に活動に関与したことにより、関係者の信頼を獲得する事に成功し、更に各自治体の状況を正確に把握しながら活動を進める事が出来た。

(6) 組織間を調整するための技術向上

本プロジェクトの成果2の趣旨は、統合型生態系保全を推進するための組織間調整組織の立ち上げと運営であった。したがって能力向上(CD)で期待される技術として、連携プロジェクト運営の方法、様々なステークホルダー間の調整の方法などを、活動を実施する中で On the Job Training(OJT)として能力向上を行った。その結果、連邦・州・自治体間の調整能力が向上し、異なった組織間の連携が日常的に行われるようになった。

生物多様性保全では、地方行政を巻き込んだ参加型のアプローチが重要であり、本プロジェクトでも、ICMBioには生態コリドー・モザイク政策を実施するための組織間調整の役割が期待されていた。組織間調整を一つの技術として明確に認識すること、コミュニケーション手法や情報発信媒体の作成などを重点として技術力を高めること、更にワーキング・グループを通じて様々な分野活動におけるリーダーを発掘・養成する作業が重要である。

(7) ブラジル人コンサルタントの活用

本プロジェクトでは、日本人専門家の数を最少限とし、その代わりに現地に精通し技術力の高いブラジル人コンサルタントを、延べ12名雇用し多くの成果を上げた。そういった高い技術と地元で精通したコンサルタントを、幅広い経験を有するJICA 専門家が監理することにより、最大限の効果を発揮することに成功した。

特に情報管理やデータベース開発等は世界標準で行われており、ブラジルでも高い技術を持った民間技術者が育っている。経費やアフターサービス等を含めた継続性の確保のため、また各機関においては現地のサポート体制を確立し技術的自立発展性を高める意味において、現地コンサルタントを積極的に活用すべきである。

6.3. 今後の生態系コリドー保全政策を推進する上での提言

(1) 経済的自立発展性に資するメカニズムの導入(経済的持続性の確保)

本プロジェクトでは、資金調達能力の向上(ファンドレイジング)を最重要視し、環境交付金(ICMS Ecologico)の申請から利用までを環境審議会において行う枠組を導入し、更に資金的独立性を担保する環境基金の立ち上げや、環境交付金の一定の額をプロジェクトの支援で作成した「環境基本計画」に使用する割合を定めた合意書(Terms of Commitment)へ市長が署名するなど、経済的持続性を高める事にも成功した。

生物多様性保全の活動は、それ自体が収益を生む構造になっておらず、外部からの資金サポートを前提に実施されている例が多い。活動を継続するためには、プロジェクトレベルで経済的自立発展性を高める事が重要であり、そのための活動をプロジェクト計画に内包させる事が必要である。例えば補助金など外部からの資金調達メカニズムを確保することや、ファンドレイジングのためのキャパシティ・ディベロップメントそのものを目的とした活動を導入することが必要である。

(2) 自治体をベースとした保護区の設立

プロジェクトではトカンチンス州で初となる SMUC(自治体保護区システム法)を成立させ、更にそれを根拠とした市立保護区を新たに設立し、その後公園管理計画の正式承認までを支援した。迅速な保護区設定により、小規模ダムの計画が取り消されるなど、既に効果が現れている。更にこれらの一連の活動に対し近隣の自治体の反響が大きく、彼らの要望で4年次には先進地視察が実施されるなど、モデル保護区としても機能を始めている。

管理主体が地元の自治体になることにより、自治体政府の保護区のオーナーシップを高め、また住民による監視などの協力を得やすくなり、地域が主体となった管理が実現する。また連邦や州が関心を示さないような狭い地域での設定や、環境教育やエコツーリズム振興など地域の期待とニーズに対応した目的とするなど、オーダーメイドで保護区を設立する事が出来る。更に連邦では数年かけて設立される保護区が、今回は実質一年で設立されるなど、保護区に関連した意思決定が迅速になると期待出来る。保護区面積の増加は、生物多様性保全上大変重要かつ、通常は極めて困難なタスクである。自治体を主体としたアプローチは効率的且つ効果的である。

(3) プロジェクト活動の継続と生物多様性保全への貢献

本プロジェクトでは、ジャラポンにおいて地域保全メカニズムを構築するための様々な活動を実施し、協力協定書などの組織横断的な枠組、ガイドラインなどの共通指針、環境条例や審議会などの地方行政基盤を立ち上げた。それらはプロジェクト終了後も継続的に活動を実施する事により、生物多様性保全のツールとして有効に機能するものである。また本プロジェクトが引き出した関係者のコミットメントは、継続的に活動を実施しないと容易に失われる恐れがある。したがって、主要なプロジェクト活動の継続が必要である。

(4) 連邦政府によるジャラポン・モザイクとモザイク審議会の正式化

本プロジェクトでは、モザイク審議会の組織化や定款作成などを行ったが、連邦環境省(MMA)によるジャラポン・モザイクの正式な承認が遅れていることにより、その機能が効果的に果たせない状況にある。承認はジャラポンの知名度を上げ、関係者に保全の誇りとモチベーションを与えるなど、活動推進にポジティブな影響を及ぼす。更に将来、国や外国政府から資金的支援を得る根拠となり得る。プロジェクト関係者の3年間の努力を無駄とすることのないように、MMAは正式な承認を急ぐことを強く提言する。

(5) 生態系ステーションの経済的な自立発展性の向上

観光客を受け入れる国立公園とは異なり、生態系ステーションの主要な目的は、学術

的な調査研究の場の提供である。その目的を果たすため、調査研究の場として積極的に広報し、研究者への便宜供与(リサーチステーションの設立や公園整備等も含む)など、サービス内容を再検討し、様々な収入確保のための活動を展開するなど、ICMBio は財政的に自立できるような仕組みづくりの努力をすべきである。

(6) 情報フォーマットの統一化と政策への反映

広域生態系保全には、ある一定のフォーマットに則った自然環境情報を、広範に集めることが必要とされる(例えば植生情報ばかりで動物情報がなければ、政策に反映するのが難しい)。プロジェクトが作成した情報フォーマット(GIS データベース)を発展させる形で、今後の情報を一定のフォーマットに統一させ、集められた情報が幅広いセクターにおける政策策定に利用されるための環境を整える事が重要である。

第 7 章 技術移転/キャパシティ・ディベロップメント (CD)

7.1. キャパシティ・ディベロップメント計画

第 2 章で述べたとおり、本プロジェクトの結果期待される能力向上は、「個人レベル」「組織レベル」「地域/社会レベル」の 3 つのレベルにおける総合的な能力向上であった。2010 年 4 月のプロジェクト開始時には、プロジェクトの実施後に期待される変化を、テクニカル・キャパシティ²とコア・キャパシティ³に分けて特定し、「キャパシティ・ディベロップメント (CD) 計画表」に取りまとめた。表 7-1 にその要約を示す。

表 7-1 キャパシティ・ディベロップメント(CD)計画表の要約

成果	CD の技術	CD の方法	CD の対象	CD の結果期待される変化 (テクニカル・キャパシティ)	CD の結果期待される変化 (コア・キャパシティ)
[成果 1]	<ul style="list-style-type: none"> - 情報収集 - GIS データベース構築・操作技術 - HP 構築・利用技術 - GIS 解析の手法 - 広報の手法 - 情報共有・発信の媒体の作成 	<ul style="list-style-type: none"> - 活動実施に伴う OJT - GIS データベース / Web-GIS 再委託先との協働 	<ul style="list-style-type: none"> <個人(組織)レベル> - ICMBio スタッフ (保護区事務所, 本部関係部署) - 関係機関スタッフ(保護区事務所, 本部関係部署) 	<ul style="list-style-type: none"> <個人レベル> - 情報管理能力が向上する。 - 情報発信能力が向上する。 - 情報発信媒体が作成出来るようになる。 <組織レベル> - 情報管理のシステム(データベース)が構築される。 - 情報発信媒体(HP その他)が整備される。 - 情報管理・共有に必要な機材が整備される。 	<ul style="list-style-type: none"> <個人レベル> - 生態系コリドー保全に関する理解が深まる。 - 情報整備・共有の重要度が認識される。 - 関連活動に対するコミットメントが熟成される。 - プロジェクトに関して外部へ説明できる。 - 手法・ツール・人的資源について外部へ説明できる。 <組織レベル> - 情報収集と情報共有に対する関係機関の組織レベルのコミットメントが熟成される。
[成果 2]	<ul style="list-style-type: none"> - JREC 実施のための組織的連携の促進手法 - JREC の運営手法 	<ul style="list-style-type: none"> - 活動実施に伴う OJT - 専門家との会議・ワークショップの実施 	<ul style="list-style-type: none"> <個人(組織)レベル> - ICMBio スタッフ (保護区事務所, 本部関係部署) - 関係機関スタッフ(保護区事務所, 本部関係部署) 	<ul style="list-style-type: none"> <個人・組織レベル> - コリドーレベルの関係者(機関)の調整能力が向上する。 - トカチス州レベルの関係者(機関)の調整能力が向上する。 - 市レベルの関係者(課)の調整能力が向上する。 - 分野課題ごとの調整能力が向上する。 <組織レベル> - JREC 全体をカバーする審議会が設立される。 - 分野課題を調整するワーキンググループ/関係者ネットワークが設立される。 - 保護区管理委員会が設立される。 	<ul style="list-style-type: none"> <個人レベル> - 分野課題を中心に関係者の連帯意識が高まる。 - 関連活動に対して、特に意思決定レベルのコミットメントが熟成される。 <組織レベル> - 審議会を通じて、関係機関の組織としての連帯が高まる。 - 分野課題を中心とした関連活動に対する関係機関の組織レベルのコミットメントが熟成される。
[成果 3]	(研修テーマ) <ul style="list-style-type: none"> - GPS の活用 - Web-GIS の利用 - RPPN の設置促進 - 類似案件との技術交換 - 本邦研修, 第三国研修 	<ul style="list-style-type: none"> - 活動実施に伴う OJT - 研修プログラムの実施 - セミナーの実施 - 技術交換の実施 - 本邦研修, 第三国研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> <個人(組織)レベル> - ICMBio スタッフ (保護区事務所, 本部関係部署) - 関係機関スタッフ(保護区事務所, 本部関係部署) 	<ul style="list-style-type: none"> <個人レベル> - GPS, Web-GIS が活用出来るようになる。 - RPPN, 他の生態系コリドープロジェクトに関する理解が深まる。 - 研修・セミナーの企画・運営・実施が出来るようになる <組織レベル> - 生態系コリドープロジェクト, RPPN 等の関係者とのネットワークが形成される。 - 保護区管理能力が向上する。 - 組織運営において、活動計画の策定/実施/モニタリング・評価が出来るようになる 	<ul style="list-style-type: none"> <個人レベル> - 分野課題を中心に関係者の連帯意識が高まる。 - 関連活動に対するコミットメントが熟成される。 <組織レベル> - 組織能力向上に対する関係機関の組織レベルのコミットメントが熟成される。
[成果 4]	(研修テーマ) <ul style="list-style-type: none"> - 市環境管理能力強化 - 地域住民の環境管理能力強化 - 保護区管理能力強化 	<ul style="list-style-type: none"> - 活動実施に伴う OJT - 研修プログラムの実施 - セミナーの実施 - 技術交換の実施 	<ul style="list-style-type: none"> <個人(組織)レベル> - 市職員 (環境課ほか) - 地域住民(環境審議会, 教師グループ) 	<ul style="list-style-type: none"> <個人・組織レベル> - 参加型保全のための組織機構の整備が出来るようになる。 - 市の環境管理が出来るようになる。 - 市環境管理計画の策定/実施/モニタリング・評価能力が高まる <地域/社会レベル> - 市環境関連法が整備される。 - 市環境審議会が設立される。 - 地域住民の環境保全に関する理解が 	<ul style="list-style-type: none"> <個人レベル> - コミュニティの信頼を得る。 - 土地所有者の信頼を得る。 - 分野課題を中心に関係者の連帯意識が高まる。 - 関連活動に対するコミットメントが熟成される。 - 研修・セミナーの企画・運営・実施が出来るようになる。 <組織レベル>

² 技術や知識など、特定の業務で必要とされる能力。(出所: JICA 2008, キャパシティ・アセスメント・ハンドブック)

³ 意思や姿勢、意識など、成果を出すための推進力。すべての業務に共通し、主体的な課題対処能力を支える能力。(出所: JICA 2008, キャパシティ・アセスメント・ハンドブック)

				進む。	<ul style="list-style-type: none"> - 環境課や環境審議会において、組織レベルのコミットメントが熟成され、組織マネジメント能力が向上される。 <地域/社会レベル> - 地域住民との連携に対する関係機関の組織レベルのコミットメントが熟成される。 - コミュニティが自然保全活動に対する理解が深まる。 - コミュニティが自然保全活動に協力的になる。
[成果 5]	<ul style="list-style-type: none"> - 関連情報の分析技術 - GIS 解析/生態系評価図の作成手法 - アクションプランの作成技術 - 運営ガイドラインの作成技術 	<ul style="list-style-type: none"> - 活動実施に伴うOJT - 専門家との会議・ワークショップの開催 - 生態系ベースライン再委託先との協働 	<ul style="list-style-type: none"> <個人(組織)レベル> - ICMBio スタッフ(保護区事務所、本部関係部署) - 関係機関スタッフ(保護区事務所、本部関係部署) 	<ul style="list-style-type: none"> <個人レベル> - 関連情報の分析が出来るようになる。 - GIS 解析が出来るようになる。 - アクションプランが作成出来るようになる。 - 運営ガイドラインが作成出来るようになる。 <組織レベル> - 関係機関が共有できる JREC 導入・実施のための「戦略文書」が作成される。 	<ul style="list-style-type: none"> <個人レベル> - 分野課題を中心に関係者の連帯意識が高まる。 - 関連活動に対するコミットメントが熟成される。 <組織レベル> - モニタリングに対する関係機関の組織レベルのコミットメントが熟成される。

7.2. キャパシティ・ディベロップメントの結果

(1) キャパシティ・ディベロップメント計画に沿った結果の要約

プロジェクト終了に際して、成果ごとのテクニカル・キャパシティとコア・キャパシティの変化を、表 7-2 に総括する。

表 7-2 キャパシティ・ディベロップメント(CD)の結果(2013 年 10 月の状況)

成果	CD の結果起きた変化 (テクニカル・キャパシティ)	CD の結果起きた変化 (コア・キャパシティ)
[成果 1] 自然保護区のハブファーゾーンを含む JREC 実施に必要な情報が収集、分析、整理される。	<ul style="list-style-type: none"> <個人レベル> - GIS 解析、GIS データベースの構築・操作の技術的スキルが向上した。 - プロジェクト HP を構築し、公開し、更に情報共有のために利用する技術が身に付いた。 - 広報の手法(プレス・リリース等)のスキルが向上した。異なる目的と対象によって、情報共有・発信媒体の内容やデザインなどを工夫するスキルが向上した。 <組織レベル> - ジャラポン地域をカバーする情報管理システム(GIS データベース)が構築された。 - 情報発信媒体(HP その他)が整備された。 - 情報管理・共有に必要な機材が整備された。 	<ul style="list-style-type: none"> <個人レベル> - 情報整備・共有の重要度が認識され、コミットメントが熟成された。 - プロジェクトの目的、手法・ツール等を外部へ説明できるようになった。 <組織レベル> - 情報収集と共有に対する関係機関の組織レベルのコミットメントが熟成された。 <地域/社会レベル> - 生態系コリドー保全に関する理解が住民の間で深まった。
[成果 2] JREC 運営のための組織的な連携が構築される。	<ul style="list-style-type: none"> <個人・組織レベル> - トカンチンス州レベルとバイア州レベルの関係者(機関)の調整能力が向上した。 - 市レベルの関係者(課)の調整能力が向上した。 <組織レベル> - 連邦とトカンチンス州の関係機関が連携する協定書が締結された。それにより、調整会議が定期的に行われるようになった。 - JREC を統括するモザイク審議会準備会議が立ち上げられ、会議が定期的に行われるようになった。 - 分野課題を調整するワーキンググループが設立され、定期的な会議を持つようになった。 - ESEC 管理委員会が設立された。 	<ul style="list-style-type: none"> <個人レベル> - コリドーレベルの関係者(機関)のネットワークが進んだ。 - 戦略文書のコンポーネントに沿った分野課題ごとの関係者(機関)のネットワークが進んだ。 - 連携活動に対して、特に意思決定レベルのコミットメントが熟成された。 <組織レベル> - 調整会議とモザイク審議会の準備会議を通じて、関係機関(職員含む)の組織としての連帯意識が高まった。 - 分野課題を中心とした関連活動に対する関係機関の組織レベルのコミットメントが熟成された。
[成果 3] JREC 実施に必要な ICMBio 職員及び関係機関職員の能力向上が実施される。	<ul style="list-style-type: none"> <個人レベル> - GPS、Web-GIS の技術的スキルが向上した。GIS データベースの構築・操作技術が身に付いた。 - RPPN セミナーの実施により、RPPN 設置方法に関する理解が深まった。 - 他地域への技術交換研修により、他地域の生態系コリドープロジェクトの理解を深め、ジャラポン地域の保護区管理手法に反映された。 - 日本、及びコスタリカでの研修により、他国の類似プロジェクトの理解を深め、ジャラポン地域の保護区管理手法に反映された。 - モザイク設立・運営能力向上研修により、関係者がモザイクについて理解を深め、モザイク設立・運営に関する技術的知識を身に付けた。 - サンフェリックス市の例をモデルに、市立保護区設立法(SMUC)と実際の保護区の設立、更に保護区管理計画策定に関する技術を習得した。 <組織レベル> 	<ul style="list-style-type: none"> <個人・組織レベル> - 分野課題別の研修やモザイク研修を通じて、関係者(組織)の連帯意識が高まった。 - 各種研修・セミナー・ワークショップ開催を通じて、企画・運営・実施能力が向上された。 - 組織能力向上に対する関係機関の組織レベルのコミットメントが熟成された。

	<ul style="list-style-type: none"> - 他地域の生態系コリドープロジェクト、RPPN 等の関係者とのネットワークが形成された。 - ESEC 管理委員会が設置され、また保護区管理計画が策定された。 - モザイク審議会設立準備が進み、審議会メンバーによる会合が関係者のイニシアチブにより定期的に行われるようになった。 	
<p>[成果 4] JREC 保全に関する関係機関と地域住民との連携が強化される。</p>	<p><個人・組織レベル></p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト対象 4 市において、環境審議会が設立され、参加型保全のための組織機構が整備された。 - 市環境課と環境審議会が市環境管理基本計画の策定/実施/モニタリング評価手法について習得し、計画の運営・管理が行われるようになった。 - 環境保全交付金が環境管理基本計画に則って環境活動に適正に使用されるようになり、更に交付金運営のモニタリングが行われるようになった。 - 市環境課では環境保全交付金設置法の整備方法、並びに基金の運営管理方法を習得し、基金管理が行われるようになった。 - 環境教育を地域で先導する教員リーダーグループが組織され、児童に対する環境教育が年間通して計画的に実施されるようになった。 - 他地域への技術交換研修を通じて、他地域の参加型保護区管理手法を学び、学んだ内容は 2014 年の市環境管理計画へ反映された。 <p><地域/社会レベル></p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトの対象 4 市において、市環境関連法、市環境・観光課の設立法、市環境審議会設立法が整備された。 - 行政と住民組織の代表による環境審議会が設立された。 - 環境保全交付金の適正利用化のための合意書が市長と環境審議会との間で締結された。 - 市環境課と環境審議会により市環境管理基本計画が策定された。 - 環境保全交付金基金の設置法が整備された。 	<p><個人・組織レベル></p> <ul style="list-style-type: none"> - 審議会が設立され、メンバーが審議会の定義・役割を理解することで環境活動に対するコミットメントが熟成された。 - 環境課、及び審議会は、プロジェクトの研修・セミナー・フォーラム開催をとおして、各種会合の企画・運営・実施が出来るようになった。 - 上記会合に加え、環境審議会の定例会議の開催を通じて、他者(パートナー)とのコミュニケーション能力、交渉能力、プレゼンテーション能力、及び組織管理能力が高まった。 <p><地域/社会レベル></p> <ul style="list-style-type: none"> - 環境基本計画の策定及びモデル事業の実施により、審議会活動が地域住民との連携に対する関係機関の組織レベルのコミットメントが熟成された。 - 環境教育の広まり、及び審議会と環境課による環境活動の推進により、コミュニティの自然保全活動に対する理解が深まり、地域住民の自然保全活動への参加や支援が増えた。
<p>[成果 5] JREC 保全のための戦略文書/ガイドラインが作成される。</p>	<p><個人レベル></p> <ul style="list-style-type: none"> - 戦略文書の作成を通して、関連情報の分析や GIS 解析の能力が向上した。 - アクションプラン、運営ガイドラインを参加型で作成する能力が向上した。 <p><組織レベル></p> <ul style="list-style-type: none"> - 関係機関が共有できる JREC 導入・実施のための「戦略文書(運営ガイドライン含む)」が作成された。 	<p><個人レベル></p> <ul style="list-style-type: none"> - 戦略文書の参加型作成を通じて、コリドーレベルの関係者(機関)のネットワークが進み、また連帯意識が高まった。 - 「戦略文書」の実施に関して関係者のコミットメントが熟成された。 <p><組織レベル></p> <ul style="list-style-type: none"> - 「戦略文書」の実施に関して関係者のコミットメントが熟成された。

(2) プロジェクトによるキャパシティ・ディベロップメントの総括

第 5 章で述べた通り、本プロジェクトが目指したキャパシティ・ディベロップメント(CD)とは、職員や地域住民などアクター個人の能力向上だけでなく、組織体制や方針、更に地方自治体の行政基盤など、広域生態系保全に自らの手で取り組み、様々な課題を解決して行く総合的な能力であった。そのためにプロジェクトでは、3つのアプローチを定め、広域生態系保全の基礎となる「地域保全メカニズム」づくりに取り組むと同時に、ICMBio と関係機関の職員の能力向上を実施した。

以下に、「地域保全メカニズム」の3つのアプローチである「組織横断的枠組」「共通方針」「地方行政基盤」の観点から、本プロジェクトによる「個人レベル」「組織レベル」「地域/社会レベル」における能力向上を整理する。

表 7-3 プロジェクトによるキャパシティ・ディベロップメント(CD)の総括

	個人レベル	組織レベル	地域/社会レベル
<p>[アプローチ 1] 連邦・州の多くの関係機関の連携を可能にする「組織横断的な枠組」を構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - トカンチス州レベルとバイア州レベル、また市レベルの関係者(機関)の調整能力が向上した。 - コリドーレベル及び、戦略文書のコンポーネントに沿った分野課題ごとの関係者(機関)のネットワークが進んだ。 - 連携活動に対して、特に意思決定レベルのコミットメントが熟成された。 	<ul style="list-style-type: none"> - 連邦とトカンチス州の関係機関が連携する協定書が締結された。それにより、組織としての連帯が高まった。 - JREC を統括するモザイク審議会準備会議が立ち上げられ、会議が定期的に行われるようになった。 - ESEC 管理委員会が設立された。 - 分野課題を調整するワーキンググループが設立され、定期的に会議を持つようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> - 市や民間セクター、コミュニティの代表者も参加するモザイク審議会準備会議が立ち上げられ、人々の当事者意識が向上した。

<p>[アプローチ 2] 情報の科学的な分析と、それに基づいた明確な活動方針を策定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 情報を収集し、GIS 解析を行い、それを利用した GIS データベースを操作する技術が身に付いた。 - プロジェクト HP を構築し、公開し、更に情報共有に利用する技術が身に付いた。 - 様々な情報共有・発信媒体の作成を通じて、異なる目的と対象によって、媒体、デザインなどを工夫するスキルが身に付いた。また、広報手法(プレス・リリース等)を学んだ。 - 広域生態系保全に関する知識が深まり、その必要性、手法・ツール等を外部へ説明できるようになった。 - 情報整備・共有の重要度が認識され、関係者のコミットメントが高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> - ジャラポン地域をカバーする情報管理システム(GIS データベース)が、関係者全ての共有出来る形(インターネット利用)で構築された。 - 様々な情報発信媒体(HP、パンフレット等)が整備され、また情報管理・共有に必要な機材が整備された。 - 情報収集と共有に対する関係機関の組織レベルのコミットメントが熟成された。 	<ul style="list-style-type: none"> - 市や民間セクター、コミュニティーの人々の間で、環境保全の重要性に関する意識が向上した。また生態系コリドー保全の必要性が理解された。
<p>[アプローチ 3] 地域社会が環境保全に主体的に取り組むためのローカル環境保全がハナンスを強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 4 市において市環境課と環境審議会メンバーは市の環境管理基本計画の策定/実施/モニタリング・評価手法について学び、計画の運営・管理を自ら行うようになった。 - 環境保全交付の適正な運営・管理方法、並びに環境基金の運営管理方法を学び、交付金管理と基金管理を適正に行うようになった。 - サンフェリックス市の例をモデルに、SMUC の設立、及び市立保護区の設立手法と保護区管理計画策定に関する技術を習得した。 - 環境教育を地域で先導する教員リーダー養成研修行われ、参加教員は環境教育手法について技術を身に付けた。 	<ul style="list-style-type: none"> - 4 市において環境審議会が設立され、地域参加のための組織機構が整備された。 - 環境審議会の設立と CD により、地域住民の環境活動に対するコミットメント及びイニシアチブが熟成された。 - 市環境課と環境審議会により、市環境管理基本計画の策定/実施/モニタリング・評価が行われるようになった。 - 市環境課により、環境保全交付金が環境管理基本計画に則って環境活動に適正に使用されるようになった。 - 環境教育を率先して行う教員リーダーグループが組織され、児童に対する環境教育が年間通して計画的に実施されるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> - 4 市において市環境関連法、市環境・観光課設立法、市環境審議会設立法が整備され、法的根拠を基に市が環境活動に取り組むための基盤が整備された。 - 環境審議会が設立され、行政と住民による参加型保全のための地域的基盤が整備された。 - 市環境管理基本計画の策定により、地域として目指す環境都市像が地域住民間で共有され、環境活動における透明性が高まった。 - 環境教育の広まり、及び審議会と環境課による環境活動の推進により、コミュニティーの自然保全活動に対する理解が深まり、自然保全活動への参加が増えた。

添付資料

添付資料 1: 投入実績

- 1.1 専門家派遣実績
- 1.2 ブラジル側カウンターパート
 - 1.2.1 ICMBio のカウンターパート
 - 1.2.2 州政府機関のカウンターパート(トカンチンス州及びバイア州)
 - 1.2.3 自治体のカウンターパート(裨益者)
- 1.3 研修実績
 - 1.3.1 ICMBio 並びに州政府機関に対する研修
 - 1.3.2 自治体関係者に対する研修
 - 1.3.3 環境教育に関する研修
 - 1.3.4 本邦研修
- 1.4 供与機材実績
- 1.5 現地業務費実績
 - 1.5.1 JICA の実績
 - 1.5.2 ICMBio の実績

添付資料 2: プロジェクトの成果一覧

(PDM に基づいた成果の達成状況)

- 2.1 達成度グリッド I (PDM 指標に基づいた実績の整理)
- 2.2 達成度グリッド II (PDM 活動に基づいた実績の整理)
- 2.3 成果品一覧

添付資料 3: プロジェクト評価の結果

- 3.1 中間レビュー(2011 年 11 月)
- 3.2 終了時評価(2012 年 10 月)
- 3.3 プロジェクト終了に際しての自己評価(2013 年 10 月)

添付資料 4: 会議議事録

- 4.1 合同調整委員会開催記録
- 4.2 その他の会議開催記録

添付資料 5: 収集資料一覧表

添付資料 1: 投入実績

- 1.1 専門家派遣実績
- 1.2 ブラジル側カウンターパート
 - 1.2.1 ICMBio のカウンターパート
 - 1.2.2 州政府機関のカウンターパート(トカンチンス州及びバイア州)
 - 1.2.3 自治体のカウンターパート(裨益者)
- 1.3 研修実績
 - 1.3.1 ICMBio 並びに州政府機関に対する研修
 - 1.3.2 自治体関係者に対する研修
 - 1.3.3 環境教育に関する研修
 - 1.3.4 本邦研修
- 1.4 供与機材実績
- 1.5 現地業務費実績
 - 1.5.1 JICA の実績
 - 1.5.2 ICMBio の実績

添付資料 1 投入実績

1.1. 専門家派遣実績

Name		Title and Specialization	Work Period
Japanese Experts			
1	Mr. Koji Asano	Chief Advisor/ Ecosystem Management / JICA	Apr 2010-Oct 2013
2	Mr. Masayuki Honjo	Institutional Strengthening/ JICA	Jun 2010-May 2011
3	Mr. Shin-ichiro Tanimoto	Participatory Natural Resource Management/ JICA	Apr 2010-Dec 2010
4	Mr. Shin-ichiro Tsuji	Institutional Strengthening/ JICA	Apr 2010-now
5	Ms. Yukiko Watanabe	Participatory Natural Resource Management/ JICA	Sep 2011-Jul 2012
6	Ms. Junko Kikuchi	Institutional Strengthening/ Participatory Natural Resource Management/ JICA	Jun 2012-Oct 2013
7	Mr. Manabu Kawaguchi	GIS/ Participatory Natural Resource Management/JICA	Apr 2010-Nov 2012
Brazilian Experts			
1	Mr. Roberto Kurokawa	Local Consultant for Output 2/ JICA	Apr 2010-Oct 2013
2	Ms. Selene Maria da Costa Solteiro	Local Consultant for Output 4/ JICA	Apr 2010-Oct 2013
3	Mr. Renato Prado dos Santos	Local Consultant for Output 1&4/ JICA	May 2011-Oct 2013
4	Mr. James Possap	Local Consultant for Output 2& 4/ JICA	May 2012-Oct 2013

<Task-Base short-term Consultants>

Mr. Michiel Meijer(Capacity and Needs Assessment), Mr. Bruno Machado Carneiro(Cartographic Map), Mr. Andre Paulo(Cartographic Map), Ms. Maria de Fatima Rocha Medina(Environmental Education Guidelines), Mr. Mariano Federico Pascual(GIS Database System Engennering), Mr. Cristiano de Campos Nogueira(Priority Ecosystem Analysis), Mr. Reinaldo Lourival(Ecosystem Connectivity Analysis), Mr. Marcos Pinheiro(Mosaic Orhanization Establishment)

1.2. ブラジル側カウンターパート

1.2.1 ICMBio のカウンターパート

Name		Title and Organization	Role/Responsibility in the Project	Work Period
1	Mr. Ricardo Soavinsky	Diretor de DIMAN / ICMBio Director of DIMAN / ICMBio	Ex Project Director	Apr 2010-Dec 2011
2	Mr. Pedro de Castro da Cunha e Menezes	Diretor de DIMAN / ICMBio Director of DIMAN / ICMBio	Ex Project Director	Jan 2012-Mar 2013
3	Ms. Giovanna Palazzi	Diretor de DIMAN / ICMBio Director of DIMAN / ICMBio	Project Director	Apr 2013-now
4	Mr. Allan Crema	Chefe de DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio Chief of DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	Project Manager	Apr 2010-now
5	Mr. Mariusz Antoni Szmuchrowski	DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	Output 1, 2, 3	Apr 2010-Apr 2013
6	Ms. Juliana Shiraishi	DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	Output 1, 3	Apr 2010-Dec 2011
7	Ms. Karina Jorge Diano	DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	Output 1, 3, 4	Apr 2011-Apr 2013
8	Ms. Andréa Curi Zarattini	DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	Output 1, 3	Apr 2013-now
9	Ms. Lilian de Carvalho Lindoso	Chefe de EESGT / ICMBio Chief of EESGT / ICMBio	Output 2, 3, 4, 5	Apr 2010-Dec 2010
10	Mr. Áquilas Ferreira Mascarenhas	Chefe de EESGT / ICMBio Chief of EESGT / ICMBio	Output 2, 3, 4, 5	Apr 2011-now
11	Mr. Rodrigo Leal Morais	EESGT / ICMBio	Output 3, 4	Apr 2010-Dec 2011
11	Ms. Ana Carolina Sena Barradas	EESGT / ICMBio	Project Coordinator Output 3, 4	Apr 2011-now
13	Mr. Máximo Menezes Costa	EESGT / ICMBio	Output 3, 4	Apr 2012-now
14	Ms. Cristiana Castro Lima Aguiar	Chefe de PNNRP / ICMBio Chief of PNNRP / ICMBio	Output 3, 4	Apr 2010-May 2013
15	Mr. Janeil Lustosa de Oliveira	PNNRP / ICMBio Chefe de PNNRP / ICMBio Chief of PNNRP / ICMBio	Project Coordinator Output 1, 3, 4	Apr 2010-May 2013 May 2013-now

DIMAN: *Diretoria de Criação e Manejo de Unidades de Conservação* (Directorate of Creation and Management of Protected Areas, ICMBio)
CGCAP: *Coordenação Geral de Criação, Planejamento e Avaliação de Unidades de Conservação* (General Coordination of Creation, Planning and Evaluation of Conservation Units)

DMOC: *Divisão de Mosaicos e Corredores* (Mosaic and Ecological Corridor Division)

EESGT: *Estação Ecológica da Serra Geral do Tocantins* (Serra Geral of Tocantins Ecological Station)

PNNRP: *Parque Nacional das Nascentes do Rio Parnaíba* (Nascentes do Rio Parnaíba National Park)

1.2.2 州政府機関のカウンターパート(トカンチンス州及びバイア州)

1) State Government of Tocantins

Name		Title and Organization	Period
SEMADES/SRHMA			
1	Mr. Divaldo Rezende	Secretário de SEMADES/ Secretary at SEMADES	Jan 2012.- Feb 2013
2	Mr. Alan Barbiero	Secretário de SEMADES/ Secretary at SEMADES	Feb 2013.- now
3	Mr. Belizario Franco Neto	Diretor at SRHMA/ Director at SRHMA	Apr 2010.- Jan 2012
4	Ms. Marli Santos	Diretora Geral da DMAF/ General Director of DMAF	Jan 2012.- Aug 2013
5	Mr. Rubens Pereira Brito	Diretor da DMAF/ Director at DMAF	Aug 2013.- now
6	Ms. Raquel Lima	Coordenadora da SRHMA/ Coordinator at SRHMA	Apr 2010.- Jan 2012
7	Mr. Fabrizio Dias Fonseca	Coordenador de CCA/ Coordinator of CCA	Jan 2012.- Jan 2013
8	Mr. Adriano Pinto	Coordenador de CNAPI/ Coordinator of CNAPI	Jan 2012.- now
9	Ms. Caroline Frankiw	Coordenadoria de CDAM/ Coordinator of CDAM	Jan 2012.- now
10	Ms. Cristiane Peres	Analista Ambiental Environmental Analyst	Apr 2010.- now
NATURATINS			
1	Mr. Alexandre Tadeu Rodrigues	Presidente do Naturatins/ President at Naturatins	Jan 2012.- now
2	Mr. Rômulo Rogério Mascarenhas	Chefe de Gabinete/ Chief of President's Office	Jan 2012.- Aug 2013
3	Mr. Antonio Santiago	Diretor de DBAP/ Director at DBAP	Apr 2010.- Jan 2012
4	Ms. Nilza Verônica Amaral	Diretora de DBAP/ Director of DBAP	Jan 2012.- Aug 2013
5	Mr. João Leal Costa Neto	Coordenador da CBAP/ Coordinator at CBAP	Aug 2013.- now
6	Mr. Volney Martinovski	Coordenador de CUC/ Coordinator of CUC	Jan 2012.- Jun 2013
7	Ms. Paula Montenegro	Coordenadora de CEA/ Coordinator of CEA	Aug 2012.- now
8	Mr. Gino Machado	DBAP	Jan 2012.- now
9	Ms. Daiane Carline Meyer	Gerente do PEJ PEJ Manager	Apr 2010.- Aug 2012
10	Mr. João Miranda	Gerente do PEJ PEJ Manager	Sep 2012.- Jun 2013
11	Ms. Rejane Ferreira Nunes	Coordenadora de Educação Ambiental PEJ Coordinator of Environmental Education PEJ	Jan 2012.- Jun 2013
12	Ms. Rejane Ferreira Nunes	Gerente do PEJ PEJ Manager	Jun 2013.- now
SEPLAN			
1	Mr. Francisco Martins de Araújo Neto	Sub-Secretário de Informática do SEPLAN/ Technology Vice Secretary at SEPLAN	Jan 2012.- Mar 2013
2	Mr. Rodrigo Sabino	Diretor de DZEE/ Director of DZEE	Apr 2010.- Mar 2013
3	Ms. Aida Paiva	Coordenadora do GT WebGIS/ Web-GIS Working Group Coordinator	Apr 2010.- Mar 2013
4	Ms. Cecília Miranda	Técnica em Mapeamento DZEE/ Technician on Mapping DZEE	Apr 2010.- Mar 2013
5	Mr. Paulo Augusto de Sousa	Técnica em Mapeamento DZEE/ Technician on Mapping DZEE	Apr 2010.- Mar 2013

SEMADES: *Secretaria de Estado do Meio Ambiente e Desenvolvimento Sustentável* (State Secretariat of Environment and Sustainable Development)
 SRHMA: *Secretaria de Estado de Recursos Hídricos e Meio Ambiente* (State Secretariat of Water Resources and Environment)
 DMAF: *Diretoria de Meio Ambiente e Florestas* (Directorate of Environment and Forests)
 CCA: *Coordenadoria de Compensação Ambiental* (Coordination of Environmental Compensation)
 CNAPI: *Coordenadoria de Normas Ambientais e Procedimentos Integrados* (Coordination of Environmental Standards and Integrated Procedures)
 CDAM: *Coordenadoria de Descentralização Ambiental para Municípios* (Coordination of Environmental Decentralization for Municipalities)

NATURATINS: *Instituto Natureza do Tocantins* (Institute Nature of Tocantins)

DBAP: *Diretoria de Biodiversidade e Áreas Protegidas* (Directorate of Biodiversity and Protected Areas)

CBAP: *Coordenadoria de Biodiversidade e Áreas Protegidas* (Coordination of Biodiversity and Protected Areas)

CUC: *Coordenadoria de Unidades de Conservação* (Coordination of Protected Areas)
 CEA: *Coordenadoria de Educação Ambiental* (Coordination of Environmental Education)
 PEJ: *Parque Estadual do Jalapão* (Jalapão State Park)

SEPLAN: *Secretaria de Estado do Planejamento e Modernização Administrativa* (State Secretariat of Planning and Administrative Modernization)
 DZEE: *Diretoria de Zoneamento Ecológico-Econômico* (Directorate of Ecological-Economic Zoning)

2) State Government of Bahia

Name		Title and Organization	Period
INEMA			
1	Leonardo Euler Santos	Coordenador de COGES/ Coordinator at COGES	Nov 2011.- now
2	Richardo Guedes Miranda	Coordenador de CCBIO/ Coordinator at CCBIO	Nov 2011.- now
3	Mateus C. Leite Matos	Técnico CCBIO/ Technician at CCBIO	Nov 2011.- now
4	Balbina Maria de Jesus	Gestora da ESECRP/ Manager at ESECRP	Nov 2011.- now
5	Carla Maiana Santos Carvalho	Gestora da APARP/ Manager at APARP	Nov 2011.- Oct 2013

INEMA: *Instituto do Meio Ambiente e Recursos Hídricos* (Institute of Environment and Water Resources)

COGES: *Coordenação de Gestão de Unidades de Conservação* (Coordination of Management for Protected Areas)

CCBIO: *Coordenação de Corredores de Biodiversidade* (Coordination of Biodiversity Corridors)

ESECRP: *Estação Ecológica do Rio Preto* (Rio Preto Ecological Station)

APARP: *Área de Proteção Ambiental do Rio Preto* (Rio Preto Environmental Protected Area)

1.2.3 自治体のカウンターパート (裨益者)

Municipality	Name	Title and Organization	Period of Participation	
Mateiros	1	Josimar Pereira de Almeida	Prefeito	Jan 2009.- Dez 2012
	2	Julio Mofka	Prefeito Atual	Jan 2011.-now
	3	Claudiana Matos da Silva	Diretora de Meio Ambiente e Turismo	Nov 2010.-now
	4	Zélia Rodrigues da Silva	Secretaria de Educação, Cultura e Desporto	Nov 2010.-now
	5	Ana Claudia P. Batista	Secretária de Meio Ambiente e Turismo	Jan 2013.-Dez 2012
	6	Domingos Alves Ferreira	COMATUR.- Presidente	Jun 2012.-now
	7	Adão Rocha Braga	COMATUR.- Vice Presidente	Jun 2011.- now
	8	Ilana Ribeiro Cardoso	Assessora da Secretaria de Meio Ambiente	Nov 2010.-Dez 2012
	9	Rejane Ferreira Dias	COMATUR.- Representante do PEJ	Nov 2010.-now
	10	Dalmo Pinheiro Filho	COMATUR.- Representante da Escola Estadual Estefânio	Nov 2010.- now
	11	Vera Maria Mokfa	COMATUR.- Representante da Secretaria de Administração	Jan 2013.- now
	12	Daniela Tavares	COMATUR.- Representante da Secretaria de Saúde	Jan 2012.- now
	13	Luciano Salin Pelição (Kiko)	COMATUR.- Representante da ACAPPM	Jun 2012.- now
	14	Emivaldo Ruffo Cunha	COMATUR.- Representante do Segmento de Restaurantes	Nov 2010.- now
	15	Sirlene Matos	COMATUR.- Representante da Secretaria de Cultura	Nov 2010.- now
	16	Marquenedi Faquin	COMATUR.- Representante das Igrejas	Nov 2011.- now
	17	Dazio Malheiros Ramos	COMATUR.- Representante do Segmento de Restaurantes	Nov 2011.- now
	18	Moises José de Carvalho Pereira	COMATUR.- Representante da Secretaria de Saúde	Jan 2011.- Dez 2012
Ponte Alta do Tocantins	1	Ascinete Medeiros de Queiroz	Prefeita	Jun 2012.- Dez 2012
	2	Cleyton Maia Barros	Prefeito	Jan 2009.- Jun 2012
	3	Jose Aparecido de Araujo	Prefeito Atual 2013-2016	Jan 2013.-now
	4	José Carlos de Sena Soares	Secretária de Turismo e Meio Ambiente	Apr 2010.-Jan 2012
	5	Rafaela Ernesto Dias	Secretária de Turismo e Meio Ambiente	Jun 2012.-Dez 2012
	6	Glauco Messias	Secretária de Turismo e Meio Ambiente	Jan 2013.-now
	7	Rafaela Ernesto Dias	COMATUR.- Presidente	Nov 2010.- Dez 2012
	8	José Arilon S. Rodrigues	COMATUR.- Vice – Presidente, Representante de Hoteis	Nov 2010.-now
	9	Lazara Maria Sabóia	COMATUR.- Representante Ass. de Consdutores	Nov 2010.- Jun 2013
	10	Daiane Cavalcante Lima	COMATUR.- Assessora-Secr. de Turismo e Meio Ambiente	Jun 2011.- Dez 2012
	11	José Carlos de Sena Soares	COMATUR.- Ex-Secr. de Turismo e MA –AtualVice Prefeito	Nov 2010.-now
	12	Zurailde Marques Ribeiro	COMATUR.- Representante da Ass. Escola Estadual	Nov 2010.- now
	13	Joaci Mascarenhas dos Reis	COMATUR.- Representante Camara de Vereadores	Nov 2012.- now
	14	Jemina Barreira Cavalcante	COMATUR.- Representante da Ass. Escola Estadual	Nov 2010.- now
	15	Ildenê Soares Ribeiro	COMATUR.- Representante Ass. dos Artesãos	Nov 2010.- now
	16	João Alves dos Santos	COMATUR.- Representante dos Produtores Rurais	Nov 2010.- now
	17	Eldonso Aires	COMATUR.- Representante da Ass. de Moradores	Nov 2010.- now
	18	Eudália Silva Pinto	COMATUR.- Representante da Ass. de Moradores	Nov 2010.- now
	19	João Coelho de Souza	COMATUR.- Representante de Hoteis	Nov 2011.- now
	20	Rivaldo Leite Dias	Representante da Central de Ass. de Apicultores	Nov 2010.- Out 2011

	21	Solanjo Ribeiro	Representante da Associação de Apicultores	Nov 2010.- now
Rio da Conceição	1	Astrogildo de França Filho	Prefeito atual	Apr 2010.- now
	2	Maria Carvalho dos Santos	Secretária de Turismo e Meio Ambiente	Nov 2010.- Ago 2012
	3	Gloraci Lopes da Luz	Secretária de Turismo e Meio Ambiente	Jul 2012.- now
	4	Marcina Silva Brabdao	COMATUR.- Presidente	Jun 2012.- now
	5	Elias Cirino dos Santos	COMATUR.- Vice Presidente	Nov 2010.- now
	6	Mauro Norberto	COMATUR.- Conselheiro	Nov 2010.- now
	7	Domingos Rodrigues dos Santos	Fiscal Ambiental da Prefeitura	Nov 2011.- now
	8	Eunize R. de F. Silva	COMATUR.- Diretora Escola Estadual Virgílio	Nov 2010.- now
	9	Rosineide R. Dias	COMATUR.- Representante da Igreja Católica	Nov 2010.- now
	10	Silvaneide de Oliveira Maia	COMATUR.- Representante da Educação	Nov 2010.- now
	11	Deuzenir R. de Aguiar	COMATUR.- ACDRIO	Nov 2012.- now
	12	Evaneia F. Lisboa	COMATUR.- Representante da Secretaria da Administração	Nov 2010.- now
	13	Ana Carolina S. Barradas	COMATUR.- Representante do ICMBio	Nov 2010.- now
	14	Pauliene N. dos Santos	COMATUR.- Representante da Secretaria de Meio Ambiente	Nov 2011.- now
	15	Clésio P. de Carvalho	Fiscal Ambiental da Prefeitura	Nov 2011.- now
	16	Antonio Salustiano da Silva	Presidente do Conselho Tutelar do Município	Nov 2010.- now
	17	Maria da Graça Gonçalves	Assessora da Prefeitura.-Ex Secretária de Meio Ambiente	Nov 2010.- Dez 2012
	18	José Neto Soares da Silva	Diretor da Escola Estadual	Nov 2012.- now
São Felix do Tocantins	1	Janio Silva de Mendonça	Prefeito	Nov 2010.- Dez 2012
	2	Marlen Ribeiro Rodrigues	Prefeito Atual	Jan 2013.-now
	3	Carlos Israel Ribeiro dos Reis	Ex- Secretário de Turismo e Meio Ambiente	Nov 2010.- Jan 2012
	4	Junizenth Torres	Secretária de Turismo e Meio Ambiente	Jun 2011.- now
	5	Djalma C. Pugas	Secretaria de Tur. E MA- Gerente do MONACC	Jun 2012.- now
	6	Wilson Gomes da Silva	COMTURMA.- Presidente	Nov 2010.- now
	7	Delice Reis	COMTURMA.- Secretária Geral	Nov 2010.- now
	8	José da Silva Rodrigues	Vice-Presidente do COMTURMA-Camara de Vereadores	Nov 2010.- now
	9	Glice Pugas Nunes	COMTURMA.- Representante Secr. De Educação	Nov 2010.- now
	10	Vernon Gomes Ribeiro	COMTURMA.- Camara de Vereadores	Nov 2010.- now
	11	Gercimar da Silva Xavier	COMTURMA.- Camara de Vereadores	Nov 2010.- now
	12	Dominel Tavares Corado	COMTURMA.- Camara de Vereadores	Jan 2012.- now
	13	Irá Barros de Oliveira	COMTURMA.- Representante de Restaurantes	Jun 2012.- now
	14	Justiniano Ribeiro Louzeiro	COMTURMA.- Representante dos Produtores Rurais	Nov 2010.- now
	15	Magno de Jesus da Silva Reis	Ex- COMTURMA.- Representante da Prefeitura	Nov 2010.- Dez 2012
	16	Jarcelino Gomes Rodrigues	COMTURMA.- Representante da Ass. De Moradores	Nov 2011.- now
	17	Darlene Ribeiro	COMTURMA.- Representante da Ass. Do Prata	Nov 2010.- now
	18	Maria Aparecida Ribeiro	COMTURMA.- Representante da Ass. De Produtores e Artesãos do Prata	Nov 2010.- now

1.3. 研修実績

1.3.1 ICMBio 並びに州政府機関に対する研修

Name of Training	Participants (Institutions)	Period	Place	Remarks
GPS/GIS Training	NATURATINS, SEMADES, SEPLAN	9-10 Nov 2010	SEPLAN	
GPS/GIS Training	NATURATINS, SEMADES, SEPLAN	17-18 May 2011	SEPLAN	
RPPN technical seminar	NATURATINS, SEMADES, SEPLAN, Municipalities	29-30 Sep 2011	NATURATINS	
Mini-course on institutional framework for Promoting a participatory biodiversity conservation - cases from the Philippines and India	ICMBio	14 Oct 2011	ICMBio, Brasilia	
Technical Mid-term seminar for JREC conservation	ICMBio, NATURATINS, SEMADES, SEPLAN, Municipalities	29 Nov 2011	Taquaruru, Tocantins	
Study Visit for the exchange of experience to Central Fluminense Mosaic.	ICMBio, NATURATINS, SEMADES	12-16 Dec 2011	Central Fluminense Mosaic.	
Web-GIS Training	NATURATINS, SEMADES and SEPLAN	25 May 2012	SEPLAN	
Planning WS for management plan of EESGT	ICMBio, NATURATINS, SEMADES, Municipalities	1-3 Aug 2012	Palmas	
Training on prevention and control of forest fire	NATURATINS, Municipalities, IBAMA-Prev Fogo	16-17 Aug 2012	PFJ (Mateiros)	

1st WS on the development of internal regulation of EESGT	ICMBio, NATURATINS, SEMADES, Municipaplties	18-19 Aug 2012	Dianopolis	
Technical exchange meeting on Mosaic	ICMBio, NATURATINS, SEMADES	1) 8-9 May 2012 2) 18-19 Jun 2012 3) 28-29 Aug 2012	1) Palmas 2) Palmas 3) Bahia	To learn about integrated ecosystem conservation, management of protected area and the establishment of Mosaic.
Training on MONA in Palmas with participants from state counterpart institutions	NATURATINS, SEMADES	1) 5 Jul 2012 2) 11 Oct 2012	NATURATINS	1)draft MONA management plan was discussed 2)consultation on the 1 st draft MONA management plan
2nd WS on the development of internal regulation of EEAGT	ICMBio, NATURATINS, SEMADES, Municipaplties	19-21 Oct 2012	Ponte Alta	
Technical Exchange Visit to Costa Rica,	<ICMBio>Allan Crema, Bernaldo Brito, <NATURATINS> Veronica Amahal	19-26 May 2013	Consta Rica	
Training for capacity development on creation of mosaic council	ICMBio, NATURATINS, SEMADES, Municipalities, NGOs	1) 13-14 May 2013 2) 18-20 Sep 2013 3) 2-3 Oct 2013	1) Mateiros 2) Palmas 3) Palmas	

1.3.2 自治体関係者に対する研修

Name of Training	Participants (Institutions)	Period	Place	Remarks
Training course on structure for environmental management (municipal environmental council)	Municipal officers, City Council member	1) 12-13 Jul 2011 2) 19-20 May 2011 3) 30-31 May 2011 4) 2-3 Jun 2011 5) 16-17 May 2011	1) Almas 2) Mateiros 3) Ponte Alta d 4) Rio da Conceição 5) São Félix	
Mini-course on institutional framework for Promoting a participatory biodiversity conservation	Municipal officers, City Council member	1) 17 Oct 2011 2) 20 Oct 2011	1) Mateiros 2) Ponte Alta	Case studies from the Philippines and India
Mini-course on institutional framework for Promoting a participatory biodiversity conservation	Municipal officers, City Council member	1) 9 Nov 2011 2) 10 Nov 2011 3) 14 Nov 2011 4) 22 Nov 2011	1) São Félix 2) Mateiros 3) Rio da Conceição 4) Ponte Alta	
Technical meeting for a proposal to revise the law on regional environmental councils.	Municipal officers, City Council member	1) 17 Oct 2011 2) 11 Nov 2011 3) 10 Aug 2011 4) 15 Sep 2011	1) Mateiros 2) Ponte Alta 3) Rio da Conceição 4) São Félix	
Technical WS on environment and tourism division for the establishment of regional environmental council	Environmenta and Tourism division at Municipality	1) 21 Oct 2011 2) 14 Oct 2011 3) 9 Nov 2011	1) Ponte Alta 2) Rio da Conceição 3) São Félix	
Planning meeting for the regional environmental council	Environmenta and Tourism division at Municipality	1) 10 Nov 2011 2) 22 Nov 2011 3) 14 Nov 2011 4) 9 Nov 2011	1) Mateiros 2) Ponte Alta 3) Rio da Conceição 4) São Félix	
Technical training/WS of COMATUR/COMTURMA on planning and implementation through the development of model projects	COMATUR/COMTURM A, Environment and Tourism Division at Municipality	1) 20-21 Jun 2012 2) 18 Jul 2012 3) 6-7 Aug 2012. 4) 21 Aug 2012 5) 29 Sep 2012	Ponte Alta	To learn planning and implementation of environmental project at municipality
	COMATUR/COMTURM A, Environment and Tourism Division at Municipality	1) 22-23 Jun 2012 2) 16 Jul 2012 3) 8-9 Aug 2012. 4) 22 Aug 2012 5) 27-28 Sep 2012	Rio da Conceição	To learn planning and implementation of environmental project at municipality
	COMATUR/COMTURM A, Environment and Tourism Division at Municipality	1) 1-2 Jul 2012 2) 29-31 Jul 2012 3) 20 Aug 2012. 4) 6-7 Sep 2012 5) 25 Sep 2012	Mateiros	To learn planning and implementation of environmental project at municipality
	COMATUR/COMTURM A, Environment and Tourism Division at Municipality	1) 5 May 2012 2) 1-2 Jul 2012 3) 7 Jul 2012 4) 1-2 Aug 2012 5) 24 Sep 2012 6) 13 Oct 2012	São Félix	1) Public consultation for the establishment of MONA 2) Awareness raising on MONA with COMTURMA 3) Signing of the municipal decree of MONA 4) Training of MONA management plan 5) Preparatory discussion on public meeting 6) Public meeting on 1st draft of MONA management plan
Technical training/WS of COMATUR/COMTURMA on organizational management.	COMATUR/COMTURM A, Environment and Tourism Division at Municipality	1) 7 Aug 2012 2) 21 Aug 2012 3) 29 Sep 2012	Ponte Alta	1) Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted. 2) Training for organization management of COMATUR such as

				organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings. 3)WS on how to prepare a public meeting.
	COMATUR/COMTURMA, Environment and Tourism Division at Municipality	1)8 Aug 2012 2)22 Aug 2012 3)27-28 Sep 2012	Rio da Conceição	1)Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted. 2)Training for organization management of COMATUR such as organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings. 3)WS on how to prepare a public meeting.
	COMATUR/COMTURMA, Environment and Tourism Division at Municipality	1)29-30 Jul 2012. 2)20 Aug 2012 3)25 Sep 2012	Mateiros	1)Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted.. 2)Training for organization management of COMATUR such as organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings. 3)WS on how to prepare a public meeting.
	COMATUR/COMTURMA, Environment and Tourism Division at Municipality	24 Sep 2012	São Félix	WS on how to prepare a public meeting.
1st Capacity Development of COMATUR/COMTURMA on financial management - utilization of ICMS Ecológico	COMATUR/COMTURMA, Environment and Tourism Division at Municipality, SEMADES, NATURATINS, MPE(CAOMA)	6 Jul – 9 Aug 2012	Ponte Alta, Rio da Conceição, Mateiros, São Félix	Raising awareness training of ICMS Ecológico at the municipality level in collaboration with state organizations for utilizing the budget of ICMS Ecológico
2nd Capacity Development of COMATUR/COMTURMA on financial management - utilization of ICMS Ecológico	COMATUR/COMTURMA, Environment and Tourism Division at Municipality, SEMADES/PEGAM, NATURATINS, MPE (CAOMA), Secretary of Finance, COEMA.	30 Aug 2012	PEL(Palmas)	Training WS on ICMS Ecológico for COMTURMA and municipalities in collaboration with state organizations
Technical training/WS of COMATUR/COMTURMA on planning, implementation and monitoring of municipal environmental plan (=5years master plan and annual plan 2013)	COMATUR/COMTURMA, Environment and Tourism Division at Municipality	1) 25-26 Mar 2013 2) 3-4Apr 2013 3) 21May 2013 4) 12 Jun 2013 5) 27 Aug 2013	Ponte Alta	1) elaboration of 5 years master plan 2) elaboration of 5 years master plan 3) elaboration of annual plan2013 4) elaboration of annual plan2013 5) monitoring & evaluation
	COMATUR/COMTURMA, Environment and Tourism Division at Municipality	1) 20-2q Mar 2013 2) 10-11 Apr 2013 3) 22May 2013. 4) 15 June 2013 5) 29Aug 2013	Rio da Conceição	1) elaboration of 5 years master plan 2) elaboration of 5 years master plan 3) elaboration of annual plan2013 4) elaboration of annual plan2013 5) monitoring & evaluation
	COMATUR/COMTURMA, Environment and Tourism Division at Municipality	1) 13-14 Mar 2013 2) 12-13 Apr 2013 3) 28 May2013. 4) 14 Jun 2013 5) 2 Sep 2013	Mateiros	1) elaboration of 5 years master plan 2) elaboration of 5 years master plan 3) elaboration of annual plan2013 4) elaboration of annual plan2013 5) monitoring & evaluation
	COMATUR/COMTURMA, Environment and Tourism Division at Municipality	1) 11-12 Mar 2013 2) 5-6 Apr 2013 3) 29May 2013 4) 13Jun 2013 5) 3 Sep 2013	São Félix	1) elaboration of 5 years master plan 2) elaboration of 5 years master plan 3) elaboration of annual plan2013 4) elaboration of annual plan2013 5) monitoring & evaluation
Technical training/WS of COMATUR/COMTURMA on project implementation through model project	COMATUR/COMTURMA, Environment and Tourism Division at Municipality	1) 25-26 Mar 2013 2) 21May 2013 3) 27 Aug 2013	Ponte Alta	1)kick-off WS for selection of model project 2)elaboration of project action plan 3)onitoring of the project
	COMATUR/COMTURMA, Environment and Tourism Division at Municipality	1) 20-2q Mar 2013 2) 22May 2013. 3) 29Aug 2013	Rio da Conceição	1)kick-off WS for selection of model project 2)elaboration of project action plan 3)onitoring of the project
	COMATUR/COMTURMA, Environment and Tourism Division at Municipality	1) 13-14 Mar 2013 2) 28 May2013. 3) 2 Sep 2013	Mateiros	1)kick-off WS for selection of model project 2)elaboration of project action plan 3)onitoring of the project
	COMATUR/COMTURMA, Environment and Tourism Division at Municipality	1) 11-12 Mar 2013 2) 29May 2013 3) 3 Sep 2013	São Félix	1)kick-off WS for selection of model project 2)elaboration of project action plan 3)onitoring of the project
Technical WS of COMATUR/COMTURMA on financial management - utilization of ICMS Ecológico	COMATUR/COMTURMA, Environment and Tourism Division at Municipality	7-10 May 2013	Ponte Alta, Rio da Conceição , São Félix, Mateiros	Training WS on how to use, save, and increase ICMS Ecológico as financial resource for environmental actions

Technical exchange visit to Chapada dos Veadeiros National Park in the state of Goias.	COMATUR/COMTURM A, Environment and Tourism Division at Municipality, NATURATINS	3-6 Oct 2013	Chapada dos Veadeiros National Park	
--	---	--------------	-------------------------------------	--

1.3.3 環境教育に関する研修

Name of Training	Participants (Institutions)	Period	Place	Remarks
Technical training of teachers for environmental education- 'ASAS' (2011)	Public school teachers of Rio da Conceição and Mateiros	1)Aug 2011 2)Aug-Nov 2011 3)Nov-Dec 2011	-Mateiros -Rio da Conceição	100 hours training were provided 1) 1 st phase : preparation of action plan 2) 2 nd phase : implementation of the action plan 3) 3 rd phase : completion certificate
Technical training of teachers for environmental education- 'ASAS' (2012)	Public school teachers of São Félix and Ponte Alta	1)19-21 Aug 2012 2)23-25 Aug 2012	1) São Félix 2) Ponte Alta	100 hours training were provided
Exchange technical WS on environmental education programs in Brazil	ICMBio, ULBRA, NATURATINS, SEMADES, SEDUC, and other institutions conducting Environment Education in Brasil	8-10 Aug 2012	ICMBoo in Brasilia	ICMBio HQ hosted an exchange meeting among ICMBio's 4 environmental education programs in Brazil.
1st Technical exchange WS among four municipalities	Teachers trained in Ponte Alta, Rio da Conceição, Mateiros and São Félix, and COMTURMA member	22-23 Oct 2012	Rio da Conceição	It was conducted to evaluate the all activities in 2012 and to discuss about the future activity plan for 2013
Technical training of teachers for environmental education- 'ASAS' (2013)	Public school teachers of São Félix, Ponte Alta, Rio da Conceição and Mateiros	1)19-26Mar 2013 2)7-9 May 3)19-21 May 4)11-13 Sep 2013 5)29 Sep-1 Oct 2013	1) Ponte Alta, São Félix, Rio da Conceição, Mateiros 2) Mateiros 3) São Félix 4) Ponte Alta 5)Rio da Conceição	Series of continued technical trainings following the training in 2011-2012 were conducted
2nd Technical exchange WS among four municipalities	Teachers trained in Ponte Alta, Rio da Conceição, Mateiros and São Félix, and COMTURMA member.	23-24 Sep 2013	Ponte Alta	It was conducted to evaluate the all activities in 2013 and to discuss about the future activity plan for 2014

1.3.4 本邦研修

	Name	Organization	Period	Visited Institutions and Course
1	Mr. Allan Crema	Coordinator of Mosaic and Ecological Corridor – ICMBio	10 Jun – 26 Jun 2011	JICA HQ, the Ministry of Environment, the Forestry Agency, Biodiversity Center of Japan, Kushiro Wetland National Park, Fuji-Hakone-Izu National Park.
2	Mr. Janeil Lustosa de Oliveira	Environmental Analyst, Nascentes do Rio Parnaíba National Park – ICMBio	10 Jun – 26 Jun 2011	JICA HQ, the Ministry of Environment, the Forestry Agency, Biodiversity Center of Japan, Kushiro Wetland National Park, Fuji-Hakone-Izu National Park.
3	Ms. Ana Carolina Sena Barradas	Environmental Analyst, Serra Geral Ecological Station – ICMBio	10 Jun – 26 Jun 2011	JICA HQ, the Ministry of Environment, the Forestry Agency, Biodiversity Center of Japan, Kushiro Wetland National Park, Fuji-Hakone-Izu National Park.
4	Mr. Mariusz Szmuchrowski	Environmental Analyst, Mosaic and Ecological Corridor Division, ICMBio	23 Nov – 9 Dec 2012	JICA HQ, the Ministry of Environment, the Forestry Agency, Biodiversity Center of Japan, Aso-Kuju National Park, Kirishima-Kinkowan National Park.
5	Ms. Áquilas Ferreira Mascarechas	Chief, Serra Geral Ecological Station, ICMBio	23 Nov – 9 Dec 2012	JICA HQ, the Ministry of Environment, the Forestry Agency, Biodiversity Center of Japan, Aso-Kuju National Park, Kirishima-Kinkowan National Park.
6	Ms. Cristiana Castro Lima Aguiar	Chief, Nascente do Rio Paranaíba National Park, ICMBio	23 Nov – 9 Dec 2012	JICA HQ, the Ministry of Environment, the Forestry Agency, Biodiversity Center of Japan, Aso-Kuju National Park, Kirishima-Kinkowan National Park.

1.4. 供与機材実績

No.	Name of Item	#	Specification	Date of Procurement	Place of use	Condition / situation after the Project
1	Vehicles	2	Pickup 4X4, Double Cabin (4Door), Air conditioner and necessary specification (1) Mitsubishi L200, model in the year 2010	(1)5/2010 (2)7/2011	(1)EESGT (2)PNRRP -ICMBio	Good / Transfer to ICMBio in Nov. 2013

			(2) Mitsubishi L200, model in the year 2011			
2	GIS Data Server	1	Data Server PC (Tower Type), LCD Monitor, UPS, Battery, OS and necessary specification.	2011	SEPLAN	Good / Transfer to ICMBio in Nov. 2013
3	GIS Server Software	1	ESRI ArcGIS Server Basic (Dual Core Type) and necessary specification.	2011	SEPLAN	Good / Transfer to ICMBio in Nov. 2013
4	Remote Sensing Software	1	ITT ENVI ver.4.7 and necessary specification.-One license.	5/2010	DMOC-ICM Bio	Good / Transfer to ICMBio in Nov. 2013
5	ALOS(PRISM) Satellite Image Data	1 set	JAXA ALOS(PRISM) 2.5m resolution Satellite image data.-Two seasons.	5/2010	DMOC-ICM Bio	Good / Transfer to ICMBio in Nov. 2013
6	ALOS(AVNIR-2) Satellite Image Data	1 set	JAXA ALOS(AVNIR-2) 2.5m resolution Satellite image data.-Two seasons.	5/2010	DMOC-ICM Bio	Good / Transfer to ICMBio in Nov. 2013

1.5. 現地業務費実績

1.5.1 JICAの実績

(1000 JPY)

費目	Japanese Fiscal Year (April-March)				合計
	2010	2011	2012	2013	
1. 機材購入費	3,444	5,405	-	-	8,849
1.1 JICA 事務所が支出した供与機材費	2,130	505	-	-	2,635
1.2 業務実施契約に含まれる機材購入費	1,314	4,900	-	-	6,214
2. 調査団(直営)派遣経費	11	1,112	1,648	-	2,771
3. 現地業務費	28,118	30,799	32,810	14,431	106,158
3.1. JICA 事務所が支出した在外事業強化費	2,630	1,906	505	645	5,686
3.2. 業務実施契約に含まれる一般業務費及び びローカルコンサルタント再委託費	25,488	28,893	32,305	13,786	100,472
合計	31,573	37,316	34,458	14,431	117,778

1.5.2 ICMBioの実績

(BRL)

Item	Brazilian Fiscal Year (Jan-Dec)				TOTAL
	2010	2011	2012	2013	
1 Office space – ICMBio HQ	50,000	50,000	50,000	50,000	200,000
2 Office space – ICMBio EESGT	24,000	24,000	24,000	24,000	96,000
3 E Office space – ICM Bio PNNRP	20,000	20,000	20,000	20,000	80,000
4 Postal Services	6,800	6,800	6,800	6,800	27,200
5 Acquisition of Vehicles	250,000	-	-	-	250,000
6 Office Maintenance	20,000	20,000	20,000	20,000	80,000
7 Vehicle Maintenance	180,000	180,000	180,000	180,000	720,000
8 Vehicle Fuel	96,000	96,000	96,000	96,000	384,000
9 Acquisition of Furniture	-	30,000	-	-	30,000
10 Acquisition of Information Equipment	-	40,000	-	-	40,000
11 Electricity / Water	30,000	30,000	30,000	30,000	120,000
12 Telephone	15,600	15,600	15,600	15,600	62,400
13 Internet	14,400	14,400	14,400	14,400	57,600
14 Secretary	48,000	48,000	48,000	48,000	192,000
15 Guard man	144,000	144,000	144,000	144,000	576,000
16 Driver	48,000	48,000	48,000	48,000	192,000
17 Designer (ASCOM)	10,000	10,000	10,000	10,000	40,000
18 Creation of EESGT Counsel	50,000	50,000	50,000	50,000	200,000
19 Daily Allowances	32,000	32,000	40,000	40,000	144,000
20 Air Tickets	14,400	14,400	16,000	16,000	60,800
Total	1,053,200	873,200	812,800	812,800	3,552,000

添付資料 2: プロジェクトの成果一覧 (PDM に基づいた成果の達成状況)

- 2.1 達成度グリッド I (PDM 指標に基づいた実績の整理)
- 2.2 達成度グリッド II (PDM 活動に基づいた実績の整理)
- 2.3 成果品一覧

添付資料 2 プロジェクトの成果一覧 (PDM に基づいた成果の達成状況)

2.1. 達成度グリッド I (PDM 指標に基づいた実績の整理)

As of October 2013

Narrative Summary	Indicators	Status as of the Med-term Review (Dec 2011)	Status as of the Terminal Evaluation (Oct 2012)	Additions as of the End of the Extension Period (Oct 2013)
【Overall Goal】 The ecosystem conservation in the Jalapão region is enhanced through the introduction of the Ecological Corridor.	The Strategic Plan for introducing and managing Jalapão Region Ecological Corridors (JREC) is implemented.	<ul style="list-style-type: none"> It is too early at the time of mid-term review to judge whether or not the achievement of the overall goal will be possible. However, its indicator on PDM is estimated to be possibly realized if the current project activities are continuously conducted in the latter half period. The personnel who know the field station well are quite positive on the eventual achievement of the overall goal while they think that it is not easy to measure the enhancement of the ecosystem conservation. 	<p>Not achieved as yet</p> <ul style="list-style-type: none"> The Strategic Plan is still under development. The mechanism to promote biodiversity conservation established by the Project is expected to contribute to the enhancement of the ecosystem conservation of the Jalapão region. 	<p>Not achieved as yet (however anticipated to be achieved in the future)</p> <ul style="list-style-type: none"> In April 2013, the Strategic Plan was completed after the revision in order to integrate activities by INEMA of Bahia. In September 2013, after the institutional jurisdictional analysis and necessary design and layout works, 220 copies were made to be distributed to all concerned people.
【Project Purpose】 The institutional capacity of ICMBio is strengthened to introduce and implement Ecological Corridor in the Jalapão region.	The Strategic Plan for introducing and managing JREC has consensus among concerned institutions by the coordination of ICMBio.	<ul style="list-style-type: none"> The preparation of the Strategic Plan for introducing and managing JREC is in progress. The Team observed eager discussions with concrete ideas on the Strategic Plan during the technical seminar and the counterpart meeting on 29th and 30th Nov 2011 The consensus on the Plan is steadily being created through such discussions and will be consolidated by the end of the Project. 	<p>Almost achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> Under the rationale of the Reciprocity Term, part I (diagnosis and justification) & II (action plan) of the Strategic Plan have been prepared. Above-mentioned part I (diagnosis and justification) & II (action plan) are currently being revised to be adapted for the upcoming "Jalapão Mosaic". The preparation of part III (operational guidelines) is planned to be finalized by December 2012. The development of Strategic Plan for the "Jalapão Mosaic" is being undertaken in a participatory way to ensure the consensus. 	<p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> Part I (diagnosis and justification), II (action plan) & III (operational guidelines), indicated in the PDM, were all completed, adapted for the upcoming "Jalapão Mosaic". Three parts were simplified and integrated into one document. Revised Strategic Plan for the "Jalapão Mosaic" has attained consensus by all prospected council members in the first Mosaic meeting held from 17 to 19 September, 2013, in Palmas.
	Mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region is developed by the coordination of ICMBio.	<ul style="list-style-type: none"> The mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region by the coordination of ICMBio is in the process of its establishment. For example, collaboration between ICMBio, MMA and state organizations was enhanced by the Reciprocity Term. This enhanced collaboration created synergy effects among the federal and state programs to support municipalities, which stimulated the establishment of municipal environment councils. This collaboration has led to a number of joint actions among the federal and state organization, such as joint environmental education program, joint seminar/workshops, and the integration of information management systems of different organizations, which optimizes the use of scarce resources for biodiversity conservation. 	<p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> The biodiversity conservation mechanism, which was defined by the Project to consist of the integration/cooperation framework among federal and state institutions (Output 2 and 3), directions of conservation efforts to be shared among concerned actors (Output 1, 3 and 5), and instruments which enable communities to participate in conservation (Output 3 and 4), has been developed. According to the attainment level of Outputs' indicators, those of Output 1,2,3 and 4 are achieved, whereas that of Output 5 are almost achieved. As such, it is reasonable to conclude that the mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region is established. 	<p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> All planned activities were successfully completed, and "mechanism" has been developed. However, the recognition of "Jalapão Mosaic" by MMA has been delayed unpredictably. Thus the Mosaic Council and its bylaws were yet to be officially recognized.
【Output】 1. Information necessary for JREC management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and organized.	1.1 The database with the collected information is developed.	<ul style="list-style-type: none"> The Project GIS database has become available at http://www.jalapaocorredor.com.br/. It is temporarily installed and made available by ICMBio staff on stand-alone server, but the procedure to install it to ICMBio computer network is under progress. 	<p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> SEPLAN's homepage is currently being modified to be linked to the new, updated Web-GIS system in SEPLAN network which was already set up. http://corredorjalapao.seplan.to.gov.br/jalapao/ An official inauguration ceremony of the Web-GIS is scheduled on 9 Nov 2012 in Palmas. 	<p>Achieved.</p> <ul style="list-style-type: none"> SEPLAN's homepage is currently hosting the new, updated Web-GIS system. http://corredorjalapao.seplan.to.gov.br/jalapao/
	1.2 The project homepage in ICMBio website is	<ul style="list-style-type: none"> The project Homepage at ICMBio website was released at http://www.icmbio.gov.br/projetojalapao/ 	<p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> The project homepage has been updated on such occasions as below: 	<p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> The project homepage has been updated on such occasions as below:

	updated at least four times a year.	<ul style="list-style-type: none"> Renewal time has not come as yet. 	<ol style="list-style-type: none"> New release - 21 news have been released from 14 Oct 2010 to 17 Oct 2012 English homepage was constructed Additions of materials for download – publications and maps. 	1) New release - 8 news has been released from Oct 2012 to Oct 2013.
	1.3 Information necessary for JREC management is distributed and shared among concerned institutions.	<ul style="list-style-type: none"> Information necessary for JREC management has been distributed and shared among institutions concerned through the project HP, printed materials and the Ecological Corridor Atlas (synthesized information and maps on JREC). 	Achieved <ul style="list-style-type: none"> Information necessary for JREC management is distributed through website (indicator 1.1 and 1.2), printed materials (indicator 1.4), and meeting/training/seminar (indicator 2.2, 3.1, 3.2 and 4.1) 	Achieved <ul style="list-style-type: none"> Information necessary for JREC management is distributed through website (indicator 1.1 and 1.2), printed materials (indicator 1.4), and meeting/training/seminar (indicator 2.2, 3.1, 3.2 and 4.1)
	1.4 Information sharing materials are developed.	<ul style="list-style-type: none"> Printed materials of information necessary for JREC management were developed and well-received. Additional printing is expected by related state/municipal institutions and local communities. 	Achieved <ul style="list-style-type: none"> Many kinds of information materials were developed and distributed, e.g., project brochures, Atlas of JREC, banners for municipalities, panels for CEIT(Mateiros) and São Félix, and Video. 	Achieved <ul style="list-style-type: none"> Many kinds of information materials were developed and distributed, e.g., the revised Atlas, banners for the Jalapão Mosaic, various panels for CEIT(Mateiros), São Félix and Rio de Conceição, and the revised Strategic Plan.
2. Institutional arrangements for the JREC management are structured.	2.1 The Reciprocity Term for JREC management obtains institutional consensus among concerned institutions.	<ul style="list-style-type: none"> The Reciprocity Term for JREC management obtained consensus among ICMBio, MMA, The Governor of the State of Tocantins, NATURATINS, SEMADES and SEPLAN and was signed by them on 29th Sep 2011. 	Achieved <ul style="list-style-type: none"> The Reciprocity Term was signed on 29 Sep 2011. Furthermore, the establishment of Mosaic in the Jalapão region is in progress. <ol style="list-style-type: none"> Agreement on Mosaic participation was signed by managers of nine protected areas concerned in Aug 2012. Proposal to establish the “Jalapão Mosaic” was submitted to MMA in Sep 2012. 	Achieved
	2.2 Meetings among concerned institutions for JREC management are held at least three times a year.	<ul style="list-style-type: none"> Various meetings have been held among the related institutions (e.g. the preparation meetings for the Reciprocity Term) and its frequency is more than ten times a year. 	Achieved <ul style="list-style-type: none"> Periodical counterpart meeting was held 6 times in May 2010 through Sep 2011. Based on the Reciprocity Term, JREC Coordination Committee gathered 4 times from Nov 2011 to Aug 2012. 	Achieved <ul style="list-style-type: none"> Periodical counterpart meeting was held 2 times, in May and Sep 2013. Based on the Reciprocity Term, JREC Coordination Committee gathered 2 times in the same timings of above mentioned meetings.
	(Added in the revised PDM in Dec 2012) 2.1 Jalapão Mosaic Council is established and its bylaw and management capacity are built.			Not achieved <ul style="list-style-type: none"> First Mosaic meeting with prospected council members was held from 17-19 Sep 2013. However, since the Mosaic has not yet been recognized by MMA, the gathering was not officially recognized. Draft bylaw was elaborated in the above mentioned meeting.
3. Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted.	3.1 Training, visits and other capacity developing activities for concerned institutions are held at least two times during the period of the Project.	<ul style="list-style-type: none"> More than two times of training, visits and other capacity developing activities for concerned institutions were held by the time of mid-term review. 	Achieved <ul style="list-style-type: none"> Training, technical exchange, study visit have been conducted as follows for counterparts (20 times): <ol style="list-style-type: none"> Training on GPS/GIS and Web-GIS - 3 times Training in Japan – 1 time Training on RPPN – 1 time Training on prevention/control of forest fire – 1 time Mini-course on participatory biodiversity conservation – 7 times Technical exchange – 4 times Training on MONA – 2 times Study visit to another mosaic – 1 time 	Achieved <ul style="list-style-type: none"> Technical Visit to Costa Rica, 19-26 May 2013 (Training in the third country) Training for capacity development on creation of mosaic council in 13-14 May, 18-19 Sep, 2-3 Oct 2013
	3.2 During the period of project, at least two seminars for JREC conservation are held.	<ul style="list-style-type: none"> Kick Off Seminar was held on 13 May 2010. RPPN technical seminar on 29-30 Sep 2011 Technical seminar for JREC conservation on 29 Nov 2011. 	Achieved <ul style="list-style-type: none"> 4 seminars were held to date. <ol style="list-style-type: none"> Kick Off Seminar was held on 13 May 2010 RPPN technical seminar on 29-30 Sep 2011 Technical seminar for JREC conservation on 29 Nov 2011 Conclusion Seminar (Output 4) on 26 Oct 2012. 	Achieved <ul style="list-style-type: none"> Project Conclusion Seminar was held on 2-3 Oct 2013. Four Municipal Conclusion Seminars(Ponte Alta in 24 Sep, São Félix in 26 Sep, Mateiros in 27 Sep, Rio de Conceição in 30 Sep) were held.
4. The linkage	4.1 At least two	<ul style="list-style-type: none"> 100 hours trainings targeting at school teachers 	Achieved	Achieved

<p>between local populations and institutions concerned with JREC conservation is strengthened.</p>	<p>training programs for local populations are conducted.</p>	<p>were conducted in Mateiros and in Rio da Conceição. The number of teachers who received the certificate is 26 and 23 respectively.</p> <ul style="list-style-type: none"> Two-day trainings for potential members of municipal environment councils were conducted in five municipalities (Mateiros, Rio da Conceição, São Félix, Almas and Ponte Alta). Total 101 members participated in the trainings. 	<ul style="list-style-type: none"> Three kinds (programs) of training have been conducted for the capacity development of COMATUR/COMTURMA <ol style="list-style-type: none"> Capacity development on planning/implementation through the development of model projects Capacity development on organizational management such as the selection of board member and awareness- raising on their role/responsibility. Capacity development on financial management by the utilization of ICMS Ecológico ASAS – training of teachers for environmental education – conducted in Rio da Conceição and Mateiros (2011) and in São Félix and Ponte Alta (2012) 	<ul style="list-style-type: none"> Three kinds (programs) of training have been conducted for the capacity development of COMATUR/COMTURMA in target four municipalities-Ponte Alta, São Félix, Mateiros, Rio da Conceição . <ol style="list-style-type: none"> Capacity development on planning, implementation and monitoring of municipal environmental plan – conducted five workshops in each municipality, totaling 20 workshops. Capacity development on implementation of the project – conducted three workshops in each municipality, totaling 15 workshops. Capacity development on financial management by the utilization of ICMS Ecológico – conducted one workshop in each municipality, totaling 4 workshops. As a part of ASAS(Training of Teachers for Environmental Education), three(3-4 days) trainings were conducted in each municipalities, totaling 12 trainings. Technical Exchange Visit to the Chapada dos Veadeiros National Park in the state of Goiás were conducted from 3-6 Oct 2013(11 participants from municipalities and NATURATINS). 																		
	<p>4.2 Municipal environmental legislation is strengthened with assistance from concerned institutions.</p>	<ul style="list-style-type: none"> The municipal environment councils were established in Rio da Conceição, São Félix and Ponte Alta. The council will be established soon in Mateiros as of Mid-term Review. The environmental council for the Serra Geral do Tocantins Ecological Station is almost been established (Official establishment will be in April 2012). Municipality of Ponte Alta revised its ordinance on environment. The mayor of São Félix signed and authorized the SMUC, after the approval of the municipal assembly, to make it possible to designate municipal conservation units, and requested ICMBio for support to the establishment of municipal conservation units. 	<p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> Formation of municipal legislation by the Project for COMATUR (COMTURMA in São Félix) and MONA <table border="1" data-bbox="1016 730 1608 1193"> <thead> <tr> <th>Municipality</th> <th>Legislation and Statute</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ponte Alta</td> <td>1. Revision of municipal environmental ordinance (Oct 2011) 2. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 3. Statute of the Council (Nov 2011)</td> </tr> <tr> <td>Rio da Conceição</td> <td>1. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 2. Statute of the Council (Nov 2011) 3. Law on the alternation of the environmental fund (Oct 2010) 4. Law on the reform of COMATUR (Oct 2010)</td> </tr> <tr> <td>São Félix</td> <td>1. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 2. Statute of the Council (Nov 2011) 3 Law on SMUC (Nov 2011) 4. Law on the creation of MONA (Jul 2012)</td> </tr> <tr> <td>Mateiros</td> <td>1. Decree on the appointment of council members (Jul 2012) 2. Statute of the Council (Jul 2012)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> Furthermore, the Council of EESGT was officially registered (approved) by ICMBio's institutional ordinance No 45/2012. 	Municipality	Legislation and Statute	Ponte Alta	1. Revision of municipal environmental ordinance (Oct 2011) 2. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 3. Statute of the Council (Nov 2011)	Rio da Conceição	1. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 2. Statute of the Council (Nov 2011) 3. Law on the alternation of the environmental fund (Oct 2010) 4. Law on the reform of COMATUR (Oct 2010)	São Félix	1. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 2. Statute of the Council (Nov 2011) 3 Law on SMUC (Nov 2011) 4. Law on the creation of MONA (Jul 2012)	Mateiros	1. Decree on the appointment of council members (Jul 2012) 2. Statute of the Council (Jul 2012)	<p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> Formation of municipal legislation by the Project for COMATUR /COMTURMA and MONA <table border="1" data-bbox="1621 730 2087 976"> <thead> <tr> <th>Municipality</th> <th>Legislation and Statute</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ponte Alta</td> <td>1. Decree on the regulation of the environmental municipal fund (July 2013)</td> </tr> <tr> <td>São Félix</td> <td>1. Decree on the appointment of council members of MONA(Sep 2013)</td> </tr> <tr> <td>Mateiros</td> <td>1. Decree on the creation of the environmental municipal fund (July 2013)</td> </tr> </tbody> </table>	Municipality	Legislation and Statute	Ponte Alta	1. Decree on the regulation of the environmental municipal fund (July 2013)	São Félix	1. Decree on the appointment of council members of MONA(Sep 2013)	Mateiros	1. Decree on the creation of the environmental municipal fund (July 2013)
Municipality	Legislation and Statute																					
Ponte Alta	1. Revision of municipal environmental ordinance (Oct 2011) 2. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 3. Statute of the Council (Nov 2011)																					
Rio da Conceição	1. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 2. Statute of the Council (Nov 2011) 3. Law on the alternation of the environmental fund (Oct 2010) 4. Law on the reform of COMATUR (Oct 2010)																					
São Félix	1. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 2. Statute of the Council (Nov 2011) 3 Law on SMUC (Nov 2011) 4. Law on the creation of MONA (Jul 2012)																					
Mateiros	1. Decree on the appointment of council members (Jul 2012) 2. Statute of the Council (Jul 2012)																					
Municipality	Legislation and Statute																					
Ponte Alta	1. Decree on the regulation of the environmental municipal fund (July 2013)																					
São Félix	1. Decree on the appointment of council members of MONA(Sep 2013)																					
Mateiros	1. Decree on the creation of the environmental municipal fund (July 2013)																					
	<p>(Added in the revised PDM in Dec 2012) 4.3 The amount of ICMS Ecológico allocated to the four target municipalities is increased.</p>			<p>Achieved</p> <p>Based on 'commitment terms on ICMS-Ecológico' concluded in 2012, from 2013 certain percentage of ICMS-Eco came to be officially assured for implementation of 'municipal environmental master plan (EMP)' as table below.</p> <p>Budget-flow of ICMS-Ecológico was not open /transparent and not guaranteed to use for environmental action at each municipality until</p>																		

				2012.															
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>Municipality</th> <th>Percentage</th> <th>Budget of ICMS-Eco allocated to EMP (2013)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ponte Alta</td> <td>50%</td> <td>R\$ 64,500</td> </tr> <tr> <td>Rio da Conceição</td> <td>30%</td> <td>R\$ 46,350</td> </tr> <tr> <td>Mateiros</td> <td>20%</td> <td>R\$ 319,200</td> </tr> <tr> <td>São Félix</td> <td>25%</td> <td>R\$ 27,560</td> </tr> </tbody> </table>	Municipality	Percentage	Budget of ICMS-Eco allocated to EMP (2013)	Ponte Alta	50%	R\$ 64,500	Rio da Conceição	30%	R\$ 46,350	Mateiros	20%	R\$ 319,200	São Félix	25%	R\$ 27,560
Municipality	Percentage	Budget of ICMS-Eco allocated to EMP (2013)																	
Ponte Alta	50%	R\$ 64,500																	
Rio da Conceição	30%	R\$ 46,350																	
Mateiros	20%	R\$ 319,200																	
São Félix	25%	R\$ 27,560																	
5. The strategic plan/guideline for introducing and managing JREC is developed.	5.1 "Diagnosis & Justification", "Strategic Action Plans" and "Operational Guidelines" are developed.	<ul style="list-style-type: none"> "Operational Guidelines" has not been prepared yet. However, "Diagnosis & Justification" has been drafted and the preparation of "Strategic Action Plans" is in progress and will be finalized in March 2012. 	<p>Almost achieved.</p> <ul style="list-style-type: none"> Under the rationale of the Reciprocity Term, part I (diagnosis and justification) & II (action plan) of the Strategic Plan have been prepared. Above-mentioned part I (diagnosis and justification) & II (action plan) are currently being adapted for the upcoming "Jalapão Mosaic", whereas the preparation of part III (operational guidelines) has just started. A workshop to finalize the part I & II is scheduled on 12-14 Nov 2012 in Brasilia. The Part III will be finalized by December 2012. 																
	(Revised in the revised PDM in Dec 2012) 5.1 "Diagnosis & Justification", "Strategic Action Plans" and "Operational Guidelines" are developed and a part of "Strategic Action Plan" is implemented.			<p>Achieved.</p> <ul style="list-style-type: none"> Part I (diagnosis and justification), II (action plan) & III (operational guidelines), planned to be elaborated in the PDM, were all completed, adapted for the "Jalapão Mosaic". Three parts were simplified and integrated into one document. Revised Strategic Plan for the "Jalapão Mosaic" has attained consensus by all prospected council members in the first Mosaic meeting held from 17 to 19 September 2013, in Palmas. Because of the delay on the recognition of "Jalapão Mosaic", and also institutional reform and significant change of personnel in SEMADES and NATURATINS which occur in August 2013, Action Plans were yet to be implemented as stated in the Strategic Plan, however, actions were partially implemented within the project framework. 															

2.2. 達成度グリッド II (PDM 活動に基づいた実績の整理)

As of October 2012				
Output	Activity	Progress till the Mid-term Review (Dec 2011)	Progress till the Terminal Evaluation (Oct 2012)	Progress till the End of the Extension Period (Oct 2013)
1. Information necessary for JREC management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and	1.1 To collect information concerned with ecological corridors in Brazil.	<ul style="list-style-type: none"> List of literature collected (hardcopies) List of information / data collected (GIS data) 	<ul style="list-style-type: none"> Procurement of additional ALOS satellite image data. Geospatial data analysis and development of land use map of São Félix based on ALOS satellite image data. Cadastral map in São Félix based on ALOS satellite image data and GPS data, referring to INCRA (São Félix) 	
	1.2 To collect baseline information for ecological monitoring.	<ul style="list-style-type: none"> Geospatial data analysis and diagnosis Development of landscape map based on ALOS satellite image data, reflecting information such as continuation/separation of ecosystem, population density, and vegetation. 		

organized.	1.3 To develop information sharing materials, and disseminate project information in appropriate media.	<ul style="list-style-type: none"> Information/promotion materials (2010) <ol style="list-style-type: none"> 1) Pen with project logo → 300 2) Mouse Pad with project logo → 100 3) CD Label with project logo → 500 4) Desk Calendar with Project information → 500 5) Memo Pad with project logo → 200 6) File Binder with project logo → 100 7) Project Brochure(2010) → 200 8) Project Leaflet (NATURATINS) → 5000 9) Environmental Education Book (Vamos Conhecer o Cerrado) → 200 10) Bag with project logo → 100 Information/promotion materials (2011) <ol style="list-style-type: none"> 1) 7 types of folder (project pamphlet) → 3000 2) RPPN × 2 types (for project → 2000, for entire country → 3000) 3) EESGT in general → 3000 4) PNNRP in general → 3000 5) Jalapão State Park in general → 3000 6) RIO VIVO (ASAS brochure) → 700 7) Calendar 2012 → 500 8) Atlas (Nov 2011) → 500 9) T-shirt → 300 10) Banner for each municipality → 4 types <ul style="list-style-type: none"> Web GIS system (database server and software) set up in ICMBio network in Jun 2011. JREC Project Homepage http://www.icmbio.gov.br/projetojalapao/ Setup manual and operation manual on Web GIS for ICMBio. 	<ul style="list-style-type: none"> Information/promotion materials (2012) <ol style="list-style-type: none"> 1) Logo sticker (big) → 100 2) Logo sticker (small) → 100 3) JOGO (card game) → 100 4) Bookmark leaf → 2000 5) Folder (PILOES) project pamphlet → 5000 6) Folder (MANUEL ALVES) pamphlet → 5000 7) Folder (Natural Monument/Public Consultation) pamphlet → 1000 8) Panel(Rio de Conceição) → 7 types 9) Educational video (MONA establishment procedure)→ 1 10) Panel for CEIT(Mateiros) → 8 types 11) Panel for São Félix → 3 types Atlas of JREC currently under revision, to be reissued in Jan 2013 Web GIS system transferred from ICMBio to SEPLAN in Jun 2012. New, updated Web GIS system (database server and software) set up in SEPLAN network, scheduled to hold an official inauguration ceremony on 9th Nov 2012 in Palmas. http://corredorjalapao.seplan.to.gov.br/jalapao/ <ul style="list-style-type: none"> The characteristics of the Web-GIS is described as below, <ol style="list-style-type: none"> 1) Low-cost GIS system by making use of free software; 2) No specific GIS software necessary on users' PCs; 3) Data addition to data server possible by users; and 4) Data exports to users' PCs available. SEPLAN's Project Homepage currently under development to be linked to the Web-GIS site above. WebGIS manual for SEPLAN Visitor counter was set up for the Project-Web GIS. JREC Project Homepage updated every two-three weeks as occasion of news release (e.g. 17 Oct 2012 on municipal environmental council wrap-up meeting), construction of English Homepage, and addition of supplement information data. 	<ul style="list-style-type: none"> Information/promotion materials (2013) <ol style="list-style-type: none"> 1) T shirts with Jalapão Mosaic logo → 200 2) Polo shirts with Jalapão Mosaic logo → 100 3) Panel(Rio de Conceição) → 38 types 4) Panel for CEIT(Mateiros) → 11 types 5) Panel for São Félix → 16 types 6) Logo sticker for MONACC (São Félix) → 500 7) Banner for Jalapão Mosaic → 20 8) ICMS-Ecologico Guideline→ 1,000 9) Manual of Project Elaboration→ 1,000 10) Environmental Education-ASAs do Jalapao-Guideline→ 4,000 11) Desk Calendar with Project information → 500 Revised Atlas of JREC was reissued in Feb 2013 → 500 copies JREC Project Homepage updated every month as occasion of news release. 8 news were added from Oct 2012 to Oct 2013.
2. Institutional arrangements for the JREC management are structured.	2.1 To hold periodical meetings of the project counterparts, discuss and promote the project management.	<ul style="list-style-type: none"> JCC <ol style="list-style-type: none"> 1st : 4 May 2010 2nd : 5 May 2011 (Approval of revised PDM) 3rd : 9 Dec 2011 (Report of Mid-term Review) Technical Kick-off Seminar on 13 May 2010 Technical Mid-term Seminar on 29 Nov 2011 Periodical Counterpart Meeting <ol style="list-style-type: none"> 1) 12 May 2010 2) 1-2 Jun 2010 3) 19-26 Sep 2010 4) 1-2 Dec 2010 5) 28 Apr 2011 6) 6 Sep 2011 7) 30 Nov 2011 	<ul style="list-style-type: none"> JCC <ol style="list-style-type: none"> 4th : 17 May 2012 (Review of activities in 2011, Approval of 2012 Annual plan) 5th : 31 Oct 2012 (planned to review the terminal evaluation report) Periodical Counterpart Meeting <ol style="list-style-type: none"> 1) 8-9 May 2012 (Annual Action Plan for 2012 of Periodical CP meeting) (Palmas) 2) 18-19 Jul 2012(Palmas) 3) 28-29 Aug (Salvador, Bahia) 4) 12-14 Nov 2012 (Brasilia DF) 	<ul style="list-style-type: none"> JCC <ol style="list-style-type: none"> 6th : 22 Oct 2013 (Review of activities in 2013, Project wrap up) Project Conclusion Seminar <ol style="list-style-type: none"> 1) 2-3 Oct 2013(Palmas) Periodical Counterpart Meeting <ol style="list-style-type: none"> 1) 13-15 May 2013 (Mateiros) 2) 17-19 Sep 2013(Palmas) 3) 2-3 Oct 2013 (Palmas)
	2.2 To define roles and actions of concerned institutions in the reciprocity term.	<ul style="list-style-type: none"> Meeting for the reciprocity term between ICMBio and the State of Tocantins (17-18 May 2010 and 3, 5, 28 Apr 2011) 	<ul style="list-style-type: none"> Discussion regarding Reciprocity Term between ICMBio and State of Bahia (28-29 Aug 2012) Letter of request for approval of Reciprocity Term was dispatched from ICMBio to the State Environmental Secretariat (11 Sep 2012) 	<ul style="list-style-type: none"> Roles and actions of concerned institutions were defined also in the Strategic Plan.
	2.3 To obtain institutional consensus on reciprocity term among concerned	<ul style="list-style-type: none"> The Reciprocity Term No 06/2011 for JREC management was signed by the President of ICMBio, the Secretary of MMA, the Secretary of SEMADES, the President of NATURATINS, the Secretary of SEPLAN, and the 		<ul style="list-style-type: none"> Revised Strategic Plan for the "Jalapão Mosaic" has attained consensus by all prospected council members in the first Mosaic meeting held from 17 to 19 September 2013, in Palmas.

	institutions.	<p>Governor of the State of Tocantins. (29 Sep 2011).</p> <ul style="list-style-type: none"> Extract of the Reciprocity Term was published in the Diario Oficial da União, 7 October 2011 (DOU No. 194) <ol style="list-style-type: none"> The introduction and implementation of Jalapão Corridor. The establishment of Coordination Committee The Reciprocity Term valid for 5 years 		
	2.4 To hold meetings among concerned institutions based on the rationale of reciprocity term.	-	<ul style="list-style-type: none"> Meeting of JREC Coordination Committee based on the Reciprocity Term <ol style="list-style-type: none"> 30 Nov 2011 (Seminar held with participants from Bahia State Government) 8-9 May 2012 18-19 Jul 2012 28-29 Aug at Salvador, Bahia <ul style="list-style-type: none"> Promotion regarding the establishment of mosaic in the Jalapão region <ol style="list-style-type: none"> Working group and a mailing list were set up, including those concerned in Bahia, in May 2012. Agreement on Mosaic participation signed by authorities of nine related protected areas in Aug 2012. Proposal to establish the "Jalapão Mosaic" prepared and submitted to MMA in Sep 2012. The establishment of the Jalapão Mosaic is expected to be recognized by MMA in as early as Dec 2012. 	<ul style="list-style-type: none"> Meeting of JREC Coordination Committee based on the Reciprocity Term <ol style="list-style-type: none"> 13-15 May 2013 (Mateiros) 17-19 Sep 2013 (Palmas) 2-3 Oct 2013 (Palmas)
	(Added in the revised PDM in Dec 2012) 2.5 To establish the Jalapão Mosaic Council and the bylaw of the Council			<ul style="list-style-type: none"> First Mosaic meeting with prospected Council members was held from 17-19 Sep. However, since the Mosaic has not yet recognized, the gathering was not officially recognized. Draft bylaw was elaborated in the above mentioned meeting.
3. Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted.	3.1 To identify necessary themes for training the staff from ICMBio and concerned institutions with the Project.	<ul style="list-style-type: none"> Hearing survey for needs assessment of ICMBio staff by a JICA consultant. Preparation of a training program on 9-10 Nov 2010. 	-	
	3.2 To plan and implement trainings for ICMBio and concerned institutions with the Project.	<ul style="list-style-type: none"> GPS/GIS Training <ol style="list-style-type: none"> 9-10 Nov 2010 17-18 May 2011 for staff from NATURATINS, SEMADES and SEPLAN <ul style="list-style-type: none"> Counterpart Training in Japan <ol style="list-style-type: none"> 1st: 10 - 26 Jun 2011 <ul style="list-style-type: none"> RPPN technical seminar at NATURATINS <ol style="list-style-type: none"> 29-30 Sep 2011 	<ol style="list-style-type: none"> Training <ul style="list-style-type: none"> Web-GIS Training for staff from NATURATINS, SEMADES and SEPLAN, 25 May 2012 Training on prevention and control of forest fire, 16-17 Aug 2012. Counterpart Training in Japan 2nd: 23 Nov - 9 Dec 2012 <ol style="list-style-type: none"> Technical Exchange <ul style="list-style-type: none"> Technical exchange meeting for ICMBio and officers of Tocantins on integrated ecosystem conservation, management of protected area and the establishment/management of Mosaic. <ol style="list-style-type: none"> 8-9 May 2012 18-19 Jun 2012 28-29 Aug 2012 12-14 Nov 2012 planned <ol style="list-style-type: none"> Training on MONA in Palmas with participants from state counterpart institutions <ol style="list-style-type: none"> 5 Jul 2012 (draft MONA management plan was discussed) 11 Oct 2012 (consultation on the 1st draft MONA management plan) 	<ol style="list-style-type: none"> Training <ul style="list-style-type: none"> Training for capacity development on creation of mosaic council in 13-14 May 2013, 18-20 Sep, 2-3 Oct Technical Visit <ul style="list-style-type: none"> Technical Exchange Visit to Costa Rica, 19-26 May 2013 <p>Participants: <ICMBio>Allan Crema, Bernaldo Brito, <NATURATINS> Veronica Amahal, <JICA>Koji Asano</p>

	3.3 To follow up activities of the trained staff.	<ul style="list-style-type: none"> Mini-course on institutional framework for Promoting a participatory biodiversity conservation - cases from the Philippines and India – was presented by a Japanese expert. <ol style="list-style-type: none"> 14 Oct 2011 at ICMBio (Brasilia) 17 Oct 2011 at Mateiros 20 Oct 2011 at Ponte Alta Mini-course on institutional framework for Promoting a participatory biodiversity conservation was presented by a Japanese expert. <ol style="list-style-type: none"> 9 Nov 2011 at São Félix 10 Nov 2011 at Mateiros 14 Nov 2011 at Rio da Conceição 22 Nov 2011 at Ponte Alta Study Visit for the exchange of experience to Central Fluminense Mosaic. <ol style="list-style-type: none"> 12-16 Dec 2011 	<ul style="list-style-type: none"> Follow-up conducted through opportunities such as training, WS and seminars. <p>OJT</p> <ul style="list-style-type: none"> Capacity development of C/P and state counterparts on municipal environmental councils, environmental education, EESGT management) 	<ul style="list-style-type: none"> Follow-up conducted through opportunities such as training, WS and seminars. <p>OJT</p> <ul style="list-style-type: none"> Capacity development of C/P and state counterparts on municipal environmental councils, environmental education, EESGT management) 											
	3.4 To hold seminars on the JREC conservation.	<ul style="list-style-type: none"> Kick Off Seminar on 13 May 2010. RPPN technical seminar on 29-30 Sep 2011 Technical Mid-term seminar for JREC conservation on 29 Nov 2011 in Taquarusu, Tocantins. 	<ul style="list-style-type: none"> Project Conclusion Seminar for the Municipal Level Activities was held on 26 Oct 2012. 	<ul style="list-style-type: none"> Project Termination Seminar was held in 2-3 Oct 2013. 											
4. The linkage between local populations and institutions concerned with JREC conservation is strengthened.	4.1 To communicate project information to local populations.	<ul style="list-style-type: none"> 7 types of folders generated. Record of distribution maintained. 	<ul style="list-style-type: none"> Revision of the technical orientation manual of ICMS Ecológico of Tocantins is under discussion. 3 types of folder generated. (→ see Activity 1.3) <ol style="list-style-type: none"> Folder (PILOES) project pamphlet → 5,000 Folder (MANUEL ALVES) pamphlet → 5,000 Folder (Natural Monument/Public Consultation) pamphlet → 1,000 	<ul style="list-style-type: none"> Information/promotion materials (2013) <ol style="list-style-type: none"> Panel(Rio de Conceição) → 38 types Panel for CEIT(Mateiros) → 11 types Panel for São Félix → 16 types Logo sticker for MONACC (São Félix) → 500 Banner for Jalapão Mosaic → 20 ICMS-Ecológico Guideline→ 1,000 Manual of Project Elaboration→ 1,000 Environmental Education-ASAs do Jalapao-Guideline→ 4,000 											
	4.2 To identify themes and methodologies suitable for capacitating local populations.	<ul style="list-style-type: none"> Field Reconnaissance (19 – 25 Sep 2010) to identify target communities and approaches. Hearing survey by JICA consultant (Ms. Selene) on municipal environmental council and analysis. 	<ul style="list-style-type: none"> Field Reconnaissance to re-identify target communities and approaches (Ponte Alta, São Félix, Rio de Conceição, Mateiros). <ol style="list-style-type: none"> 19-24 April 2012 Hearing survey to state counterpart institutions. <ol style="list-style-type: none"> April 2012 	<ul style="list-style-type: none"> Field Reconnaissance to re-identify target communities and approaches (Ponte Alta, São Félix, Rio de Conceição, Mateiros). <ol style="list-style-type: none"> 1-6 Feb 2013 											
	4.3 To implement training and other activities for local populations for the better management of the natural resources.	<ul style="list-style-type: none"> Municipal Environmental Councils <ul style="list-style-type: none"> Training course on structure for environmental management (municipal environmental council) for total 101 participants (19 municipal officers, 14 city council member, 68 others) <ol style="list-style-type: none"> Almas (12-13 Jul 2011) Mateiros (19-20 May 2011) Ponte Alta do Tocantins (30-31 May 2011) Rio da Conceição (2-3 Jun 2011) São Félix do Tocantins (16-17 May 2011) Technical meeting for a proposal to revise the law on regional environmental councils. <ol style="list-style-type: none"> Mateiros (17 Oct 2011) Ponte Alta do Tocantins (11 Nov 2011) Rio da Conceição (10 Aug 2011) São Félix do Tocantins (15 Sep 2011) Advice to environment and tourism division for the establishment of regional environmental council <ol style="list-style-type: none"> Ponte Alta do Tocantins (21 Oct 2011) Rio da Conceição (14 Oct 2011) São Félix do Tocantins (9 Nov 2011) Planning meeting for the regional environmental 	<ul style="list-style-type: none"> Capacity Development of COMATUR/COMTURMA on planning and implementation through the development of model projects <table border="1"> <thead> <tr> <th>Municipality</th> <th>Current Status of model projects</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ponte Alta</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> WS <ol style="list-style-type: none"> 20-21 Jun 2012 18 Jul 2012 6-7Aug 2012. 21 Aug 2012 (Plan was drafted) 29 Sep 2012 (Draft plan was discussed) <ul style="list-style-type: none"> The Re-vitalization Plan of Urban Rivers was finalized on 20 Oct 2012. </td> </tr> <tr> <td>Rio da Conceição</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> WS <ol style="list-style-type: none"> 22-23 Jun 2012 16 Jul 2012 8-9Aug 2012. 22 Aug 2012 27-28 Sep2012 The Promotion Plan of Natural Touristic Attractions was finalized on 9 Oct 2012. Brochure on environment, banner and panel </td> </tr> </tbody> </table> 	Municipality	Current Status of model projects	Ponte Alta	<ul style="list-style-type: none"> WS <ol style="list-style-type: none"> 20-21 Jun 2012 18 Jul 2012 6-7Aug 2012. 21 Aug 2012 (Plan was drafted) 29 Sep 2012 (Draft plan was discussed) <ul style="list-style-type: none"> The Re-vitalization Plan of Urban Rivers was finalized on 20 Oct 2012. 	Rio da Conceição	<ul style="list-style-type: none"> WS <ol style="list-style-type: none"> 22-23 Jun 2012 16 Jul 2012 8-9Aug 2012. 22 Aug 2012 27-28 Sep2012 The Promotion Plan of Natural Touristic Attractions was finalized on 9 Oct 2012. Brochure on environment, banner and panel 	<ul style="list-style-type: none"> Capacity Development of COMATUR/COMTURMA on planning, implementation and monitoring of municipal environmental plan (=5years master plan and annual plan 2013) <table border="1"> <thead> <tr> <th>Municipality</th> <th>Current Status of model projects</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ponte Alta</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> WS <ol style="list-style-type: none"> 25-26 Mar 2013 (elaboration of 5 years master plan) 3-4Apr 2013(elaboration of 5 years master plan) 21May 2013(elaboration of annual plan2013). 12 Jun 2013(elaboration of annual plan2013) 27 Aug 2013 (monitoring & evaluation) </td> </tr> <tr> <td>Rio da Conceição</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> WS <ol style="list-style-type: none"> 20-2q Mar 2013 10-11 Apr 2013 22May 2013. </td> </tr> </tbody> </table> 	Municipality	Current Status of model projects	Ponte Alta	<ul style="list-style-type: none"> WS <ol style="list-style-type: none"> 25-26 Mar 2013 (elaboration of 5 years master plan) 3-4Apr 2013(elaboration of 5 years master plan) 21May 2013(elaboration of annual plan2013). 12 Jun 2013(elaboration of annual plan2013) 27 Aug 2013 (monitoring & evaluation) 	Rio da Conceição
Municipality	Current Status of model projects														
Ponte Alta	<ul style="list-style-type: none"> WS <ol style="list-style-type: none"> 20-21 Jun 2012 18 Jul 2012 6-7Aug 2012. 21 Aug 2012 (Plan was drafted) 29 Sep 2012 (Draft plan was discussed) <ul style="list-style-type: none"> The Re-vitalization Plan of Urban Rivers was finalized on 20 Oct 2012. 														
Rio da Conceição	<ul style="list-style-type: none"> WS <ol style="list-style-type: none"> 22-23 Jun 2012 16 Jul 2012 8-9Aug 2012. 22 Aug 2012 27-28 Sep2012 The Promotion Plan of Natural Touristic Attractions was finalized on 9 Oct 2012. Brochure on environment, banner and panel 														
Municipality	Current Status of model projects														
Ponte Alta	<ul style="list-style-type: none"> WS <ol style="list-style-type: none"> 25-26 Mar 2013 (elaboration of 5 years master plan) 3-4Apr 2013(elaboration of 5 years master plan) 21May 2013(elaboration of annual plan2013). 12 Jun 2013(elaboration of annual plan2013) 27 Aug 2013 (monitoring & evaluation) 														
Rio da Conceição	<ul style="list-style-type: none"> WS <ol style="list-style-type: none"> 20-2q Mar 2013 10-11 Apr 2013 22May 2013. 														

		<p>council</p> <p>Mateiros (10 Nov 2011) Ponte Alta do Tocantins (22 Nov 2011) Rio da Conceição (14 Nov 2011) São Félix do Tocantins (9 Nov 2011)</p> <ul style="list-style-type: none"> Memorandum of Agreement signed among the Project, CAOMA, NATURATINS and SEMADES for cooperation. <p>2) Legislation and Statute at the Municipality Level (Apr 2010 – Dec 2011)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Legal Act</th> <th>Ponte Alta</th> <th>Rio da Conceição</th> <th>São Félix</th> <th>Mateiros</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Preparation meeting</td> <td>3 times</td> <td>3 times</td> <td>3 times</td> <td>3 times</td> </tr> <tr> <td>Revision of municipal environmental ordinance</td> <td>Oct 2011*</td> <td>N/A</td> <td>N/A</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>Decree on the appointment of council member</td> <td>Oct 2011</td> <td>Oct 2011</td> <td>Oct 2011</td> <td>Not yet</td> </tr> <tr> <td>Statute of the Council</td> <td>Nov 2011</td> <td>Nov 2011</td> <td>Nov 2011</td> <td>Not yet</td> </tr> <tr> <td>Law on SMUC</td> <td>N/A</td> <td>N/A</td> <td>Nov 2011</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>Law on the alternation of the Environmental Fund</td> <td>N/A</td> <td>Oct 2010</td> <td>N/A</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>Law on the Reform of COMATUR</td> <td>N/A</td> <td>Oct 2010</td> <td>N/A</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>Number of legislation and Statute</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>* The municipal environmental council in Ponte Alta covered Environment, Tourism and Agriculture. The revision was for the Agriculture to be separated from the Council, thus making it COMATUR.</p> <p>3) Environmental education</p> <ul style="list-style-type: none"> Development of JREC project environmental education action plan (17 Feb 2011), 'ASAS', to provide public school teachers of Rio da Conceição and Mateiros with 100 hour training course. 	Legal Act	Ponte Alta	Rio da Conceição	São Félix	Mateiros	Preparation meeting	3 times	3 times	3 times	3 times	Revision of municipal environmental ordinance	Oct 2011*	N/A	N/A	N/A	Decree on the appointment of council member	Oct 2011	Oct 2011	Oct 2011	Not yet	Statute of the Council	Nov 2011	Nov 2011	Nov 2011	Not yet	Law on SMUC	N/A	N/A	Nov 2011	N/A	Law on the alternation of the Environmental Fund	N/A	Oct 2010	N/A	N/A	Law on the Reform of COMATUR	N/A	Oct 2010	N/A	N/A	Number of legislation and Statute	3	4	3	0	<p>were developed (→ see Activity 1.3)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>Mateiros</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> WS 1) 1-2 Jul 2012 2) 29-31 Jul 2012 3) 20 Aug 2012. 4) 6-7 Sep 2012 5) 25 Sep 2012 1st draft Plan for the Promotion of Touristic Information and Exposition Center (CEIT) was prepared on 27 Sep 2012. 8 panels were developed and have been put for exhibition at CEIT since Oct 2012 (→ see Activity 1.3) </td> </tr> <tr> <td>São Félix</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> WS 1) 5 May 2012 (Public consultation for the establishment of MONA) 2) 1-2 Jul 2012 (Awareness raising on MONA with COMTURMA) 3) 7 Jul 2012 (Signing of the municipal decree of MONA) 4) 1-2 Aug 2012 (Training of MONA management plan) 5) 24 Sep 2012 (Preparatory discussion on public meeting) 6) 13 Oct 2012 (Public meeting on 1st draft of MONA management plan) The Natural Monument (MONA) along Soninho River was established on 2 July 2012 by the signing of the mayor on the Decree No 034/2012. Management plan for MONA being prepared. </td> </tr> </tbody> </table> <p>2) Capacity development of COMATUR/COMTURMA on organizational management.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Municipality</th> <th>Activities</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ponte Alta</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (→ see the WS conducted above) Re-nomination of COMATUR after the resignation of mayor (May 2012). The board members (chairman, vice chairman, secretary) were re-elected. Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted. 7 Aug 2012 Training for organization management of COMATUR such as organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings. 21 Aug 2012 WS on how to prepare a public meeting. 29 Sep 2012 </td> </tr> <tr> <td>Rio da Conceição</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (→ see the WS conducted above) Re-nomination of COMATUR after the resignation of mayor (Mar 2012). The board members (chairman, vice chairman, secretary) were re-elected. Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted. 8 Aug 2012 Training for organization management of </td> </tr> </tbody> </table>	Mateiros	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 1-2 Jul 2012 2) 29-31 Jul 2012 3) 20 Aug 2012. 4) 6-7 Sep 2012 5) 25 Sep 2012 1st draft Plan for the Promotion of Touristic Information and Exposition Center (CEIT) was prepared on 27 Sep 2012. 8 panels were developed and have been put for exhibition at CEIT since Oct 2012 (→ see Activity 1.3) 	São Félix	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 5 May 2012 (Public consultation for the establishment of MONA) 2) 1-2 Jul 2012 (Awareness raising on MONA with COMTURMA) 3) 7 Jul 2012 (Signing of the municipal decree of MONA) 4) 1-2 Aug 2012 (Training of MONA management plan) 5) 24 Sep 2012 (Preparatory discussion on public meeting) 6) 13 Oct 2012 (Public meeting on 1st draft of MONA management plan) The Natural Monument (MONA) along Soninho River was established on 2 July 2012 by the signing of the mayor on the Decree No 034/2012. Management plan for MONA being prepared. 	Municipality	Activities	Ponte Alta	<ul style="list-style-type: none"> (→ see the WS conducted above) Re-nomination of COMATUR after the resignation of mayor (May 2012). The board members (chairman, vice chairman, secretary) were re-elected. Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted. 7 Aug 2012 Training for organization management of COMATUR such as organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings. 21 Aug 2012 WS on how to prepare a public meeting. 29 Sep 2012 	Rio da Conceição	<ul style="list-style-type: none"> (→ see the WS conducted above) Re-nomination of COMATUR after the resignation of mayor (Mar 2012). The board members (chairman, vice chairman, secretary) were re-elected. Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted. 8 Aug 2012 Training for organization management of 	<table border="1"> <tbody> <tr> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 15 June 2013 29 Aug 2013 </td> </tr> <tr> <td>Mateiros</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> WS 1) 13-14 Mar 2013 2) 12-13 Apr 2013 3) 28 May 2013. 4) 14 Jun 2013 5) 2 Sep 2013 </td> </tr> <tr> <td>São Félix</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> WS 1) 11-12 Mar 2013 2) 5-6 Apr 2013 3) 29 May 2013 4) 13 Jun 2013 5) 3 Sep 2013 </td> </tr> </tbody> </table> <p>2) Capacity development of COMATUR/COMTURMA on project implementation through model project</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Municipality</th> <th>Activities</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ponte Alta</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> WS 1) 25-26 Mar 2013 (kick-off WS for selection of model project) 2) 21 May 2013 (elaboration of project action plan). 3) 27 Aug 2013 (monitoring of the project) </td> </tr> <tr> <td>Rio da Conceição</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> WS 1) 20-2q Mar 2013 2) 22 May 2013. 3) 29 Aug 2013 </td> </tr> <tr> <td>Mateiros</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> WS 1) 13-14 Mar 2013 2) 28 May 2013. 3) 2 Sep 2013 </td> </tr> <tr> <td>São Félix</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> WS 1) 11-12 Mar 2013 2) 29 May 2013 3) 3 Sep 2013 </td> </tr> </tbody> </table> <p>3) Capacity Development of COMATUR/COMTURMA on financial management - utilization of ICMS Ecológico</p> <ul style="list-style-type: none"> Training WS on ICMS Ecológico for COMTURMA and municipalities 7-10 May 2013 in Ponte Alta, Rio da Conceição, São Félix, Mateiros Revision of the technical orientation manual of ICMS Ecológico of Tocantins was published in Aug 2013 for 1,000 copies. <p>4) Environmental Education (ASAS)</p> <ul style="list-style-type: none"> Training of teachers for environmental education -19-26 Mar 2013 in Ponte Alta, São Félix, Rio da Conceição, Mateiros -7-9 May in Mateiros -19-21 May in São Félix -11-13 Sep 2013 in Ponte Alta -29 Sep-1 Oct 2013 in Rio da Conceição Technical exchange forum was conducted for teachers 		<ul style="list-style-type: none"> 15 June 2013 29 Aug 2013 	Mateiros	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 13-14 Mar 2013 2) 12-13 Apr 2013 3) 28 May 2013. 4) 14 Jun 2013 5) 2 Sep 2013 	São Félix	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 11-12 Mar 2013 2) 5-6 Apr 2013 3) 29 May 2013 4) 13 Jun 2013 5) 3 Sep 2013 	Municipality	Activities	Ponte Alta	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 25-26 Mar 2013 (kick-off WS for selection of model project) 2) 21 May 2013 (elaboration of project action plan). 3) 27 Aug 2013 (monitoring of the project) 	Rio da Conceição	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 20-2q Mar 2013 2) 22 May 2013. 3) 29 Aug 2013 	Mateiros	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 13-14 Mar 2013 2) 28 May 2013. 3) 2 Sep 2013 	São Félix	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 11-12 Mar 2013 2) 29 May 2013 3) 3 Sep 2013
			Legal Act	Ponte Alta	Rio da Conceição	São Félix	Mateiros																																																																				
			Preparation meeting	3 times	3 times	3 times	3 times																																																																				
			Revision of municipal environmental ordinance	Oct 2011*	N/A	N/A	N/A																																																																				
			Decree on the appointment of council member	Oct 2011	Oct 2011	Oct 2011	Not yet																																																																				
			Statute of the Council	Nov 2011	Nov 2011	Nov 2011	Not yet																																																																				
			Law on SMUC	N/A	N/A	Nov 2011	N/A																																																																				
			Law on the alternation of the Environmental Fund	N/A	Oct 2010	N/A	N/A																																																																				
			Law on the Reform of COMATUR	N/A	Oct 2010	N/A	N/A																																																																				
			Number of legislation and Statute	3	4	3	0																																																																				
Mateiros	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 1-2 Jul 2012 2) 29-31 Jul 2012 3) 20 Aug 2012. 4) 6-7 Sep 2012 5) 25 Sep 2012 1st draft Plan for the Promotion of Touristic Information and Exposition Center (CEIT) was prepared on 27 Sep 2012. 8 panels were developed and have been put for exhibition at CEIT since Oct 2012 (→ see Activity 1.3) 																																																																										
São Félix	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 5 May 2012 (Public consultation for the establishment of MONA) 2) 1-2 Jul 2012 (Awareness raising on MONA with COMTURMA) 3) 7 Jul 2012 (Signing of the municipal decree of MONA) 4) 1-2 Aug 2012 (Training of MONA management plan) 5) 24 Sep 2012 (Preparatory discussion on public meeting) 6) 13 Oct 2012 (Public meeting on 1st draft of MONA management plan) The Natural Monument (MONA) along Soninho River was established on 2 July 2012 by the signing of the mayor on the Decree No 034/2012. Management plan for MONA being prepared. 																																																																										
Municipality	Activities																																																																										
Ponte Alta	<ul style="list-style-type: none"> (→ see the WS conducted above) Re-nomination of COMATUR after the resignation of mayor (May 2012). The board members (chairman, vice chairman, secretary) were re-elected. Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted. 7 Aug 2012 Training for organization management of COMATUR such as organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings. 21 Aug 2012 WS on how to prepare a public meeting. 29 Sep 2012 																																																																										
Rio da Conceição	<ul style="list-style-type: none"> (→ see the WS conducted above) Re-nomination of COMATUR after the resignation of mayor (Mar 2012). The board members (chairman, vice chairman, secretary) were re-elected. Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted. 8 Aug 2012 Training for organization management of 																																																																										
	<ul style="list-style-type: none"> 15 June 2013 29 Aug 2013 																																																																										
Mateiros	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 13-14 Mar 2013 2) 12-13 Apr 2013 3) 28 May 2013. 4) 14 Jun 2013 5) 2 Sep 2013 																																																																										
São Félix	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 11-12 Mar 2013 2) 5-6 Apr 2013 3) 29 May 2013 4) 13 Jun 2013 5) 3 Sep 2013 																																																																										
Municipality	Activities																																																																										
Ponte Alta	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 25-26 Mar 2013 (kick-off WS for selection of model project) 2) 21 May 2013 (elaboration of project action plan). 3) 27 Aug 2013 (monitoring of the project) 																																																																										
Rio da Conceição	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 20-2q Mar 2013 2) 22 May 2013. 3) 29 Aug 2013 																																																																										
Mateiros	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 13-14 Mar 2013 2) 28 May 2013. 3) 2 Sep 2013 																																																																										
São Félix	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 11-12 Mar 2013 2) 29 May 2013 3) 3 Sep 2013 																																																																										

		<p>1st phase (preparation of action plan, Aug 2011) 2nd phase (implementation of the action plan, Aug-Nov 2011) 3rd phase (completion certificate, Nov-Dec 2011)</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1019 151 1149 260"></td> <td data-bbox="1149 151 1608 260"> <p>COMATUR such as organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings. 22 Aug 2012</p> <ul style="list-style-type: none"> WS on how to prepare a public meeting. 27-28 Sep 2012 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1019 260 1149 584">Mateiros</td> <td data-bbox="1149 260 1608 584"> <ul style="list-style-type: none"> COMATUR was established by the official designation ceremony, acceptance by the nominees of COMATUR members. 30 Jul 2012 The council members (chairman, vice chairman, secretary) were selected. Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted. 29-30 Jul 2012. Training for organization management of COMATUR such as organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings. 20 Aug 2012 WS on how to prepare a public meeting. 25 Sep 2012 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1019 584 1149 715">São Félix</td> <td data-bbox="1149 584 1608 715"> <ul style="list-style-type: none"> Monitoring and follow-up on organizational management was conducted. 1-2 Jul 2012 1 Aug 2012 WS on how to prepare a public meetings. 24 Sep 2012 </td> </tr> </table> <p>3) Capacity Development of COMATUR/COMTURMA on financial management - utilization of ICMS Ecológico</p> <ul style="list-style-type: none"> Raising awareness training of ICMS Ecológico at the municipality level in collaboration with state organizations - SEMADES, NATURATINS, MPE(CAOMA) - for utilizing the budget of ICMS Ecológico (environmental conservation grant, a source of public finance to support COMATUR activities.) 16 Jul – 9 Aug 2012 (4 municipalities) Training WS on ICMS Ecológico for COMTURMA and municipalities in collaboration with state organizations - SEMADES/PEGAM, NATURATINS, MPE (CAOMA), Secretary of Finance, COEMA. 30 Aug 2012 in Palmas Commitment Term was officially signed between mayors and COMATUR/COMTURMA at four municipalities to agree on the following percent of ICMS Ecológico for the use of COMATUR:COMTURMA. <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1019 1102 1149 1145">Municipality</th> <th data-bbox="1149 1102 1290 1145">Date of Signature</th> <th data-bbox="1290 1102 1391 1145">Percent</th> <th data-bbox="1391 1102 1608 1145"># of the council member</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1019 1145 1149 1169">Ponte Alta</td> <td data-bbox="1149 1145 1290 1169">9 Oct 2012</td> <td data-bbox="1290 1145 1391 1169">50%</td> <td data-bbox="1391 1145 1608 1169">14 (+14 deputies)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1019 1169 1149 1209">Rio da Conceição</td> <td data-bbox="1149 1169 1290 1209">10 Oct 2012</td> <td data-bbox="1290 1169 1391 1209">30%</td> <td data-bbox="1391 1169 1608 1209">12 (+12 deputies)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1019 1209 1149 1233">Mateiros</td> <td data-bbox="1149 1209 1290 1233">11 Oct 2012</td> <td data-bbox="1290 1209 1391 1233">20%</td> <td data-bbox="1391 1209 1608 1233">14 (14 deputies)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1019 1233 1149 1257">São Félix</td> <td data-bbox="1149 1233 1290 1257">16 Oct 2012</td> <td data-bbox="1290 1233 1391 1257">25%</td> <td data-bbox="1391 1233 1608 1257">8 (+ 8 deputies)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> Revision of the technical orientation manual of ICMS Ecológico of Tocantins is under discussion. <p>4) Capacity development of the Council of EESGT on institutional management</p> <ul style="list-style-type: none"> EESGT staff regularly visited all five municipalities concerned (Rio da Conceição, Mateiros, Ponte Alta, Almas, Formosa de Rio Preto) and facilitated the establishment of the EESGT 		<p>COMATUR such as organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings. 22 Aug 2012</p> <ul style="list-style-type: none"> WS on how to prepare a public meeting. 27-28 Sep 2012 	Mateiros	<ul style="list-style-type: none"> COMATUR was established by the official designation ceremony, acceptance by the nominees of COMATUR members. 30 Jul 2012 The council members (chairman, vice chairman, secretary) were selected. Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted. 29-30 Jul 2012. Training for organization management of COMATUR such as organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings. 20 Aug 2012 WS on how to prepare a public meeting. 25 Sep 2012 	São Félix	<ul style="list-style-type: none"> Monitoring and follow-up on organizational management was conducted. 1-2 Jul 2012 1 Aug 2012 WS on how to prepare a public meetings. 24 Sep 2012 	Municipality	Date of Signature	Percent	# of the council member	Ponte Alta	9 Oct 2012	50%	14 (+14 deputies)	Rio da Conceição	10 Oct 2012	30%	12 (+12 deputies)	Mateiros	11 Oct 2012	20%	14 (14 deputies)	São Félix	16 Oct 2012	25%	8 (+ 8 deputies)	<p>who were trained in Ponte Alta, Rio da Conceição, Mateiros and São Félix, and COMTURMA member. 23-24 Sep 2013 in Ponte Alta.</p> <ul style="list-style-type: none"> Handbook of ASAs was published in Oct 2013 for 4,000 copies. <p>5) Technical Exchange Visit to Chapada dos Veadeiros National Park in the state of Goiás. 3-6 Oct 2013 11 participants from four target municipalities 1 from NATURATINS</p> <p>6) Legislation and Statute at the Municipality Level (Nov 2012 – Oct 2013)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1621 453 1731 517">Legal Act</th> <th data-bbox="1731 453 1821 517">Ponte Alta</th> <th data-bbox="1821 453 1910 517">Rio da Conceição</th> <th data-bbox="1910 453 2000 517">São Félix</th> <th data-bbox="2000 453 2089 517">Mateiros</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1621 517 1731 715">Decree on the creation of the municipal environmental fund</td> <td data-bbox="1731 517 1821 715">Done before the mid-term review</td> <td data-bbox="1821 517 1910 715">Not yet</td> <td data-bbox="1910 517 2000 715">Done before the mid-term review</td> <td data-bbox="2000 517 2089 715">Aug 2013</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1621 715 1731 906">Decree on the creation of the municipal environmental fund</td> <td data-bbox="1731 715 1821 906">Aug 2013</td> <td data-bbox="1821 715 1910 906">Not yet</td> <td data-bbox="1910 715 2000 906">Done before the mid-term review</td> <td data-bbox="2000 715 2089 906">Not yet</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1621 906 1731 1102">Decree on the creation of the MONACC management council</td> <td data-bbox="1731 906 1821 1102" style="text-align: center;">/</td> <td data-bbox="1821 906 1910 1102" style="text-align: center;">/</td> <td data-bbox="1910 906 2000 1102">Sep 2013</td> <td data-bbox="2000 906 2089 1102" style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1621 1102 1731 1209">Number of legislation and Statute</td> <td data-bbox="1731 1102 1821 1209">1</td> <td data-bbox="1821 1102 1910 1209">0</td> <td data-bbox="1910 1102 2000 1209">1</td> <td data-bbox="2000 1102 2089 1209">1</td> </tr> </tbody> </table>	Legal Act	Ponte Alta	Rio da Conceição	São Félix	Mateiros	Decree on the creation of the municipal environmental fund	Done before the mid-term review	Not yet	Done before the mid-term review	Aug 2013	Decree on the creation of the municipal environmental fund	Aug 2013	Not yet	Done before the mid-term review	Not yet	Decree on the creation of the MONACC management council	/	/	Sep 2013	/	Number of legislation and Statute	1	0	1	1
	<p>COMATUR such as organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings. 22 Aug 2012</p> <ul style="list-style-type: none"> WS on how to prepare a public meeting. 27-28 Sep 2012 																																																						
Mateiros	<ul style="list-style-type: none"> COMATUR was established by the official designation ceremony, acceptance by the nominees of COMATUR members. 30 Jul 2012 The council members (chairman, vice chairman, secretary) were selected. Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted. 29-30 Jul 2012. Training for organization management of COMATUR such as organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings. 20 Aug 2012 WS on how to prepare a public meeting. 25 Sep 2012 																																																						
São Félix	<ul style="list-style-type: none"> Monitoring and follow-up on organizational management was conducted. 1-2 Jul 2012 1 Aug 2012 WS on how to prepare a public meetings. 24 Sep 2012 																																																						
Municipality	Date of Signature	Percent	# of the council member																																																				
Ponte Alta	9 Oct 2012	50%	14 (+14 deputies)																																																				
Rio da Conceição	10 Oct 2012	30%	12 (+12 deputies)																																																				
Mateiros	11 Oct 2012	20%	14 (14 deputies)																																																				
São Félix	16 Oct 2012	25%	8 (+ 8 deputies)																																																				
Legal Act	Ponte Alta	Rio da Conceição	São Félix	Mateiros																																																			
Decree on the creation of the municipal environmental fund	Done before the mid-term review	Not yet	Done before the mid-term review	Aug 2013																																																			
Decree on the creation of the municipal environmental fund	Aug 2013	Not yet	Done before the mid-term review	Not yet																																																			
Decree on the creation of the MONACC management council	/	/	Sep 2013	/																																																			
Number of legislation and Statute	1	0	1	1																																																			

			<p>Council.</p> <ul style="list-style-type: none"> The Council of EESGT was officially registered (approved) by ICMBio's institutional ordinance No 45/2012. The Council consists of 22 members from relevant municipalities. 4 Apr 2012 WS for management plan of EESGT 1-3 Aug 2012 in Palmas 1st WS conducted on the development of internal regulation, hosted by ICMBio, attended by state organizations (SEMADES, NATURATINS) and staff of municipalities nearby. 18-19 Aug 2012 in Dianopolis 2nd WS conducted on the development of internal regulation. 19-21 Oct 2012 in Ponte Alta <p>5) Environmental Education (ASAS)</p> <ul style="list-style-type: none"> Training of teachers for environmental education 19-21 Aug 2012 in São Félix 23-25 Aug 2012 in Ponte Alta Teachers who were trained in 2011 (Mateiros and Rio da Conceição) have been implementing the plan of environmental education developed in 2011. ICMBio HQ hosted an exchange meeting among ICMBio's 4 environmental education programs in Brazil. 8-10 Aug 2012 in Brasília Technical exchange forum was conducted for teachers who were trained in Ponte Alta, Rio da Conceição, Mateiros and São Félix, and COMTURMA member. 22-23 Oct 2012 in Rio da Conceição <p>6) Legislation and Statute at the Municipality Level (Dec 2011 – Oct 2012)</p> <table border="1" data-bbox="1025 817 1606 1361"> <thead> <tr> <th>Legal Act</th> <th>Ponte Alta</th> <th>Rio da Conceição</th> <th>São Félix</th> <th>Mateiros</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Decree on the appointment of council members</td> <td>Done before the mid-term review</td> <td>Done before the mid-term review</td> <td>Done before the mid-term review</td> <td>Mar 2012</td> </tr> <tr> <td>Statute of the Council</td> <td>Done before the mid-term review</td> <td>Done before the mid-term review</td> <td>Done before the mid-term review</td> <td>Jul 2012</td> </tr> <tr> <td>Law on SMUC</td> <td>N/A</td> <td>N/A</td> <td>Done before the mid-term review</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>Law on Creation of MONA</td> <td>N/A</td> <td>N/A</td> <td>Jul 2012</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>Number of legislation and Statute</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	Legal Act	Ponte Alta	Rio da Conceição	São Félix	Mateiros	Decree on the appointment of council members	Done before the mid-term review	Done before the mid-term review	Done before the mid-term review	Mar 2012	Statute of the Council	Done before the mid-term review	Done before the mid-term review	Done before the mid-term review	Jul 2012	Law on SMUC	N/A	N/A	Done before the mid-term review	N/A	Law on Creation of MONA	N/A	N/A	Jul 2012	N/A	Number of legislation and Statute	0	0	1	2	
Legal Act	Ponte Alta	Rio da Conceição	São Félix	Mateiros																														
Decree on the appointment of council members	Done before the mid-term review	Done before the mid-term review	Done before the mid-term review	Mar 2012																														
Statute of the Council	Done before the mid-term review	Done before the mid-term review	Done before the mid-term review	Jul 2012																														
Law on SMUC	N/A	N/A	Done before the mid-term review	N/A																														
Law on Creation of MONA	N/A	N/A	Jul 2012	N/A																														
Number of legislation and Statute	0	0	1	2																														
4.4 To follow up activities of the trained local			<ul style="list-style-type: none"> Follow-up conducted through opportunities such as training, WS, seminar and field visits. Follow-up conducted through the Project Conclusion Seminar 	<ul style="list-style-type: none"> Follow-up conducted through opportunities such as training, WS, seminar and field visits. Follow-up conducted through the Project Conclusion 																														

5. The strategic plan/guideline for introducing and managing JREC is developed.	populations.		held on 26 Oct 2012 in Palmas.	Seminar held on 2 -3Oct 2013 in Palmas.
	5.1 To identify strategies for introducing and managing JREC.	<ul style="list-style-type: none"> Biodiversity Indicators for fauna and flora "Diagnosis and Justification" conducted in Jun-Sep, 2011 Characteristics : biodiversity, rationale for conservation, sequence of ecosystem Strategic Priority Areas : Serra Geral, Parnaíba River basin, etc.		
	5.2 To define methodologies and actions for introducing and managing JREC.	<ul style="list-style-type: none"> "Strategic Action Plan" was discussed at the Technical Mid-term seminar on 29 Nov 2011 in Taquarusu, Tocantins. Contents: vision, mission, common objectives, action plan Participants: SEPLAN, NATURATINS, INEMA (Bahia), SEMA (Bahia), SEMADES, ADTUR, ICMBio (EESGT, PNNRP), Conservation International	<ul style="list-style-type: none"> Regarding the Strategic Plan, Part I – diagnosis and justification – and Part II – action plan – are being finalized. Preparation of Strategic Plan Part III has started. The Strategic Plan Part III will be discussed in the Workshop on 12-14 Nov 2012. Mr. Allan (ICMBio), Mr. Asano (JET), Mr. Leonardo (INEMA-BA) and Mr. Marcos (JICA consultant) will finalize the Strategic Plan after the Workshop on 12-14 Nov 2012. 	<ul style="list-style-type: none"> Part I (diagnosis and justification), II (action plan) & III (operational guidelines), indicated in the PDM, were all completed, adapted for the upcoming "Jalapão Mosaic". Three parts were simplified and integrated into one document. Published in September 2013 for 300 copies.
5.3 To develop the strategic plan/guideline for introducing and managing JREC with participation of concerned institutions.			<ul style="list-style-type: none"> With the "Jalapão Mosaic" becoming more likely to be established, discussion on the implementation of the Strategic Plan is scheduled in Jan-Mar 2013. 	<ul style="list-style-type: none"> Revised Strategic Plan for the "Jalapão Mosaic" has attained consensus by all prospected council members in the first Mosaic meeting held from 17 to 19 September, 2013, in Palmas.

2. 3. 成果品一覧

2010 – Phase I

Output Number	Name of working components	Name of products (English)	Nome dos produtos (Portuguese)
Output 1	1. Construction of web-GIS data system	<ul style="list-style-type: none"> Web-GIS database systems (constructed in the JICA server) Final Report on SIG Project - Geographic Information System of the Jalapão Region Ecological Corridor 	<ul style="list-style-type: none"> Sistema de base de dados web-sig (criação de servidor da JICA) Relatório Final do Projeto SIG – Sistema de Informações Geográficas do Corredor Ecológico da Região do Jalapão
	2. Creation of information materials for dissemination	<ul style="list-style-type: none"> Banner → 5 types/ 25 units Pen with project logo → 300 units Mouse Pad with project logo → 100 units CD Label with project logo → 500 units Desk Calendar of 2011 with Project information → 200 units Poster Calendar of 2011 with Project information → 200 units Memo Pad with project logo → 200 units File Binder with project logo → 100 units Project Brochure (version 2010) → 200 units Project Leaflet (NATURATINS) → 5000 units Environmental Education Book (Vamos Conhecer o Cerrado) → 200 units Backpack with project logo → 100 units 	<ul style="list-style-type: none"> Banner → 5 tipos/ 25 units Caneta → 300 units Mouse Pad → 100 units Etiqueta para CD → 500 units Calendário de mesa 2011 → 200 units Calendário de parede 2011 → 200 units Bloco de notas → 200 units Pasta → 100 units Folder Projecto (version 2010) → 200 units Folder Projecto (NATURATINS) → 5000 units Livro (Vamos Conhecer o Cerrado) → 200 units Mochila → 100 units
	3. Baseline survey for ecological monitoring	<ul style="list-style-type: none"> Final report – Baseline Survey of indication and elaboration of the sustainable ecological monitoring methodology for Jalapão Region (result of field survey, list of indicators, proposed monitoring manual, maps, data book, etc.) 	<ul style="list-style-type: none"> Relatório final – Estudo de base das espécies indicadoras e elaboração da metodologia de monitoramento ecológico sustentável para a região do Jalapão (resultado de pesquisas de campo, lista de índices, proposta de manual de monitoramento, mapas, datbook, etc.)
Output 2	1. Integration of federal & state institutions/ coordination mechanism	<ul style="list-style-type: none"> Terms of reciprocity (1st draft) 	<ul style="list-style-type: none"> Termos de reciprocidade (proposta)
	2. Project situation analysis	<ul style="list-style-type: none"> Projeto implementation strategies 	<ul style="list-style-type: none"> Estratégia de implementação do projeto
Output 3	1. Technical exchange with	<ul style="list-style-type: none"> Final report on technical exchange with ecological corridor project in the state 	<ul style="list-style-type: none"> Relatório final do intercâmbio técnico do Projeto Corredor no estado da Bahia

	other mosaic/corridor projects in the country	of Bahia (B-3-1)	
	2. Mini-training	<input type="checkbox"/> WEB-GIS,GPS training(Training material, participant list) (B-3-2) <input type="checkbox"/> Training on forest fire management (Activity report, participant list) (B-3-3)	<input type="checkbox"/> Treinamento de WEB-SIG,GPS <input type="checkbox"/> Oficina de Sensibilização Ambiental
	3. Elaboration of the management plan for the municipal natural monument (MONA)	<input type="checkbox"/> Final report for preliminary studies (B-3-4) <input type="checkbox"/> Management Plan, MONA (B-3-5)	<input type="checkbox"/> Relatório final das estudos preliminaes <input type="checkbox"/> Plano de manejo, MONA
	4. Training in Japan	<input type="checkbox"/> Final report for training in Japan (B-3-6)	<input type="checkbox"/> Relatório final do treinamento em Japon
Output 4	1. Capacity development of municipal environmental governance (capacity development of environmental councils & model projects)	<input type="checkbox"/> Final report for capacity development of municipal governments – 3 rd year (questionnaires, meeting records, etc.) (B-4-1) <input type="checkbox"/> Law and regulation on Council (B-4-2) <Sao Felix> •Municipal Decree on ^{er} creation of Natural Monument <Ponte Alta> •Terms of the appointment of council members(2 nd time) <Mateiros> •Municipal Decree on the appointment of council member •Terms of the appointment of council members •Internal Regulation of Council	<input type="checkbox"/> Relatório final da capacitação dos governos municipais – 3o ano (questionários, registro de reunião, etc.) <input type="checkbox"/> Lei e regulamento sobre Conselho <Sao Felix> •Decreto Municipal de criação do Monumento Natural Ponte Alta> • Termo de posse para indicação dos membros do Conselho (2 ^a vez) <Mateiros> •Decreto Municipal de indicação de membros do Conselho •Termo de posse para indicação dos membros do Conselho •Regimento Interno do Conselho
	2. Capacity development of municipal environmental governance (ICMS Ecologico)	<input type="checkbox"/> Workshop Report Action; workshop on the management of ICMS ecológico (B-4-3) <input type="checkbox"/> Commitment Terms (Mateiros, Ponte Alta, Sao Felix, Rio de conceicao) (B-4-4)	<input type="checkbox"/> Relatório do workshop Ação ; workshop sobre a gestão de ICMS ecológico <input type="checkbox"/> Termos de compromisso (Mateiros, Ponte Alta, Sao Felix, Rio de conceicao)
	3. Capacity development for municipal agents for environmental education (ASAS do Jalapao)	<input type="checkbox"/> Final report on the activities of ASAS in 2012 (to be delivered in March, 2013) (B-4-5)	<input type="checkbox"/> Relatório final das atividade do ASAS em 2012 (a ser entregue em Março, 2013)
	4. Capacity development of EESGT council	<input type="checkbox"/> Memory of designation ceremony for council members and workshop for the construction of the internal regime for the council of Serra Geral Ecological Station (B-4-6) <input type="checkbox"/> Terms of Commitment to ICMBio, celebrates with ASCOLOMBOLAS-Rios, with the intervention of the Federal Public Prosecutor, to establish rules of coexistence between the community and the Serra Geral do Tocantins Ecological Station.(B-4-7) <input type="checkbox"/> ICMBio Institutional Ordinance N° 45, of 2 April, 2012, - Creation of Consultive Council for EESGT da Estação Ecológica Serra Geral do Tocantins/TO.(B-4-8)	<input type="checkbox"/> Memória da cerimônia de posse dos conselheiros e oficina de construção do regimento interno do conselho consultivo da estação ecológica serra geral do tocantins Termo de Compromisso que o Instituto Chico Mendes de Conservação da Biodiversidade - ICMBio celebra com a ASCOLOMBOLASRios, com a intervenção do Ministério Público,Federal para estabelecer normas de convivência entre a comunidade e a Estação Ecológica Serra Geral do Tocantins. <input type="checkbox"/> ICMBio PORTARIA N° 45, DE 2 DE ABRIL DE 2012, - Criaco de Conselho Consultivo da Estação Ecológica Serra Geral do Tocantins/TO.
Output 5	1. Elaboration of the strategic plan	<input type="checkbox"/> The strategic plan (to be delivered in March, 2013)	<input type="checkbox"/> O plano estratégico (a ser entregue em Março, 2013)

2011 – Phase II

Output 1	1. Construction of web-GIS data system	<input type="checkbox"/> Web-GIS database systems (constructed in external server) http://www.jalapaocondorador.com.br/ <input type="checkbox"/> Setup manual for the web-GIS database system	<input type="checkbox"/> Sistema de base de dados sig (formação de um servidor externo) http://www.jalapaocondorador.com.br/ <input type="checkbox"/> Manual de instalação da base de dados WebSIG
	2. Construction of project homepage	<input type="checkbox"/> Project homepage Http://www.icmbio.gov.br/jalapao/	<input type="checkbox"/> Homepage do projeto Http://www.icmbio.gov.br/jalapao/
	3. Creation of information materials for dissemination	<input type="checkbox"/> Banner → 8 types/ 30 units <input type="checkbox"/> Brouchuer 7 types 1) project pamphlet(version 2012) → 3000 units 2) RPPN (for project) → 2000 units,	<input type="checkbox"/> Banner → 8 tipos/ 30 units <input type="checkbox"/> Folder 7 tipos 1) Todo o projeto (versão 2011) → 3000 units 2) RPPN (versão projeto) → 2000 units

		<p>3) RPPN (for entire country) → 3000 units 4) EESGT in general → 3000 units 5) PNNRP in general → 3000 units 6) Jalapao State Park in general → 3000 units 7) RIO VIVO (ASAS brochure) → 700 units</p> <ul style="list-style-type: none"> ▫ Calendar of 2012 → 500 units ▫ Atlas → 500 units ▫ T-shirts → 300 units 	<p>3) RPPN (versão nacional) → 3000 units 4) EESGT em general → 3000 units 5) PNNRP em general → 3000 units 6) Parque Estadual do Jalapao em general → 3000 units 7) RIO VIVO (ASAS brochure) → 700 units</p> <ul style="list-style-type: none"> ▫ Calendário 2012 → 500 units ▫ Atlas → 500 units ▫ Camisetas → 300units
Output 2	<p>1. Integration of federal & state institutions/ coordination mechanism</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Terms of reciprocity (final version) 	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Termo de reciprocidade(version final)
Output 3	<p>1. Training for specific techniques on the project demand</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Final report for the training on institutional framework for promoting participatory biodiversity conservation in the Philippines and India ▫ Final report for the training on Participatory Biodiversity Management: Planning, Action and Activity (São Félix do Tocantins, Mateiros, Ponte Alta, Rio da Conceição) 	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Plano de treinamento sobre a estrutura institucional para a conservação participativa da biodiversidade nas Filipinas e na Índia ▫ Plano de treinamento sobre Conservação Participativa da Biodiversidade: transformando conceito em ações a nível municipal (São Félix do Tocantins, Mateiros, Ponte Alta, Rio da Conceição)
	<p>2. Technical seminar for mosaic and ecological corridor</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Final report on technical seminar for mosaic and ecological corridor 	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Relatório final do Seminário para Mosaicos e Corredores Ecológicos
	<p>3. Technical seminar for promotion of private nature reserve (RPPN)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Final report on the 1st seminar for Private Nature Reserve (RPPN) 	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Relatório final do 1º Seminário sobre Reservas Particulares do Patrimônio Natural (RPPN)
	<p>4. Technical exchange with other mosaic/corridor projects in the country</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Report on technical exchange in the Central Fluminense Mosaic in the state of Rio de Janeiro 	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Relatório do intercâmbio técnico no Mosaico Central Fluminense no estado do Rio de Janeiro
Output 4	<p>1. Capacity development of municipal environmental governance (environmental council establishment)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Final report for capacity development on mobilization for structuring and strengthening Environmental Councils (questionnaires, meeting records, etc.) <Sao Felix> •Municipal Decree on the appointment of council member •Internal regime of the council •Municipal Law on the creation of Municipal Conservation Unit Systems(SMUC) <Ponte Alta> •Municipal environmental ordinance(Law No.009/2011) •Municipal Decree on the appointment of council member (Law No.013/2011) •Internal regime of the council •Terms of the appointment of council members <Rio de Conceicao> •Municipal Decree on the appointment of council member •Internal regime of the council •Municipal law on the alternation of the environmental fund (Law No.259/2010) •Municipal law on the reform of COMATUR (Law No.258/2010) 	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Relatório final da Mobilização para estruturação e fortalecimento de Conselhos Ambientais (questionários, registros de reuniões, etc) <Sao Felix> •Decreto Municipal para indicação dos membros do Conselho •Regimento Interno do Conselho •Lei Municipal municipal de criação do SMUC <Ponte Alta> •Lei Ambiental Municipal •Decreto Municipal para indicação dos membros do Conselho •Regimento Interno do Conselho •Termo de posse para indicação dos membros do Conselho <Rio de Conceicao> •Decreto Municipal para indicação dos membros do Conselho •Regimento Interno do Conselho •Lei no.259/2010 - Autoriza o chefe do poder executivo municipal, a alterar a nomenclatura d0 fundo municipal de Desenvolvimento d0 turismo e alterar o valor d0 credito especial para o fundo municipal de melo Ambiente e turismo •Lei no.258/2010 - Da nova redação a lei 198/2002 de 17/05/2002 e da outras providências
	<p>2. Capacity development for municipal agents for environmental education</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Final report on the activities of ASAS in 2011 	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Relatório final sobre as atividades do ASAS em 2011

	(ASAS do Jalapao)		
	3. Establishment of EESGT council	▫ Final report on the activities in 2011	▫ Relatório final das atividades em 2011
Output 5	1. Elaboration of the strategic plan	▫ Draft strategic plan for the introduction of Ecological Corridor in the Jalapão Region	▫ Proposta de Plano estratégico para a introdução do Corredor Ecológico da Região do Jalapão

2012 – Phase III (as of 28 Feb, 2013)

Output 1	1. Construction of web-GIS data system	▫ Web-GIS database systems (constructed in SEPLAN server) http://www.corredorjalapao.seplan.to.gov.br/jalapao ▫ Setup manual for the web-GIS database system(revised) ▫ User manual for the web-GIS database system(revised)	▫ Sistema de base de dados sig (formação de um servidor externo) http://www.corredorjalapao.seplan.to.gov.br/jalapao ▫ Manual de montagem de base de dados sig(revisado) ▫ Manual de operações web-sig(revisado)
	2. Construction of project homepage	▫ Project homepages Http://www.icmbio.gov.br/jalapao/ http://www.corredorjalapao.seplan.to.gov.br/	▫ Homepage do projeto Http://www.icmbio.gov.br/jalapao/ http://www.corredorjalapao.seplan.to.gov.br/
	3. Creation of information materials for dissemination	▫ Logo sticker (big) → 100 units ▫ Logo sticker (small) → 100 units ▫ JOGO (card game) → 100 units ▫ Bookmark leaf → 2000 units ▫ Folder (PILOES) project pamphlet → 5000 units ▫ Folder (MANUEL ALVES) pamphlet → 5000 units ▫ Folder (Natural Monument/Public Consultation) pamphlet → 1000 units ▫ Exhibition Panel → 7 types/ units ▫ Panel for CEIT → 8 types/ units ▫ Panel for Sao Felix → 3 types/ units	▫ Logo sticker (big) → 100 units ▫ Logo sticker (small) → 100 units ▫ JOGO (card game) → 100 units ▫ Bookmark leaf → 2000 units ▫ Folder (PILOES) project pamphlet → 5000 units ▫ Folder (MANUEL ALVES) pamphlet → 5000 units ▫ Folder (Natural Monument/Public Consultation) pamphlet → 1000 units ▫ Exhibition Panel → 7 types/ units ▫ Panel for CEIT → 8 types/ units ▫ Panel for Sao Felix → 3 types/ units
	4. Creation of an educational video for the creation of MONA	▫ 10 minutes MONA video DVD → 10 dvds	▫ 10 minutes MONA video DVD → 10 dvds
	5. Creation of Cartographic data in Jalapao Region	▫ Final Technical Report - Land Use Mapping and Geographic Data Base Update of São Félix Area with Emphasis on Natural Monument Canyons and Rapids of the Rio Sono and Its Buffer Zone Directed with Alos Images of PRISM and AVNIR Sensors 2 of years 2009 and 2010	▫ Relatório Técnico Final - Mapeamento do Uso da Terra e Atualização Base de Dados Geográficos do Município de São Félix com Ênfase na Área do Monumento Natural Canions e Corredeiras do Rio Sono e Sua Zona de Amortecimento Realizado com Imagens Alos do Sensores Prism e Avnir 2 dos Anos 2009 e 2010
Output 2	1. Integration of federal & state institutions/ coordination mechanism	▫ Proposal for the creation of “Jalapao Mosaic”	▫ Proposta de criação do Mosaico do Jalapão
	2. Workshops for capacitation and mobilization for promoting Jalapão mosaic	▫ Records on workshops for capacitation and mobilization for promoting Jalapão mosaic	▫ Memórias da oficina de capacitação e mobilização para o reconhecimento do mosaico do jalapão
Output 3	5. Project conclusion Forum for Output 4	▫ Final report on the project conclusion forum for output 4	▫ Relatório final do Fórum de Conclusão do Resultado 4
	6. Project termination seminar	▫ Final report on the project termination seminar	▫ Relatório final sobre o Seminário de Conclusão do Projeto
	7. Technical exchange with other mosaic/corridor projects in the country	▫ Final report on technical exchange with ecological corridor project in the state of Bahia	▫ Relatório final do intercâmbio técnico do Projeto Corredor no estado da Bahia
Output 4	5. Capacity development of	▫ Final report for capacity development of municipal governments – 3 rd year	▫ Relatório final da capacitação dos governos municipais – 3o ano (questionários,

	municipal environmental governance (capacity development of environmental councils & model projects)	(questionnaires, meeting records, etc.) • Internal regime of the council <Sao Felix> • Municipal Decree on creation of Natural Monument <Ponte Alta> • Terms of the appointment of council members(2 nd time) <Mateiros> • Municipal Decree on the appointment of council member • Terms of the appointment of council members	registro de reunião, etc.) <Sao Felix> • Decreto Municipal de criação do Monumento Natural Ponte Alta> • Termo de posse para indicação dos membros do Conselho (2 ^a vez) <Mateiros> • Decreto Municipal de indicação de membros do Conselho • Termo de posse para indicação dos membros do Conselho • Regimento Interno do Conselho
	6. Capacity development of municipal environmental governance (ICMS Ecologico)	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Workshop Report Action; workshop on the management of ICMS ecológico ▫ Commitment Terms (Mateiros, Ponte Alta, Sao Felix, Rio de conceicao) 	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Relatório do workshop Ação ; workshop sobre a gestão de ICMS ecológico ▫ Termos de compromisso (Mateiros, Ponte Alta, Sao Felix, Rio de conceicao)
	7. Capacity development for municipal agents for environmental education (ASAS do Jalapao)	▫ Final report on the activities of ASAS in 2012 (to be delivered in March, 2013)	▫ Relatório final das atividade do ASAS em 2012 (a ser entregue em Março, 2013)
	8. Elaboration of the management plan for the municipal natural monument (MONA)	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Final report for preliminary studies ▫ Management Plan, MONA (March, 2013) 	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Relatório final das estudos preliminaes ▫ Plano de manejo, MONA (Março, 2013)
	9. Capacity development of EESGT council	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Memory of designation ceremony for council members and workshop for the construction of the internal regime for the council of Serra Geral Ecological Station ▫ Terms of Commitment to ICMBio, celebrates with ASCOLOMBOLAS-Rios, with the intervention of the Federal Public Prosecutor, to establish rules of coexistence between the community and the Serra Geral do Tocantins Ecological Station. ▫ ICMBio Institutional Ordinance N° 45, of 2 April, 2012, - Creation of Consultive Council for EESGT da Estação Ecológica Serra Geral do Tocantins/TO. ▫ Final report on the activities in 2012 (March, 2013) 	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Memória da cerimônia de posse dos conselheiros e oficina de construção do regimento interno do conselho consultivo da estação ecológica serra geral do tocantins ▫ Termo de Compromisso que o Instituto Chico Mendes de Conservação da Biodiversidade - ICMBio celebra com a ASCOLOMBOLASRios, com a intervenção do Ministério Público Federal, para estabelecer normas de convivência entre a comunidade e a Estação Ecológica Serra Geral do Tocantins. ▫ ICMBio PORTARIA N° 45, DE 2 DE ABRIL DE 2012, - Criaco de Conselho Consultivo da Estação Ecológica Serra Geral do Tocantins/TO. ▫ Relatório final das atividades em 2012 (a ser entregue em Março, 2013)
Output 5	2. Elaboration of the strategic plan	▫ The strategic plan (March, 2013)	▫ O plano estratégico (Março, 2013)

2013 – Phase IV (as of October 24, 2013)

Output 1	1. Construction of project homepage	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Project homepages Http://www.icmbio.gov.br/jalapao/ http://www.corredorjalapao.seplan.to.gov.br/ 	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Homepage do projeto Http://www.icmbio.gov.br/jalapao/ http://www.corredorjalapao.seplan.to.gov.br/
	2. Creation of information materials for dissemination	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Project homepages Http://www.icmbio.gov.br/jalapao/ http://www.corredorjalapao.seplan.to.gov.br/ 	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Homepage do projeto Http://www.icmbio.gov.br/jalapao/ http://www.corredorjalapao.seplan.to.gov.br/
Output 2	3. Integration of federal & state institutions/ coordination mechanism	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Records on workshops for capacitation and mobilization for promoting Jalapão mosaic No.1-2 	<ul style="list-style-type: none"> ▫ Records on workshops for capacitation and mobilization for promoting Jalapão mosaic No.1-2
	4. Workshops for capacitation	1) Memórias da Oficina de Mobilização Social e Municipal para Composição do Conselho do Mosaico do Jalapão(Mateiros (To),14 de Maio de 2013)	1) Memórias da Oficina de Mobilização Social e Municipal para Composição do Conselho do Mosaico do Jalapão(Mateiros (To),14 de Maio de 2013)

	and mobilization for promoting Jalapão mosaic	2) Memórias do Treinamento para Composição do Conselho do Mosaico do Jalapão(Palmas, 17, 18 e 19 de Setembro de 2013)	2) Memórias do Treinamento para Composição do Conselho do Mosaico do Jalapão(Palmas, 17, 18 e 19 de Setembro de 2013)
Output 3	5. Project termination seminar	▫ Final report on the project termination seminar	▫ Relatório final sobre o Seminário de Conclusão do Projeto
	6. Technical exchange with other mosaic/corridor projects in the country	▫ Final report on technical exchange with ecological corridor project at Chapada dos Veadeiros National park in the state of Goiás	▫ Relatório final do intercâmbio técnico do Projeto Corredor no estado da Bahia
Output 4	7. Capacity development of municipal environmental governance (capacity development of environmental councils & model projects)	▫ Final report for capacity development of municipal governments – 3 rd year (questionnaires, meeting records, etc.) (to be delivered in March, 2013) ▫ Manual for Project Elaboration •Internal regime of the council <Sao Felix> •Municipal Decree on nomination of consultation council for MONACC	▫ Relatório final da capacitação dos governos municipais – 3o ano (questionários, registro de reunião, etc.) (a ser entregue em Março, 2013) ▫ Manual para Elaboração dos Projetos <Sao Felix> •Decreto Municipal da Nomeia Conselho Consultivo da Unidade de Conservação do Monumento Natural Canyons e Corredeiras do Rio Sono-MONACC
	8. Capacity development of municipal environmental governance (ICMS Ecologico)	▫ Workshop Report Action; workshop on the management of ICMS ecológico ▫ Guideline of ICMS ecológico •Laws and Decrees at municipality <Ponte Alta> Decree on management of Municipal Environmental Fund <Mateiros> Municipal Law on Creation of Municipal Environmental Fund in Mateiros	▫ Relatório do workshop Ação ; workshop sobre a gestão de ICMS ecológico ▫ Cartilha da gestão de ICMS ecológico •Leis e Decretos nos municípios <Ponte Alta> Decreto do gestor do Fundo Municipal de Meio Ambiente <Mateiros> Lei municipal-Institui o Fundo Municipal de Meio Ambiente de Mateiros
	9. Capacity development for municipal agents for environmental education (ASAS do Jalapao)	▫ Final report on the activities of ASAS in 2013 ▫ ASA Environmental Education Manual	▫ Relatório final das atividade do ASAS em 2013 ▫ Cartilha da projeto de ASAS
Output 5	10. Elaboration of the strategic plan	▫ The strategic plan Ver.2 (September, 2013)	▫ O plano estratégico Ver.2 (Setembro, 2013)

添付資料 3: プロジェクト評価の結果

3.1 中間レビュー(2011 年 11 月)

3.2 終了時評価(2012 年 10 月)

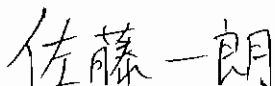
3.3 プロジェクト終了に際しての自己評価(2013 年 10 月)

Joint Mid-term Review Report on the Jalapão Region Ecological Corridor Project

Joint Mid-term Review Team

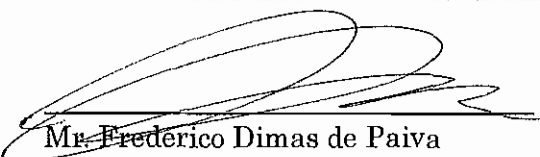
December 9th, 2011

For Japanese Mid-term Review Team

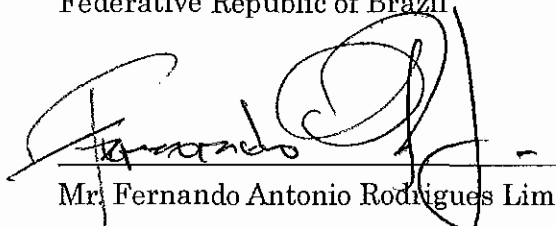


Mr. Ichiro Sato
Senior Representative
Japan International Cooperation
Agency (JICA) Brazil Office

For Brazilian Mid-term Review Team



Mr. Frederico Dimas de Paiva
Project Analyst
Coordination of Received Bilateral
Cooperation,
Brazilian Cooperation Agency (ABC),
Ministry of External Relations,
Federative Republic of Brazil



Mr. Fernando Antonio Rodrigues Lima
Specialist Technician
Department of Protected Areas
Ministry of Environment
Federative Republic of Brazil

Table of Contents

1. Overview of the Mid-term Review	4
1-1 Objectives of the Mid-term Review	4
1-2 Members of the Joint Mid-term Review Team	4
1-3 Schedule of the Mid-term Review	4
1-4 Outline of the Project	4
1-4-1 Background of the Project	5
1-4-2 Summary of the Project	5
1-5 Methodology of the Evaluation Study	6
2. Achievement of the Project	6
2-1 Inputs	6
2-2 Activities	7
2-3 Outputs	9
2-4 Project Purpose	12
2-5 Overall Goal	13
2-6 Implementation Process	13
3. Evaluation Results based on the Five Evaluation Criteria	14
3-1 Relevance	14
3-2 Effectiveness	14
3-3 Efficiency	15
3-4 Impacts	15
3-5 Sustainability	17
ANNEX:	20
Annex 1 Project Design Matrix (PDM)	20
Annex 2 Plan of Actions	20

Annex 3 Evaluation Grid	20
Annex 4 Dispatch of Experts	20
Annex 5 Training of Counterpart Personnel in Japan	20
Annex 6 Equipment Provided by Japanese Side	20
Annex 7 Local Cost born by Japanese and Brazilian Side	20
Annex 8 List of Brazilian Project Staffs	20
Annex 9 Map of Target Area	20
Annex 10 Questionnaire (in Portuguese)	20

Abbreviation

APA	Environmental Protection Area
APP	Permanent Preservation Area
BMU	Ministry of Environmental, Nature and Nuclear Security of Germany
CAOMA	Environment Operational Support Center, Public Ministry
COMOC	Coordination of Mosaics and Ecological Corridors, ICMBio
C/P	Counterpart Personnel
EESGT	Serra Geral of Tocantins Ecological Station
GEF	Global Environment Facility
GOJ	Government of Japan
GOB	Government of the Federative Republic of Brazil
IBAMA	Brazilian Institute of Environment and Renewable Natural Resources
ICMBio	Chico Mendes Institute for Biodiversity Conservation
JCC	Joint Coordinating Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
JREC	Jalapão Region Ecological Corridor
M/M	Minutes of Meeting
NGO	Non Governmental Organization
ODA	Official Development Assistance
PCM	Project Cycle Management
PDM	Project Design Matrix
PNNRP	Nascentes do Rio Parnaíba National Park
PO	Plan of Operation
R/D	Record of Discussion
RPPN	Private Reserve of Natural Heritage
SMUC	Municipal System for Conservation Units
SNUC	National System for Conservation Units

1. Overview of the Mid-term Review

1-1 Objectives of the Mid-term Review

- (1) To grasp the achievement level of the Project based on the PDM.
- (2) To review the project performance by referring to the five evaluation criteria.
- (3) To make recommendations regarding measures to be taken during the remaining project period based on the survey findings.
- (4) To write up Joint Mid-term Review Report and to share the contents with the personnel concerned.
- (5) To discuss and consult any other topics necessary to further improve the Project.

1-2 Members of the Joint Mid-term Review Team

Name	Organization
<Brazilian Side >	
Mr. Fernando Antonio Rodrigues Lima	Specialist Technician Department of Protected Area, Ministry of Environment
Mr. Frederico Dimas de Paiva	Project Analyst, Coordination of Received Bilateral Cooperation Brazilian Cooperation Agency -ABC
<Japanese Side>	
Mr. Ichiro SATO	Senior Representative, Japan International Cooperation Agency
Mr. Kazuaki KOMAZAWA	Project Coordinator, Japan International Cooperation Agency
Ms. Noriko FURUTANI	Consultant, International Development Associates Ltd.

1-3 Schedule of the Mid-term Review

After preparation in Japan, the Japanese Mid-term review team member arrived at Brazil on November 22, 2011. The Japanese review team met the Brazilian review team in Brasilia and constituted the joint Mid-term review team (hereinafter referred to as "the Team"). The Team conducted interviews and discussions with project personnel, the related organizations and others concerned from November 23 to December 9. Based on the survey findings and a series of discussions, the Team made the Joint Mid-term Review Report and explained to the JCC held on December 9.

1-4 Outline of the Project

1-4-1 Background of the Project

Cerrado, which is located in the Midwestern part of Brazil, is the tropical savannah vegetation zone. While it is considerably rich in biodiversity, it is one of the most seriously threatened areas in terms of loss of biodiversity. The Jalapão region is located in Cerrado and, at the same time, it is the source of major rivers such as Parnaíba River, San Francisco River, and Tocantins River. However, human activities such as soybean cultivation, livestock farming, harvesting of wild plants are becoming pressure on natural ecosystems in the region.

With such background, the federal government of Brazil (GOB) designated three conservation units including the Serra Geral do Tocantins Ecological Station and the Nascentes do Rio Parnaíba National Park in order to protect the nature in the Jalapão region. Also, the States of Tocantins and Bahia established two conservation units in that region. It is required to connect these conservation units by the ecological corridor and manage these units in a coordinated manner to maximize the effectiveness of conservation. In the light of above, it is quite important to coordinate the related governmental organizations at federal, state and municipal levels, NGOs and citizen groups. However, there was a lack of coordination and integration among those related organizations.

Given this situation, GOB requested the Government of Japan (GOJ) for the assistance to implementation of a technical cooperation project in order to strengthen the capacity of ICMBio to assume the coordination role towards establishment of strategic natural conservation mechanism through coordination among related organizations. After the acceptance of the request by GOJ, JICA and ICMBio started, in April 2010, the Jalapão Region Ecological Corridor Project (hereinafter referred to as “the Project”).

1-4-2 Summary of the Project

The overall goal of the Project is “The ecosystem conservation in the Jalapão region is enhanced through the introduction of the Ecological Corridor”, and the project purpose is “The institutional capacity of ICMBio is strengthened to introduce and implement Ecological Corridor in the Jalapão region”. The outputs of the Project are described as follows:

(1) Information necessary for JREC management, including the Conservation Units

- buffer zones, is collected, analyzed and organized.
- (2) Institutional arrangements for the JREC management are structured.
 - (3) Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted.
 - (4) The linkage between local populations and institutions concerned with JREC conservation is strengthened.
 - (5) The strategic plan/guideline for introducing and managing JREC is developed.

1-5 Methodology of the Evaluation Study

The evaluation was conducted;

- 1) by joint evaluation team (the Team),
- 2) by collecting data and information through
 - examining documents prepared by the Project
 - interviewing JICA experts, Brazilian counterparts, and leaders of local residents in the project area including environmental council members and school teachers involved in environmental education
- 3) by assessing the degree of achievement of the Project, and
- 4) by analyzing the overall achievement/performance level using five criteria. Five criteria are shown in the table below.

Criteria	Definition
1. Relevance	This is a question whether the Project Purpose and Overall Goal are still in keeping with the priority needs and concerns at the time of evaluation.
2. Effectiveness	This concerns the extent to which the Project purpose has been achieved, in relation to the outputs produced by the Project.
3. Efficiency	This is the productivity of the implementation process. How efficiently the various inputs were converted into outputs and outcome.
4. Impact	The changes, either intended and unintended, direct and indirect, positive and negative, which are made as a result of the Project.
5. Sustainability	This is to question whether the Project benefits are likely to continue after the external assistance has come to an end.

2. Achievement of the Project

2-1 Inputs

The Team confirmed that the Project has mostly fulfilled the following inputs along with the plan stated in the R/D and PDM.

[Japanese side]

1) Dispatch of experts to Brazil

Six (06) short-term experts (33.2 man-month*) were dispatched to the Project by the end of December, 2011.

*Internationally recognized unit of work load which can be performed by one person per month.

2) Training of counterpart personnel in Japan

Three (3) counterparts were dispatched to Japan for training.

3) Provision of equipment

GIS data server, GIS software, remote sensing software, satellite image, vehicle, and others (see ANNEX 6).

[Brazilian side]

1) Appointment of counterpart personnel and other staffs

All staffs of relevant fields of the Project have been assigned. Currently eleven (11) are allocated. Among them, ICMBio headquarters assigned two local coordinators, one for EESGT and the other for PNNRP.

2) Provision of facilities and equipment

The necessary office space for the Project has been provided in Brasília and Rio da Conceição to JICA expert team. Vehicles and other equipment have also been provided for the Project activities.

The detail of the input is found in ANNEX 4, 5, 6, 7 and 8.

2-2 Activities

The Team confirmed that the Project has been implementing the activities along with the Plan of Operation (PO). The details of the progress of the activities to be specifically mentioned here in relation to the output realization are as follows;

Activities for Output 1:

- Social, economic and legal information concerned with ecological corridors in Brazil has been collected and organized.
- Geospatial data concerned with ecological corridors in Jalapão region have been collected and organized in GIS database.

- The information sharing materials (pamphlets, banners, etc.) have been developed and the project information has been disseminated in appropriate media.

Activities for Output 2:

- The objectives and role of Reciprocity Term for the conservation of Jalapão Region was discussed and its potential members were identified.
- The institutional consensus was made on the Reciprocity Term among related state institutions and federal institutions.
- The executive mechanism on Reciprocity Term was discussed.
- The organization of the executive coordination body and the protocol for the Reciprocity Term were discussed.
- The Short-term Joint Action Plan has been discussed.

Activities for Output 3:

- GIS training course was held on November 9 and 10, 2010.
- RPPN technical seminar was held on September 29 and 30, 2011.
- The technical seminar on the JREC conservation was held on November 29, 2011.
- Technical visit to Central Fluminense Mosaic is to be held on December 12 to 16, 2011.

Activities for Output 4:

- Capacity development trainings for municipal environmental councils were implemented.
- Capacity development trainings for environmental education were implemented.
- Supporting works for establishment of EESGT council were implemented.

Activities for Output 5:

- The "Diagnosis and Justification" and " Strategic Action Plans" of the Strategic Plan for Implementation of Ecological Corridor in Jalapão region were elaborated through 02 workshops with concerned institutions.
- The dialogues with officials from state institutions to reflect their ideas on the "Strategic Plan" have been held.

2-3 Outputs

Output 1	Information necessary for JREC management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and organized.
Indicator (PDM)	1.1 The database with the collected information is developed. 1.2 The project homepage in ICMBio website is updated at least four times a year. 1.3 Information necessary for JREC management is distributed and shared among concerned institutions. 1.4 Information sharing materials are developed.

At the time of Mid-term review, Output 1 is judged as being realized. Namely, information necessary for JREC management, including the Conservation Units buffer zones, has been collected, analyzed and organized based on the indicators as follows:

Indicator 1-1:

- The database with the collected information has been developed. The Project GIS database has become available at <http://www.jalapaocorredor.com.br/>. It is temporarily installed and made available for use by ICMBio staff on stand-alone server, but the procedure to install it to ICMBio computer network is under progress.

Indicator 1-2:

- The project Home Page (HP) at ICMBio website has recently been released at <http://www.icmbio.gov.br/jalapao/> and renewal time has not come yet.

Indicator 1-3:

- Information necessary for JREC management has been distributed and been shared among institutions concerned through the project HP, the printed materials and the Ecological Corridor Atlas (synthesized information and maps on JREC) developed by the Project.

Indicator 1-4:

- Some printed materials of information necessary for JREC management with good design and colors were developed and well-received. Additional printing is expected by related state and municipal institutions and local communities.

Output 2	Institutional arrangements for the JREC management are structured.
Indicator (PDM)	2.1 The Reciprocity Term for JREC management obtains institutional consensus among concerned institutions. 2.2 Meetings among concerned institutions for JREC management are held at least three times a year.

At the time of Mid-term review, Output 2 is judged as being realized, based on the following indicators.

Indicator 2-1:

- The Reciprocity Term for JREC management obtained consensus among ICMBio, the Ministry of Environment of Brazil, the Governor of the State of Tocantins and three related state organizations of Tocantins, and was signed by them on 29th September, 2011.

Indicator 2-2:

- Various meetings have been held among the related institutions (e.g. the preparation meetings for the Reciprocity Term) and its frequency is more than ten times a year.

In addition, the government organizations of the State of Tocantins consider that the State has become closer to the municipalities in the Jalapão region because of the joint activities of the Project, and such relationship are further strengthened through environmental education such as “Fire Protocol” and “Waste and Citizenship” in future. The Team observed that municipalities became to recognize the ICMBio as their close partner.

Output 3	Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted.
Indicator (PDM)	3.1 Training, visits and other capacity developing activities for concerned institutions are held at least two times during the period of the Project. 3.2 During the period of project, at least two seminars for JREC conservation are held.

At the time of Mid-term review, Output 3 is judged as being in progress based on the following indicators.

Indicator 3-1:

- More than two times of training, visits and other capacity developing activities for concerned institutions were held by the time of Mid-term review.

Indicator 3-2:

- Kick Off Seminar was held on May 13, 2010.

- RPPN technical seminar was held on September 29 and 30, 2011.
- A technical seminar for JREC conservation was held on November 29th, 2011.

In addition, the management staff of ICMBio including the manager of the Serra Geral do Tocantins Ecological Station believes that the capacity of their staffs has been steadily strengthened. The staffs acquired, for example, the practical knowledge on Web GIS. Also, they became more competent in negotiation through actual networking activities among federal government and state government/municipality.

Output 4	The linkage between local populations and institutions concerned with JREC conservation is strengthened.
Indicator (PDM)	4.1 At least two training programs for local populations are conducted. 4.2 Municipal environmental legislation is strengthened with assistance from concerned institutions.

At the time of Mid-term review, Output 4 is judged to be realized.

Indicator 4-1:

- 100 hours trainings targeting at school teachers, who are regarded as ones of leaders of local residents, were conducted in Mateiros and in Rio da Conceição. The number of teachers who received the certificate is 26 and 23 respectively.
- Two-day trainings for potential members of municipal environment councils were conducted in five municipalities (Mateiros, Rio da Conceição, São Felix, Almas and Ponte Alta). Total of 101 members participated in the trainings.

Indicator 4-2:

- The municipal environment councils, authorized by the respective mayors and municipal assemblies, were established in Rio da Conceição, São Felix, and Ponte Alta. The council will be established soon in Mateiros as of Mid-term review. Also, the environmental council for the Serra Geral do Tocantins Ecological Station is almost been established (Official establishment will be in 2012 April). Municipality of Ponte Alta reformed its ordinance on environment. The mayor of São Felix signed and authorized the SMUC, after the approval of the municipal assembly, to make it possible to designate municipal conservation units, and requested ICMBio for support to the establishment of municipal conservation units.

In addition, the Team observed that municipalities/local residents come to recognize

ICMBio as closer partner for them after experiencing the project activities of environmental education.

Output 5	The strategic plan/guideline for introducing and managing JREC is developed.
Indicator (PDM)	5.1 “Diagnosis & Justification”, “Strategic Action Plans” and “Operational Guidelines” are developed.

At the time of Mid-term review, Output 5 is judged as being in progress based on the following indicators.

Indicator 5-1:

- “Operational Guidelines” has not been prepared, yet. However, “Diagnosis & Justification” has been drafted and the preparation of “Strategic Action Plans” is in progress and will be finalized in March 2012.

2-4 Project Purpose

Project Purpose	The institutional capacity of ICMBio is strengthened to introduce and implement Ecological Corridor in the Jalapão region.
Indicator (PDM)	-The Strategic Plan for introducing and managing JREC has consensus among concerned institutions by the coordination of ICMBio. -Mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region is developed by the coordination of ICMBio.

It is expected, at the time of Mid-term review, that the project purpose will be fully achieved by the end of the Project, that is, the institutional capacity of ICMBio will be strengthened to introduce and implement Ecological Corridor in the Jalapão region.

The reasons for the foregoing statement are based on indicators as follows;

Indicator 1:

The preparation of the Strategic Plan for introducing and managing JREC is in progress (See 2-3). The Team observed eager discussions with concrete ideas on the Strategic Plan during the technical seminar and the counterpart meeting on November 29 and 30, 2011. The consensus on the Plan is steadily being created through such discussions and will be consolidated by the end of the Project.

Indicator 2:

The mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region by the coordination of ICMBio is in the process of its establishment. For example, collaboration between ICMBio, MMA and state organizations was enhanced by the Reciprocity Term. This enhanced collaboration created synergy effects among the federal and state programs to support municipalities, which stimulated the establishment of municipal environment councils. This collaboration has led to a number of joint actions among the federal and state organizations, such as joint environmental education program, joint seminar/workshops, and the integration of information management systems of different organizations, which optimizes the use of scarce resources for biodiversity conservation.

In addition to that, the management level of ICMBio firmly believes that the mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region has been developing with the coordination of ICMBio. They pointed out that the establishment of COMOC, whose function is coordination of Conservation Units and Ecological Corridor, in ICMBio to implement the Project has significantly strengthened the coordination ability of ICMBio to promote conservation in Jalapão region.

2-5 Overall Goal

Overall Goal	The ecosystem conservation in the Jalapão region is enhanced through the introduction of the Ecological Corridor.
Indicator (PDM)	The Strategic Plan for introducing and managing Jalapão Region Ecological Corridors (JREC) is implemented.

It is too early, at the time of Mid-term review, to judge whether or not the achievement of the overall goal will be possible. However, its indicator on PDM/“the Strategic Plan for introducing and managing Jalapão Region Ecological Corridors (JREC) is implemented” is estimated to be possibly realized if the current project activities are continuously conducted in the latter half period. The personnel who know the field situation well are quite positive on the eventual achievement of the overall goal while they think that it is not easy to measure the enhancement of the ecosystem conservation.

2-6 Implementation Process

Implementation process was assessed along with the evaluation grid.

The followings are the major points to mention;

Travel expenses:

There were some cases where counterparts had difficulties in securing financial resources for business trips due to the budget cut of travel expenses in GOB.

Active Participation of related organizations:

The State Government of Tocantins and some of the related municipalities have been actively participated in the Project activities such as establishment of environmental councils and the environmental education. The State Government of Bahia also has begun to participate in the project activities.

3. Evaluation Results based on the Five Evaluation Criteria

3-1 Relevance

Relevance is the evaluation item to question whether the “Project Purpose” and “Overall Goal” are still meaningful as objectives at the time of evaluation/review. The Project is highly relevant since the conditions, which were confirmed at the time of the ex-ante evaluation, remain the same. Ministry of Environment regards the Cerrado conservation as a priority issue, which is demonstrated by the establishment of “Sustainable Cerrado Program” in November 2005 to promote conservation and sustainable use of Cerrado, as well as the adoption of “the Action Plan for Prevention and Control of Forest Destruction and Fires in Cerrado” in September 2010. The Jalapão region continues to be one of the priority conservation areas of ICMBio and Ministry of Environment.

The GOJ gives priority to environment conservation within its cooperation policy for Brazil, as shown in the Rolling Plan of Japan’s ODA for Brazil.

In the light of the above, the project purpose and overall goal of the Project are consistent with the Brazilian development policy, and Japanese ODA policy.

3-2 Effectiveness

Effectiveness is the evaluation item that questions whether the “Project Purpose” has been achieved/is estimated to achieve, and how much contribution “Outputs” of the Project made/is making. The effectiveness of the Project is high as shown below:

1) Degree of achievement of the Project Purpose

At the time of Mid-term review, the Project Purpose is estimated to fully achieve by the end of the project implementation period. (See 2-4.)

2) Contribution of Outputs to Project Purpose achievement

All the Outputs (information dissemination, collaboration framework for related organizations, capacity development, linkage with local residents, and strategic plan for JREC) have been contributing to the achievement of the project purpose.

3) Promoting factors and Inhibiting factors of Effectiveness

A Promoting factor is, as mentioned under “2-6 Implementation Process”, the active participation of related organizations such as the state government organizations of Tocantins and Bahia, and related municipalities.

There is no major inhibiting factor towards the achievement of the Project Purpose. However, the Team observed that the tight budget of travel expenses of GOB sometimes becomes constraints of project activities.

3-3 Efficiency

Efficiency is the evaluation item to see to what extent “inputs” have been converted to “outputs” and “outcome”. The efficiency level of the Project is high. For example, the counterparts and personnel of related organizations who participated in the trainings in Japan and Brazil have actively practiced what they learned and contributed considerably to the establishment of municipal environment councils and the promotion of environmental education.

The information dissemination through Web GIS also will have large impact. The timing of inputs from both sides such as allocation of the experts, counterpart personnel and provision of trainings was appropriate. Inefficient use of inputs was not observed.

However, the sheer vastness of the project target area as well as the physical distance among related organizations and underdeveloped transport infrastructure in the region gives constraints to project activities.

3-4 Impacts

One of the aspects to look at the Project from the perspective of Impact is the extent of contribution by the Project to the attainment of the Overall Goal, that is, the enhancement of ecosystem conservation in the Jalapão region. The ecosystem conservation is considered to be enhanced when threats to the ecosystems are removed,

reduced or controlled. The Project has undertaken, as a part of its activities, the analysis of the threats and measures to be taken to deal with them, which are illustrated in the table below.

Threats to ecosystems	Principal driving forces of the threats	Possible measures to be taken
Conversion of natural areas to farmlands or pasturelands	Large-scale agricultural producers, Agribusiness	<ul style="list-style-type: none"> - Increase in the coverage of federal, state, and municipal conservation units, and private nature reserves - Promotion of compliance with the Forest Code and other environment related legislation
Ecosystem degradation by wild fire	Rural settlers	<ul style="list-style-type: none"> - Environmental education - Land regularization of rural settlers inside integral conservation units - Promotion of alternative economic activities and indication of production chain
Ecosystem degradation by subsistence farming and livestock farming	Rural settlers	<ul style="list-style-type: none"> - Promotion of alternative economic activities and indication of production chain - Land regularization of rural settlers inside integral conservation units
Pollution by waste water and solid wastes	Urban residents, rural settlers	<ul style="list-style-type: none"> - Improvement of waste collection services and recycling - Sewerage collection and treatment - Environmental education
Over harvesting of plants and animals	Rural settlers, urban residents	<ul style="list-style-type: none"> - Regulation of harvesting - Environmental education - Promotion of alternative economic activities and indication of production chain

The Project directly assists in the implementation of some of these measures illustrated above. However, it requires actions by various organizations to address all these challenges. Besides, threats to ecosystems change in time as surrounding natural and socio-economic conditions change, which requires the counter-measures to be adaptive.

In such circumstances, the only sustainable way to keep the conservation efforts effective is to establish a conservation mechanism in place, incorporating all major stakeholders in it and being capable of adaptive management of ecosystems. Through strengthening the partnership for the conservation of the Jalapão region among various organizations at the federal, state and municipal levels, the Project institutionalizes the concerted efforts by those organizations (in other words, establishes a conservation mechanism) to identify threats, plan counter-measures, take actions, and review their effects. Therefore, the Project is considered to be paving a way to achieve the Overall Goal.

For example, the following positive effect has already been observed. The municipality of São Felix, after twice rejection by the Municipal Assembly, finally

approved the SMUC that could create the first municipal conservation unit in Jalapão Region in near future. In addition, the State Government of Tocantins is preparing for a state ordinance on RPPN. The Team considers these were stimulated by the Project and were unexpected impacts of the Project.

No negative impacts were observed.

3-5 Sustainability

Sustainability is the evaluation item that questions to what extent the partner organizations, such as ICMBio be able to retain the positive effects of the Project after the termination of the Project. Although it is not easy to judge the sustainability of the Project at the time of Mid-term review, it was analyzed from the following three points of view, namely aspects of (1) Organization and policy, (2) Finance, (3) Technology. As a result of this analysis, the sustainability of the Project can be secured if some conditions are met.

The reasons for the above statement and the necessary conditions are as follows,

1) Organizational sustainability

COMOC was established in ICMBio to promote ecological corridors and integrated management of neighboring conservation units, and the existence of COMOC significantly gives favorable effects on sustainability of the Project. In addition, ICMBio is going through further organizational strengthening by the increase in number of personnel through next recruitment of staff. Thus, organizational sustainability is high.

2) Financial sustainability

ICMBio has been making efforts to acquire external funding source, for example, through GEF and BMU. Also, the budget from the related organization such as state governments and municipalities could be one of the additional financial sources for the operational cost to continue the current activities. The State of Tocantins holds the idea of the integration of environmental education into the educational curricula at schools to enhance sustainability.

3) Technical sustainability

Technical assistance by Japanese experts has steadily made progresses. The training subjects are practical and well selected based on the needs assessment of ICMBio personnel. Therefore, the knowledge and skills of ICMBio personnel

have, through such trainings, been enhanced and they have been accumulating their practical experiences in respective work place. The counterpart personnel who observed the environmental councils in Japan considerably contributed to the establishment of municipalities' councils through dialogues/environmental education. Moreover, the acquired knowledge and skills through such trainings have been disseminated even to the personnel of related organizations at the state and municipal level who are not direct counterparts of the Project. Also, turnover of counterparts of ICMBio is minimal.

4. Conclusion

Overall, the Team observed progresses in most of the project activities. The information sharing materials (GIS data base, HP, printed materials) have been developed and the project information has been disseminated through such media. The Reciprocity Term for conservation of Jalapão region was signed among the State Government of Tocantins, Ministry of Environment and ICMBio. The technical seminar on the JREC conservation was held to strengthen the partnership among related organizations and prepare for Strategic Plan of JREC implementation. Capacity development training for ICMBio, related state organizations and municipalities as well as environmental education for schools and local populations were provided. The Team observed the strong commitment of ICMBio personnel as well as related organizations towards the introduction of JREC. Due to such progress of the activities towards five outputs, the project purpose is estimated to be fully achieved by the end of the Project.

5. Recommendations

The Team made the following recommendations for ICMBio, in coordination with the related organizations, to achieve the Project Purpose and to further improve each project activity towards the end of the Project.

- (1) To explore external financial resources, such as the funding of GEF project in Cerrado, to further support active participation of ICMBio counterparts and concerned institutions in project activities.
- (2) To continue the current efforts to recruit additional field staffs for federal conservation units in Jalapão region.
- (3) To suggest to the state government of Tocantins about increasing the number of staff in state conservation units in Jalapão region.

- (4) To complete the current procedure to install the GIS database developed by the Project to ICMBio computer network.
- (5) To further develop an efficient communication system among concerned institutions and local communities in order to reduce travel costs and time.
- (6) To strengthen collaboration with ICMBio RPPN program and Tocantins State aiming at further promoting the creation of additional RPPN.

ANNEX:

- Annex 1 Project Design Matrix (PDM)
- Annex 2 Plan of Actions
- Annex 3 Evaluation Grid
- Annex 4 Dispatch of Experts
- Annex 5 Training of Counterpart Personnel in Japan
- Annex 6 Equipment Provided by Japanese Side
- Annex 7 Local Cost born by Japanese and Brazilian Side
- Annex 8 List of Brazilian Project Staffs
- Annex 9 Map of Target Area
- Annex 10 Questionnaire (in Portuguese)

Project Design Matrix (PDM)
The Jalapão Region Ecological Corridor Project

Technical Cooperation Duration: 3 years

Implementing Institution: Chico Mendes Institute for the Conservation of Biodiversity - ICMBio

Target region: Jalapão Region, i.e., connecting area between the Serra Geral do Tocantins Ecological Station and the Nascentes do Rio Parnaíba National Park

Beneficiary groups: Governmental institutions (federal, state, municipal), non-governmental organizations, local populations, local organizations and private sector in the Jalapão Region Ecological Corridor.

Version 2, 05.05.2011

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal:</p> <p>The ecosystem conservation in the Jalapão region is enhanced through the introduction of the Ecological Corridor.</p>	<p>The Strategic Plan for introducing and managing Jalapão Region Ecological Corridors (JREC) is implemented.</p>	<p>1. Evaluation survey</p>	<p>Ecological Corridor is maintained as a strategic and political priority among concerned institutions.</p>
<p>Project Purpose:</p> <p>The institutional capacity of ICMBio is strengthened to introduce and implement Ecological Corridor in the Jalapão region.</p>	<p>The Strategic Plan for introducing and managing JREC has consensus among concerned institutions by the coordination of ICMBio.</p> <p>Mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region is developed by the coordination of ICMBio.</p>	<p>1. Project report 2. Evaluation survey</p>	<p>The priority and support for the Conservation Units in the Jalapão region towards the implementation of JREC is maintained by the Ministry of Environment.</p>
<p>Outputs:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Information necessary for JREC management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and organized. 2. Institutional arrangements for the JREC management are structured. 3. Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted. 4. The linkage between local populations and institutions concerned with JREC conservation is strengthened. 5. The strategic plan/guideline for introducing and managing JREC is developed. 	<ol style="list-style-type: none"> 1.1 The database with the collected information is developed. 1.2 The project homepage in ICMBio website is updated at least four times a year. 1.3 Information necessary for JREC management is distributed and shared among concerned institutions. 1.4 Information sharing materials are developed. 2.1 The Reciprocity Term for JREC management obtains institutional consensus among concerned institutions. 2.2 Meetings among concerned institutions for JREC management are held at least three times a year. 3.1 Training, visits and other capacity developing activities for concerned institutions are held at least two times during the period of the Project. 3.2 During the period of project, at least two seminars for JREC conservation are held. 4.1 At least two training programs for local populations are 	<ol style="list-style-type: none"> 1.1 Database 1.2 ICMBio Homepage 1.3 Information sharing materials 1.4 Project report 2.1 Reciprocity Term 2.2 Meeting records 3.1 Project report 3.2 Seminar report 4.1 Training program report 4.2 Project report 5.1 The Strategic Plan 	<p>The support of the concerned institutions does not drastically change.</p>

	<p>conducted.</p> <p>4.2 Municipal environmental legislation is strengthened with assistance from concerned institutions.</p> <p>5.1 "Diagnosis & Justification", "Strategic Action Plans" and "Operational Guidelines" are developed.</p>		
<p>Activities:</p> <p>1.1. To collect information concerned with ecological corridors in Brazil.</p> <p>1.2. To collect baseline information for ecological monitoring.</p> <p>1.3. To develop information sharing materials, and disseminate project information in appropriate media.</p> <p>2.1 To hold periodical meetings of the project counterparts, discuss and promote the project management.</p> <p>2.2 To define roles and actions of concerned institutions in the reciprocity term.</p> <p>2.3 To obtain institutional consensus on reciprocity term among concerned institutions.</p> <p>2.4 To hold meetings among concerned institutions based on the rationale of reciprocity term.</p> <p>3.1 To identify necessary themes for training the staff from ICMBio and concerned institutions with the Project.</p> <p>3.2 To plan and implement trainings for ICMBio and concerned institutions with the Project.</p> <p>3.3 To follow up activities of the trained staff.</p> <p>3.4 To hold seminars on the JREC conservation.</p> <p>4.1 To communicate project information to local populations.</p> <p>4.2 To identify themes and methodologies suitable for capacitating local populations.</p> <p>4.3 To implement training and other activities for local populations for the better management of the natural resources.</p> <p>4.4 To follow up activities of the trained local populations.</p> <p>5.1 To identify strategies for introducing and managing JREC.</p> <p>5.2 To define methodologies and actions for introducing and managing JREC.</p> <p>5.3 To develop the strategic plan/guideline for introducing and managing JREC with participation of concerned institutions.</p>	<p>Inputs: (Japanese side)</p> <ul style="list-style-type: none"> -Experts <ul style="list-style-type: none"> • Ecosystem preservation / organization strengthening / participatory management of natural resources / administration etc. - Local experts <ul style="list-style-type: none"> • Participatory development, monitoring and other activities -Training in Japan (six people in total) -Financial resources for local activities - Necessary equipment <ul style="list-style-type: none"> • Vehicles • Geoprocessing equipments • Necessary materials 	<p>Inputs: (Brazilian side)</p> <ul style="list-style-type: none"> -Counterparts (ICMBio Headquarters, Serra Geral do Tocantins Ecological Station - 2 people dedicated to the project - and Nascentes do Rio Parnaiba National Park). - Training in Brazil -Administrative facilities -Communication media -Secretary, driver -Operating costs -Infrastructure 	<p>ICMBio and its budgets are not greatly affected by political change.</p> <p>The stakeholders present in the project area are willing to collaborate with the project activities.</p> <p>Pre-conditions ICMBio allocates personnel and budget for the execution of project activities.</p>

Plan of Actions (PA) – 2010

		Planned		Actual		2010						Milestones
		Phase 1										
		4	5	6	7	8	9	10	11	12		
Output 1: Information necessary for the Jalapão region Ecological Corridor (JREC) management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and organized.												
Activity 1	To make a literature survey and interviews about other projects in the Jalapão region or related to ecological corridors in Brazil, and to identify useful information for the JREC management											
Action 1.1	To make a literature survey.											• List of literature collected
Action 1.2	To collect existing GIS data from ICMBio & IBAMA											• List of literature collected
Activity 2	To identify human resources and developed methodologies and tools that may be useful for this project based on activity 1.1											
Action 2.1	To identify human resources and developed methodologies and tools											
Action 2.2	To establish Working Groups											• Report on Kick off Seminar
Activity 3	To collect baseline information on the environmental, social and economical situation in the target region											
Action 3.1	To collect information on the indicator species for ecological corridor management											• Report on baseline survey • Meeting records
Activity 4	To develop information sharing materials, build a network of institutions related to the project, and disseminate the project information in appropriate media											
Action 4.1	To create project web site											• Meeting records • Meeting materials
Action 4.2	To create information materials (leaflet, calender etc...)											• Plan • List of information materials
Action 4.3	To develop "Project Web-GIS" data base system by local consignment											• "Project Web-GIS" database system
Reports & JCC												
Reports		Ic/R										C/R
JCC			JCC							JCC		
C/P Regular Meeting												

* Ic/R: Inception Report P/R: Progress Report C/R: Annual Completion Report JCC: Joint Coordinating Committee

Plan of Actions (PA) – 2010

		Planned	Actual	2010												Milestones
		Phase 1														
		4	5	6	7	8	9	10	11	12						
Output 2:	Institutional arrangements for the JREC management are structured.															
Activity 1	To hold periodical meetings of the project counterparts, discuss and promote the project management.															
Action 1.1	Establish the Working Groups.															• Minutes of the Kick off seminar by the end of May.
Action 1.2	Prepare and implement the Kick off Meeting.															• Minutes of the Kick off seminar by the end of May.
Action 1.3	Hold C/P regular meetings and prepare minutes of the meetings.															• Minutes of C/P regular meetings by the end of each holding month.
Activity 2	To define the role of the JREC Council and to identify its members.															
Action 2.1	Discuss the role, strategy etc., of the JREC Council in the C/P regular meetings.															
Action 2.2	Identify potential members of JREC Council in the C/P regular meetings..															
Reports & JCC																
Reports		Ic/R														C/R
JCC			JCC											JCC		
C/P Regular Meeting																

* Ic/R: Inception Report P/R: Progress Report C/R: Annual Completion Report JCC: Joint Coordinating Committee

Plan of Actions (PA) – 2010

		Planned		Actual		2010					Milestones	
		Phase 1										
		4	5	6	7	8	9	10	11	12		
Output 3:	Training and public seminars for capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs											
Activity 1:	To identify necessary themes for training the staff from ICMBio and institutions related to the project											
Action 1.1	Identification of necessary "capacity" and "ability" for introduction/implementation of the ecological corridor											<ul style="list-style-type: none"> •Identification: by 28th May •All identification: by 4th Jun.
Action 1.2	Implementation of capacity and needs assessment											<ul style="list-style-type: none"> •SWOT & baseline: by 2nd Jul. •Interview and sharing : by 30th Jul.
Action 1.3	Identification of target issues and approach											<ul style="list-style-type: none"> •Draft definition: by 16th Jul. •Final definition: by 6th Aug.
Activity 2:	To plan and implement trainings for ICMBio an institutions related to the project											
Action 2.1	Preparation of capacity development program											<ul style="list-style-type: none"> •List of other similar program: by 23rd Jul. •Development of program: by 20th Aug.
Action 2.2	Implementation of training											<ul style="list-style-type: none"> •1st program: around 1st Sep. •2nd program: around 10th Nov.
Reports & JCC												
Reports		Ic/R										C/R
JCC			JCC								JCC	
C/P Regular Meeting												

* Ic/R: Inception Report P/R: Progress Report C/R: Annual Completion Report JCC: Joint Coordinating Committee

Plan of Actions (PA) – 2010

		2010												Milestones
		Phase 1												
		4	5	6	7	8	9	10	11	12				
Output 4:	The linkage between local people and institutions related to the JREC conservation is strengthened													
Activity 1:	To communicate project information to concerned local communities													
Action 1.1	To create information materials (leaflet, calendar etc...)													•List of information materials
Activity 2:	To identify themes and methodologies suitable for the demands of local communities													
Action 2.1	To establish a Working Group													•Working group: by 11th May
Action 2.2	Selection of target communities													•Selection: by 13th Aug.
Action 2.3	Implementation of situation analysis													•Implementation of analysis: by 10th Sep. •Needs assessment: by 22nd Oct.
Action 2.4	Implementation of workshops in municipalities													•Report: by 29th Oct.
Action 2.5	Discuss and plan for environmental education for community leaders													•Environmental education plan
Reports & JCC														
Reports		Ic/R											C/R	
JCC			JCC									JCC		
C/P Regular Meeting														

* Ic/R: Inception Report P/R: Progress Report C/R: Annual Completion Report JCC: Joint Coordinating Committee

Plan of Actions (PA) – 2010

		Planned		Actual		2010					Milestones	
		Phase 1										
		4	5	6	7	8	9	10	11	12		
Output 5:	The monitoring manual for the JREC is developed											
Activity 1:	To identify monitoring targets for JREC operation and management											
Action 1.1	To collect information on the indicator species for ecological corridor management											• Report on baseline survey • Meeting records
Activity 2:	To define monitoring methodologies (Draft) for each identified target											
Action 2.1	To create thematic(land cover and land use) maps											• Thematic maps: end October
Action 2.2	To plan training course on species database for ICMBio and related agencies.											• Report on Training course: end Dec.
Action 2.3	To implement training course on species database for ICMBio and related agencies.											• Report on Training course: end Dec.
Reports & JCC												
Reports		Ic/R										C/R
JCC			JCC						JCC			
C/P Regular Meeting												

* Ic/R: Inception Report P/R: Progress Report C/R: Annual Completion Report JCC: Joint Coordinating Committee

Plan of Actions (PA) – 2011

		2011												Milestones	As of 11/22/2011	
		Phase 2														
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
Output 1: Information necessary for the Jalapão region Ecological Corridor (JREC) management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and organized.																
Activity 1	To collect information concerned with ecological corridors in Brazil															
Action 1.4	To make supplemental literature survey based on necessity.														•List of literature collected	•List of literature collected (hardcopies)
Action 1.5	To collect existing GIS data from ICMBio & IBAMA based on necessity.														•List of information/data collected	•List of information/data collected (GIS data)
Activity 2	To collect baseline information for ecological monitoring															
Action 2.1	To collect information for the elaboration of the Strategic Plan.														•List of information/data collected	•Data compiled, printing materials generated
Activity 3	To develop information sharing materials and disseminate project information in appropriate media															
Action 3.1	To create and maintain project web site														•Homepage data: May •Maintenance check list/log	•HP(JICA)→Started •HP(ICMBio, Portuguese)→Started on Intranet •HP(ICMBio, English)→Started on Intranet
Action 3.2	To create information materials utilizing GIS data collected (leaflet, calendar etc...)														•Proposal •List of information materials •Products •Distribution records	•7 types of Folder generated (For Project 2011→3000, RPPN x 2 types (For project→2000, For entire country→3000), ESEC in general→3000, PARNA in general→3000, PEJ in general→3000, RIO VIVO→700, Calendar 2012→500, Atlas→500, T-shirt→300)
Action 3.3	To construct a database for "Project Web-GIS" using collected data.														•Data list •Database system	•GIS Database created •List of data prepared
Action 3.4	To have dialogues with related institutions for utilizing "Project Web-GIS" system.														•Meeting records, •Agreement on maintenance(location, budget, use etc.)	•Various meeting records and minutes generated
Action 3.5	To maintain "Project Web-GIS".														•Number of access, •Maintenance check list/log	•Setup manual completed •Operation manual completed
Reports & JCC																
Reports																
JCC																
C/P Regular Meeting																

* Ic/R: Inception Report A/P: Annual Plan AC/R: Annual Completion Report JCC: Joint Coordinating Committee

Plan of Actions (PA) – 2011

Output 2: Institutional arrangements for the JREC management are structured.	2011												Milestones	Outputs	
	Phase 2														
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
Activity 1: To hold periodical meetings of the project counterparts, discuss and promote the project management.															
Action 1.3 Hold O/P regular meetings and prepare minutes.															
Activity 2: To define role and actions of concerned institutions in the reciprocity term.															
Action 2.1 Discuss objectives and role of reciprocity term.															
Action 2.2 Identify potential members of reciprocity term.															
Activity 3: To obtain institutional consensus on reciprocity term among concerned institutions.															
Action 3.1 Obtain institutional consensus on the terms for reciprocity with state institutions.															
Action 3.2 Obtain institutional consensus on the terms for reciprocity with federal institutions.															
Action 3.3 Discuss on the executive mechanism on reciprocity.															
Action 3.4 Discuss on the internal regime for the executive coordination body.															
Activity 4: To hold meetings among concerned institutions based on the rationale of reciprocity term.															
Action 4.1 Discuss on the institutional decree or internal decree for reciprocity.															
Action 4.2 Discuss on Joint Action Plan – Short Term															
Reports & JCC															
Reports															
JCC															
C/P Regular Meeting															

* Ic/R: Inception Report A/P: Annual Plan AC/R: Annual Completion Report JCC: Joint Coordinating Committee

Plan of Actions (PA) – 2011

		2011											Milestones	Outputs	
		Phase 2													
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
Output 3: Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted.															
Activity 2: To plan and implement trainings for ICMBio and concerned institutions with the Project															
Action 2.1	Elaboration of capacity development plan (mini-trainings, technical visits)													•Preparation of program: by Mid Apr.	•Capacity development plan prepared
Action 2.2	Preparation and implementation of mini-trainings													•1st training: by end May. 2nd training: by end Aug.	<ul style="list-style-type: none"> •GIS training report prepared •RPPN training report prepared •Report prepared on Training on Institutional Framework for Promoting Participatory Biodiversity Conservation: Cases from the Philippines and India •Report prepared on Training on Participatory Biodiversity Conservation: Planning, Action and Activities •Japan training report prepared
Action 2.3	Preparation and implementation of a technical visit													•Visit: by end Oct	•Program for technical visit to Rio de Janeiro prepared
Activity 3: To follow up activities of the trained staff															
Action 3.1	Implement follow up in OJT														<ul style="list-style-type: none"> • Questionnaire prepared, distributed and collected •Data from questionnaire compiled, and follow-up report prepared
Activity 4: To hold public seminars on the JREC conservation															
Action 4.1	Prepare proposal for mid-term seminar													•Seminar proposal	•Program for technical seminar prepared.
Action 4.2	Implement various works for seminar preparation													•Seminar report	•Seminar completed on November 29, 2011
Action 4.3	Hold seminar													•Seminar report	•Seminar report to be completed soon
Reports & JCC															
Reports															
JCC															
C/P Regular Meeting															

* Ic/R: Inception Report A/P: Annual Plan AC/R: Annual Completion Report JCC: Joint Coordinating Committee

Plan of Actions (PA) – 2011

Output 4: The linkage between local population and institutions concerned with JREC conservation is strengthened	Planned	Actual	2011												Milestones	Outputs	
			Phase 2														
Activity 1: To communicate project information to concerned local populations	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12							
Action 1.1	To create information materials utilizing GIS data collected (leaflet, calendar etc...)															•Proposal, list of information materials, products, distribution records	•7 types of Folders generated •Record of distribution maintained
Activity 2: To identify themes and methodologies suitable for the demands of local populations																	
Action 2.6	Review of needs and themes of training and other activities															•Definition of themes and needs: by end	•Plan reviewed for capacity building of municipalities on environmental management •Plan reviewed for environmental education •Plan reviewed for ESEC management committee establishment
Activity 3: To implement training and other activities for the local populations for the better management of the natural resources																	
Action 3.1	Preparation of capacity development program (Capacitation of municipal environmental council, capacitation of environmental education, establishment of ESEC council)															•Preparation of working plan: by Mid Apr.	•Plan prepared for capacity building of municipalities on environmental management •Plan prepared for environmental education •Plan prepared for ESEC management committee establishment
Action 3.2	Implementation of capacitation for municipal environmental council															•1st training: by end May, 2nd training: by end Aug.	•Report completed for the activities of Municipal Environmental Councils •Report prepared for Training Course on Structure for Environmental Management •Report prepared on Training on Institutional Framework for Promoting Participatory Biodiversity Conservation: Cases from the Philippines and India •Report prepared on Training on Participatory Biodiversity Conservation: Planning, Action and Activities •Memorandum of Agreement signed among the project, CAOMA, Naturatins, and SEMADES for cooperation •Letter of thanks received from ICMBio on the support for management planning of ESEC
Action 3.3	Implementation of capacitation for environmental education															•Training: by end Aug	•Report prepared on environmental education
Action 3.4	Implementation of capacitation for establishment of ESEC council																•Report being prepared on the formation of management committee for ESEC
Action 3.5	Preparation of report and plan for next year															•Report: by Nov	•Plan prepared for next year
Activity 4: To follow up activities of the trained local populations																	
Action 4.1	Implement follow up during capacity development program																•To be implemented next year
Reports: JCC																	
Reports																	
JCC																	
C/P Regular Meeting																	

* Ic/R: Inception Report A/P: Annual Plan AC/R: Annual Completion Report JCC: Joint Coordinating Committee

Plan of Actions (PA) – 2011

Output 5: The JREC strategic plan/guideline is developed.	Planned	Actual	2011												Milestones	Outputs	
			Phase 2														
			3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
Activity 1: To identify strategies for introducing and managing JREC.																	
Action 1.1 To establish a Working Group																•Bi-monthly reports	•Bi-monthly reports
Action 1.2 To make a work plan																•ToR & contract document •Proposal/work plan	•ToR & contract document •Proposal/work plan
Action 1.3 To make a dialogues with resource persons																•Bi-monthly reports	•Bi-monthly reports
Activity 2: To define methodologies and actions for introducing and managing JREC.																	
Action 2.1 To implement works on preparing "Diagnosis and Justification" for the Strategic Plan.																•Bi-monthly reports	•Bi-monthly reports
Action 2.2 To create thematic (land cover and land use) maps																•Bi-monthly reports •Draft report	•Bi-monthly reports •Draft report
Activity 3: To develop the strategic plan/guideline for introducing and managing JREC with participation of concerned institutions.																	
Action 3.1 To implement works on preparing "Strategic Action Plans"																•Bi-monthly reports •Draft report	•Bi-monthly reports •Draft report
Action 3.2 To implement works on preparing "Operational Guidelines"																•Bi-monthly reports •Draft report	
Action 3.3 To have dialogues with officials from state institutions to reflect their ideas in the "strategic plan/guidelines".																•Bi-monthly reports •Meeting records	•Bi-monthly reports •Meeting records
Reports & JCC																	
Reports																	
JCC																	
C/P Regular Meeting																	

* Ic/R: Inception Report A/P: Annual Plan AC/R: Annual Completion Report JCC: Joint Coordinating Committee

Evaluation Grid for Mid-term review : The Jalapão Region Ecological Corridor Project

Evaluation item	Evaluation Questions	Information/indicators	Data sources/Data collection methodology
	<p>Achievement of Overall Goal (expected)</p> <p>The ecosystem conservation in the Jalapão region is enhanced through the introduction of the Ecological Corridor.</p>	<p>Any available data, information including opinion of the related persons suggesting the future realization of the following: "The Strategic Plan for introducing and managing Jalapão Region Ecological Corridors (JREC) is implemented."</p> <p>Any other available data, information including opinion of the related persons suggesting the future realization of the following: "The ecosystem conservation in the Jalapão region is enhanced through the introduction of the Ecological Corridor."</p>	<p>Interview and questionnaire for C/P and J/E</p> <p>Document review on as follows;</p> <p>Project records/proceedings of related meetings/articles of mass media on which "the Strategic Plan for JREC" is mentioned.</p>
	<p>Achievement of Project Purpose (expected)</p> <p>To what extent has Project Purpose, "The institutional capacity of ICMBio is strengthened to introduce and implement Ecological Corridor in the Jalapão region" been achieved?</p>	<p>1. The Strategic Plan for introducing and managing JREC that has consensus among concerned institutions by the coordination of ICMBio., if not yet obtained consensus, the progress of its preparation</p> <p>2. Mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region that has developed by the coordination of ICMBio, and any available data/opinion showing such mechanism.</p>	<p>Interview and questionnaire for C/P and J/E, related institutions</p> <p>Document review on as follows;</p> <p>1. Project records</p> <p>2. Proceedings of related meetings that could be a part of JREC council such as Mosaic committee.</p>
<p>Project Achievement</p>	<p>Achievement of Outputs (Partially based on estimation)</p> <p><u>Output 1</u> To what extent has Output 1, "Information necessary for JREC management including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and organized." been achieved?</p> <p><u>Output 2</u> To what extent has Output 2, "Institutional arrangements for the JREC management are structured." been achieved?</p> <p><u>Output 3</u> To what extent has Output 3, "Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted." been achieved?.</p> <p><u>Output 4</u> To what extent has Output 4, "The linkage between local populations and institutions concerned with JREC conservation is strengthened." been achieved?.</p>	<p>Monitoring data on the indicators shown below/same as in PDM2, and any other available data that could be the evidence of the achievement of the outputs.</p> <p>1.1 The database with the collected information is developed.</p> <p>1.2 The project homepage in ICMBio website is updated at least four times a year.</p> <p>1.3 Information necessary for JREC management is distributed and shared among concerned institutions.</p> <p>1.4 Information sharing materials are developed.</p> <p>2.1 The Reciprocity Term for JREC management obtains institutional consensus among concerned institutions.</p> <p>2.2 Meetings among concerned institutions for JREC management are held at least three times a year.</p> <p>3.1 Training, visits and other capacity developing activities for concerned institutions are held at least two times during the period of the Project.</p> <p>3.2 During the period of project, at least two seminars for JREC conservation are held.</p> <p>4.1 At least two training programs for local populations are conducted.</p> <p>4.2 Municipal environmental legislation is strengthened with assistance from concerned institutions.</p>	<p>Interview and questionnaire for C/P and J/E</p> <p>Document review on as follows;</p> <p>1-1</p> <p>1-2</p> <p>1-3</p> <p>1-4</p> <p>Interview and questionnaire for C/P and J/E, related institutions</p> <p>Document review on as follows;</p> <p>2-1</p> <p>2-2</p> <p>Interview and questionnaire for C/P and J/E, the participants in trainings</p> <p>Document review on as follows;</p> <p>3-1</p> <p>3-2</p> <p>Interview and questionnaire for C/P and J/E, municipalities</p> <p>Document review on as follows;</p> <p>4-1</p> <p>4-2</p>

ANNEX 3

	<p style="text-align: center;"><u>Output 5.1</u></p> <p>To what extent has Output 5.1 "The strategic plan/guideline for introducing and managing JREC is developed. . . been achieved?"</p>	<p>5.1 "Diagnosis & Justification", "Strategic Action Plans" and "Operational Guidelines" are developed.</p>	<p>Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review on as follows; 5-1</p>
	<p>Actual Inputs</p>	<p>Brazilian side</p> <ul style="list-style-type: none"> * Personnel necessary for the Project * Necessary cost and facilities for the Project <p>Japanese side</p> <ul style="list-style-type: none"> * Japanese Experts * Training in Japan (= Counterpart personnel training in Japan) * Equipment 	<p>Document review (Project records)</p> <p>Document review (Project records)</p> <p>Document review (Project records)</p> <p>Document review (Project records)</p> <p>Document review (Project records)</p>
<p>Implementation Process</p>	<p>Progress of the activities</p>	<p>Progress of the Project, reasons for the gap between current situation and the original plan, monitoring situation</p>	<p>Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records)</p>
	<p>Problems on implementation and solution process</p>	<p>Problems on project implementation/management and solution process, follow up of the recommendation by Consultation Team (Nov.2009)</p>	<p>Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records)</p>
	<p>Coordination among the related organizations in the operational mechanism</p>	<p>Administration structure</p> <p>Coordination among the relevant organizations and with other concerned organizations</p>	<p>Document review (Project records)</p> <p>Interview and questionnaire for C/P and J/E</p>
	<p>Performance of C/P</p>	<p>Adequacy in quantity, allocation timing, qualification (expertise and experience)</p> <p>Communication</p> <p>Initiative of C/P</p>	<p>Interview and questionnaire for C/P and J/E</p> <p>Interview and questionnaire for C/P and J/E</p> <p>Interview and questionnaire for C/P and J/E</p>
	<p>Ownership of implementing agency</p>	<p>Ownership of ICMBio the for the Project</p>	<p>Interview and questionnaire for C/P and J/E</p>

ANNEX 3

Evaluation Item	Evaluation Questions	Information/indicators	Data sources/Data collection methodology
1. Relevance	1.1 Necessity of this Project for the sector of environment	Consistency with the strategy of strengthening the human resources/ capacity development in participatory management of natural resource conservation in environment sector Consistency with the target group's needs (ICMBio staff)	Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records) Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records)
	1.2 Consistency with the Japanese aid policy	Japanese aid policy towards Brazil	Japanese aid plan for Brazil, Project records
	1.3 Needs of beneficiary (direct beneficiary and indirect beneficiary)	Adequacy of the counterpart organization (ICMBio) Consistency between the contents of the trainings for capacity development and the needs of ICMBio officials	Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records) Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records)
2. Effectiveness	2.1 Achievement level of Project Purpose	See project achievement	
	2.2 Inhibiting factors, promoting factors. Relations between outcomes and external conditions.	Inhibiting factors and promoting factors	Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records)
3. Efficiency	3.1 Adequacy of Input	Adequacy of allocation of C/Ps, facilities, operational costs. Management of C/P Adequacy of inputs such as Japanese experts, receiving C/P in Japan for training, provision of equipment	Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records) Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records)
	3.2 Achievement of Output	See project achievement	Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records)
	3.3 Operational structure of the Project	Current situation on the project team, implementation team, and coordination team, Status on JCC Situation of supporting system in Japan (JICA Brazil Office, JICA HQs in Tokyo)	Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records) Interview and questionnaire for C/P and J/E
4. Impact	4.1 Achievement of Overall Goal (expected)	See project achievement	
	4.2 Positive impacts other than the overall goal	Cases of positive spread effect	Interview and questionnaire for C/P and J/E
	4.3 Negative impact	Existence of negative spread effects	Interview and questionnaire for C/P and J/E
5. Sustainability	5.1 Organizational sustainability	Operational structure to continue the activities, the future position of the project team, implementation team, and coordination team in ICMBio	Interview and questionnaire for C/P and J/E
	5.2 Financial sustainability	Budget allocation, possibility of continuous financial support	Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records)
	5.3 Technical sustainability	The extent of technology transfer to ICMBio officials	Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records)
		Remaining level of the officials of ICMBio trained	Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records)
		Plan for the further training for capacity development in ICMBio as well as local residents in REBACO Ability to maintain the equipment	Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records) Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records)
4 Promoting factors, inhibiting factors to sustainability	Ex. Necessary conditions for the developed trainings/activities on environmental education and sustainable production by the Project to be continuously implemented.	Interview and questionnaire for C/P and J/E Document review (Project records)	

Dispatch of JICA Experts

	Name	Charge
1	Koji Asano	Chief Advisor/Ecosystem Conservation
2	Masayuki Honjo	Institutional Strengthening
3	Shinichiro Tanimoto	Participatory Natural Resource Management/ Institutional Strengthening
4	Manabu Kawaguchi	Participatory Natural Resource Management/ GIS
5	Yukiko Watanabe	Participatory Natural Resource Management
6	Shinichiro Tsuji	Institutional Strengthening

Training of Counterpart Personnel in Japan

	Name	Post, Organization
1	Mr. Allan Crema	Coordinator of Mosaics and Ecological Corridor – ICMBio
2	Mr. Janeil Lustosa de Oliveira	Environmental Analyst, Nascentes do Rio Parnaíba National Park – ICMBio
3	Ms. Ana Carolina Sena Barradas	Environmental Analyst, Serra Geral Ecological Station – ICMBio

Equipment provided by Japanese side

No	Item	Quantity	Specification
1	Vehicles	2	No. Item Quantity Specification Remarks
2	GIS Data Server	1	Data Server PC (Tower Type), LCD Monitor, UPS, Battery, OS and necessary specification.
3	GIS Server Software	1	ESRI ArcGIS Server Basic (Dual Core Type) and necessary specification.
4	Remote Sensing Software	1	ITT ENVI ver.4.7 and necessary specification.-One license.
5	ALOS(PRISM) Satellite Image Data	1 set	JAXA ALOS(PRISM) 2.5m resolution Satellite image data.-Two seasons
6	ALOS(AVNIR-2) Satellite Image Data	1 set	JAXA ALOS(AVNIR-2) 2.5m resolution Satellite image data.-Two seasons

Local Cost born by Japanese and Brazilian Side

Japanese Side (Japanese Fiscal Year)

2010: 21,092,000Yen

2011: 33,131,000Yen (planned)

Brazilian Side (Brazilian Fiscal Year)

2010: 956,800.00 Real

2011: 873,200.00 Real

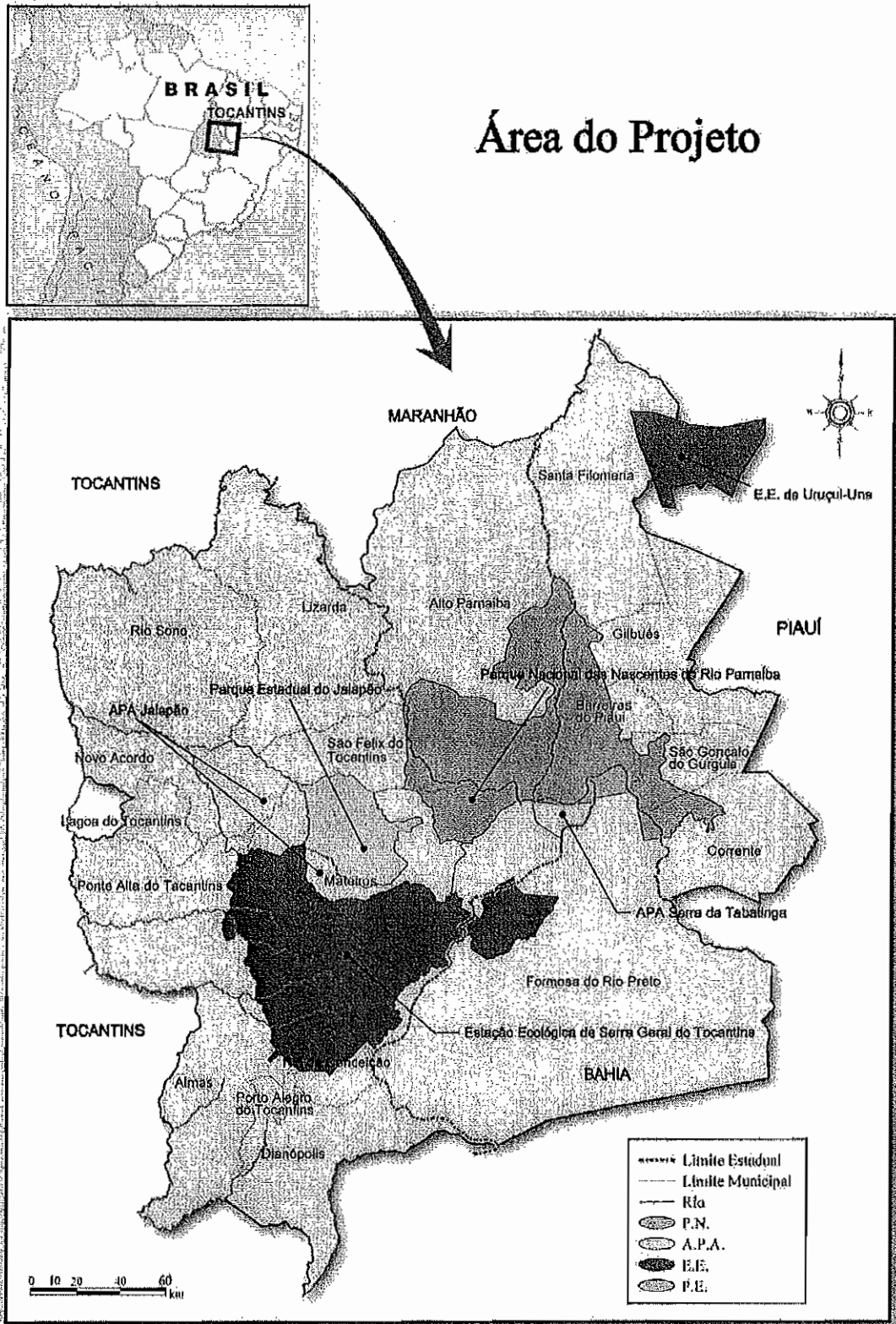
Detail – Approximate Cost:

	Unit : Real	
	2010	2011
Office space – ICMBio HQ	50.000	50.000
Office space - ICMBio EESGT	24.000	24.000
E Office space - ICMBio PNNRP	20.000	20.000
Postal Services	6.800	6.800
Acquisition Vehicles	250.000	
Office maintenance	20.000	20.000
Vehicle maintenance	180.000	180.000
Vehicle Fuel	96.000	96.000
Acquisition of Furniture		30.000
Acquisition of information equipment		40.000
Electricity/water	30.000	30.000
Telephone	15.600	15.600
Internet	14.400	14.400
Secretary	48.000	48.000
Guardman	144.000	144.000
Driver	48.000	48.000
Designer (ASCOM)	10.000	10.000
Creation of EESGT Counsel		50.000
Daily Allowances		32.000
Air Tickets		14.400
	956.800	873.200

List of Brazilian Counterpart Personnel / ICMBio

	Name	Post, Organization
1	Mr. Ricardo Soavinsky/ Project Director	Director of Creation and Management of Conservation Units – ICMBio
2	Mr. Allan Crema / Project Manager	Environmental Analyst, Coordinator of Mosaic and Ecological Corridor - Directorate of Creation and Management of Conservation Units – ICMBio
3	Mr. Aquilas Ferreira Mascarenhas	Environmental Analyst, Chief of Serra Geral Ecological Station – ICMBio
4	Ms. Lilian de Carvalho Lindoso	Environmental Analyst, Serra Geral Ecological Station – ICMBio
5	Ms. Lara Gomes Corte	Environmental Analyst, Serra Geral Ecological Station – ICMBio
6	Ms. Ana Carolina Sena Barradas	Environmental Analyst, Serra Geral Ecological Station – ICMBio
7	Mr. Maximo Menezes	Environmental Analyst, Serra Geral Ecological Station – ICMBio
8	Ms. Cristiana Castro Lima Aguiar	Environmental Analyst, Chief of Nascentes do Rio Parnaíba National Park – ICMBio
9	Mr. Janeil Lustosa de Oliveira	Environmental Analyst, Nascentes do Rio Parnaíba National Park – ICMBio
10	Mr. Mariusz Antoni Szmuchrowski	Environmental Analyst, Coordination of Mosaic and Ecological Corridors – Directorate of Creation and Management of Conservation Units – ICMBio
	<i>Replaced: Ms. Juliana Shiraishi</i>	<i>Environmental Analyst, Coordination of Mosaic and Ecological Corridors - Directorate of Creation and Management of Conservation Units – ICMBio</i>
11	Ms. Karina Forge Diano	Environmental Analyst, Coordination of Mosaic and Ecological Corridors - Directorate of Creation and Management of Conservation Units – ICMBio

Map of Target Area



ITENS A SEREM PERGUNTADOS
SEPARADOS CONFORME O ALVO DAS PERGUNTAS
Avaliação Intermediária do Projeto Corredor Ecológico na Região do Jalapão

1. <Órgão Contraparte> ICMBio – Instituto Chico Mendes de Conservação da Biodiversidade (incluindo a sede, a Estação Ecológica Serra Geral do Tocantins e o Parque Nacional das Nascentes do Rio Parnaíba)

- Instituições Relacionadas do Lado Brasileiro (2 a 4):
2. <Órgãos Federais> Ministério do Meio Ambiente
3. <Órgãos Estaduais> Secretaria de Estado do Meio Ambiente de Tocantins, Instituto Natureza do Tocantins, Parque Estadual (interrogatório no município de Mateiros)

4. <Município (Governo Local)>
(Dentro da Estação Ecológica Serra Geral do Tocantins (área de proteção integral))
 - Prefeitura de Mateiros
 - Prefeitura de Rio da Conceição
 (Na fronteira do Parque Estadual do Jalapão (preservação / proteção do cerrado através de manejo participativo))
 - Prefeitura de São Félix do Tocantins

5. <Peritos da JICA Enviados para o Projeto >

1. <Órgão Contraparte> ICMBio – Instituto Chico Mendes de Conservação da Biodiversidade
A nível de administradores / líderes do Projeto (se possível, entrevista individual)
 - Diretor do Projeto
 - Gerente do Projeto
 - (1) Após a revisão da PDM em maio de 2011 para fazê-la ficar de acordo com a situação atual, a estrutura de implementação do Projeto tem avançado sem percalços? Caso ainda tenha algum problema, favor informar.
 - (2) Com relação à criação da estrutura para se fazer a articulação das instituições relacionadas (Resultado 2), favor falar sobre a situação das atividades até o momento bem como as perspectivas de seu alcance, incluindo as dificuldades previstas.
 - (3) Caso haja alguma dificuldade na promoção das atividades do Projeto dentro do orçamento atualmente disponível, favor explicar.
 - (4) Caso haja alguma dificuldade no tocante à alocação de funcionários (quantidade ou regime, etc.) para a implementação das atividades do Projeto, favor explicar.
 - (5) No tocante à forma de tratamento do GIS, atualmente em análise, caso haja alguma dificuldade para a operação da rede do ICMBio, favor falar a respeito.

- (6) Você acha que o Objetivo do Projeto "A capacidade institucional do ICMBio é fortalecida para introduzir e implementar o Corredor Ecológico na região do Jalapão" será alcançado até abril de 2013? Explique, justificando sua resposta.
- (7) Você acha que os efeitos do Objetivo Superior do Projeto "A conservação do ecossistema na região do Jalapão é intensificada através da implantação do Corredor Ecológico" aparecerão a partir do 3º ano após o término do Projeto? Explique, justificando sua resposta.
- (8) Diga sua opinião com relação à sustentabilidade do Projeto após o seu término, ou seja, sobre os principais pontos para garantir a introdução de um Corredor Ecológico sustentável.

A nível de execução / prática do Projeto (entrevista individual ou em grupo conforme as condições no momento do encontro)

- Chefe do escritório do parque (Estação Ecológica Serra Geral do Tocantins)
- Chefe do escritório do parque (Parque Nacional das Nascentes do Rio Parnaíba)
- Responsável pela organização / compartilhamento das informações (Estação Ecológica Serra Geral do Tocantins)
- Responsável pelo GIS (Estação Ecológica Serra Geral do Tocantins)
- Responsável pelo treinamento dos funcionários (Estação Ecológica Serra Geral do Tocantins, Parque Nacional das Nascentes do Rio Parnaíba, sede do ICMBio)
- Responsável pela articulação com a comunidade local (Estação Ecológica Serra Geral do Tocantins, Parque Nacional das Nascentes do Rio Parnaíba)

- (1) Favor indicar a parte que lhe cabe dentre os 5 Resultados bem como dos componentes para que esse resultado seja alcançado:

NOME DO RESULTADO	NOME DO COMPONENTE PARA QUE CADA RESULTADO SEJA ALCANÇADO	PARTE QUE LHE CABE
Resultado 1 Organização e compartilhamento de informações pertinentes	1. Criação / compartilhamento do banco de dados do GIS	
	2. Elaboração da homepage do Projeto	
	3. Elaboração do meio de transmissão das informações	
Resultado 2 Criação de uma estrutura para a articulação das instituições relacionadas	4. Elaboração / acordo do Termo de Reciprocidade	
	5. Realização de reuniões de coordenação	
	6. Elaboração do plano de ação de curto prazo	

Resultado 3 Aperfeiçoamento da capacidade dos funcionários do ICMBio e instituições relacionadas	7. Realização de treinamentos de curto prazo diretamente ligado às atividades	
	8. Intercâmbio técnico com projetos similares dentro do Brasil	
Resultado 4 Promoção da participação da população local nas atividades de conservação	9. Fortalecimento da capacidade de manejo ambiental do governo local (lei ambiental, conselho ambiental)	
	10. Formação de líderes de educação ambiental	
	11. Criação de um conselho de estações ecológicas	
Resultado 5 Elaboração do plano estratégico	12. Elaboração do plano estratégico	
	13. Elaboração das diretrizes operacionais	

(2) No tocante ao nível de progresso das atividades para o alcance dos resultados acima (sob sua responsabilidade), considerando como 100% o total executado até o final do projeto, qual a percentagem que você acha que já foi executada até o momento?

(3) Caso haja um atraso expressivo com relação ao planejado, favor explicar as razões concretas. (As atividades ainda não iniciadas, previstas originalmente para a 2ª. metade do período, não são consideradas como estando em atraso.)

(4) Os efeitos do alcance desses resultados já podem ser vistos no presente momento (momento da Avaliação Intermediária)? Você acha que os resultados serão alcançados até o final do Projeto?

(5) Dentre as atividades a seu encargo, qual a percentagem (em termos de divisão de horário) ocupada pelas atividades respondidas na questão acima (atividades do Projeto)?

(6) Há alguma dificuldade em conciliar essas atividades?

(7) Além da divisão de horário, caso haja qualquer dificuldade no desempenho das atividades sob a sua responsabilidade, favor falar a respeito.

- Principalmente aos funcionários que participaram de treinamentos no Japão

(1) Que aspectos em concreto tiveram utilidade para as atividades posteriores (relacionadas com a introdução do Corredor Ecológico)?

2. <Órgãos Federais> Ministério do Meio Ambiente

(1) Você acha que os efeitos do Objetivo Superior do Projeto "A conservação do ecossistema na região do Jalapão é intensificada através da implantação do Corredor Ecológico" aparecerão a partir do 3º ano após o término do Projeto? Explique, justificando sua resposta.

- (2) O que você acha que é necessário para garantir a sustentabilidade do Projeto após o seu término, ou seja, para garantir a introdução de um Corredor Ecológico sustentável?
- (3) Por favor fale sobre a posição ocupada pelo Projeto dentro do Brasil como um todo, sob o ponto de vista da preservação do ecossistema.
- (4) Sob o ponto de vista de promover a introdução do Corredor Ecológico na região do Jalapão, caso haja qualquer capital com possibilidade de ser alocado, favor falar a respeito.

3. <Órgãos Estaduais> Interrogatório na Secretaria de Estado do Meio Ambiente de Tocantins, Instituto Natureza do Tocantins, Parque Estadual do Jalapão (no município de Mateiros)

- (1) Existe alguma dificuldade na articulação entre o Estado e o Município (governo local) na execução das atividades do presente Projeto?
- (2) Existe alguma dificuldade na articulação entre os governos estadual e federal na execução das atividades do presente Projeto?
- (3) Favor explicar sobre o programa de educação ambiental do seu Estado relacionado com o presente Projeto.
- (4) Você acha que os efeitos do Objetivo Superior do Projeto "A conservação do ecossistema na região do Jalapão é intensificada através da implantação do Corredor Ecológico" aparecerão a partir do 3º ano (2016) após o término do Projeto? Explique, justificando sua resposta.
- (5) Caso haja qualquer plano futuro no seu Estado com relação à introdução / promoção do Corredor Ecológico após o término do Projeto, favor falar a respeito.

4. <Município (Governo Local)>

Funcionários ou professores do governo municipal que participaram do treinamento, etc.

- Prefeitura de Mateiros
- Prefeitura de Rio da Conceição
- Prefeitura de São Félix do Tocantins

- (1) Atualmente funcionários e professores do governo local e líderes comunitários representando entidades locais estão participando de treinamentos da população pelo presente Projeto. Do seu município, quantas pessoas aproximadamente estão participando? Ainda com relação a essa situação de participação, caso haja algum fator que obste a participação ou alguma

resposta por parte dos participantes, favor falar a respeito.

- (2) Existe alguma dificuldade na articulação com o Estado na execução das atividades do presente Projeto?
- (3) Caso haja qualquer plano futuro no seu Município (Escola, Entidade) com relação à introdução / promoção do Corredor Ecológico após o término do Projeto, favor falar a respeito.

5. <Peritos Enviados pela JICA>

Será feita entrevista individual sobre conteúdo conforme a Grade de Avaliação.

Joint Terminal Evaluation Report
For
The Jalapão Region Ecological Corridor Project

October 31st, 2012
Joint Terminal Evaluation Team

For Japanese Terminal Evaluation Team




Mr. Ichiro Sato
Senior Representative
Japan International Cooperation Agency (JICA)
Brazil Office

For Brazilian Terminal Evaluation Team



Mr. Frederico Dimas de Paiva
Project Analyst
General Coordination of Bilateral Technical
Cooperation,
Brazilian Cooperation Agency (ABC),
Ministry of External Relations,
Federative Republic of Brazil



Mr. Fernando Antonio Rodrigues Lima
Specialist Technician
Department of Protected Areas
Ministry of Environment
Federative Republic of Brazil

Abbreviation

ABC	<i>Agência Brasileira de Cooperação</i> (Brazilian Cooperation Agency)
ALOS	Advanced Land Observing Satellite
APA	<i>Área de Proteção Ambiental</i> (Environmental Protection Area)
ASAS	<i>Agentes de Sensibilização Ambiental</i> (Agents of Environmental Awareness Raising)
BMU	<i>Bundesministerium für Umwelt, Naturschutz und Reaktorsicherheit</i> (The Federal Ministry for the Environment, Nature Conservation and Nuclear Safety of Germany)
CAOMA	<i>Centro de Apoio Operacional do Meio Ambiente</i> (Center for Operational Support for the Environment)
CEIT	<i>Centro de Exposição e Informação Turística</i> (Center for Exposition and Touristic Information)
CERJ	<i>O Projeto Corredor Ecológico da Região do Jalapão</i> (the Jalapão Region Ecological Corridor Project)
CEULP	<i>Centro Universitário Luterano de Palmas</i> (Lutheran University Center of Palmas)
CGCAP	<i>Coordenação Geral de Criação, Planejamento e Avaliação de Unidades de Conservação</i> (General Coordination of Creation, Planning and Evaluation of Conservation Units)
COEMA	<i>Conselho Estadual de Meio Ambiente</i> (State Council for the Environment)
COMATUR	<i>Conselho Municipal de Meio Ambiente e Turismo</i> (Municipal Council for the Environment and Tourism)
COMTURMA	<i>Conselho Municipal de Turismo e Meio Ambiente</i> (Municipal Council for Tourism and the Environment)
DIMAN	<i>Diretoria de Criação e Manejo de Unidades de Conservação</i> (Directorate of Creation and Management of Protected Areas, ICMBio)
DMOC	<i>Divisão de Mosaicos e Corredores</i> (Mosaic and Ecological Corridor Division, ICMBio)
EE	<i>Estação Ecológica</i> (Ecological Station)
EESGT	<i>Estação Ecológica da Serra Geral do Tocantins</i> (Serra Geral of Tocantins Ecological Station)
GEF	Global Environment Facility
GIS/GPS	Geographic Information System / Global Positioning System
GIZ	<i>Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit GmbH</i> (German Agency for International Cooperation)
IBAMA	<i>Instituto Brasileiro do Meio Ambiente e dos Recursos Naturais Renováveis</i> (Brazilian Institute of Environment and Renewable Natural Resources)
ICMBio	<i>Instituto Chico Mendes de Conservação da Biodiversidade</i> (Chico Mendes Institute for Biodiversity Conservation)
ICMS	<i>Imposto sobre a Circulação de Mercadorias e Serviços</i> (Merchandise and Service Circulation Tax)
INCRA	<i>Instituto Nacional de Colonização e Reforma Agrária</i> (National Institute of Colonization and Agrarian Reform)
INEMA	<i>Instituto do Meio Ambiente e Recursos Hídricos da Bahia</i> (Institute for the Environment and Water Resources of Bahia)
JAXA	Japan Aerospace Exploration Agency
JCC	Joint Coordinating Committee
JET	Japanese Expert Team
JICA	Japan International Cooperation Agency
JREC	Jalapão Region Ecological Corridor
LULUCF	Land Use, Land-Use Change and Forestry
NATURATINS	<i>Instituto Natureza do Tocantins</i> (Nature Institute of Tocantins)
M/M	Minutes of Meeting

MMA	<i>Ministério do Meio Ambiente (Ministry of Environment)</i>
MONA	<i>Monumento Natural Municipal</i>
OECD-DAC	<i>Organization for Economic Co-operation and Development – Development Assistance Committee</i>
PDM	<i>Project Design Matrix</i>
PEGAM	<i>Programa Estadual de Gestão Ambiental Municipal (State Program for Municipal Environmental Management)</i>
PEJ	<i>Parque Estadual do Jalapão (State Park of Jalapão)</i>
PN	<i>Parque Nacional (National Park)</i>
PNNRP	<i>Parque Nacional das Nascentes do Rio Parnaíba (Nascentes do Rio Parnaíba National Park)</i>
PO	<i>Plan of Operation</i>
R/D	<i>Record of Discussion</i>
RPPN	<i>Reserva Particular do Patrimônio Natural (Private Reserve of Natural Heritage)</i>
SEMA	<i>Secretaria de Meio Ambiente do Estado da Bahia (Bahia State Government Environmental Secretariat)</i>
SEMADES	<i>Secretaria de Meio Ambiente e Desenvolvimento Sustentável do Estado do Tocantins (Secretariat of Environment and Sustainable Development of the State of Tocantins)</i>
SEPLAN	<i>Secretaria do Planejamento e Modernização da Gestão Pública do Estado do Tocantins (Secretariat of Planning and Public Management Modernization of the State of Tocantins)</i>
SMUC	<i>Sistema Municipal de Unidades de Conservação (Municipal System of Conservation Units)</i>
SNUC	<i>Sistema Nacional de Unidades de Conservação (National System of Conservation Units)</i>
ULBRA	<i>Universidade Luterana do Brasil (Lutheran University of Brazil)</i>

Table of Contents

Chapter 1: Outline of the Terminal Evaluation

- 1.1 Background
- 1.2 Objectives of the Terminal Evaluation
- 1.3 Members of the Evaluation Team
- 1.4 Schedule of the Mission
- 1.5 Outline of the Project
- 1.6 Methodology of the Terminal Evaluation

Chapter 2: Achievements of the Project

- 2.1 Results of Inputs
- 2.2 Project Progress
- 2.3 Progress Towards the Project Purpose
- 2.4 Prospect of Achieving the Overall Goal
- 2.5 Implementation Process

Chapter 3: Review by the Five Criteria

- 3.1 Relevance
- 3.2 Effectiveness
- 3.3 Efficiency
- 3.4 Impact
- 3.5 Sustainability

Chapter 4: Results of Terminal Evaluation

- 4.1 Conclusion
- 4.2 Recommendations
- 4.3 Lessons Learned

Annex

- A.1 PDM (Ver 2)
- A.2 PO
- A.3 Schedule of Evaluation Mission
- A.4 List of Interviewees
- A.5 List of Japanese Experts
- A.6 List of Trainings in Japan
- A.7 List of Equipment Provided
- A.8 List of Counterpart Personnel
- A.9 Local Costs
- A.10 Result Grid 1 (Achievements based on the Indicators)
- A.11 Result Grid 2 (Project Progress at Activity Level)



Chapter 1: Outlines of the Terminal Evaluation

1.1 Background

The Cerrado, situated in the Midwestern part of Brazil, is a vast tropical savannah and significantly rich in biodiversity. It is one of the most seriously threatened areas in terms of the loss of biodiversity. The Jalapão region is located in Cerrado, being the source of major rivers such as Parnaíba River, San Francisco River, and Tocantins River. Human activities, however, such as soybean cultivation, livestock farming, harvesting of wild animals and plants are putting pressure on natural ecosystems in the region.

Under such background, the federal Government of Brazil (GOB) designated three conservation units including the Serra Geral do Tocantins Ecological Station and the Nascentes do Rio Parnaíba National Park in order to protect the nature in the Jalapão region. By connecting these conservation units by the ecological corridor and manage these units in a coordinated manner, the effectiveness of conservation can be maximized. As such, it is important to coordinate related governmental organizations at the federal, state and municipal level, NGOs and citizen groups. There was, however, a lack of coordination and integration among those related organizations.

To address such issues, the GOB requested a technical cooperation project of the Government of Japan (GOJ) for ICMBio to strengthen its capacity and to assume the coordination role towards the establishment of regional conservation mechanism in Jalapão. In response to the request, JICA and ICMBio started the three-year Jalapão Region Ecological Corridor Project (hereinafter referred to as "the Project") in April 2010.

The terminal evaluation is required six months before the Project comes to an end in April 2013.

1.2 Objectives of the Terminal Evaluation

The objectives of the Terminal Evaluation are to:

- 1) confirm the actual inputs and activities, implementation process, the degree of the achievements of the outputs, and the prospects of achieving the project purpose and overall goal according to the Project Design Matrix (PDM);
- 2) assess the Project from the five evaluation criteria - Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact, and Sustainability – based on the JICA's guideline for project evaluation; and
- 3) make recommendations on the measures to be taken during and beyond the remaining project period in consultation with agencies concerned, and draw lessons learned for similar technical cooperation projects in future.

1.3 Members of the Evaluation Team

The members of Terminal Evaluation Team are as follows:

(Brazilian side)

Name	Position	organization
Mr. Fernando Antônio Rodrigues Lima	Project Evaluation	Specialist Technician, Department of Protected Area, Ministry of Environment
Mr. Frederico Dimas de Paiva	Project Evaluation	Project Analyst, Coordination of Received Bilateral Cooperation, Brazilian Cooperation Agency (ABC)

(Japanese side)

Name	Position	Organization
Mr. Ichiro SATO	Japanese Team Leader	Senior Representative, JICA Brazil Office
Mr. Kazuaki KOMAZAWA	Project Evaluation	Project Coordinator, JICA Brazil Office
Mr. Hiroyuki OKUDA	Analysis & Evaluation	Tekizaitekisho LLC
Ms. Ilze Maeda	Interpreter	

1.4 Schedule of the Mission

The Schedule of the mission is attached as Annex-3.

1.5 Outline of the Project

According to the PDM Ver 2 approved in the JCC meeting held in 5 May, 2011, the outline of the project is as follows (Annex 1 and 2);

(Overall Goal)

The ecosystem conservation in the Jalapão region is enhanced through the introduction of the Ecological Corridor.

(Project Purpose)

The institutional capacity of ICMBio is strengthened to introduce and implement Ecological Corridor in the Jalapão region.

(Output)

1. Information necessary for JREC management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and organized.
2. Institutional arrangements for the JREC management are structured.
3. Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted.
4. The linkage between local populations and institutions concerned with JREC conservation is strengthened.
5. The strategic plan/guideline for introducing and managing JREC is developed.

(Project Area)

Jalapão Region, i.e. connecting area between the Serra Geral do Tocantins Ecological Station and the Nascentes do Rio Parnaíba National Park

1.6 Methodology of the Terminal Evaluation

The Terminal Evaluation is carried out in accordance with “the JICA New Guideline for Project Evaluation, Ver. 1 (June 2010)”, which mainly follows “the Principles for Evaluation of Development Assistance, 1991” issued by OECD-DAC. The Project Design Matrix Version 2 which was confirmed on 5 May 2011 at JCC meeting is used as the basic reference point for the review.

As a framework to collect relevant data and information as prescribed in the JICA guideline, two types of grid – Result Grid and Evaluation Grid – were prepared in reference to reports and documents on the Project. Japanese Expert Team was asked to fill out the Result Grid and Evaluation Grid, and Brazilian counterparts to fill out the questionnaire developed according to the Evaluation Grid. During the stay, the mission team interviewed those who have been involved in the Project (federal/state counterparts and people of target municipalities) and collected information. (Annex 3 and Annex 4).

Findings and information from reports, interviews, questionnaire survey and site visits were collected and analyzed in the grids. The Team confirmed the achievements, assessed the Project based on the five criteria, made recommendations, and drew lessons learned.

The criteria used for the evaluation are the following five criteria: relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability.

Relevance	Relevance is reviewed by the validity of the Project Purpose and Overall Goal in light of Brazil's development policies and needs as well as the Japanese cooperation policy.
Effectiveness	Effectiveness is assessed to what extent the Project has achieved its Project Purpose, clarifying the relationship between the Project Purpose and Outputs.
Efficiency	Efficiency is analyzed with emphasis on the relationship between Outputs and Inputs in terms of timing, quality, and quantity.
Impact	Impact is assessed in terms of positive/negative and intended/unintended influence caused by the Project.
Sustainability	Prospect of sustainability is analyzed from institutional, financial, technical, and human resource viewpoints by examining the extent to which the achievements of the Project will be sustained after the Project is completed.

Chapter 2: Achievements of the Project

2.1 Results of Inputs

(Japanese side)

1) Dispatch of Expert

Following the signing of R/D on 20 November 2009, the project started with the three experts dispatched in April 2010. Including the three, total seven experts were dispatched, totaling 1,573 days over the three years (including the dispatch planned in 2012). The Project also has hired local staff and consultants, who have significantly facilitated the Project implementation. (Annex 5)

2) Trainings in Japan

Three counterparts from ICMBio, including the Project Manager, participated in a training course in Japan in June 2011. Another training course in Japan is planned in November 2012 for three ICMBio counterparts. (Annex 6)

3) Provision of equipment

Equipment provided was procured by the JICA Brazil Office, including the two vehicles. GIS Data Server necessary for the Output 1 was initially set up in DMOC – ICMBio, but later moved to SEPLAN of Tocantins, together with the Web-GIS system (software) for the Jalapão region, in June 2012. (Annex 7)

4) Local Cost

Japanese side has provided a part of necessary local expenses to carry out project activities. The expenses include local employment, totaling 77,191,000 Japanese Yen over the 3 years (the costs of the 3rd year is still an estimated cost). (Annex 9)

(Brazilian side)

1) Assignment of counterpart

Counterpart of the Project is staff of ICMBio (Federal Government) from its HQ (Brasilia) as well as its EESGT office (Rio da Conceição) and PNNRP office (Corrente), totaling 10 staff members at the time of terminal evaluation. Staff from the State of Tocantins (SEMADES, NATURATINS, and SEPLAN) and the State of Bahia (INEMA) is also engaged in the Project as the State counterparts. (Annex 8)

2) Project Cost

ICMBio and State counterpart organizations (SEMADES, NATURATINS, SEPLAN and INEMA) have provided a part of local costs that include vehicle fuel and maintenance, hiring labors, travel expenses and other miscellaneous. The amount spent for the three years by ICMBio is 2,723,000 Brazilian Real (the costs of the 3rd year is still an estimated cost). (Annex 9)

2.2 Project Progress

Achievements and progress of the Project are examined in detail in the Result Grid 1 - Achievements based on the Indicators (Annex 10), and the Result Grid 2 – Project Progress at Activity Level (Annex 11).

1) Output 1

• The Web-GIS system developed by the Project for the Jalapão region was originally planned to be installed to ICMBio's computer network. However, ICMBio has been developing a new Web-GIS system for all conservation units under the management of ICMBio, and it was considered inefficient to have 2 independent Web-GIS systems in parallel. Therefore, it was decided after the discussions between JET and ICMBio that the data contents of the Web-GIS developed by the Project were transferred to the Web-GIS developed by ICMBio. In addition, it was also decided that the Web-GIS system developed by the Project, including all the data contents, was transferred to the Tocantins State Government for its effective utilization for the conservation and management of the Jalapão region. The Web-GIS system for the Jalapão region has been set up at <http://corredorjalapao.seplan.to.gov.br/jalapao/> in SEPLAN network. At present, SEPLAN's homepage is being modified to become the portal to the Web-GIS. An official inauguration ceremony of the Web-GIS is scheduled on 9 November 2012 in Palmas. (Indicator 1.1)

- The project homepage was created at <http://www.icmbio.gov.br/projetojalapao/> in ICMBio website and has been constantly updated (far more frequently than 4 times a year) with the addition of new information, news-release and publications/maps for downloads. (Indicator 1.2)
- Many kinds and types of information/promotion materials were developed and distributed, e.g. project brochures, ATLAS of Jalapão, banners for municipalities, panels for CEIT (Mateiros) and São Félix, an environmental education book, and an educational video. (Indicator 1.3 and 1.4)
- There are four indicators set for Output 1 and the Project has achieved all the indicators.
- Remaining activities to be undertaken include 1) revision of ATLAS of Jalapão, and 2) finalization of the data upload and official launching of the Web-GIS in the SEPLAN's homepage for public access.

2) Output 2

- The Reciprocity Term No.06/2011 on the introduction and implementation of Jalapão Ecological Corridor was signed on 29 September 2011 by the President of ICMBio, the Secretary of MMA, the Secretary of SEMADES, the President of NATURATINS, the Secretary of SEPLAN and the Governor of the State of Tocantins. (Indicator 2.1)
- Based on the Reciprocity Term, Coordination Committee has gathered 4 times from November 2011 through August 2012. (Indicator 2.2)
- There are two indicators set for Output 2, and the Project has already achieved these two indicators as of the terminal evaluation.
- Furthermore, the Project has advanced to the creation of the "Jalapão Mosaic"¹ - agreement on the Mosaic participation was signed by the authorities of nine protected areas (federal, state, municipal, and private protected areas) in the Jalapão region by August 2012, and a proposal to establish the "Jalapão Mosaic" was submitted to MMA in September 2012 for its recognition by a ministerial ordinance.
- Additional activities towards the achievement of the Overall Goal include 1) follow-up towards the official recognition of the "Jalapão Mosaic" by MMA, 2) follow-up towards the signature of the reciprocity term between ICMBio and Bahia State, and 3) promotion of the establishment of the Jalapão Mosaic Council and capacity development of its members on the implementation of the Strategic Plan².

3) Output 3

- Trainings for counterparts have been conducted on such areas as GPS/GIS, RPPN, prevention/control of forest fire, participatory biodiversity conservation and MONA, totaling 20 times as of the terminal evaluation, including the training in Japan. (Indicator 3.1)
- Four seminars open to the public were held. (Indicator 3.2)

¹ As a result of the clarifications of the concepts and definitions of "ecological corridor" and "mosaic" through the implementation of the Project and considering the definitions of terminology used in Brazil, it was determined that the concept of the term "JREC" in the PDM should be described as "Jalapão Mosaic", which is a mechanism of integrated and participatory management of protected areas. Therefore, the term, "Jalapão Mosaic", is used in this document in the same meaning as the term, "JREC".

² Strategic Plan is a document defined by Chapter III of the Decree No. 4.340 of 22 August 2002 that regulates SNUC (federal law of No. 9985 of 18 July 2000) and sets the guidelines/actions to harmonize, integrate and optimize the management of the "mosaic" of protected areas.

- There are two indicators set for Output 3, and the Project has already achieved these two indicators as of the terminal evaluation.
- Remaining activities to be undertaken include 1) training in Japan scheduled to November 2012, 2) technical transfer on the operation and maintenance of the Web-GIS for SEPLAN staff, 3) two counterpart meetings in November 2012 and March 2013, and 4) project final seminar in March 2013.

4) Output 4

- The municipal council for the environment and tourism has been constituted and begun operation in Ponte Alta, Rio da Conceição, São Félix and Mateiros along with the creation of the necessary legislation (COMTURMA in São Félix and COMATUR in others). The Project assisted in the definition of the membership composition and its functioning statutes. (Indicator 4.2)
- Training programs have been carried out in 2011 for the capacity development of the COMATUR/COMTURMA on planning/implementation (through the development of model projects), organizational management, and financial management (especially, regarding the utilization of ICMS Ecológico³). Also, training of school teachers about environmental education (ASAS) has been carried out in Rio da Conceição and Mateiros (2011) and in São Félix and Ponte Alta (2012) in cooperation with CEULP/ULBRA. (Indicator 4.1)
- There are two indicators set for Output 4, and the Project has already achieved these two indicators as of the terminal evaluation.
- Commitment Terms on the use of ICMS Ecológico were officially signed by mayors and representatives of COMATUR/COMTURMA at four municipalities in October 2012.
- The municipal Natural Monument was established along Soninho River on 2 July 2012 by the signing by the mayor of São Félix of the municipal decree No 034/2012 based on the SMUC.
- Furthermore, the Council of EESGT was officially registered (approved) by ICMBio's institutional ordinance No. 45/2012 in April 2012.
- Remaining activities to be undertaken include 1) completion of the management plan of the municipal protected area (MONA) in São Félix, 2) finalization of the elaboration of São Félix cartographic data to be used for maintaining the ecological connectivity among protected areas, and 3) support to the state government of Tocantins on the revision of the technical orientation manual of ICMS Ecológico.

5) Output 5

- Regarding the development of the Strategic Plan for the "Jalapão Mosaic", Part I (diagnosis and justification) and Part II (action plan) were already finalized, whereas finalizing of Part III (operational guidelines) will be completed by December 2012 after building a consensus through the workshop to be held on 12-14 November 2012 in Brasília. (Indicator 5.1)
- There is one indicator set for Output 5, and the Project has almost achieved the indicator.

³ ICMS Ecológico is a revenue sharing scheme, designed to promote the conservation and management of protected areas. The financial source of this scheme is a state tax, ICMS (Merchandise and Service Circulation Tax).

- Remaining activities to be undertaken include 1) the workshop in November to finalize the Part III of the Strategic Plan, and 2) the final approval of the Strategic Plan by ICMBio and partners (i.e. Naturatins and INEMA) for publication.

2.3 Progress towards the Project Purpose

- The Strategic Plan for “Jalapão Mosaic” is currently under finalizing process, thus the consensus is being built. (Project Purpose Indicator 1)
- The biodiversity conservation mechanism, which was defined by the Project to consist of the integration/cooperation framework among federal and state institutions (Output 2 and 3), directions of conservation efforts to be shared among concerned actors (Output 1, 3 and 5), and instruments which enable communities to participate in conservation (Output 3 and 4), has been developed. (Project Purpose Indicator 2)
- There are two indicators set for the Project Purpose, and the Project has almost achieved the 1st indicator, and has achieved the 2nd indicator as of the terminal evaluation.

2.4 Prospect of achieving the Overall Goal

- The Strategic Plan for the “Jalapão Mosaic” is still under development and its implementation will start once the Council of the “Jalapão Mosaic” is established and the Strategic Plan is approved.
- The mechanism to promote biodiversity conservation established by the Project is expected to contribute to the enhancement of the ecosystem conservation of the Jalapão region.

2.5 Implementation Process

- The Jalapão region covers 16 municipalities in four states (Tocantins, Bahia, Maranhão and Piauí), and the project activities range over the Brasília (ICMBio HQ), Palmas (State Government of Tocantins – SEMADES, NATURATINS, SEPLAN), São Félix (target municipality), Mateiros (target municipality and PEJ), Rio da Conceição (target municipality and EESGT), Ponte Alta (target municipality) and PNNRP. The Japanese expert team is based in Brasília at ICMBio’s HQ and EESGT office. The team also has hired local staff and local consultants to effectively cover these areas and activities.

Chapter 3

3.1 Relevance

The relevance of the Project is high.

- 1) The policy importance of conserving the Cerrado, in particular the Jalapão region, remains unchanged for MMA and ICMBio since the beginning of the Project. MMA gives a priority to the Cerrado conservation, which is promoted by such policies as “Sustainable Cerrado Program” established in Nov 2005, and “the Action Plan for Prevention and Control of Deforestation and Fires in Cerrado” established in Sep 2010. The MMA intends to incorporate the example

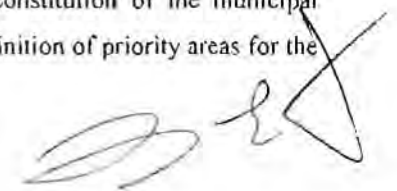
of the "Jalapão Mosaic" into "the Action Plan for Prevention and Control of Deforestation and Fires in Cerrado" when it is revised. The Jalapão region continues to be one of the priority conservation areas of ICMBio and MMA. Therefore, the Project is aligned with the related Brazilian policies.

- 2) Both ICMBio and state organizations related to Jalapão region recognize the need for establishing an effective mechanism to facilitate concerted efforts to conserve the Jalapão region among all the conservation units in the region. The Project meets such demands through the establishment of the mechanism to promote biodiversity conservation including the "Jalapão Mosaic". Moreover, the interviews with stakeholders in 4 municipalities during the evaluation study revealed the fact that the tourism, taking advantage of the rich natural heritage, was the primary economic activity in the region and, therefore, the municipalities were motivated to conserve nature and subsequently promote tourism. The Project meets such local demands by promoting eco-tourism and building the local capacity to conserve their valuable natural heritage. Therefore, the Project fulfills the development needs of the stakeholders at the federal, state and municipal level.
- 3) Japan's ODA Rolling Plan for Brazil dated June 2011 gives a priority to the environmental conservation, recognizing the fact that Brazil's valuable flora & fauna, including those in the Cerrado, are threatened by development activities. Also, LULUCF accounts for three quarters of Brazil's greenhouse gas emission, and hence forest preservation is important in terms of fighting climate change as well. As such, in the Rolling Plan, the Project is included in the Climate Change Program under the priority area of environmental conservation. Therefore, the Project is relevant in terms of the Japanese ODA policies for Brazil.

3.2 Effectiveness

The effectiveness of the Project is high.

- 1) The Project has already delivered most of its Outputs as summarized in the "2.2 Project Progress" above. These Outputs are essential components for the mechanism to promote Jalapão's biodiversity conservation and the Project is designed effectively to achieve its Purpose by delivering these Outputs. This means the Project has achieved the Project Purpose Indicator 2.
- 2) On the other hand, according to the Project Purpose Indicator 1, the current status is that the Project has not completely achieved it, yet. At present, the proposal to create "Jalapão Mosaic" is expected to be recognized by MMA as early as December 2012, and once recognized, it is required to establish and capacitate the Council and to approve and start implementation of the Strategic Plan. The Strategic Plan is scheduled to be finalized by December 2012 after consensus building. The official approval of the Strategic Plan by ICMBio, and State Governments of Tocantins and Bahia may be done after the project cooperation period, and the Plan is likely to be agreed by the Mosaic Council, considering the fact that the Strategic Plan is being drafted with a participatory way, integrating the views of the expected members of the Mosaic Council and other stakeholders. As such, the Project is expected to achieve the Project Purpose Indicator 1 and, thus, attain the Project Purpose by the end of project period.
- 3) It is emphasized by ICMBio that all the results of the Project are of great value to the management of conservation of the Jalapão region; 1) generation of information and data necessary for the ecosystem conservation, 2) creation of Jalapão Mosaic strengthening the integrated management among protected areas and institutions, 3) training of the personnel from ICMBio and other institutions for the ecosystem conservation, 4) constitution of the municipal environmental councils, 5) creation of a program for environmental education, and 6) definition of priority areas for the ecological sustainability of the Jalapão region.



3.3 Efficiency

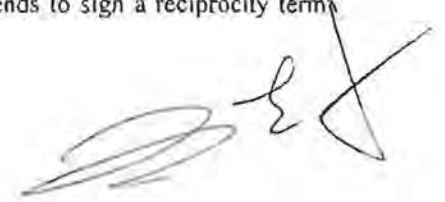
The efficiency of the Project is high.

- 1) The initial PDM was revised on 5 May 2011. Activities have since been implemented according to the revised PDM and PO, and there has since been no notable delay of the implementation. The PDM is fully understood by the counterparts, and even recognized as a good tool to plan and monitor a project. As such, action plans in the Strategic Plan is framed using PDM format.
- 2) Inputs from Japanese side – expert team, provision of equipment, and training in Japan, are properly used for project activities and are highly appreciated by the Brazilian side. Portuguese speaking Japanese experts have certainly contributed to a better communication with Brazilian counterparts and, in particular, with local stakeholders. This contributed to high efficiency of the Project implementation.
- 3) The periodical and daily communication between the Japanese experts and counterparts are very good; four JCC meetings were held to date and there have been many periodical counterpart meetings held about every four months. Japanese experts, by the frequent visits to Palmas, have ensured the coordination and cooperation between ICMBio and the state counterparts in project implementation, which is recognized by ICMBio as a significant promoting factor for smooth and effective project execution.

3.4 Impact

The impact of the Project is high.

- 1) It is widely indicated that the establishment and continuation of the conservation mechanism developed by the Project, including the “Jalapão Mosaic”, will lead to the enhanced ecosystem conservation in the Jalapão region, thus having a good potential to achieve the Overall Goal within 3-5 years after the Project comes to an end. MMA indicates that the participation of Bahia State in the “Jalapão Mosaic” is very important as the Bahia side of Jalapão is more severely threatened by agricultural development. Once the “Jalapão Mosaic” is officially established and its operation begins, the prospect to achieve the Overall Goal will become higher.
- 2) It is, however, widely indicated by the counterparts that the current project cooperation period is not sufficient to consolidate the operational capacity of the “Jalapão Mosaic”. The current cooperation period will not allow the Project to capacitate the Mosaic Council members to become capable of implementing the Strategic Plan, and undertake some actions in accordance with the Strategic Plan, which provides feedback for improvement of the mechanism and the Strategic Plan of “Jalapão Mosaic”. One of the priority actions is to support the local negotiations towards the creation of a new strictly protected area in Bahia State to consolidate the connectivity of Jalapão ecosystem. Thus, many counterparts indicated the necessity of the extension of the cooperation period.
- 3) There are some effects produced outside of PDM activities. For example, with the initiative of EESGT/ICMBio and CEULP/ULBRA, a memorandum of three-year cooperation to promote environmental education was signed in April 2011 between the two entities. Activities of ASAS have been significantly benefited by the input from CEULP which is based on this memorandum. Furthermore, the secretariat of education of Tocantins announced that ASAS would be replicated in all the municipalities of the state. Another example is that ICMBio intends to sign a reciprocity term with the State of Bahia to implement the Strategic Plan.



- 4) Towards achieving the Overall Goal, it is important to seek cooperation and collaboration with related initiative/projects conducted by multi/bi-lateral development partners. "Prevention, control and monitoring of forest fires and illegal burning in the Cerrado" is being implemented by BMU/GIZ/KfW in the Jalapão region from 2012 to 2015. Its activities include the improvement of the protected area management, reduction of forest fires, and development of technology for automatic quantification of burned areas. To ensure the sustainability of some outputs/activities of the Project, ICMBio has decided to utilize the technical cooperation with the BMU/GIZ/KfW project.
- 5) MMA is promoting the establishment of "mosaics" for biodiversity conservation, and regarding the proposal for creating the "Jalapão Mosaic" as a good model example that can be applied for other 13 existing mosaics as well as new mosaics to be established in the future in the country.

3.5 Sustainability

The prospect of sustainability of the Project is medium at present.

- 1) From institutional viewpoint, the prospect of sustainability is high, for the integrated conservation mechanism established by the Project is based on legislation and formal agreements between related organizations: namely, the Reciprocity Term No 06/2011 for Jalapão Ecological Corridor management, municipal decrees on the appointment of COMATUR/COMTURMA members and on the statute of the councils, municipal decree No 034/2012 for the creation of MONA in São Félix, and the ICMBio's institutional ordinance No 45/2012 to register the Council of EESGT. In the four municipalities, the Commitment Term on ICMS Ecológico was also signed between the mayor and the COMATUR/COMTURMA, which made it possible for the COMATUR/COMTURMA to determine the uses of a certain percentage of the ICMS Ecológico. This gives significant motivation and incentives for the continuation of COMATUR/COMTURMA. Most importantly for the sustainability of the Project, the official establishment of "Jalapão Mosaic" is expected by the end of the Project.
- 2) From technical viewpoint, the prospect of sustainability varies by Outputs. The information systems for the management of the Jalapão region (Output 1) and the developed capacity of the ICMBio and state counterparts (Output 3) are most likely to be sustained, but the development of technical management capacity of the "Jalapão Mosaic" to implement the Strategic Plan (Output 2 and 5) may require more time for training, and actual operational practices and experiences to ensure its sustainability. At the four municipalities, trainings for COMATUR/COMTURMA on activity planning/implementation, and organizational and financial management have been intensively conducted by the Project in 2011. The Project has completed these trainings with the Project Conclusion Seminar on 26 October 2012 (Output 4). However, COMATUR/COMTURMA also require more time for training, and actual operational practices and experiences to ensure its sustainability.
- 3) From the human resource point of view, there are concerns about the sustainability considering future possible transfer and change of staff of federal/state governments as well as of municipalities. The Project can deal with this issue in part by producing documents, such as technical manuals, training texts, and handover procedures.
- 4) Financial capacity to sustain the effects and benefits of the Project is regarded as a challenge. For instance, the reproduction of printed information materials developed by the Project and the production of new materials are considered difficult for ICMBio due to budget constraints. The Jalapão Mosaic will involve not only federal/state government staff but also people from municipalities, civil societies, NGOs and the private sector, whose travel expenses to attend the council meetings are not always covered by federal/state government budgets. As such, it is

important to prepare a financial plan to minimize costs and help to sustain the management and activities of the “Jalapão Mosaic” in the Part III (Operational Guideline) of the Strategic Plan. The Council of EESGT also faces similar difficulties because it involves various members of different municipalities. Utilization of ICMS Ecológico for travel expenses to participate in such councils should be considered.

Chapter 4 Results of Terminal Evaluation

4.1 Conclusion

The relevance of the Project is high as the ecosystem conservation of the Jalapão region is aligned with the policies of Brazil’s Ministry of Environment and ICMBio, not to mention its global importance as a hotspot of biodiversity. The effectiveness of the Project is high as the Project is properly constructed and is making a good progress towards achieving its Purpose by the end of project duration. The efficiency of the Project is also high due to the efforts of both Japanese and Brazilian teams and effective communication and smooth cooperation among all participating organizations. The impact of the Project is high due to the various expected and unexpected positive effects of the Project. The prospect of sustainability is medium at present because there are some concerns about the sustainability from technical, human resource, and financial viewpoints.

4.2 Recommendations

1) Extension of the project cooperation period

Although the Project is considered to be able to attain the Project Purpose by the end of the current cooperation period, the evaluation results from the aspects of “Impact” and “Sustainability” suggest that the Project needs further efforts (1) to consolidate the institutional capacity of “Jalapão Mosaic” through the capacity development of mosaic council members and implementation of priority actions of the Strategic Plan, including the support for local negotiations towards the creation of a new strictly protected area in Bahia State, in order to facilitate the achievement of the Overall Goal, and (2) to strengthen the capacity of the Jalapão Mosaic Council and COMATUR/COMTURMA to enhance sustainability of the Project. Therefore, the Team recommends the extension of the project cooperation period to reinforce the Project in terms of “Impact” and “Sustainability”.

2) Leadership of ICMBio to operationalize “Jalapão Mosaic”

Regardless of the extension of the Project, the Team recommends that, once “Jalapão Mosaic” is officially established, ICMBio should play a leading role to coordinate the related organizations for implementation of the activities under “Jalapão Mosaic”. Particularly, municipalities in Jalapão Region absolutely require assistance to undertake conservation activities and, hence, ICMBio should extend necessary assistance to such municipalities through the mechanism of “Jalapão Mosaic”.

4.3 Lessons Learned

1) Counterparts indicate that the project activities are fully aligned with their own roles and responsibilities in their organizations, thus being able to undertake them as a part of their daily duties. This apparently contributes to a high

effectiveness and efficiency of the Project implementation.

- 2) The revised PDM is well constructed for the Project with achievable and realistic goal, outputs and number/selection of target municipalities for three years of the cooperation period. It is important to prepare a good and realistic PDM for the Project to be successful.
- 3) The Project being managed in a flexible and timely manner (e.g. revision of PDM, change of work schedules, and quick decision-making) can be attributed to the significant decision making power of the Project Manager and the management of the Project by the JICA overseas office that is well aware of the local situations in the field and conversant with related organizations.
- 4) The Project has invested a lot of time and efforts in the interlocution with local partners and stakeholders, which contributed to the smooth implementation of the Project. The Project could have been even more efficiently implemented if such interlocution efforts had been made from the planning stage of the Project.

A handwritten signature in black ink, consisting of a stylized 'M' followed by a large, looped 'J'.

Project Name: The Jalapão Region Ecological Corridor Project

Technical Cooperation Duration: 3 years

Implementing Institution: Chico Mendes Institute for the Conservation of Biodiversity - ICMBio

Target region: Jalapão Region, i.e. connecting area between the Serra Geral do Tocantins Ecological Station and the Nascentes do Rio Pamaíba National Park

Beneficiary Group: Governmental institutions (federal, state, municipal), non-governmental organizations, local populations, local organizations, and private sector in the Jalapão Region Ecological Corridor

Version 2, 05.05.2011

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>[Overall Goal] The ecosystem conservation in the Jalapão region is enhanced through the introduction of the Ecological Corridor</p>	<p>The Strategic Plan for introducing and managing Jalapão Region Ecological Corridors (JREC) is implemented.</p>	<p>1. Evaluation survey</p>	<p>Ecological Corridor is maintained as a strategic and political priority among concerned institutions.</p>
<p>[Project Purpose] The institutional capacity of ICMBio is strengthened to introduce and implement Ecological Corridor in the Jalapão region.</p>	<p>The Strategic Plan for introducing and managing JREC has consensus among concerned institutions by the coordination of ICMBio</p> <p>Mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region is developed by the coordination of ICMBio.</p>	<p>1. Project report 2. Evaluation survey</p>	<p>The priority and support for the Conservation Units in the Jalapão region towards the implementation of JREC is maintained by the Ministry of Environment.</p>
<p>[Outputs]</p> <p>1. Information necessary for JREC management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and organized.</p> <p>2. Institutional arrangements for the JREC management are structured.</p> <p>3. Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted</p> <p>4. The linkage between local populations and institutions concerned with JREC conservation is strengthened</p> <p>5. The strategic plan/guideline for introducing and managing JREC is developed</p>	<p>1.1 The database with the collected information is developed. 1.2 The project homepage in ICMBio website is updated at least four times a year 1.3 Information necessary for JREC management is distributed and shared among concerned institutions. 1.4 Information sharing materials are developed</p> <p>2.1 The Reciprocity Term for JREC management obtains institutional consensus among concerned institutions 2.2 Meetings among concerned institutions for JREC management are held at least three times a year.</p> <p>3.1 Training, visits and other capacity developing activities for concerned institutions are held at least two times during the period of the Project 3.2 During the period of project, at least two seminars for JREC conservation are held</p> <p>4.1 At least two training programs for local populations are conducted. 4.2 Municipal environmental legislation is strengthened with assistance from concerned institutions.</p> <p>5.1 "Diagnosis & Justification", "Strategic Action Plans" and "Operational Guidelines" are developed</p>	<p>1.1 Database 1.2 ICMBio Homepage 1.3 Information sharing materials 1.4 Project report</p> <p>2.1 Reciprocity Term 2.2 Meeting records</p> <p>3.1 Project report 3.2 Seminar report</p> <p>4.1 Training program report 4.2 Project report</p> <p>5.1 The Strategic Plan</p>	<p>The support of the concerned institutions does not drastically change.</p>
<p>Activities:</p> <p>1.1 To collect information concerned with ecological corridors in Brazil. 1.2 To collect baseline information for ecological monitoring 1.3 To develop information sharing materials, and disseminate project information in appropriate media. 2.1 To hold periodical meetings of the project counterparts, discuss and promote the project management 2.2 To define roles and actions of concerned institutions in the reciprocity term.</p>	<p>Inputs: (Japanese side) - Experts - Ecosystem preservation / organization strengthening / participatory management of natural resources / administration etc - Local experts - Participatory development, monitoring and other activities - Training in Japan (six people in total)</p>	<p>Inputs: (Brazilian side) - Counterparts (ICMBio Headquarters, Serra Geral do Tocantins Ecological Station - 2 people dedicated to the project - and Nascentes do Rio Pamaíba National Park). - Training in Brazil</p>	<p>ICMBio and its budgets are not greatly affected by political change.</p> <p>The stakeholders present in the project area are willing to collaborate with the project</p>

- 2.3 To obtain institutional consensus on reciprocity term among concerned institutions
- 2.4 To hold meetings among concerned institutions based on the rationale of reciprocity term.
- 3.1 To identify necessary themes for training the staff from ICMBio and concerned institutions with the Project
- 3.2 To plan and implement trainings for ICMBio and concerned institutions with the Project.
- 3.3 To follow up activities of the trained staff.
- 3.4 To hold seminars on the JREC conservation
- 4.1 To communicate project information to local populations.
- 4.2 To identify themes and methodologies suitable for capacitating local populations
- 4.3 To implement training and other activities for local populations for the better management of the natural resources.
- 4.4 To follow up activities of the trained local populations
- 5.1 To identify strategies for introducing and managing JREC
- 5.2 To define methodologies and actions for introducing and managing JREC.
- 5.3 To develop the strategic plan/guideline for introducing and managing JREC with participation of concerned institutions

- Financial resources for local activities
- Necessary equipment
 - Vehicles
 - Geoprocessing equipment
 - Necessary materials

- Administrative facilities
- Communication media
- Secretary, driver
- Operating costs
- Infrastructure

activities.

Pre-conditions
ICMBio allocates personnel and budget for the execution of project activities

Activity	JFY 2010												JFY 2011												JFY 2012												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1.1 To collect information concerned with ecological corridors in Brazil.																																					
1.2 To collect baseline information for ecological monitoring.																																					
1.3 To develop information sharing materials, and disseminate project information in appropriate media.																																					
2.1 To hold periodical meetings of the project counterparts, discuss and promote the project management.																																					
2.2 To define roles and actions of concerned institutions in the reciprocity term.																																					
2.3 To obtain institutional consensus on reciprocity term among concerned institutions.																																					
2.4 To hold meetings among concerned institutions based on the rationale of reciprocity term																																					
3.1 To identify necessary themes for training the staff from ICMBio and concerned institutions with the Project																																					
3.2 To plan and implement trainings for ICMBio and concerned institutions with the Project.																																					
3.3 To follow up activities of the trained staff.																																					
3.4 To hold seminars on the JREC conservation.																																					
4.1 To communicate project information to local populations.																																					
4.2 To identify themes and methodologies suitable for capacitating local populations.																																					
4.3 To implement training and other activities for local populations for the better management of the natural resources.																																					
4.4 To follow up activities of the trained local populations.																																					
5.1 To identify strategies for introducing and managing JREC.																																					
5.2 To define methodologies and actions for introducing and managing JREC.																																					
5.3 To develop the strategic plan/guideline for introducing and managing JREC with participation of concerned institutions.																																					

The shades indicate activities of the Project, and the lines show activity period of dispatched Japanese experts.

Annex 3: Schedule of Evaluation Mission

Date			Mr. Sato & Mr. Komazawa	Mr. Okuda & Ms. Maeda	Brazilian Evaluation Team
1	Oct 14	Sun		15:55 Narita → 15:05 Atlanta 21:15 Atlanta →	
2	15	Mon		→ 6:55 Brasilia 15:30 Meeting at JICA office	
3	16	Tue	09:00 Kick-off Meeting at ICM Bio 14:30 Meeting with MMA 15:30 Courtesy Call at ICMBio		
4	17	Wed	(Mr. Komazawa) 15:45 Brasilia → 17:00 Palmas	09:00 Interview at ICMBio 15:45 Brasilia → 17:00 Palmas	
5	18	Thu	09:45 Courtesy Call at SEMADES 10:30 Interview at SEMADES 15:00 Courtesy Call at NATURATINS 15:30 Interview at NATURATINS (Mr. Sato) 15:45 Brasilia → 17:00 Palmas	09:45 Courtesy Call at SEMADES 10:30 Interview at SEMADES 15:00 Courtesy Call at NATURATINS 15:30 Interview at NATURATINS	
6	19	Fri	07:30 Palmas → 13:00 São Félix 14:30 Hearing at São Félix	07:30 Palmas → 13:00 São Félix 14:30 Hearing at São Félix	
7	20	Sat	08:00 São Félix → 09:30 Mateiros 10:30 Hearing at Mateiros 14:00 Mateiros → 18:00 Ponte Alta	08:00 São Félix → 09:30 Mateiros 10:30 Hearing at Mateiros 14:00 Mateiros → 18:00 Ponte Alta	
8	21	Sun	09:00 Hearing at Ponte Alta 14:00 Ponte Alta → 17:00 Dianópolis	09:00 Hearing at Ponte Alta 14:00 Ponte Alta → 17:00 Dianópolis	
9	22	Mon	08:30 Interview at EESGT 10:00 Interview at Rio da Conceição 14:00 Environmental Education Workshop 15:00 Rio da Conceição → 18:30 Palmas	08:30 Interview at EESGT 10:00 Interview at Rio da Conceição 14:00 Environmental Education Workshop 15:00 Rio da Conceição → 18:30 Palmas	
10	23	Tue	(Mr. Sato) (AM) Palmas → Brasilia	09:00 Meeting with JICA experts 15:00 Interview at SEPLAN	
11	24	Wed		09:00 Meeting with JICA experts	
12	25	Thu		Preparation of Report	
13	26	Fri		08:00 Project Conclusion Seminar 17:35 Palmas → 18:55 Brasilia	
14	27	Sat		Preparation of Report	
15	28	Sun	Preparation of Report 13:30 Internal Meeting		
16	29	Mon	09:00 Meeting at ICMBio		
17	30	Tue	09:00 Preparation of Report and M/M 14:30 Meeting at ICMBio		
18	31	Wed	JCC and Signing of M/M		
19	Nov 1	Thu		22:40 Brasilia →	
20	2	Fri		→ 05:45 Atlanta 13:00 Atlanta →	
21	3	Sat		→ 16:20 Narita	

Annex 4: List of Interviewees

1 Brazilian Side			
1) Counterparts			
1	Mr. Bernardo Brito	Chief of CGCAP / DIMAN / ICMBio	10/16
2	Mr. Allan Crema	Chief of DMOC/ CGCAP / DIMAN / ICM Bio	10/16,17
3	Mr. Mariusz Antoni Szmuchrowski	DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	10/16
4	Mr. Bernardo Issa de Souza	Deputy Director of DIMAN, ICMBio	10/16
5	Mr. Áquilas Ferreira Mascarenhas	Chief of EESGT / ICMBio	10/22
6	Ms. Ana Carolina Sena Barradas	EESGT / ICMBio	10/22
2) State Counterparts			
1	Mr. Divaldo Rezende, PhD	Secretary of State, SEMADES	10/18
2	Ms. Marli Santos	Superintendent of Environment and Forests, SEMADES	10/18
3	Mr. Fabrizio Rafael Dias Fonseca	SEMADES	10/18
4	Mr. Alexandre Tadeu M. Rodrigues	President, NATURATINS	10/18
5	Ms. Verônica Amaral	Directorate of Biodiversity and Protected Area, NATURATINS	10/18
6	Mr. Volnei Marcos Martinovski	Coordination of Conservation Units, NATURATINS	10/18
7	Ms. Paula Montenegro	Coordination of Conservation Units, NATURATINS	10/18
8	Mr. Rodrigo Sabino	Director of Ecological-Economic Zoning, SEPLAN	10/23
9	Ms. Cecília Miranda	Information Technology Analyst, Ecological-Economic Zoning Department, SEPLAN	10/23
10	Ms. Maria de Fatima Rocha Medina	Representative of CEULP/ULBRA	10/26
3) Beneficiaries			
1	Mr. Marlen R. Rodrigues	Next Mayor, São Félix (2013)	10/19
2	Ms. Vaneça Ribeiro Corado	Tourism and Environment Department, Municipality of São Félix	10/19
3	Mr. Wilson Gomes da Silva	President of COMTURMA, São Félix	10/19
4	Ms. Delice dos Reis Barbosa	Secretary COMTURMA, São Félix	10/19
5	Mr. José da Silva Rodrigues	Vice President of COMTURMA, São Félix	10/19
6	Mr. Carlos Israel	Former Secretary of Environmental Department, Municipality of São Félix	10/19
7	Ms. Rejane Ferreira Nunes	Management and Protection Coordinator, NATURATINS	10/20
8	Ms. Claudiana Matos da Silva	Secretariat of Environmental and Tourism, Mateiros	10/20
9	Mr. Josimar Ferreira de Almeida	Current Mayor, Mateiros	10/20
10	Mr. Domingos Alves Ferreira	President of COMATUR, Mateiros	10/20
11	Mr. Mouselis José de Carvalho Pereira	Representative of Conductor Association, COMATUR Mateiros	10/20
12	Ms. Zélia Rodrigues M. da Silva	Representative of Secretary of Education and Culture, COMATUR Mateiros	10/20
13	Mr. João Miranda de Souza	Head of the Jalapão State Park	10/21
14	Mr. José Carlos Sena Soares	Former Secretary of Environment, Ponte Alta (next deputy mayor)	10/21
15	Mr. José Aparecido de Araújo	Next Mayor, Ponte Alta	10/21
16	Ms. Nayara Teixeira Lima	First Lady, Next Mayor, Ponte Alta	10/21
17	Ms. Eliete dos Santos Alecrim	First Lady Friend, Ponte Alta	10/21
18	Mr. José Aribá S. Rodrigues	Vice President of COMATUR, Ponte Alta	10/21
19	Mr. Astrogildo de F. F. Neto	Current and Next Mayor, Rio da Conceição	10/22
20	Ms. Maria Carvalho Dias	Next Deputy Mayor, Rio da Conceição	10/22
21	Ms. Gloracy Lopes da Luz	Secretary of Environment and Tourism, Secretary of COMATUR, Rio da Conceição	10/22
22	Ms. Pauliane Nunes D. dos Santos	Secretariat of Environment and Tourism, Rio da Conceição	10/22
23	Ms. Marcina Silva Brandão	President of COMATUR, Rio da Conceição	10/22
24	Mr. Mauro Norberto da Silva	Representative of Civil Society COMATUR, Rio da Conceição	10/22
25	Ms. Evaneia F. Lisboa	Financial Secretariat COMATUR, Rio da Conceição	10/22
26	Mr. Elias Cirino dos Santos	Vice President, Representative of Civil Society, COMATUR, Rio da Conceição	10/22
27	Mr. Domingos Rodrigues dos Santos	Environment Department Staff, Rio da Conceição	10/22
28	Mr. Clésio Possidônio de Carvalho	Environment Department Staff, Rio da Conceição	10/22
2 Japanese Side			
1) Project team			
1	Mr. Koji Asano	Chief Advisor / Ecosystem Management	10/17-26
2	Mr. Manabu Kawaguchi	Participatory Natural Resource Management / GIS	10/17,23
3	Ms. Junko Kikuchi	Participatory Natural Resource Management / Institutional Strengthening	10/18,24
4	Mr. James Possapp	Local Consultant (Institutional Strengthening)	10/18-26
5	Ms. Selene Sotero	Local Consultant (Community Mobilization)	10/18
6	Ms. Lena Izumi	Secretary / Interpreter	10/21

Thank you so much all for your time and support to the terminal evaluation!

Name	Arrival and Departure Date (Number of Days in Brazil)													Total
	2010				2011			2012 (including dispatch planned)						
	1 st	2 nd	3 rd	4 th	1 st	2 nd	3 rd	1 st	2 nd	3 rd	4 th	5 th		
Mr. Koji ASANO Chief Advisor / Ecosystem Conservation	4/8 - 5/19 (42)	8/7-10/5 (70)	11/4-12/26 (53)		3/21-6/9 (81)	8/22-10/20 (60)	11/20-12/25 (36)	4/3-5/28 (56)	6/12-7/25 (44)	8/9-9/22 (45)	10/6-11/22 (48)	1/20-3/20 (60)	(595)	
Mr. Masayuki HONJO Institutional Strengthening	6/12-7/10 (29)	7/18-8/23 (37)	10/11-10/31 (21)		4/8-5/22 (45)								(132)	
Mr. Shinichiro TANIMOTO Participatory Natural Resource Management / Institutional Strengthening	4/8-5/19 (42)	6/17-7/29 (43)	9/26-10/25 (30)	11/26-12/28 (33)									(148)	
Mr. Manabu KAWAGUCHI Participatory Natural Resource Management / GIS	4/8-6/6 (60)	9/1-11/25 (86)			4/8-6/6 (60)	9/25-11/23 (60)		5/7-7/5 (60)	9/15-11/13 (60)				(386)	
Ms. Yukiko WATANABE Participatory Natural Resource Management					3/21-4/19 (30)	7/8-7/17 (10)							(40)	
Mr. Shinichiro TSUJI Institutional Strengthening					9/18-12/12 (86)			6/2-7/5 (34)					(120)	
Ms. Junko KIKUCHI Participatory Natural Resource Management / Institutional Strengthening								6/12-9/3 (84)	9/4-9/11 (8)	10/6-11/4 (30)	2/19-3/20 (30)		(152)	
Total Days													(1,573)	

Local Staff

Name	2010	2011	2012
Office Staff	Mr. Lucino Diniz	Mr. Lucino Diniz	Ms. Lena Izumi Mr. James Possapp
Local Consultants	Mr. Roberto Kurokawa (Output 2 & 3) Mr. Michiel Meijer (Output 3) Ms. Selene Maria da Costa Solteiro (Output 4) Mr. Renato Prado dos Santos (Output 1)	Mr. Roberto Kurokawa (Output 2 & 4) Ms. Selene Maria da Costa Solteiro (Output 4) Mr. Cristiano de Campos Nogueira (Output 5) Mr. Renato Prado dos Santos (Output 1)	Mr. Roberto Kurokawa (Output 2 & 4) Ms. Selene Maria da Costa Solteiro (Output 4) Mr. Reinaldo Francisco Ferreira Lourival (Output 5) Mr. Renato Prado dos Santos (Output 1 & 4)

Annex 6: List of Trainings in Japan

As of October 2012

Scheme	Name	Organization	Period	Visited Institutions and Course
Counterpart Training	Mr. Allan Crema	Coordinator of Mosaic and Ecological Corridor – ICMBio	10 Jun – 26 Jun 2011	JICA HQ, the Ministry of Environment, the Forestry Agency, Biodiversity Center of Japan, Kushiro Wetland National Park, Fuji-Hakone-Izu National Park
	Mr. Jancil Lustosa de Oliveira	Environmental Analyst, Nascentes do Rio Parnaíba National Park – ICMBio	10 Jun – 26 Jun 2011	JICA HQ, the Ministry of Environment, the Forestry Agency, Biodiversity Center of Japan, Kushiro Wetland National Park, Fuji-Hakone-Izu National Park.
	Ms Ana Carolina Sena Barradas	Environmental Analyst, Serra Geral Ecological Station – ICMBio	10 Jun – 26 Jun 2011	JICA HQ, the Ministry of Environment, the Forestry Agency, Biodiversity Center of Japan, Kushiro Wetland National Park, Fuji-Hakone-Izu National Park.
	Mr. Mariusz Szmuchowski	Environmental Analyst, Mosaic and Ecological Corridor Division, ICMBio	23 Nov – 9 Dec 2012 (Planned)	JICA HQ, the Ministry of Environment, the Forestry Agency, Biodiversity Center of Japan, Aso-Kuju National Park, Kirishima-Kinkowan National Park.
	Ms. Aquilas Ferreira Mascarehas	Chief, Serra Geral Ecological Station, ICMBio	23 Nov – 9 Dec 2012 (Planned)	JICA HQ, the Ministry of Environment, the Forestry Agency, Biodiversity Center of Japan, Aso-Kuju National Park, Kirishima-Kinkowan National Park.
	Ms. Cristiana Castro Lima Aguiar	Chief, Nascente do Rio Parnaíba National Park, ICMBio	23 Nov – 9 Dec 2012 (Planned)	JICA HQ, the Ministry of Environment, the Forestry Agency, Biodiversity Center of Japan, Aso-Kuju National Park, Kirishima-Kinkowan National Park

A

As of October 2012

No	Equipment	Specification	Quantity	Currency	Total Price	Procurement Year	Place of Use
1	Vehicle	Pickup 4x4, Double Cabin (4 Door), Air conditioner and other necessary specifications	1	BRL	R\$88,500.00	May 2010 – one vehicle	JICA Team
			1		R\$94,008.00	Mar 2011 – one vehicle	EESGT
2	GIS Data Server	Data Server PC (Tower Type), LCD Monitor, Windows Server 2008 and other necessary specifications	1	BRL	R\$7,531.11	Dec 2010	DMOC
3	Remote Sensing Software	ITT ENVI ver.4.7 – Single license	1	BRL	R\$15,956.00	Jul 2010	DMOC
4	ALOS (PRISM) Satellite Image Data	JAXA ALOS (PRISM) 2.5m resolution Satellite image data – Two seasons	1 set	BRL	R\$3,500.00	Sep 2010	DMOC
5	ALOS (AVNIR-2) Satellite Image Data	JAXA ALOS (AVNIR-2) 10m resolution Satellite image data – Two seasons	1 set	BRL	R\$1,750.00	Sep 2010	DMOC
6	ALOS (PRISM) Satellite Image Data	JAXA ALOS (PRISM) 2.5m resolution Satellite image data	1 set	USD	\$6,250.00	Mar 2012	DMOC

Handwritten signature and initials in the bottom left corner of the page.

1) Counterparts

	Name	Title and Organization	Role/Responsibility in the Project	Period
1	Mr. Pedro de Castro da Cunha e Menezes	Director of DIMAN / ICMBio	Project Director	Jan 2012~
2	Mr. Allan Crema	Environmental Analyst, Chief of DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	Project Manager, Output 1, 2, 3, 4, 5	Apr 2010 ~
3	Mr. Mariusz Antoni Szmuchrowski	Environmental Analyst, DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	Output 1, 2, 3	Apr 2010 ~
4	Ms. Karina Jorge Diano	Environmental Analyst, DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	Output 1, 3, 4	Apr 2011 ~
5	Mr. Aquilas Ferreira Mascarenhas	Environmental Analyst, Chief of EESGT / ICMBio	Output 1, 2, 3, 4, 5	Apr 2011 ~
6	Ms. Ana Carolina Senna Barradas	Environmental Analyst, EESGT / ICMBio	Output 3, 4	Apr 2011 ~
7	Ms. Lara Gomes Corte	Environmental Analyst, EESGT / ICMBio	Output 3, 4	Apr 2010 ~
8	Mr. Máximo Menezes Costa	Environmental Analyst, EESGT / ICMBio	Output 3, 4	Apr 2012 ~
9	Ms. Cristiana Castro Lima Aguiar	Environmental Analyst, Chief of PNNRP / ICMBio	Output 3, 4	Apr 2010 ~
10	Mr. Janeil Lustosa de Oliveira	Environmental Analyst, PNNRP / ICMBio	Output 1, 3, 4	Apr 2010 ~
11	Mr. Ricardo Soavinsky	Former Director of DIMAN / ICMBio	Ex Project Director	Apr 2010 ~ Dec 2011
12	Ms. Juliana Shirashi	Environmental Analyst, DMOC / CGCAP / DIMAN / ICMBio	Output 1, 3	Apr 2010 ~ Dec 2011
13	Ms. Lilian de Carvalho Lindoso	Environmental Analyst, Former Chief of EESGT / ICMBio	Output 1, 2, 3, 4, 5	Apr 2010 ~ Dec 2010
14	Mr. Rodrigo Leal Moraes	Environmental Analyst, EESGT / ICMBio	Output 3, 4	Apr 2010 ~ Dec 2011

DIMAN: *Diretoria de Criação e Manejo de Unidades de Conservação* (Directorate of Creation and Management of Protected Areas, ICMBio)

CGCAP: *Coordenação Geral de Criação, Planejamento e Avaliação de Unidades de Conservação* (General Coordination of Creation, Planning and Evaluation of Conservation Units)

DMOC: *Divisão de Mosaicos e Corredores* (Mosaic and Ecological Corridor Division)

EESGT: *Estação Ecológica da Serra Geral do Tocantins* (Serra Geral of Tocantins Ecological Station)

PNNRP: *Parque Nacional das Nascentes do Rio Parnaíba* (Nascentes do Rio Parnaíba National Park)

2) State Counterparts (as of October 2012)

State Government of Tocantins

Organization		Name	Title	
SEPLAN	1	Mr. Rodrigo Sabino	Diretor de Zoneamento Ecológico-Econômico	Director of Ecological-Economic Zoning
	2	Ms. Aida Paiva	Coordenadora do GT WebGIS	WebGIS Working Group Coordinator
	3	Ms. Cecilia Miranda	Técnica em Mapeamento e Zoneamento Ecológico- Econômico	Technician on Mapping and Ecological-Economic Zoning
	4	Mr. Paulo Augusto de Sousa	Técnica em Mapeamento e Zoneamento Ecológico- Econômico	Technician on Mapping and Ecological-Economic Zoning
SEMADES	1	Ms. Marli Santos	Diretora Geral de Meio Ambiente e Florestas	General Director of Environment and Forests
	2	Mr. Fabrizio Dias Fonseca	Coordenador de Compensação Ambiental	Coordinator of Environmental Compensation
	3	Mr. Adriano Pinto	Coordenador de Normas Ambientais e Procedimentos Integrados	Coordinator of Environmental Standards and Integrated Procedures
	4	Ms. Caroline Frankiw	Coordenadora de Descentralização Ambiental para Municípios	Coordinator of Environmental Decentralization to Municipalities
	5	Ms. Cristiane Peres	Analista Ambiental	Environmental Analyst
NATURATINS	1	Ms. Nilza Verônica Amaral	Diretora de Biodiversidade e Desenvolvimento Sustentável	Director of Biodiversity and Sustainable Development
	2	Mr. Volney Martinovski	Coordenador de Unidades de Conservação	Coordinator of Conservation Units
	3	Ms. Paula Montenegro	Coordenadora de Educação Ambiental	Coordinator of Environmental Education
	4	Mr. Gino Machado	Biodiversidade e Desenvolvimento Sustentável	Biodiversity and Sustainable Development
	5	Ms. Daiane Carline Meyer	Biodiversidade e Desenvolvimento Sustentável	Biodiversity and Sustainable Development
Parque Estadual do Jalapão (PEJ)	1	Mr. João Miranda	Gerente do PEJ	PEJ Manager
	2	Ms. Rejane Nunes	Coordenadora de Educação Ambiental	Coordinator of Environmental Education

State Government of Bahia

Organization		Name	Title	
INEMA	1	Balbina Maria de Jesus	Chefe da APA Estadual Bacia do Rio Preto	Chief of Bacia do Rio Preto State APA
	2	Richardo Miranda	Coordenador de Corredores Ecológicos	Coordinator of Ecological Corridor
	3	Mateus C. Leite Matos	Técnico Ambiental	Environmental Technician
	4	Carla Maiana Santos Carvalho	Chefe da Estação Ecológica Estadual do Rio Preto	Chief of Rio Preto State ESEC
	5	Leonardo Euler	Coordenador de Unidades de Conservação	Coordinator of Conservation Units

3) Municipalities (Beneficiaries)

Municipality	Name	Organization
MATEIROS	1 Mr. Josimar Pereira de Almeida	Prefeito Atual 2009-2012
	2 Mr. Julio Mořka	Prefeito Eleito 2013-2016
	3 Mr. Domingos Alves Ferreira	COMATUR - Presidente
	4 Mr. Adão Rocha Braga	COMATUR - Vice Presidente
	5 Ms. Claudiana Matos da Silva	Secretária de Meio Ambiente e Turismo
	6 Ms. Zéha Rodrigues da Silva	Secretaria de Educação, Cultura e Desporto
	7 Ms. Ilana Ribeiro Cardoso	Assessora da Secretaria de Meio Ambiente
PONTE ALTA DO TOCANTINS	1 Ms. Ascinete	Prefeita Atual 2009-2012
	2 Mr. Zezinho da AA	Prefeito Eleito 2013-2016
	3 Ms. Rafaela Ernesto Dias	COMATUR - Presidente - Secretária de Turismo e Meio Ambiente
	4 Mr. José Arilon S. Rodrigues	COMATUR - Vice - Presidente
	5 Ms. Lazara Maria Sabóia	COMATUR - Conselheira
	6 Ms. Daiane Cavalcante Lima	COMATUR - Assessora - Secretaria de Turismo e Meio Ambiente
	7 Mr. José Carlos de Sena Soares	Ex- Secretário de Turismo e Meio Ambiente - Vice Prefeito 2013-2016
RIO DA CONCEIÇÃO	1 Mr. Astrogildo de França Filho	Prefeito atual 2009-2012 e Prefeito Eleito 2013-2016
	2 Ms. Gloraci Lopes da Luz	Secretária de Turismo e Meio Ambiente
	3 Ms. Marcina Silva Brabdão	COMATUR - Presidente
	4 Mr. Elias Cirino dos Santos	COMATUR - Vice - Presidente
	5 Mr. Mauro Norberto	COMATUR - Conselheiro
	6 Ms. Maria Carvalho dos Santos	Ex- Secretária de Turismo e Meio Ambiente - Vice - Prefeita 2013-2016
SÃO FÉLIX DO TOCANTINS	1 Mr. Janio Silva de Mendonça	Prefeito atual 2009-2012
	2 Mr. Marley	Prefeito Eleito 2013-2016
	3 Ms. Junizenh Torres	Secretária de Turismo e Meio Ambiente
	4 Mr. Wilson Gomes da Silva	COMTURMA- Presidente
	5 Mr. Jose Rodrigues	COMTURMA- Vice - Presidente
	6 Ms. Delice Reis	COMTURMA- Secretária Geral
	7 Mr. Carlos Israel Ribeiro dos Reis	Ex- Secretário de Turismo e Meio Ambiente

Annex 9: Local Costs (Operational Expenses)

1) Japanese side (unit: thousand Japanese Yen)

Item	Japanese Fiscal Year (April-March)			TOTAL
	2010	2011	2012 (Planned)	
Local costs	21,092	23,794	32,305	77,191

Local costs include local employment, printed materials, workshop/seminar and miscellaneous.

2) Brazilian side (unit: Real)

Item	Brazilian Fiscal Year			TOTAL
	2010	2011	2012 (Planned)	
Office space – ICMBio HQ	50,000	50,000	50,000	
Office space – ICMBio EESGT	24,000	24,000	24,000	
E Office space – ICM Bio PNNRP	20,000	20,000	20,000	
Postal Services	6,800	6,800	6,800	
Acquisition of Vehicles	250,000	-	-	
Office Maintenance	20,000	20,000	20,000	
Vehicle Maintenance	180,000	180,000	180,000	
Vehicle Fuel	96,000	96,000	96,000	
Acquisition of Furniture	-	30,000	-	
Acquisition of Information Equipment	-	40,000	-	
Electricity / Water	30,000	30,000	30,000	
Telephone	15,600	15,600	15,600	
Internet	14,400	14,400	14,400	
Secretary	48,000	48,000	48,000	
Guard man	144,000	144,000	144,000	
Driver	48,000	48,000	48,000	
Designer (ASCOM)	10,000	10,000	10,000	
Creation of EESGT Counsel	50,000	50,000	50,000	
Daily Allowances	32,000	32,000	40,000	
Air Tickets	14,400	14,400	16,000	
Total	1,053,200	873,200	796,800	2,723,200

Handwritten signature and initials in the bottom right corner of the page.

Narrative Summary	Indicators	Status as of the Mid-term Review (Dec 2011)	Current Status
<p>[Overall Goal] The ecosystem conservation in the Jalapão region is enhanced through the introduction of the Ecological Corridor</p>	<p>The Strategic Plan for introducing and managing Jalapão Region Ecological Corridors (JREC) is implemented.</p>	<ul style="list-style-type: none"> It is too early at the time of mid-term review to judge whether or not the achievement of the overall goal will be possible. However, its indicator on PDM is estimated to be possibly realized if the current project activities are continuously conducted in the latter half period The personnel who know the field station well are quite positive on the eventual achievement of the overall goal while they think that it is not easy to measure the enhancement of the ecosystem conservation. 	<p>Not achieved as yet</p> <ul style="list-style-type: none"> The Strategic Plan is still under development The mechanism to promote biodiversity conservation established by the Project is expected to contribute to the enhancement of the ecosystem conservation of the Jalapão region
<p>[Project Purpose] The institutional capacity of ICMBio is strengthened to introduce and implement Ecological Corridor in the Jalapão region.</p>	<p>The Strategic Plan for introducing and managing JREC has consensus among concerned institutions by the coordination of ICMBio</p> <p>Mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region is developed by the coordination of ICMBio</p>	<ul style="list-style-type: none"> The preparation of the Strategic Plan for introducing and managing JREC is in progress The Team observed eager discussions with concrete ideas on the Strategic Plan during the technical seminar and the counterpart meeting on 29th and 30th Nov 2011 The consensus on the Plan is steadily being created through such discussions and will be consolidated by the end of the Project The mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region by the coordination of ICMBio is in the process of its establishment For example, collaboration between ICMBio, MMA and state organizations was enhanced by the Reciprocity Term. This enhanced collaboration created synergy effects among the federal and state programs to support municipalities, which stimulated the establishment of municipal environment councils. This collaboration has led to a number of joint actions among the federal and state organization, such as joint environmental education program, joint seminar/workshops, and the integration of information management systems of different organizations, which optimizes the use of scarce resources for biodiversity conservation. 	<p>Almost achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> Under the rationale of the Reciprocity Term, part I (diagnosis and justification) & II (action plan) of the Strategic Plan have been prepared Above-mentioned part I (diagnosis and justification) & II (action plan) are currently being revised to be adapted for the upcoming "Jalapão Mosaic". The preparation of part III (operational guidelines) is planned to be finalized by December 2012. The development of Strategic Plan for the "Jalapão Mosaic" is being undertaken in a participatory way to ensure the consensus. <p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> The biodiversity conservation mechanism, which was defined by the Project to consist of the integration/cooperation framework among federal and state institutions (Output 2 and 3), directions of conservation efforts to be shared among concerned actors (Output 1, 3 and 5), and instruments which enable communities to participate in conservation (Output 3 and 4), has been developed. According to the attainment level of Outputs' indicators, those of Output 1, 2, 3 and 4 are achieved, whereas that of Output 5 are almost achieved. As such, it is reasonable to conclude that the mechanism to promote biodiversity conservation in Jalapão region is established.
<p>[Output] 1. Information necessary for JREC management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and organized.</p>	<p>1.1 The database with the collected information is developed</p> <p>1.2 The project homepage in ICMBio website is updated at least four times a year.</p>	<ul style="list-style-type: none"> The Project GIS database has become available at http://www.jalapaoecorredor.com.br/ It is temporarily installed and made available by ICMBio staff on stand-alone server, but the procedure to install it to ICMBio computer network is under progress The project Homepage at ICMBio website was released at http://www.icmbio.gov.br/projetojalapao/ Renewal time has not come as yet 	<p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> SEPLAN's homepage is currently being modified to be linked to the new, updated Web-GIS system in SEPLAN network which was already set up http://corredorjalapao.seplan.io.gov.br/jalapao/ An official inauguration ceremony of the Web-GIS is scheduled on 9 Nov 2012 in Palmas. <p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> The project homepage has been updated on such occasions as below: 1) New release - 21 news have been released from 14 Oct 2010 to 17 Oct 2012 2) English homepage was constructed

			3) Additions of materials for downloads – publications and maps.
	1.3 Information necessary for JREC management is distributed and shared among concerned institutions.	Information necessary for JREC management has been distributed and shared among institutions concerned through the project HP, printed materials and the Ecological Corridor Atlas (synthesized information and maps on JREC).	Achieved Information necessary for JREC management is distributed through website (indicator 1.1 and 1.2), printed materials (indicator 1.4), and meeting/training/seminar (indicator 2.2, 3.1, 3.2 and 4.1)
	1.4 Information sharing materials are developed.	Printed materials of information necessary for JREC management were developed and well-received. Additional printing is expected by related state/municipal institutions and local communities.	Achieved Many kinds of information materials were developed and distributed, e.g., project brochures, Atlas of JREC, banners for municipalities, panels for CEIT(Mateiros) and São Félix, and Video
2 Institutional arrangements for the JREC management are structured	2.1 The Reciprocity Term for JREC management obtains institutional consensus among concerned institutions.	The Reciprocity Term for JREC management obtained consensus among ICMBio, MMA, The Governor of the State of Tocantins, NATURATINS, SEMADES and SEPLAN and was signed by them on 29 th Sep 2011.	Achieved The Reciprocity Term was signed on 29 Sep 2011. Furthermore, the establishment of Mosaic in the Jalapão region is in progress 1) Agreement on Mosaic participation was signed by managers of nine protected areas concerned in Aug 2012. 2) Proposal to establish the "Jalapão Mosaic" was submitted to MMA in Sep 2012
	2.2 Meetings among concerned institutions for JREC management are held at least three times a year.	Various meetings have been held among the related institutions (e.g. the preparation meetings for the Reciprocity Term) and its frequency is more than ten times a year	Achieved Periodical counterpart meeting was held 6 times in May 2010 through Sep 2011 Based on the Reciprocity Term, JREC Coordination Committee gathered 4 times from Nov 2011 to Aug 2012
3 Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted.	3.1 Training, visits and other capacity developing activities for concerned institutions are held at least two times during the period of the Project.	More than two times of training, visits and other capacity developing activities for concerned institutions were held by the time of mid-term review.	Achieved Training, technical exchange, study visit have been conducted as follows for counterparts (20 times): 1) Training on GPS/GIS and Web-GIS - 3 times 2) Training in Japan - 1 time 3) Training on RPPN - 1 time 4) Training on prevention/control of forest fire - 1 time 5) Mini-course on participatory biodiversity conservation - 7 times 6) Technical exchange - 4 times 7) Training on MONA - 2 times 8) Study visit to another mosaic - 1 time
	3.2 During the period of project, at least two seminars for JREC conservation are held.	Kick Off Seminar was held on 13 May 2010. RPPN technical seminar on 29-30 Sep 2011 Technical seminar for JREC conservation on 29 Nov 2011	Achieved 4 seminars were held to date 1) Kick Off Seminar was held on 13 May 2010 2) RPPN technical seminar on 29-30 Sep 2011 3) Technical seminar for JREC conservation on 29 Nov 2011 4) Conclusion Seminar (Output 4) on 26 Oct 2012
4. The linkage between local populations and institutions concerned with JREC conservation is strengthened.	4.1 At least two training programs for local populations are conducted.	100 hours trainings targeting at school teachers were conducted in Mateiros and in Rio da Conceição. The number of teachers who received the certificate is 26 and 23 respectively Two-day trainings for potential members of municipal	Achieved Three kinds (programs) of training have been conducted for the capacity development of COMATUR/COMTURMA 1) Capacity development on planning/implementation through

		<p>environment councils were conducted in five municipalities (Mateiros, Rio da Conceição, São Félix, Almas and Ponte Alta). Total 101 members participated in the trainings</p>	<p>the development of model projects</p> <ol style="list-style-type: none"> 2) Capacity development on organizational management such as the selection of board member and awareness- raising on their role/responsibility 3) Capacity development on financial management by the utilization of ICMS Ecológico <ul style="list-style-type: none"> • ASAS – training of teachers for environmental education – conducted in Rio da Conceição and Mateiros (2011) and in São Félix and Ponte Alta (2012) 										
	<p>4.2 Municipal environmental legislation is strengthened with assistance from concerned institutions.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • The municipal environment councils were established in Rio da Conceição, São Félix and Ponte Alta. The council will be established soon in Mateiros as of Mid-term Review. • The environmental council for the Serra Geral do Tocantins Ecological Station is almost been established (Official establishment will be in April 2012) • Municipality of Ponte Alta revised its ordinance on environment • The mayor of São Félix signed and authorized the SMUC, after the approval of the municipal assembly, to make it possible to designate municipal conservation units, and requested ICMBio for support to the establishment of municipal conservation units. 	<p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> • Formation of municipal legislation by the Project for COMATUR (COMTURMA in São Félix) and MONA <table border="1" data-bbox="1576 404 2148 918"> <thead> <tr> <th>Municipality</th> <th>Legislation and Statute</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ponte Alta</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. Revision of municipal environmental ordinance (Oct 2011) 2. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 3. Statute of the Council (Nov 2011) </td> </tr> <tr> <td>Rio da Conceição</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 2. Statute of the Council (Nov 2011) 3. Law on the attestation of the environmental fund (Oct 2010) 4. Law on the reform of COMATUR (Oct 2010) </td> </tr> <tr> <td>São Félix</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 2. Statute of the Council (Nov 2011) 3. Law on SMUC (Nov 2011) 4. Law on the creation of MONA (Jul 2012) </td> </tr> <tr> <td>Mateiros</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. Decree on the appointment of council members (Jul 2012) 2. Statute of the Council (Jul 2012) </td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> • Furthermore, the Council of EESGT was officially registered (approved) by ICMBio's institutional ordinance No 45/2012. 	Municipality	Legislation and Statute	Ponte Alta	<ol style="list-style-type: none"> 1. Revision of municipal environmental ordinance (Oct 2011) 2. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 3. Statute of the Council (Nov 2011) 	Rio da Conceição	<ol style="list-style-type: none"> 1. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 2. Statute of the Council (Nov 2011) 3. Law on the attestation of the environmental fund (Oct 2010) 4. Law on the reform of COMATUR (Oct 2010) 	São Félix	<ol style="list-style-type: none"> 1. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 2. Statute of the Council (Nov 2011) 3. Law on SMUC (Nov 2011) 4. Law on the creation of MONA (Jul 2012) 	Mateiros	<ol style="list-style-type: none"> 1. Decree on the appointment of council members (Jul 2012) 2. Statute of the Council (Jul 2012)
Municipality	Legislation and Statute												
Ponte Alta	<ol style="list-style-type: none"> 1. Revision of municipal environmental ordinance (Oct 2011) 2. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 3. Statute of the Council (Nov 2011) 												
Rio da Conceição	<ol style="list-style-type: none"> 1. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 2. Statute of the Council (Nov 2011) 3. Law on the attestation of the environmental fund (Oct 2010) 4. Law on the reform of COMATUR (Oct 2010) 												
São Félix	<ol style="list-style-type: none"> 1. Decree on the appointment of council members (Oct 2011) 2. Statute of the Council (Nov 2011) 3. Law on SMUC (Nov 2011) 4. Law on the creation of MONA (Jul 2012) 												
Mateiros	<ol style="list-style-type: none"> 1. Decree on the appointment of council members (Jul 2012) 2. Statute of the Council (Jul 2012) 												
<p>5. The strategic plan/guideline for introducing and managing JREC is developed.</p>	<p>5.1 "Diagnosis & Justification", "Strategic Action Plans" and "Operational Guidelines" are developed.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • "Operational Guidelines" has not been prepared yet. However, "Diagnosis & Justification" has been drafted and the preparation of "Strategic Action Plans" is in progress and will be finalized in March 2012. 	<p>Almost achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> • Under the rationale of the Reciprocity Term, part I (diagnosis and justification) & II (action plan) of the Strategic Plan have been prepared. • Above-mentioned part I (diagnosis and justification) & II (action plan) are currently being adapted for the upcoming "Jalapão Mosaic", whereas the preparation of part III (operational guidelines) has just started. • A workshop to finalize the part I & II is scheduled on 12-14 Nov 2012 in Brasília. • The Part III will be finalized by December 2012. 										

Output	Activity	Progress till the Mid-term Review (Dec 2011)	Progress after the Mid-term Review
1. Information necessary for JREC management, including the Conservation Units buffer zones, is collected, analyzed and organized	1.1 To collect information concerned with ecological corridors in Brazil	<ul style="list-style-type: none"> List of literature collected (hardcopies) List of information / data collected (GIS data) 	<ul style="list-style-type: none"> Procurement of additional ALOS satellite image data. Geospatial data analysis and development of land use map of São Felix based on ALOS satellite image data. Cadastral map in São Felix based on ALOS satellite image data and GPS data, referring to INCRA (São Felix)
	1.2 To collect baseline information for ecological monitoring	<ul style="list-style-type: none"> Geospatial data analysis and diagnosis Development of landscape map based on ALOS satellite image data, reflecting information such as continuation/separation of ecosystem, population density, and vegetation. 	
	1.3 To develop information sharing materials, and disseminate project information in appropriate media	<ul style="list-style-type: none"> Information/promotion materials (2010) <ol style="list-style-type: none"> 1) Pen with project logo → 300 2) Mouse Pad with project logo → 100 3) CD Label with project logo → 500 4) Desk Calendar with Project information → 500 5) Memo Pad with project logo → 200 6) File Binder with project logo → 100 7) Project Brochure(2010) → 200 8) Project Leaflet (NATURATINS) → 5000 9) Environmental Education Book (Vamos Conhecer o Cerrado) → 200 10) Bag with project logo → 100 Information/promotion materials (2011) <ol style="list-style-type: none"> 1) 7 types of folder (project pamphlet) → 3000 2) RPPN × 2 types (for project → 2000, for entire country → 3000) 3) EESGT in general → 3000 4) PNNRP in general → 3000 5) Jalapão State Park in general → 3000 6) RIO VIVO (ASAS brochure) → 700 7) Calendar 2012 → 500 8) Atlas (Nov 2011) → 500 9) T-shirt → 300 10) Banner for each municipality → 4 types Web GIS system (database server and software) set up in ICMBio network in Jun 2011. JREC Project Homepage http://www.icmbio.gov.br/projetosalapao/ Setup manual and operation manual on Web GIS for ICMBio. 	<ul style="list-style-type: none"> Information/promotion materials (2012) <ol style="list-style-type: none"> 1) logo sticker (big) → 100 2) logo sticker (small) → 100 3) JOGO (card game) → 100 4) Bookmark leaf → 2000 5) Folder (PILOES) project pamphlet → 5000 6) Folder (MANUEL ALVES) pamphlet → 5000 7) Folder (Natural Monument/Public Consultation) pamphlet → 1000 8) Panel → 7 9) Educational video (MONA establishment procedure) → 100 10) Panel for CEIT → 8 types 11) Panel for São Felix → 3 types Atlas of JREC currently under revision, to be reissued in Jan 2013 Web GIS system transferred from ICMBio to SEPLAN in Jun 2012 New, updated Web GIS system (database server and software) set up in SEPLAN network, scheduled to hold an official inauguration ceremony on 9th Nov 2012 in Palmas http://corredorjalapao.seplan.to.gov.br/jalapao/ The characteristics of the Web-GIS is described as below. <ol style="list-style-type: none"> 1) Low-cost GIS system by making use of free software. 2) No specific GIS software necessary on users' PCs; 3) Data addition to data server possible by users; and 4) Data exports to users' PCs available SEPLAN's Project Homepage currently under development to be linked to the Web-GIS site above WebGIS manual for SEPLAN Visitor counter was set up for the Project-Web GIS JREC Project Homepage updated every two-three weeks as occasion of news release (e.g. 17 Oct 2012 on municipal environmental council wrap-up meeting), construction of English Homepage, and addition of supplement information data.
2. Institutional arrangements for the JREC management are structured	2.1 To hold periodical meetings of the project counterparts, discuss and promote the project management.	<ul style="list-style-type: none"> JCC <ol style="list-style-type: none"> 1st: 4 May 2010 2nd: 5 May 2011 (Approval of revised PDM) 3rd: 9 Dec 2011 (Report of Mid-term Review) Technical Kick-off Seminar on 13 May 2010 	<ul style="list-style-type: none"> JCC <ol style="list-style-type: none"> 4th: 17 May 2012 (Review of activities in 2011, Approval of 2012 Annual plan) 5th: 31 Oct 2012 (planned to review the terminal evaluation report) Periodical Counterpart Meeting <ol style="list-style-type: none"> 1) 8-9 May 2012 (Annual Action Plan for 2012 of Periodical CP meeting)

		<ul style="list-style-type: none"> • Technical Mid-term Seminar on 29 Nov 2011 • Periodical Counterpart Meeting <ol style="list-style-type: none"> 1) 12 May 2010 2) 1-2 Jun 2010 3) 19-26 Sep 2010 4) 1-2 Dec 2010 5) 28 Apr 2011 6) 6 Sep 2011 7) 30 Nov 2011 	<ol style="list-style-type: none"> 2) 18-19 Jul 2012 3) 28-29 Aug at Salvador, Bahia 4) 12-14 Nov 2012 (planned in Brasilia DF)
	2.2 To define roles and actions of concerned institutions in the reciprocity term.	<ul style="list-style-type: none"> • Meeting for the reciprocity term between ICMBio and State of Tocantins (17-18 May 2010 and 3, 5, 28 Apr 2011) 	<ul style="list-style-type: none"> • Discussion regarding Reciprocity Term between ICMBio and State of Bahia (28-29 Aug 2012) • Letter of request for approval of Reciprocity Term was dispatched from ICMBio to State Environmental Secretariat (11 Sep 2012)
	2.3 To obtain institutional consensus on reciprocity term among concerned institutions	<ul style="list-style-type: none"> • <u>The Reciprocity Term No 06/2011</u> for JREC management was signed by the President of ICMBio, the Secretary of MMA, the Secretary of SEMADES, the President of NATURATINS, the Secretary of SEPLAN, and the Governor of the State of Tocantins 29 Sep 2011 • Extract of the Reciprocity Term was published in the <i>Diário Oficial da União</i>, 7 October 2011 (DOU No. 194) <ol style="list-style-type: none"> 1) The introduction and implementation of Jalapão Corridor 2) The establishment of Coordinator Committee 3) The Reciprocity Term valid for 5 years 	
	2.4 To hold meetings among concerned institutions based on the rationale of reciprocity term.		<ul style="list-style-type: none"> • Meeting of <u>JREC Coordination Committee</u> based on the Reciprocity Term <ol style="list-style-type: none"> 1) 30 Nov 2011 (Seminar held with participants from Bahia State Government) 2) 8-9 May 2012 3) 18-19 Jul 2012 4) 28-29 Aug at Salvador, Bahia • <u>Promotion regarding the establishment of mosaic in the Jalapão region</u> <ol style="list-style-type: none"> 1) Working group and a mailing list were set up, including those concerned in Bahia, in May 2012. 2) Agreement on Mosaic participation signed by authorities of nine related protected areas in Aug 2012 3) Proposal to establish the "Jalapão Mosaic" prepared and submitted to MMA in Sep 2012. 4) The establishment of the Jalapão Mosaic is expected to be recognized by MMA in as early as Dec 2012
3. Capacity development of personnel from ICMBio and other institutions, focused on implementation needs of the JREC, are conducted.	3.1 To identify necessary themes for training the staff from ICMBio and concerned institutions with the Project.	<ul style="list-style-type: none"> • Hearing survey for needs assessment of ICMBio staff by a JICA consultant. • Preparation of a training program on 9-10 Nov 2010. 	
	3.2 To plan and implement trainings for ICMBio and concerned institutions with the Project	<ul style="list-style-type: none"> • GPS/GIS Training <ol style="list-style-type: none"> 1) 9-10 Nov 2010 2) 17-18 May 2011 for staff from NATURATINS, SEMADES and SEPLAN • Counterpart Training in Japan 1st. 10 - 26 Jun 2011 • RPPN technical seminar at NATURATINS 29-30 Sep 2011 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Training <ul style="list-style-type: none"> • Web-GIS Training for staff from NATURATINS, SEMADES and SEPLAN 25 May 2012 • Training on prevention and control of forest fire 16-17 Aug 2012. • Counterpart Training planned in Japan 2nd. 23 Nov - 9 Dec 2012 planned

			<p>2. Technical Exchange</p> <ul style="list-style-type: none"> Technical exchange meeting for ICMBio and officers of Tocantins on integrated ecosystem conservation, management of protected area and the establishment/management of Mosaic. <ol style="list-style-type: none"> 8-9 May 2012 18-19 Jun 2012 28-29 Aug 2012 12-14 Nov 2012 planned <p>3 Training on MONA in Palmas with participants from state counterpart institutions <ol style="list-style-type: none"> 5 Jul 2012 (draft MONA management plan was discussed) 11 Oct 2012 (consultation on the 1st draft MONA management plan) </p>			
	3.3 To follow up activities of the trained staff	<ul style="list-style-type: none"> Mini-course on institutional framework for Promoting a participatory biodiversity conservation - cases from the Philippines and India - was presented by a Japanese expert. <ol style="list-style-type: none"> 14 Oct 2011 at ICMBio (Brasilia) 17 Oct 2011 at Mateiros 20 Oct 2011 at Ponte Alta Mini-course on institutional framework for Promoting a participatory biodiversity conservation was presented by a Japanese expert <ol style="list-style-type: none"> 9 Nov 2011 at São Félix 10 Nov 2011 at Mateiros 14 Nov 2011 at Rio da Conceição 22 Nov 2011 at Ponte Alta Study Visit for the exchange of experience to Central Fluminense Mosaic. 12-16 Dec 2011 	<ul style="list-style-type: none"> Follow-up conducted through opportunities such as training, WS and seminars. <p>4 OJT</p> <ul style="list-style-type: none"> Capacity development of C/P and state counterparts on municipal environmental councils, environmental education, EESGT management) 			
	3.4 To hold seminars on the JREC conservation	<ul style="list-style-type: none"> Kick Off Seminar on 13 May 2010 RPPN technical seminar on 29-30 Sep 2011 Technical Mid-term seminar for JREC conservation on 29 Nov 2011 in Taquarusu, Tocantins 	<ul style="list-style-type: none"> Project Conclusion Seminar was held on 26 Oct 2012. Project final seminar planned to be held in Jan 2013 			
4. The linkage between local populations and institutions concerned with JREC conservation is strengthened	4.1 To communicate project information to local populations.	<ul style="list-style-type: none"> 7 types of folders generated Record of distribution maintained 	<ul style="list-style-type: none"> Revision of the technical orientation manual of ICMS Ecológico of Tocantins is under discussion 3 types of folder generated. (— see Activity 1.3) <ol style="list-style-type: none"> Folder (PILDES) project pamphlet → 5000 Folder (MANUEL ALVES) pamphlet → 5000 Folder (Natural Monument/Public Consultation) pamphlet → 1000 			
	4.2 To identify themes and methodologies suitable for capacitating local populations.	<ul style="list-style-type: none"> Field Reconnaissance (19 – 25 Sep 2010) to identify target communities and approaches. Hearing survey by JICA consultant (Ms. Selene) on municipal environmental council and analysis. 	<ul style="list-style-type: none"> Field Reconnaissance to re-identify target communities and approaches (Ponte Alta, São Félix, Rio de Conceição, Mateiros) 19-24 April 2012 Hearing survey to state counterpart institutions April 2012 			
	4.3 To implement training and other activities for local populations for the better management of the natural resources	<p>1) Municipal Environmental Councils</p> <ul style="list-style-type: none"> Training course on structure for environmental management (municipal environmental council) for total 10) participants (19 municipal officers, 14 city council member, 68 others) <ul style="list-style-type: none"> Almas (12-13 Jul 2011) Mateiros (19-20 May 2011) Ponte Alta do Tocantins (30-31 May 2011) Rio da Conceição (2-3 Jun 2011) 	<p>1) Capacity Development of COMATUR/COMTURMA on planning and implementation through the development of model projects</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Municipality</th> <th>Current Status of model projects</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ponte Alta</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> WS 1) 20-21 Jun 2012 2) 18 Jul 2012 3) 6-7 Aug 2012 4) 21 Aug 2012 (Plan was drafted) 5) 29 Sep 2012 (Draft plan was discussed) </td> </tr> </tbody> </table>	Municipality	Current Status of model projects	Ponte Alta
Municipality	Current Status of model projects					
Ponte Alta	<ul style="list-style-type: none"> WS 1) 20-21 Jun 2012 2) 18 Jul 2012 3) 6-7 Aug 2012 4) 21 Aug 2012 (Plan was drafted) 5) 29 Sep 2012 (Draft plan was discussed) 					

- São Félix do Tocantins (16-17 May 2011)
- Technical meeting for a proposal to revise the law on regional environmental councils.
 - Matciros (17 Oct 2011)
 - Ponte Alta do Tocantins (11 Nov 2011)
 - Rio da Conceição (10 Aug 2011)
 - São Félix do Tocantins (15 Sep 2011)
 - Advice to environment and tourism division for the establishment of regional environmental council
 - Ponte Alta do Tocantins (21 Oct 2011)
 - Rio da Conceição (14 Oct 2011)
 - São Félix do Tocantins (9 Nov 2011)
 - Planning meeting for the regional environmental council
 - Matciros (10 Nov 2011)
 - Ponte Alta do Tocantins (22 Nov 2011)
 - Rio da Conceição (14 Nov 2011)
 - São Félix do Tocantins (9 Nov 2011)
 - Memorandum of Agreement signed among the Project, CAOMA, NATURATINS and SEMADES for cooperation.

2) Legislation and Statute at the Municipality Level (Apr 2010 – Dec 2011)

Legal Act	Ponte Alta	Rio da Conceição	São Félix	Matciros
Preparation meeting	3 times	3 times	3 times	3 times
Revision of municipal environmental ordinance	Oct 2011*	N/A	N/A	N/A
Decree on the appointment of council member	Oct 2011	Oct 2011	Oct 2011	Not yet
Statute of the Council	Nov 2011	Nov 2011	Nov 2011	Not yet
Law on SMUC	N/A	N/A	Nov 2011	N/A
Law on the alternatin of the Environmental Fund	N/A	Oct 2010	N/A	N/A
Law on the Reform of COMATUR	N/A	Oct 2010	N/A	N/A
Number of legislation and Statute	3	4	3	0

* The municipal environmental council in Ponte Alta covered Environment, Tourism and Agriculture. The revision was for the Agriculture to be separated from the Council, thus making it COMATUR.

	<ul style="list-style-type: none"> • The Re-vitalization Plan of Urban Rivers was finalized on 20 Oct 2012.
Rio da Conceição	<ul style="list-style-type: none"> • WS <ol style="list-style-type: none"> 1) 22-23 Jun 2012 2) 16 Jul 2012 3) 8-9 Aug 2012. 4) 22 Aug 2012 5) 27-28 Sep 2012 • The Promotion Plan of Natural Touristic Attractions was finalized on 9 Oct 2012 • Brochure on environment, banner and panel were developed (→ see Activity 1.3)
Matciros	<ul style="list-style-type: none"> • WS <ol style="list-style-type: none"> 1) 1-2 Jul 2012 2) 29-31 Jul 2012 3) 20 Aug 2012 4) 6-7 Sep 2012 5) 25 Sep 2012 • 1st draft Plan for the Promotion of Touristic Information and Exposition Center (CEIT) was prepared on 27 Sep 2012. • 8 panels were developed and have been put for exhibition at CEIT since Oct 2012 (→ see Activity 1.3)
São Félix	<ul style="list-style-type: none"> • WS <ol style="list-style-type: none"> 1) 5 May 2012 (Public consultation for the establishment of MONA) 2) 1-2 Jul 2012 (Awareness raising on MONA with COMTURMA) 3) 7 Jul 2012 (Signing of the municipal decree of MONA) 4) 1-2 Aug 2012 (Training of MONA management plan) 5) 24 Sep 2012 (Preparatory discussion on public meeting) 6) 13 Oct 2012 (Public meeting on 1st draft of MONA management plan) • The Natural Monument (MONA) along Soninho River was established on 2 July 2012 by the signing of the mayor on the Decree No 034/2012. • Management plan for MONA being prepared.

2) Capacity development of COMATUR/COMTURMA on organizational management.

Municipality	Activities
Ponte Alta	<ul style="list-style-type: none"> • (→ see the WS conducted above) • Re-nomination of COMATUR after the resignation of mayor (May 2012). • The board members (chairman, vice chairman, secretary) were re-elected. Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted 7 Aug 2012 • Training for organization management of COMATUR such as organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings 21 Aug 2012 • WS on how to prepare a public meeting 29 Sep 2012
Rio da	<ul style="list-style-type: none"> • (→ see the WS conducted above)

			<p>Conceição</p> <ul style="list-style-type: none"> Re-nomination of COMATUR after the resignation of mayor (Mar 2012). The board members (chairman, vice chairman, secretary) were re-elected. Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted 8 Aug 2012 Training for organization management of COMATUR such as organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings. 22 Aug 2012 WS on how to prepare a public meeting 27-28 Sep 2012 <p>Mateiros</p> <ul style="list-style-type: none"> COMATUR was established by the official designation ceremony, acceptance by the nominees of COMATUR members 30 Jul 2012 The council members (chairman, vice chairman, secretary) were selected. Training to raise awareness on the role/responsibility of COMATUR was conducted. 29-30 Jul 2012. Training for organization management of COMATUR such as organizing plenary meetings and keeping minutes of meetings. 20 Aug 2012 WS on how to prepare a public meeting 25 Sep 2012 <p>São Félix</p> <ul style="list-style-type: none"> Monitoring and follow-up on organizational management was conducted 1-2 Jul 2012 1 Aug 2012 WS on how to prepare a public meetings. 24 Sep 2012 															
<p>3) Capacity Development of COMATUR/COMTURMA on financial management – utilization of <u>ICMS Ecológico</u></p> <ul style="list-style-type: none"> Raising awareness training of ICMS Ecológico at the municipality level in collaboration with state organizations - SEMADES, NATURATINS, MPE(CAOMA) - for utilizing the budget of ICMS Ecológico (environmental conservation grant, a source of public finance to support COMATUR activities.) 16 Jul – 9 Aug 2012 (4 municipalities) Training WS on ICMS Ecológico for COMTURMA and municipalities in collaboration with state organizations - SEMADES/PEGAM, NATURATINS, MPE (CAOMA), Secretary of Finance, COEMA. 30 Aug 2012 in Palmas <u>Commitment Term</u> was officially signed between mayors and COMATUR/COMTURMA at four municipalities to agree on the following percent of ICMS Ecológico for the use of COMATUR, COMTURMA. 																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>Municipality</th> <th>Date of Signature</th> <th>Percent</th> <th># of the council member</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ponte Alta</td> <td>9 Oct 2012</td> <td>50%</td> <td>14 (+14 deputies)</td> </tr> <tr> <td>Rio da Conceição</td> <td>10 Oct 2012</td> <td>30%</td> <td>12 (+12 deputies)</td> </tr> <tr> <td>Mateiros</td> <td>11 Oct 2012</td> <td>20%</td> <td>14 (14 deputies)</td> </tr> </tbody> </table>			Municipality	Date of Signature	Percent	# of the council member	Ponte Alta	9 Oct 2012	50%	14 (+14 deputies)	Rio da Conceição	10 Oct 2012	30%	12 (+12 deputies)	Mateiros	11 Oct 2012	20%	14 (14 deputies)
Municipality	Date of Signature	Percent	# of the council member															
Ponte Alta	9 Oct 2012	50%	14 (+14 deputies)															
Rio da Conceição	10 Oct 2012	30%	12 (+12 deputies)															
Mateiros	11 Oct 2012	20%	14 (14 deputies)															

3) Environmental education

- Development of JREC project environmental education action plan (17 Feb 2011), 'ASAS', to provide public school teachers of Rio da Conceição and Mateiros with 100 hour training course
- 1st phase (preparation of action plan, Aug 2011)
- 2nd phase (implementation of the action plan, Aug-Nov 2011)
- 3rd phase (completion certificate, Nov-Dec 2011)

- | | | | |
|-----------|-------------|-----|------------------|
| São Félix | 16 Oct 2012 | 25% | 8 (+ 8 deputies) |
|-----------|-------------|-----|------------------|
- Revision of the technical orientation manual of ICMS Ecológico of Tocantins is under discussion
 - 4) Capacity development of the Council of EESGT on institutional management
 - EESGT staff regularly visited all five municipalities concerned (Rio da Conceição, Mateiros, Ponte Alta, Almas, Formosa de Rio Preto) and facilitated the establishment of the EESGT Council
 - The Council of EESGT was officially registered (approved) by ICMBio's institutional ordinance No 45/2012. The Council consists of 22 members from relevant municipalities.
 - 4 Apr 2012
 - WS for management plan of EESGT
 - 1-3 Aug 2012 in Palmas
 - 1st WS conducted on the development of internal regulation, hosted by ICMBio, attended by state organizations (SEMADES, NATURATINS) and staff of municipalities nearby.
 - 18-19 Aug 2012 in Dianópolis
 - 2nd WS conducted on the development of internal regulation.
 - 19-21 Oct 2012 in Ponte Alta
 - 5) Environmental Education (ASAS)
 - Training of teachers for environmental education
 - 19-21 Aug 2012 in São Félix
 - 23-25 Aug 2012 in Ponte Alta
 - Teachers who were trained in 2011 (Mateiros and Rio da Conceição) have been implementing the plan of environmental education developed in 2011.
 - ICMBio HQ hosted an exchange meeting among ICMBio's 4 environmental education programs in Brazil.
 - 8-10 Aug 2012 in Brasília
 - Technical exchange forum was conducted for teachers who were trained in Ponte Alta, Rio da Conceição, Mateiros and São Félix, and COMTURMA member.
 - 22-23 Oct 2012 in Rio da Conceição

6) Legislation and Statute at the Municipality Level (Dec 2011 - Oct 2012)

Legal Act	Ponte Alta	Rio da Conceição	São Félix	Mateiros
Decree on the appointment of council members	Done before the mid-term review	Done before the mid-term review	Done before the mid-term review	Mar 2012
Statute of the Council	Done before the mid-term review	Done before the mid-term review	Done before the mid-term review	Jul 2012
Law on SMUC	N/A	N/A	Done before the mid-term review	N/A
Law on Creation of MONA	N/A	N/A	Jul 2012	N/A
Number of	0	0	1	2

			legislation and Statute				
	4.4 To follow up activities of the trained local populations	-	-	-	-	-	-
5. The strategic plan/guideline for introducing and managing JREC is developed.	5.1 To identify strategies for introducing and managing JREC.	<ul style="list-style-type: none"> Biodiversity Indicators for fauna and flora "Diagnosis and Justification" conducted in Jun-Sep 2011 Characteristics: biodiversity, rationale for conservation, sequence of ecosystem Strategic Priority Areas: Serra Geral, Parnaiba River basin, etc 	-	-	-	-	-
	5.2 To define methodologies and actions for introducing and managing JREC.	<ul style="list-style-type: none"> "Strategic Action Plan" was discussed at the Technical Mid-term seminar on 29 Nov 2011 in Taquarussu, Tocantins Contents: vision, mission, common objectives, action plan Participants: SEPLAN, NATURATINS, INEMA (Bahia), SEMA (Bahia), SEMADES, ADTUR, ICMBio (EESGT, PNNRP), Conservation International 	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> Regarding the Strategic Plan, Part I – diagnosis and justification – and Part II – action plan – are being finalized Preparation of Strategic Plan Part III has started The Strategic Plan Part III will be discussed in the Workshop on 12-14 Nov 2012 Mr. Allan (ICMBio), Mr. Asano (JET), Mr. Leonardo (INEMA-BA) and Mr. Marcos (JICA consultant) will finalize the Strategic Plan after the Workshop on 12-14 Nov 2012
	5.3 To develop the strategic plan/guideline for introducing and managing JREC with participation of concerned institutions.	-	-	-	-	-	-

Handwritten signature/initials

3.3. プロジェクト終了に際しての自己評価(2013年10月)

評価グリッド(評価5項目に沿った情報)

Criteria	Evaluation Question	Source	Information and data (from reports, questionnaire, Interview, and hearing)	
			at the time of the Terminal Evaluation (Oct 2012)	additions at the end of the extension period (Oct 2013)
1 Relevance	1-1 New development of laws, national policies, strategic documents associated with biodiversity conservation in Brazil.	MMA	<ul style="list-style-type: none"> Ecological Corridor is an instrument of environmental management, defined by the National Nature Conservation Units - SNUC (Law 9985 of Jul 18, 2000) - to ensure the ecological integrity by connecting conservation units, thus allowing the movement of species between these protected areas. The implementation of Ecological Corridor, however, are carried out by ICMBio pursuant to local conditions in the absence of comprehensive guideline. MMA is promoting the establishment of Mosaic and the proposal of the “Jalapão Mosaic” has a good quality. MMA is expecting it to become the 14th Mosaic in the country. The Cerrado is rich in biodiversity and recognized as a “hotspot”, but nowadays it is threatened by the agri-business development (soybean production). As such, it is particularly significant for the Bahia to have joined the “Jalapão Mosaic”. The average deforestation per year (2002-2008) in the Cerrado is 14,000km², twice the size of the Amazon (6,000km²) 	<ul style="list-style-type: none"> The application for the Jalapão Mosaic to be recognized as 14th Mosaic in the country was sent to MMA in September 2012. However, the recognition is yet to be done because of MMA’s internal disorientation on the revision of mosaic decree. JICA and ICMBio have officially claimed to confirm the status; however MMA has not yet clarified.
	1-2 Change of mandate/structure and staff of implementing agencies that may affect the project implementation.	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> Change of mandate of the chief of EESGT in 2010 to improve the project execution. DMOC received two environmental analysts to improve the structure of the Project. New Project Director, Mr. Pedro Menezes, was assigned in Jan 2012. New Project Director, Ms. Giovanna Palazzi, was assigned in Apr 2013. 	<ul style="list-style-type: none"> New Biodiversity Director of MMA was assigned in Jan 2013 who congested all the ongoing procedures on the new Mosaic recognition without consensus from ICMBio. So far, he did not give any clarification on this confusing status. New Project Director, Ms. Giovanna Palazzi, was assigned in Apr 2013. Two environmental analysts of DMOC were transferred to other divisions, and one environmental analyst was assigned to DMOC.
	1-3 Alignment of the Project with the needs and expectation of implementing agencies.	MMA	<ul style="list-style-type: none"> MMA gives a priority to the Cerrado conservation, which is promoted by such policies as: <ol style="list-style-type: none"> 1) Establishment of “Sustainable Cerrado Program” in Nov 2005 2) Adoption of “The Action Plan for Prevention and Control of Deforestation and Fires in Cerrado” in Sep 2010. The MMA intends to incorporate the example of the “Jalapão Mosaic” when the Plan is revised. The importance of conserving the Cerrado remain unchanged for ICMBio and MMA since the beginning of the Project. It is also important for the São Felix to have created MONA as it proves that a municipality can create a protect area. MMA consider the mechanism of the “Jalapão Mosaic” to become a model example that can be applied to the other 13 Mosaics in the country. The mechanism of the “Jalapão Mosaic” should be established during the Project. If the project is extended, a main activity of the period would be an initial operation, management and monitoring of the newly established “Jalapão Mosaic” 	<ul style="list-style-type: none"> Under the leadership of the new Biodiversity Director of MMA, previous discussions/agreement for “Jalapão Mosaic” have been all suspended without clarification of reason.
ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> There are already 13 Mosaics in Brazil, and three (No 1,6 and 8) are situated in the Cerrado. The Jalapão mosaic is going to be the largest mosaic (3,280,045 ha) when registered. The “Jalapão Mosaic”, once officially established, can be an exemplary mosaic in that it engages broad range of stakeholders at the municipality, state and federal government level, and that its Strategic Plan is developed in a participatory and consultative way with these stakeholders. All the components are of great value to the management of protected areas. <ol style="list-style-type: none"> 1) Generation of information and data necessary for the management of the ecological corridor 2) Creation of Jalapão Mosaic – strengthening for integrated management between protected areas and institutions. 3) Training of the team (staff) for the management of the ecological corridor 			

			<ul style="list-style-type: none"> 4) Formation of environmental councils (municipal protected areas and mosaic) 5) Creation of a program for environmental education 6) Definition of priority areas for conservation and definition of strategies necessary for the ecological sustainability of the Jalapão region. <ul style="list-style-type: none"> • The “Jalapão Mosaic” is well developed in its idea and plan, but its mechanism still need to begin operation. The “Jalapão Mosaic” can be a good practice for other mosaics only through its actual implementation. 	
	1-4 Priority areas of the Government of Japan for the development assistance to Brazil.	JICA Brazil Office	<ul style="list-style-type: none"> • Environment is one of the five prioritized areas of Japanese official assistance to Brazil (the other four are agriculture, industry, health, and social development). • JICA Brazil’s Rolling Plan gives a priority to the environmental conservation. Brazil is one of the richest countries in biodiversity with Amazon, Pan Tanal and Cerrado, but its valuable flora & fauna are threatened by the enlargement of arable land and pasturing. Also, LULUCF accounts for three quarters of Brazil’s GHG emission, .and hence forest preservation is important in terms of climate change as well. As such, in the Rolling Plan, the Project is included in the Climate Change Program under the priority area of environmental conservation 	
2 Effectiveness	2-1 Attainment level of output 1 (Information for JREC management is collected, analyzed and organized).	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> • Outstanding activities: <ol style="list-style-type: none"> 1) Complete the final version of ATAS – some maps are still being developed. 2) Finish installing the project Web-GIS in SEPLAN-TO 	<ul style="list-style-type: none"> • SEPLAN’s homepage is currently hosting the new, updated Web-GIS system. http://corredorJalapão.seplan.to.gov.br/Jalapão/
		SEPLAN	<ul style="list-style-type: none"> • SEPLAN’s homepage is currently being modified to be linked to the new, updated Web-GIS system in SEPLAN network which was already set up. http://corredorJalapão.seplan.to.gov.br/Jalapão/ • An official inauguration ceremony of the Web-GIS is scheduled on 1 Nov 2012 in Palmas. 	
		JET	<ul style="list-style-type: none"> • Web-GIS database was transferred from ICMBio to SEPLAN on 6 Jul 2012. This system set up by the Project to collect and provide information of Jalapão is to be managed by the State government of Tocantins and not by ICMBio. • The change of the title of the server provided by JICA is to be carried out from ICMBio to the state government of Tocantins. • Regarding means of information sharing and dissemination, not only Project Homepage/Web-GIS but also printed materials are important because internet are not available at some communities. 	
	2-2 Attainment level of output 2 (Institutional arrangements for JREC management are structured).	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> • Outstanding activities: <ol style="list-style-type: none"> 1) Signature of cooperation term between ICMBio and Bahia State 2) Signature of the act for the creation of the “ Jalapão Mosaic” 3) Establishment and training of the Council of the “Jalapão Mosaic” on the developed Strategic Plan → This is one the main reason the Project requires extension by six more month. 	
		JET	<ul style="list-style-type: none"> • The Reciprocity Term was signed on 29 Sep 2011. JREC has been taken into legislation by submitting a proposal to MMA in Sep 2012 to establish the “Jalapão Mosaic”. 	
2-3 Attainment level of Output 3 (Capacity of staff in ICMBio and other institutions are developed for JREC implementation).		ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> • Outstanding activities: <ol style="list-style-type: none"> 1) Training in Japan was conducted in Nov 2012 2) Web-GIS training for SEPLAN staff 3) Final exchange knowledge training between the staff of Jalapão Mosaic and Grande Sertão Veredas Mosaic. 4) Counterpart meeting 2012 and 2013 5) Final Seminar 2013. 	
		JET	<ul style="list-style-type: none"> • Training, technical exchange, study visits have been conducted 20 times by the time of Terminal-evaluation. Also, seminars open to the public has been conducted 4 times as well. 	
2-4 Attainment level of Output 4 (The linkage between local populations and institutions is strengthened for JREC conservation).		ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> • Outstanding activities: <ol style="list-style-type: none"> 1) Complete the management plan of the municipality protected area (MONA) 2) Finish the São Felix cartographic database (CAR) 	
		JET	<ul style="list-style-type: none"> • 11 formations of municipal legislation were prompted by the Project to re-establish COMATUR (Mateiros, Ponte Alta and Rio da Conceição) and COMTURMA (São Felix) as well as to create MONA. • The MONA, created on 7 July 2012 in São Felix by the signing of the decree No 034/2012, is the first municipal conservation units in the State of Tocantins, which will compose the integral protection of the 	

		<p>“Jalapão Mosaic”.</p> <ul style="list-style-type: none"> A video image summarizing the experience of MONA creation in São Felix was produced in Oct 2012 in hopes of extending the SMUC to other municipalities. Before the project, ICMBio’s office for EESGT in Rio da Conceição was not really recognized by the local populations. With the implementation of the Project, the EESGT office, having promoted environmental education, the establishment of EESGT Council, and the capacity development activities for COMATUR, has formed a good working relationship with concerned institutions for the conservation of EESGT. 																					
	Municipalities	<ul style="list-style-type: none"> Regarding the ICMS Ecologico, the Commitment Term was signed between the municipality and COMATUR/COMTURMA to agree on the following percent of ICMS Ecologico for the use of COMATUR/COMTURMA <table border="1"> <thead> <tr> <th>Municipality</th> <th>Date of Signature</th> <th>Percent</th> <th># of the council member</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ponte Alta</td> <td>9 Oct 2012</td> <td>50%</td> <td>14 (+14 deputies)</td> </tr> <tr> <td>Rio da Conceição</td> <td>10 Oct 2012</td> <td>30%</td> <td>12 (+12 deputies)</td> </tr> <tr> <td>Mateiros</td> <td>11 Oct 2012</td> <td>20%</td> <td>14 (14 deputies)</td> </tr> <tr> <td>São Félix</td> <td>16 Oct 2012</td> <td>25%</td> <td>8 (+ 8 deputies)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> Activity idea discussed at COMATUR/COMTURMA using the ICMS-Ecologico: <ul style="list-style-type: none"> São Félix (full-time fire fighters, development of waste disposal plan, nursery for tree seedlings, env. education, etc.) Mateiros (restoration of forest, full-time fire fighters, rural water supply with Tocantins Sanitation Agency, etc.) Ponte Alta (establishment of SMUC, waste disposal, etc.) Rio da Conceição (reforestation, conservation of urban rivers, promotion of tourism, prevention of fire, waste disposal, etc.) Project conclusion (Output 4) seminar is held on 26 Oct 2012 in Palmas with participants from 6 municipalities and state counterparts to review activities and results, as well as to discuss issues for the promotion of JREC. 	Municipality	Date of Signature	Percent	# of the council member	Ponte Alta	9 Oct 2012	50%	14 (+14 deputies)	Rio da Conceição	10 Oct 2012	30%	12 (+12 deputies)	Mateiros	11 Oct 2012	20%	14 (14 deputies)	São Félix	16 Oct 2012	25%	8 (+ 8 deputies)	
Municipality	Date of Signature	Percent	# of the council member																				
Ponte Alta	9 Oct 2012	50%	14 (+14 deputies)																				
Rio da Conceição	10 Oct 2012	30%	12 (+12 deputies)																				
Mateiros	11 Oct 2012	20%	14 (14 deputies)																				
São Félix	16 Oct 2012	25%	8 (+ 8 deputies)																				
2-5 Attainment level of Output 5 (The strategic plan/guideline for managing JREC is developed).	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> Outstanding activities: <ol style="list-style-type: none"> 1) Finish and publish the Jalapão Mosaic Strategic Plan 																					
	JET	<ul style="list-style-type: none"> Strategic Document for the “Jalapão Mosaic” part I (diagnosis and justification) and part II (action plan) are currently being refined, whereas the preparation of part III (operational guideline) has just started. A workshop to discuss the operational guideline is scheduled on 6-8 Nov 2012. Mr. Allan (ICMBio), Mr. Asano (JET), Mr. Leonardo (INEMA-BA) and Mr. Marcos (JICA consultant) will complete the Strategic document on 8-10 Nov 2012. 																					
2-6. Prospect of the Project Purpose (Institutional capacity of ICMBio is strengthened) to be achieved by the end of project period, March 2013.	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> The Project need six more month to fully achieve its Purpose. Once the proposal for the “Jalapão Mosaic” is approved, it is required to establish the management council and to prepare the strategic plan. The Council is to represent broad range of stakeholders from municipalities, state and federal governments associated with the nine protected areas composing the “Jalapão Mosaic”. The representation of a good cross section of concerned stakeholders in the Council based on legislation will be a significant feature of the “Jalapão Mosaic”, and can lead to a more effective mechanism for biodiversity conservation. 																					
	JET	<ul style="list-style-type: none"> With the reasons below, the Project is most likely to achieve its Purpose by the end of Project, Apr 2013. There are two indicators set for the project purpose: 1) the consensus on the Strategic Plan for the “Jalapão Mosaic”; 2) and the development of mechanism to promote the biodiversity conservation in Jalapão region. As for 1), the Strategic Plan has been developed through a participatory and consultative process (e.g. workshop and seminar). It is regarded that basic consensus on the Strategic plan has already been formed through the Reciprocity Term (Sep 2011) as well as the agreement and development of proposal on the “Jalapão Mosaic” (Aug-Sep 2012). Part I (diagnosis and justification) and Part II (action plan) of the Strategic Plan will be completed by the refinement of existing documents, and Part III is scheduled to be discussed in a workshop planned on 6-8 Nov 2012. Person who are responsible to complete the 																					

			<p>Strategic Plan are already identified (Mr. Allan from ICMBio, Mr. Asano from JET, Mr. Leonardo from INEMA-BA, and Mr. Marcos from JICA consultant). Hence, it is presumed that the Strategic Plan is developed and agreed upon by the end of the Project.</p> <ul style="list-style-type: none"> As for 2), with the launching of the Web-GIS (expected in Nov 2012) and the development of the Strategic Plan (expected by Mar 2013), it can be concluded that the mechanism is established for the Jalapão conservation. Once the Proposal of the “Jalapão Mosaic” is approved, the mechanism is further consolidated. It is important to point out that attainment of Output 2 (institutional arrangements) and Output 4 (engagement of local population and municipalities) that are the basis upon which the intended mechanism is built. 	
3 Efficiency	3-1 Clarity and understanding of PDM, the overall plan of the project.	JET	<ul style="list-style-type: none"> PDM was revised on 5 May 2011. Activities have since been conducted according to the revised PDM and PO, and there has been no notable delay of implementation. 	
		ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> PDM is regarded as a good tool to design and monitor a project by the counterpart. Accordingly, action plan in the “Jalapão Mosaic” Strategic Plan is framed using PDM format. Initial PDM 	
	3-2 Input of Japanese side – dispatch of experts.	JET	<ul style="list-style-type: none"> R/D was signed on 20 Nov 2009. The Project started with the dispatch of Japanese experts in April 2010. 	
		Site visit	<ul style="list-style-type: none"> Three Japanese experts have learned and spoken Portuguese to some extent, which apparently contributes to a casual and better communication with Brazilian counterparts and local populations. For example, the chief of JET delivered his opening speech in Portuguese at the conclusion seminar on 26 Oct 2012 in Palmas, and it was received with applause by the audience. 	
		ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> The dispatch of JET is a repeated short-term visit. Decision-making on matters concerning project implementation was sometimes difficult during the absence of JET. Full-time presence of JET leader (all year long) would be much better for the best operation of the Project. 	
	3-3 Input of Japanese side – training in Japan.	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> Trainings (subject/curriculum, duration & timing, selection of trainees) are good. 	
		JET	<ul style="list-style-type: none"> Federal/State counterpart who participated in a training in Japan realized the importance of participation of local populations in environmental management (e.g. the establishment of environmental council). This experience has encouraged them to be engaged in participatory and consultative approach of the Project. 	
	3-4 Input of Japanese side – provision of equipment.	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> Provision of equipment (specification, quantity, timing of delivery) is good. 	
	3-5 Input of Brazilian side – assignment of counterpart personnel.	JET	<ul style="list-style-type: none"> The cooperation and coordination among federal/state government organizations, municipalities, local populations (teachers) and partners organization (university and NGO) are significantly improved through project implementation. 	
3-6 Input of Brazilian side – disbursement for project operation.	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> Provided from ICMBio only. Not from state governments (SEMADES, NATURATINS, and SEPLAN) 		
3-7 Communication (periodical and daily) for project coordination – between ICMBio and JET.	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> The Project faced some difficulties in making decisions in the absence of the JET leader. 		
	JET	<ul style="list-style-type: none"> JCC has been held 4 times: 4 May 2010, 5 May 2011, 9 Dec 2011, 15 May 2012. 		
3-8 Communication (periodical and daily) for project coordination – among Brazilian organizations.	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> ICMBio not having office in Palmas-TO and Salvador-BA has caused some difficulties in project implementation. 		
3-9 Methods and contents of technology/knowledge	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> Technology transfer was good. 		

	transfer from JICA experts to ICMBio counterpart and partner organizations.																																																										
	3-10 promoting/hindering factors that may have affected the Project implementation.	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> ICMBio doesn't have a branch office in Palmas where state counterparts (SEMADES, NATURATINS and SEPLAN) are based. JET, stationed in Palmas, has ensured the coordination and cooperation between ICMBio and state counterparts in Project implementation. This has been a big promoting factor for effective and smooth project execution. 																																																								
		JET	<ul style="list-style-type: none"> The Project ranges over Brasília (ICMBio), Palmas (State government of Tocantins) and municipalities in the Jalapão region. The distance among these Project sites cost time and efforts of those who are involved in the Project (e.g. travel by car of local people to participate training held in other municipalities and Palmas) 																																																								
4 Impact	4-1 Prospect of achieving the overall goal (ecosystem conservation of Jalapão region is enhanced through the introduction of the ecological corridor) in 3 to 5 years after the termination of Project in March 2013.	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> The overall goal will be fully achieved. It is expected that the "Jalapão Mosaic" is established during the Project period, by Apr 2013. The continuation and development of activities associated with the Jalapão Mosaic have a good potential to achieve the overall goal. Conservation Units composing the Jalapão Mosaic <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>Name</th> <th>Manager</th> <th>Registration Number in the National Conservation Unit System</th> <th>Area (ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Parque Nacional das Nascentes do Rio Parnaíba (PNNRP)</td> <td>ICMBio</td> <td>000.00.0156</td> <td>729,814</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Estacao Ecologica Serra Geral do Tocantins (EESGT)</td> <td>ICMBio</td> <td>0000.00.0076</td> <td>716,306</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Area de Protecao Ambiental (APA) da Serra Tabatinga</td> <td>ICMBio</td> <td>Not registered yet</td> <td>61,000</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>APA do Rio Preto</td> <td>INEMA</td> <td>000.29.1016</td> <td>1,146,162</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Estacao Ecologica (EE) do Rio Preto</td> <td>INEMA</td> <td>0000.29.0898</td> <td>4,536</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>APA do Jalapão</td> <td>NATURATINS</td> <td>0000.17.1499</td> <td>461,730</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Parque Estdual (PE) do Jalapão</td> <td>NATURATINS</td> <td>0000.17.1486</td> <td>158,885</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Reserva Particular do Patrimônio Natural (RPPN) Catedral do Jalapão</td> <td>Private (Mr. Lucio-Favio)</td> <td>0000.00.2082</td> <td>326</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>MONA dos Canyons e Corredeiras do Rio do Sono</td> <td>Prefecture of São Félix do Tocantins</td> <td>2015.17.1792</td> <td>1,286</td> </tr> <tr> <td colspan="4">TOTAL</td> <td>3,280,045</td> </tr> </tbody> </table>	No	Name	Manager	Registration Number in the National Conservation Unit System	Area (ha)	1	Parque Nacional das Nascentes do Rio Parnaíba (PNNRP)	ICMBio	000.00.0156	729,814	2	Estacao Ecologica Serra Geral do Tocantins (EESGT)	ICMBio	0000.00.0076	716,306	3	Area de Protecao Ambiental (APA) da Serra Tabatinga	ICMBio	Not registered yet	61,000	4	APA do Rio Preto	INEMA	000.29.1016	1,146,162	5	Estacao Ecologica (EE) do Rio Preto	INEMA	0000.29.0898	4,536	6	APA do Jalapão	NATURATINS	0000.17.1499	461,730	7	Parque Estdual (PE) do Jalapão	NATURATINS	0000.17.1486	158,885	8	Reserva Particular do Patrimônio Natural (RPPN) Catedral do Jalapão	Private (Mr. Lucio-Favio)	0000.00.2082	326	9	MONA dos Canyons e Corredeiras do Rio do Sono	Prefecture of São Félix do Tocantins	2015.17.1792	1,286	TOTAL				3,280,045	
No	Name	Manager	Registration Number in the National Conservation Unit System	Area (ha)																																																							
1	Parque Nacional das Nascentes do Rio Parnaíba (PNNRP)	ICMBio	000.00.0156	729,814																																																							
2	Estacao Ecologica Serra Geral do Tocantins (EESGT)	ICMBio	0000.00.0076	716,306																																																							
3	Area de Protecao Ambiental (APA) da Serra Tabatinga	ICMBio	Not registered yet	61,000																																																							
4	APA do Rio Preto	INEMA	000.29.1016	1,146,162																																																							
5	Estacao Ecologica (EE) do Rio Preto	INEMA	0000.29.0898	4,536																																																							
6	APA do Jalapão	NATURATINS	0000.17.1499	461,730																																																							
7	Parque Estdual (PE) do Jalapão	NATURATINS	0000.17.1486	158,885																																																							
8	Reserva Particular do Patrimônio Natural (RPPN) Catedral do Jalapão	Private (Mr. Lucio-Favio)	0000.00.2082	326																																																							
9	MONA dos Canyons e Corredeiras do Rio do Sono	Prefecture of São Félix do Tocantins	2015.17.1792	1,286																																																							
TOTAL				3,280,045																																																							
		JET	<ul style="list-style-type: none"> There are some outputs produced outside of the Project activities that are dictated by PDM. <ol style="list-style-type: none"> With the initiative of EESGT/ICMBio and CEULP/ULBRA (Lutheran University Center of Palmas/Lutheran University of Brazil), a memorandum of three-year cooperation to promote environmental education was signed in April 2011 between the two entities. ICMBio and the State of Bahia signed a memorandum for cooperation. ICMBio and the State of Tocantins signed a memorandum for cooperation. Working relationship between the State of Bahia and Tocantins at the technical level is promoted through the implementation of the Project. This is significant as the Bahia side of the Jalapão region is more threatened by the development of agri-business. The awareness on environmental conservation and the effectiveness of integrated protected areas have been raised by the Project. 																																																								
	4-2 Ongoing/possible collaborations, if any,	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> "Prevention, control and monitoring of forest fires and illegal burning in the Cerrado" (2012-2015) for the Cerrado of Jalapão and for the Mosaico Rio Doce by BMU/GIZ/KfW 																																																								

	with multi/bi-lateral development partners (UN, NGO, civil society, and private sector)		<ul style="list-style-type: none"> 1) Improvement of the management of protected areas 2) Reduction of forest fires in Jalapão 3) Development of technology for automatic quantification of burned areas <ul style="list-style-type: none"> • “Sustainable Cerrado Initiative Program” (2010-2013) by World Bank <ul style="list-style-type: none"> 1) Creation of protected areas and Research • ICMBio is also carrying out a technical cooperation for Mosaico do Baixo Rio Negro with Amazon State and for Mosaico Extremo Sul with Bahia State. 	
	4-3 Any positive/negative impact brought about by the Project (Policy and research development, Poverty reduction, environmental protection, and gender equality.)	JET ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> • No negative impacts were mentioned or observed throughout the Project implementation. 	<ul style="list-style-type: none"> • The capacity development activities of an environmental council are due to be developed for the whole State of Tocantins as a model case of "improvement of local conservation governance." • Personal exchange started between the State of Bahia, and the State of Tocantins, and the human network of the Jalapao-wide was formed. • The procedure which installs a new protected area in the State of Bahia where agricultural development pressure is the highest has started.
5 Sustainability	5-1 Prospect from institutional viewpoint (Legislation and policies, Rule and regulation, standard operational procedures, Responsible organization and division, Participation of stakeholders)	ICMBio JET	<ul style="list-style-type: none"> • From the institutional point of view, all the five Project outputs are likely to be sustained. • Activities of the Project are regarded as a part of the role/responsibility of ICMBio's daily work. 	
	5-2 Prospect from technical viewpoint (Technology/knowledge and its update, Deliverables and its maintenance, Educational materials Training opportunities)	ICMBio JET	<ul style="list-style-type: none"> • From the technical point of view, all the five Project outputs are likely to be sustained. • The capacity development of COMATUR for the four municipalities will be completed within the Project period. After that, ICMBio will not conduct capacity development activities for COMATUR, but only maintain communication within the framework of Jalapão Mosaic. ICMBio will not carry out activities to establish other COMATUR, either. • Training to counterpart (ICMBio) was prepared based on the need assessment, thus leading to good reception of transferred technologies by counterparts. 	
	5-3 Prospect from Human Resource viewpoint (Number of staff, Assignment of responsible personnel, His/her qualification and motivation, New recruitment and volunteer)	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> • From the Human Resource viewpoint, the prospect of sustainability is modest for all the outputs because of possible transfer and change of staff and people of federal/state government and municipalities. • Academia Nacional da Biodiversidade - ICMBio can provide a training on biodiversity conservation based on its annual training plan. It conducted training in Aug 2012 on Mosaic management for 35 staff from Bahia and Tocantins. 	
	5-4 Prospect from Funding viewpoint (Budget allocation for the activities, External financing from donor/private sector)	ICMBio	<ul style="list-style-type: none"> • From the financial viewpoint, the maintenance of database server and update of homepage/WebGIS will have no difficulty but reproduction of printed informational materials or production of new materials will be difficult. • ICMBio doesn't have specific budget to support 13 Mosaics in the country., but once the mechanism of Jalapão Mosaic is established (e.g., development of the Council, internal rules and the Strategic Plan), the Mosaic will be sustained within the existing system. • The Jalapão Mosaic will involve not only government staff but also people from private sector, whose 	<ul style="list-style-type: none"> • The project attached importance to the improvement in financing capability (fundraising) in municipal level. It introduced the framework which performs from the application of an environmental subsidy (ICMS Ecologico) to be used by the municipal environmental council. • The project supported to create the environmental fund

			<p>travel to attend the Council may not be covered by the budget from the government. The “Jalapão Mosaic” ranges over 16 municipalities in three states. As such, it is important to prepare a realistic and viable budget plan to sustain the Jalapão Mosaic in the Part III (Operational Guideline) of the Strategic Plan. In developing such a budget plan, the Council of the Mosaico Rio Doce that is supported by BMU/GIZ/KfW and is effectively carrying out its operation could be examined and used as a reference.</p>	<p>which collateralizes financial independency of the environmental council in municipal level.</p>
		JET	<ul style="list-style-type: none"> • It is important to bring in external finances from e.g. GEF. • MMA has a joint project with German’s BMU. The Project has invited those who are involved in the BMU’s project and Project’s activities of environmental education and capacity development of municipalities could be taken over by BMU’s project. 	

添付資料 4: 会議議事録

- 4.1 合同調整委員会開催記録
- 4.2 その他の会議開催記録



PROJETO CORREDOR ECOLÓGICO DO JALAPÃO



Primeira Reunião do Comitê de Coordenação Conjunta

Data: 4 de maio de 2010
Local: Sede de ICMBio Brasília/DF
Horário: 15:00h às 17:30h

1. Participantes:

Membros brasileiros	Membros japoneses
<ul style="list-style-type: none">• Diretor de Unidades de Conservação de Proteção Integral• Coordenador de Mosaicos e Corredores Ecológicos• Representante da Agencia Brasileira de Cooperação Internacional – ABC/MRE	<ul style="list-style-type: none">• Coordenador de Cooperação Técnica do Japão no Brasil• Funcionários do Escritório da JICA• Funcionário da Embaixada do Japão• Chefe da Equipe do Projeto• Peritos da JICA

2. Pauta:

15:00h às 17:30h	Abertura da reunião do Comitê de Coordenação Conjunta	Ricardo
	As funções do Comitê de Coordenação Conjunta e a indicação de membros observadores/assessores	Allan e Asano
	Apresentação sobre a proposta de Relatório Preliminar – ICR	Allan e Asano
	Questões para implementação do Projeto: <ul style="list-style-type: none">• Questão importante do ICR• Planejamento para o ano 2010• Próximas atividades• Plano de trabalho para Kick Off seminário /workshop e reunião interno	
	Itens para administração do Projeto: <ul style="list-style-type: none">• Logística para administração do Projeto• Cronograma de reuniões do Comitê	Allan e Asano
	Encerramento e agendamento da próxima Comitê de Coordenação Conjunta	Ricardo

AJUDA MEMÓRIA

DA I REUNIÃO DO COMITÊ DE COORDENAÇÃO CONJUNTA DO PROJETO CORREDOR ECOLÓGICO DO JALAPÃO

No âmbito da Cooperação Técnica entre Brasil e Japão, referente ao Projeto Corredor do Jalapão, os representantes da DIREP/ COMOC, JICA, MMA/DAP e MRE/ABC, como Membros do Comitê de Coordenação Conjunta, reuniram-se para deliberar sobre questões relativas à administração e níveis operacionais do Projeto.

Durante a reunião as equipes trocaram pontos de vista sobre esses assuntos, colocando suas posições de como devem ser encaminhados e tratados para o melhor desempenho do projeto.

Como resultado da reunião, ambas as partes alcançaram um entendimento comum sobre essas questões na forma como estão declaradas no documento em anexo.

Brasília, 04 de abril de 2010.

Ricardo Soavinski
Diretor - DIREP

Shinichiro Tanimoto
Perito da equipe da JICA

Allan Crema
Coordenador – COMOC/ DIREP

Manabu Kawaguchi
Perito da Equipe da JICA

Frederico Paiva
Representante da ABC/ MRE

Koji Assano
Chefe da Equipe da Jica

Fernando Lima
Representante da DAP/ MMA

Masayauki Eguchi
Representante sênior da JICA

Yoshiriro Miyamoto
Representante da JICA

Kazuaki Komazawa
Coordenador do Projeto da JICA



SERVIÇO PÚBLICO FEDERAL

MINISTÉRIO DO MEIO AMBIENTE

INSTITUTO CHICO MENDES DE CONSERVAÇÃO DA BIODIVERSIDADE
DIRETORIA DE UNIDADES DE CONSERVAÇÃO DE PROTEÇÃO INTEGRAL
COORDENAÇÃO DE CORREDORES ECOLÓGICOS E MOSAICOS

EQSW 103/104 - lote 1 - Complexo Administrativo - Bloco "D" - 1º andar - CEP: 70.670-350 - Brasília/DF

Tel: (61) 3341-9078 / Fax: (61) 3341-9199

ATA DA 1ª REUNIÃO DO COMITÊ DE COORDENAÇÃO CONJUNTO DO PROJETO CORREDOR ECOLÓGICO DO JALAPÃO

No dia 04 de maio de 2010, as 15:00, na sala de reuniões do ICMBio sede, em Brasília, foi realizada a 1ª reunião do Comitê de Coordenação Conjunto do Projeto Corredor Ecológico do Jalapão. A abertura da reunião foi realizada pelo diretor de Unidades de Conservação de Proteção Integral – DIREP e Diretor do Projeto, Sr. Ricardo Soavinski. A pauta da reunião foi discutir o relatório preliminar e as funções dos membros do comitê. Os membros da mesa se apresentam, conforme lista de presença.

O Sr. Ricardo informou que o ICMBio é um instituto novo e atualmente conta com 305 unidades de conservação; tanto as UC estaduais e federais tem um grau de implementação muito baixo. Os conflitos são muitos, mesmo nas UC mais antigas, como o Itatiaia, porque o entorno dessas UC também muda constantemente, sendo muito dinâmico. A estas UC implicam uma série de restrições e oportunidades; mas as UC ainda exploraram pouco as oportunidades. As UC mais restritivas, como as Estações Ecológicas, geram muitos conflitos, principalmente aqueles relacionados a posse da terra. Em relação ao Jalapão, o nosso desafio será muito grande, inclusive porque há poucos funcionários e grandes demandas; considerando os compromissos com o projeto, houve mudança da sede para Rio da Conceição, que é muito melhor que a antiga e também houve investimentos em infra-estrutura. Um dos grandes objetivos desta movimentação que estamos provocando na região é fortalecer a gestão das instituições públicas e privadas, ONGs, de modo a criar um mosaico, com seu conselho, como previsto no SNUC. Uma das grandes vocações da área é o ecoturismo;

O coordenador da COMOC, Sr. Allan Crema, apresenta a pauta da reunião e o convite de lançamento do projeto Jalapão, que será realizado dia 13 de maio em Palmas-TO. Também apresentou o papel dos membros do comitê, segundo estabelecido no *Record of Discussion*, assinado entre as partes. O chefe da equipe da JICA, Sr. Koji Asano, iniciou a apresentação do relatório preliminar e o Sr. Allan continuou a apresentação, para detalhar as ações propostas. Em seguida, foi apresentada a programação da I Oficina Técnica e se abriu espaço para perguntas dos membros do Comitê.

O Sr. Frederico da ABC parabenizou a parceria da JICA e o amadurecimento da ideia de trabalhar juntos. Afirmou que a parceria com a JICA é prioridade para a ABC e mencionou que a ABC irá proporcionar todo o apoio possível até o final do projeto. Ainda colocou que os resultados gerados pelo projeto poderia se estender a outras regiões do Brasil.

O Sr. Fernando Lima, representando o Sr. Fábio França, Diretor de Áreas Protegidas do MMA, disse que segundo os dados de monitoramento do cerrado, gerados pelo IBAMA, existe uma grande preocupação com o bioma Cerrado por causa do grande avanço do desmatamento. A região do Tocantins é muito importante porque ainda existem grandes

remanescentes de Cerrado e, por isso, está sendo tratado com o Estado a criação de novas UC. O PE do Jalapão é dá maior importância e existe uma grande expectativa com o projeto. Ele também informou que acompanhou o trabalho da JICA e do IBAMA no projeto de Corredor Ecológico Paranã-Pirineus. O MMA considera o projeto da maior importância para a gestão territorial da região. Por fim, reforçou o interesse em contribuir com o sucesso do projeto.

O Sr. Euguchi, representante Sênior da JICA, mencionou sobre a contribuição da JICA com para o desenvolvimento da agricultura no cerrado e sobre o interesse da instituição em contribuir também para o desenvolvimento das áreas protegidas.

O Sr. Allan sugeriu que o cronograma dos japoneses fosse revisto, considerando que o peritos ficassem períodos mais prolongados no Brasil, sendo que pelo menos uma semana, fosse dedicada aos trabalhos na sede do ICMBio e o restante do período na sede da ESEC, no Tocantins. O Sr. Asano apresentou as dificuldades de trabalho na Serra Geral, concordou que determinadas questões pontuais fossem realizadas na sede do ICMBio em Brasília, devido a melhor estrutura, como por exemplo, o componente “base de dados”, e ficou de considerar a solicitação do Sr. Allan Crema de estender os períodos de permanência dos peritos no Brasil, considerando os calendários para 2011 e 2012.

O Sr. Frederico perguntou sobre a realização de avaliações intermediárias do projeto. Tanto para o ICMBio como para a JICA, ficou evidente a importância das avaliações para o bom funcionamento do projeto. O Sr. Allan Crema colocou que estão previstas duas avaliação, sendo uma no meio e outra no final do projeto.

Após apresentar o cronograma para as próximas reuniões de coordenação conjunta do projeto até 2012, a reunião foi encerrada pelo Sr. Ricardo Soaviski



MINISTÉRIO DO MEIO AMBIENTE
INSTITUTO CHICO MENDES DE CONSERVAÇÃO DA BIODIVERSIDADE
GABINETE DA DIREP
DATA: 04 de maio de 2010

Pauta: Apresentação do Inception Report (1º Relatório Preliminar do Projeto)

1. REUNIÃO DO COMITÊ DE COORDENAÇÃO CONJUNTA DO PROJETO CORREDOR DO JALAPÃO.

NOME	E-MAIL/TELEFONE	ASSINATURA
Fernando Rodrigues Lima	fernando.rodrigues@icmbio.gov.br	Fernando
Fabiano Paula	fabiano.paula@icmbio.gov.br	Fabiano
Ricardo Escobar	ricardo.escobar@icmbio.gov.br	Ricardo
Alma Lima	Alma.lima@icmbio.gov.br	
Koji Asano	asano-kj@m-koei.jp	KA
Shinichiro Tanimoto	tanimoto-sh@m-koei.jp	谷本 晋一郎
Manabu Kawaguchi	m.kawaguchi@ajiko.co.jp	川口 学
Masayuki Eguchi	eguchi.masayuki@jca.go.jp	江口 昌之
Yoshihisa Miyamoto	miyamoto.yoshihisa@jca.go.jp	宮本 洋



PROJETO CORREDOR ECOLÓGICO DO JALAPÃO



Segunda Reunião do Comitê de Coordenação Conjunta

Data: 5 de maio de 2011

Local: Sede de ICMBio, Brasília/DF

Horário: 14:30h às 17:30h

1. Participantes:

Membros brasileiros	Membros japoneses
i. Diretor de Unidades de Conservação de Proteção Integral	i. Coordenador de Cooperação Técnica do Japão no Brasil
ii. Coordenador de Mosaicos e Corredores Ecológicos	ii. Funcionário do Escritório da JICA
iii. Representante do Ministério do Meio Ambiente	iii. Funcionário da Embaixada do Japão
iv. Representante da Agencia Brasileira de Cooperação Internacional – ABC/MRE	iv. Chefe da Equipe do Projeto da JICA
	v. Peritos da Equipe do Projeto da JICA

2. Pauta:

14:30h às 17:30h	14:30 - 14:45	Abertura da reunião do Comitê de Coordenação Conjunta ▪ Introduction of participants	Diretor do Projeto
	14:45 - 15:30	Apresentação dos resultados das atividades de 2010 ▪ Ações realizadas em 2010 ▪ Perguntas e respostas	Gerente do Projeto (ICMBio) e Consultor Chefe (JICA)
	15:30 - 16:15	Apresentação do plano de atividades para 2011 ▪ Plano de ações 2011 ▪ Plano de participação de peritos japoneses ▪ Perguntas e respostas	Gerente do Projeto (ICMBio) e Consultor Chefe (JICA)
	16:15 - 17:00	Apresentação sobre a proposta de modificação do Matriz Lógica do Projeto (PDM) ▪ Motivação na modificação ▪ Pontos de modificação no PDM ▪ Perguntas e respostas	Gerente do Projeto (ICMBio) e Consultor Chefe (JICA)
	17:00 - 17:20	Outras Questões Relevantes ▪ ICMBio ▪ JICA	Diretor do Projeto
	17:20 - 17:30	Encerramento e agendamento da próxima Comitê de Coordenação Conjunta	Diretor do Projeto

AJUDA MEMÓRIA


DA II REUNIÃO DO COMITÊ DE COORDENAÇÃO CONJUNTA DO PROJETO CORREDOR ECOLÓGICO DA REGIÃO DO JALAPÃO

No âmbito da Cooperação Técnica entre Brasil e Japão, referente ao Projeto Corredor do Jalapão, os representantes da DIREP/ COMOC, JICA, MMA/DAP e MRE/ABC, como Membros do Comitê de Coordenação Conjunta, reuniram-se para deliberar sobre questões relativas à administração e níveis operacionais do Projeto.


Durante a reunião as equipes trocaram pontos de vista sobre esses assuntos, colocando suas posições de como devem ser encaminhados e tratados para o melhor desempenho do projeto.

Como resultado da reunião, ambas as partes alcançaram um entendimento comum sobre essas questões na forma como estão declaradas no documento em anexo.


Brasília, 05 de maio de 2011.




Ricardo Soavinski
Diretor - DIREP



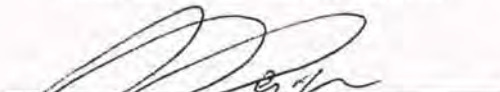
Koji Asano
Chefe da Equipe da JICA



Allan Crema
Coordenador - COMOC/ DIREP



Manabu Kawaguchi
Perito da Equipe da JICA



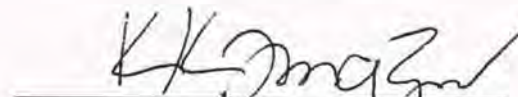
Frederico Paiva
Representante da ABC/ MRE



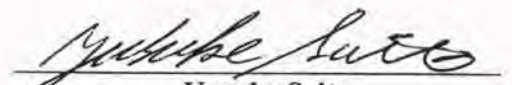
Ichiro Sato
Representante da JICA




Fernando Lima
Representante da DAP/ MMA



Kazuaki Komazawa
Coordenador do Projeto da JICA



Yusuke Saito
Embaixada do Japão



Roberto Yamamura
Embaixada do Japão

ANEXO

AJUDA DE MEMÓRIA DA II REUNIÃO DO COMITÊ DE COORDENAÇÃO CONJUNTA DO PROJETO CORREDOR ECOLÓGICO DA REGIÃO DO JALAPÃO

No dia 05 de maio de 2011, às 14:30, na sala de multimídia do ICMBio sede, em Brasília, teve início a 2ª Reunião do Comitê de Coordenação Conjunta do Projeto Corredor Ecológico da Região do Jalapão.

O Sr. Ricardo Soavinski, Diretor de Unidades de Conservação de Proteção Integral do ICMBio e Diretor do Projeto Corredor Ecológico da Região do Jalapão abriu a reunião agradecendo a presença de todos os participantes.

Em seguida, o Sr. Allan Crema, Coordenador de Mosaicos e Corredores Ecológicos do ICMBio e Gerente do Projeto Corredor Ecológico da Região do Jalapão, proferiu a apresentação da pauta desta reunião (em anexo) e iniciou uma apresentação sobre os resultados alcançados pelo Projeto em 2010 e as ações previstas para serem executadas em 2011. A apresentação dos resultados de 2010 foi separada por **Output** (Resultados Esperados) do Projeto. Os seguintes destaques foram mencionados: no OUTPUT 01 - elaboração do WebGIS, coleta e organização de informações e a elaboração dos materiais informativos e de divulgação do Projeto; no OUTPUT 02 – realização do Kick Off Meeting (I Oficina Técnica do Projeto), que reuniu 53 pessoas e 19 instituições no auditório da NATURATINS em Palmas – TO, a realização de 4 encontros de alinhamento do Projeto (*Contrapart Meeting*) e a elaboração da minuta de Termo de Reciprocidade; no OUTPUT 03 – destacou-se a realização de 03 eventos de capacitações para a equipe do Projeto (GIS, Base de Dados de Monitoramento da Biodiversidade e Expedição de Campo); no OUTPUT 04 – destacou-se a capacitação e a elaboração do Diagnóstico de 06 Conselhos Municipais de Meio Ambiente na área núcleo do Corredor Ecológico, a elaboração do Livro de educação ambiental “Conhecendo o Cerrado – Corredor Ecológico do Jalapão” e a elaboração do Plano de Ação para o programa de treinamento do Agentes de Sensibilização Ambiental do Jalapão (ASAS do Jalapão); e no OUTPUT 05 – o levantamento de informações realizada pela ONG ECOS do Cerrado para subsidiar a identificação de indicadores de biodiversidade para a modelagem de distribuição potencial de espécies no plano estratégico do Corredor Ecológico, a elaboração de mapas de conectividade, fragmentação e isolamento da paisagem e a elaboração do esboço do Plano Estratégico para implementação do Corredor Ecológico da Região do Jalapão. Ao final concluiu-se que 100 % das metas estipuladas para serem cumpridas em 2010 foram alcançadas pela equipe do Projeto.

Em relação as ações propostas para 2010, houve destaque para – OUTPUT 01 – elaboração de novos materiais para o programa de capacitação e finalização do WEBGIS; OUTPUT 02 – assinatura do Termo de Reciprocidade e realização das 03 reuniões de alinhamento do Projeto (*Contrapart Meeting*); OUTPUT 03 – realização das capacitações em RPPN e GIS e o intercâmbio de experiências entre o Mosaico do Jalapão e Mosaico Grande Sertão Veredas; OUTPUT 04 – realização da 2ª etapa da

capacitação de conselhos municipais de meio ambiente na área núcleo do Projeto, Formação do conselho da ESEC Serra Geral do Tocantins e execução das atividades de educação ambiental prevista no ASAS do Jalapão; OUTPUT 05 – finalização dos estudos e diagnósticos para elaboração do Plano Estratégico do Projeto e a realização do Seminário do Projeto para apresentação dos resultados.

Após a apresentação, o Diretor Ricardo Soavinski ressaltou o bom andamento do projeto e abriu espaço para discussão e perguntas. Com isso, o Sr. Fernando apresentou a necessidade de uma estratégia para operacionalização do Mosaico, pois não está visível na apresentação realizada. O Sr. Allan explicou que, apesar de não estar explícito, existe a iniciativa de gestão integrada entre as UC e uma base operativa em Mateiros. Desta forma, o projeto tem promovido o trabalho conjunto e a idéia de gestão integrada (mosaico). O Sr. Fernando sugeriu uma visita da cooperação japonesa ao MMA para firmar o termo de reciprocidade. O Sr. Frederico expressou contentamento com a Cooperação, pois é um trabalho diferente e tem andado bem, o plano de ação foi bem cumprido. A ABC realmente pede às agencias estrangeiras o fortalecimento institucional e isso tem acontecido nesse projeto. A ABC continuará acompanhando o andamento do projeto. O Sr. Sato expressou a importância do projeto para a JICA e da conservação ambiental no Tocantins. Disse que a apresentação do Allan mostrou o bom andamento dos trabalhos em 2010 e que as expectativas são boas para 2011. Ressaltou interesse em expandir o projeto pelo país e para outros países, com a contribuição das instituições brasileiras. Perguntou o conceito de mosaico. Na sua concepção, é muito importante um mosaico, mas pede mais explicações. O Sr. Allan respondeu que existem 02 instrumentos de gestão e ordenamento territorial no Sistema Nacional de Unidades de Conservação – SNUC, os mosaicos e os corredores ecológicos. O mosaico é o instrumento de gestão integrada entre UC, consolidado a partir da existência de um Conselho, que utilizará o Planejamento Estratégico deste projeto. O corredor ecológico é um instrumento para proporcionar o ordenamento do território e por meio de algumas estratégias deve conectar fisicamente as unidades de conservação proporcionando o fluxo gênico entre as espécies e o não isolamento das unidades de conservação na paisagem.

O Sr. Saito, 3º Secretário da Embaixada do Japão, informou a importância dos atores-chave e a necessidade de ênfase no fortalecimento da relação, a partir do entendimento da população local e sua cultura. Um problema que pode surgir é quanto à gestão das informações e espécies ameaçadas. Muitos problemas no Japão são por conta da falta de comunicação com atores-chave. O Diretor Ricardo explicou que no Brasil há conselhos de UCs, o que fortalece a comunicação com atores-chave, além da importância da integração com estados e municípios. Sobre as espécies ameaçadas, informou que a região apresenta poucos estudos científicos, podendo surgir espécies novas. Um caminho seria a criação de RPPNs para proteger áreas. Com o resultado das pesquisas realizadas e com a descoberta de novas espécies, poderá se definir um novo limite para as mesmas. A coleta e a pesquisa pode sim levar a algum dado, mas no Brasil, existe uma lei que determina que qualquer pesquisa em UC demanda uma autorização, através do SISBIO. O diretor, nesse caso, sugeriu que os parceiros da JICA pudessem conhecer o funcionamento deste sistema. O Sr. Manabu esclareceu que o WebGIS possui 3 níveis de compartilhamento de informações, o qual permitirá o acesso com restrição em cada nível. Ao final da discussão todas as ações propostas para 2011 foram aprovadas pelo Comitê de Coordenação Conjunta do Projeto.

O diretor deu início ao quarto item da Pauta de reunião, referente à proposta de modificação da matriz lógica do projeto – PDM. O Sr. Asano, chefe da equipe de peritos da JICA, efetuou a apresentação. Três importantes pontos foram indicados para serem modificados no PDM, nos seguintes OUTPUTs abaixo:

- I. **OUTPUT 02** – alteração da proposta de formação do Conselho do Corredor ecológico para (1) assinatura do Termo de Reciprocidade entre as instituições parceiras na implementação do Projeto e (2) estruturação da Coordenação Executiva Interinstitucional para implementar o Corredor Ecológico.
- II. **OUTPUT 04** – alteração da proposta de trabalho junto as comunidades que se auto-titulam Quilombolas para (1) trabalhar junto aos governos municipais (conselhos municipais de meio ambiente) e lideranças comunitárias.
- III. **OUTPUT 05** – alteração da proposta de Manual de Monitoramento do Projeto em (1) Plano Estratégico para Implementação do Corredor Ecológico do Jalapão.

Ao final da apresentação, o Sr. Ricardo Soavinski abriu a pauta para discussão do grupo. O Sr. Allan reforçou a importância da construção conjunta do plano estratégico do corredor junto ao governo estadual do Tocantins, para com isso avançar para a formação do Mosaico. O Diretor Ricardo concordou com as alterações propostas pela equipe técnica do Projeto e esclareceu que não há mudança nos objetivos, logo, não deve existir complicações para formalizar as alterações do PDM. Os representantes da JICA e ABC responderam que não há problema. O Sr. Saito informou ainda que não há objeções e aprovou a proposta. No entanto, antes de partir para a formalização da nova proposta de PDM, o Sr. Sato solicitou que será preciso aguardar o aceite da matriz pela JICA no Japão. O Sr. Fernando do MMA também se manifestou favorável as alterações propostas. Desse modo, todos os participantes concordaram com as alterações propostas para o PDM. Desta forma, o novo PDM foi aprovado por unanimidade.

Por fim, o Diretor Ricardo informou que haverá uma melhora no espaço de trabalho para equipe do Projeto na sede do ICMBio em Brasília. Uma nova sala será disponibilizada para equipe do Projeto.

O Sr. Sato solicitou providências ao ICMBio para garantir os recursos e suporte necessário para a garantir a máxima participação do ICMBio nas ações do Projeto na região do Jalapão. O Diretor Ricardo expôs as grandes dificuldades encontradas pelo forte corte orçamentário do Governo Federal ocorrido no início de 2011. No entanto, garantiu que fará tudo que for necessário para atender as demandas do Projeto.

O Sr. Allan Crema reforçou a importância da organização da equipe do ICMBio realizada em 2010 por meio do estabelecimento de coordenadores locais nas unidades de conservação federais. Além disso, mencionou que a formalização da Coordenação Executiva do Projeto vai ajudar a fortalecer a equipe do projeto e garantir a participação do ICMBio e dos parceiros nas ações.

Por fim, o Sr. Frederico da ABC/MRE disse que o Japão é o maior parceiro do Brasil nos projetos de triangulação com outros países e mencionou que espera o fortalecimento das instituições do Brasil. O Sr. Sato informou a importância de uma reunião em outubro para avaliação do projeto, com participação da ABC, ICMBio e instituições parceiras.

O Diretor Ricardo agradeceu mais uma vez a presença de todos e encerrou a reunião as 16:40.



**ECORREDDOR
ECOLÓGICO
REGIÓN 90 JALISCO**

LISTA DE PRESENCIA

Evento: II Reunión do Comitê de Coordenação Conjunta do Projeto Corredor Ecológico da Região do Jalisco

Data: 05 de maio de 2011

NOME	INSTITUIÇÃO	EMAIL	ASSINATURA
Allyson Cuerna	ICMBIO	Allyson.Cuerna@icmbio.gov.br	
Ricardo Sobrinho	ICMBIO	ricardo.sobrinho@icmbio.gov.br	
FREDERICO PAIVA	ABSC	Frederico.paiva@absc.org.br	
Marcelo N. Lima	MMA SBF/DSP	Marcelo.N.Lima@mma.gov.br	
Marcelo K. Kinouchi	CAMC/ICMBIO	Marcelo.Kinouchi@camc.gov.br	
Juliana Simoes	Assoc. ICMBIO	Juliana.Simoes@icmbio.org.br	
Juliano Shinobu	Assoc. ICMBIO	Juliano.Shinobu@icmbio.org.br	
Rebeca J. de Mattos	JICA Project Team	Rebeca.J.deMattos@jica.go.jp	
Manabu Kawaguchi	JICA Project Team	Manabu.Kawaguchi@jica.go.jp	
Keiji Asano	ENRAKADA JAVAS	Keiji.Asano@enrakada.com	
JIMMY YAMAMURA	EMB. do Japão	Jimmy.Yamamura@emb.jp	
Yusuke Saito	JICA	Yusuke.Saito@jica.go.jp	
Lehiro Sato	JICA	Lehiro.Sato@jica.go.jp	
HAZUKI KOHAZAMA	JICA	Hazuki.Kohazama@jica.go.jp	



3º REUNIÃO DO COMITÊ DE COORDENAÇÃO CONJUNTA

Data: 09 de dezembro de 2011

Local: sala de reuniões da JICA, Brasília/DF

Endereço: SCN Quadra 02, Bloco: "A", Sala: 402. Ed. Corporate Financial Center

Horário: 14:30 - 17:30

1. Participantes:

Brasil	Japão
i. Diretor de Criação e Manejo de Unidades de Conservação, ICMBio	i. Coordenador Técnico da Cooperação Técnica do Japão no Brasil
ii. Coordenador de Mosaicos e Corredores Ecológicos, ICMBio	ii. Representante da Embaixada do Japão no Brasil
iii. Representante da Agencia Brasileira de Cooperação – ABC/MRE	vi. Membro da Missão de Avaliação Intermediária do Projeto
iv. Representante da Diretoria de Áreas Protegidas - DAP/MMA	iii. Equipe da JICA - Brasil
v. Membro da Missão de Avaliação Intermediária do Projeto	iv. Chefe da equipe de peritos da JICA
	v. Equipe de peritos da JICA

2. Pauta:

14:30h às 17:30h	14:30 - 14:45	Abertura da Reunião do Comitê de Coordenação Conjunta. ▪ Boas vindas e apresentação dos participantes.	Diretor do Projeto (ICMBio)
	14:45 - 15:30	Apresentação dos Resultados do Projeto em 2011. ▪ Resultados alcançados em 2011. ▪ Perguntas e considerações.	Coordenador do Projeto (ICMBio) e Chefe da Equipe de Peritos (JICA)
	15:30 - 16:15	Apresentação do Plano de Ações 2012 ▪ Plano de ações 2012 ▪ Perguntas e considerações.	Coordenador do Projeto (ICMBio) e Chefe da Equipe de Peritos (JICA)
	16:15 - 17:15	Discussão sobre os resultados da Avaliação Intermediária do Projeto ▪ Apresentação de resultados ▪ Perguntas e considerações.	Membro da Missão de Avaliação Intermediária do Projeto
	17:15 - 17:30	▪ Encerramento da reunião do Comitê de Coordenação Conjunta	Diretor do Projeto (ICMBio)



PROJETO CORREDOR ECOLÓGICO DA REGIÃO DO JALAPÃO

4º REUNIÃO DO COMITÊ DE COORDENAÇÃO CONJUNTA

Data: 17 de maio de 2012

Horário: 08:30 – 11:00

Local: sala de reuniões multimídia do ICMBio

Endereço: EQSW 103/104, Bloco "C", Complexo Administrativo,
Setor Sudoeste Brasília-DF

1. Participantes:

Brasil	Japão
i. Diretor de Criação e Manejo de Unidades de Conservação – DIMAN/ICMBio	i. Coordenador Técnico da Cooperação Técnica do Japão no Brasil
ii. Coordenador Geral de Criação, Planejamento e Avaliação de UC – CGCAP/ICMBio	ii. Representante da Embaixada do Japão no Brasil
iii. Chefe da Divisão de Mosaicos e Corredores Ecológicos – DMOC/ICMBio	iii. Equipe da JICA - Brasil
iv. Representante da Agência Brasileira de Cooperação – ABC/MRE	iv. Chefe da equipe de peritos da JICA
v. Representante da Diretoria de Áreas Protegidas - DAP/MMA	v. Equipe de peritos da JICA

2. Pauta:

9:30h às 12:00h	8:30 - 8:40	Abertura da Reunião do Comitê de Coordenação Conjunta. ▪ Boas vindas e apresentação dos participantes.	Diretor do Projeto (ICMBio)
	8:40 - 9:40	Apresentação dos Resultados do Projeto em 2011. ▪ Resultados alcançados em 2011. ▪ Perguntas e considerações.	Coordenador do Projeto (ICMBio) e Chefe da Equipe de Peritos (JICA)
	9:40 - 10:40	Apresentação do Plano de Ações em 2012 ▪ Plano de ações em 2012. ▪ Perguntas e considerações.	Coordenador do Projeto (ICMBio) e Chefe da Equipe de Peritos (JICA)
	10:40 - 10:55	Outras questões relevantes ▪ Recomendações da Avaliação Intermediária do Projeto - 2011 ▪ Escala de trabalho dos Peritos da JICA ▪ Outros	Coordenador do Projeto (ICMBio) e Chefe da Equipe de Peritos (JICA)
	10:55 - 11:00	▪ Encerramento da reunião.	Diretor do Projeto (ICMBio)



AJUDA MEMÓRIA

DA IV REUNIÃO DO COMITÊ DE COORDENAÇÃO CONJUNTA DO PROJETO CORREDOR ECOLÓGICO DA REGIÃO DO JALAPÃO

No âmbito da Cooperação Técnica entre Brasil e Japão, referente ao Projeto Corredor do Jalapão, os representantes da DIMAN, DMOC, JICA, MMA/DAP e MRE/ABC, como Membros do Comitê de Coordenação Conjunta, reuniram-se para deliberar sobre questões relativas à administração e níveis operacionais do Projeto.

Durante a reunião as equipes trocaram pontos de vista sobre esses assuntos, colocando suas posições de como devem ser encaminhados e tratados para o melhor desempenho do projeto.

Como resultado da reunião, ambas as partes alcançaram um entendimento comum sobre essas questões na forma como estão declaradas no documento em anexo.

Brasília, 17 de maio de 2012.

Pedro de Castro da Cunha e Menezes
Diretor - DIMAN

Koji Asano
Chefe da Equipe da JICA

Allan Crema
Coordenador – DMOC/DIMAN

Manabu Kawaguchi
Perito da Equipe da JICA

Wofsi Yuri G. de Souza
Representante da ABC/ MRE

Kazuaki Komazawa
Coordenador do Projeto da JICA

Fernando Lima
Representante da DAP/ MMA

Yusuke Saito
Embaixada do Japão



ANEXO

AJUDA DE MEMÓRIA DA IV REUNIÃO DO COMITÊ DE COORDENAÇÃO CONJUNTA DO PROJETO CORREDOR ECOLÓGICO DA REGIÃO DO JALAPÃO

No dia 17 de maio de 2012, às 8:45hs, na sala de multimídia na sede do ICMBio em Brasília, foi realizada a 4ª reunião do Comitê de Coordenação Conjunta do Projeto Corredor Ecológico da Região do Jalapão.

A abertura da reunião foi realizada pelo diretor de Criação e Manejo de Unidades de Conservação – DIMAN e Diretor do Projeto, Sr. Pedro de Castro da Cunha e Menezes, o qual agradeceu a presença de todos os participantes, e se apresentou como novo integrante do ICMBio. Expôs a importância de um projeto de cooperação na envergadura do CERJ, o que possibilita que este projeto possa servir de exemplo para outras ações semelhantes. Destacou a importância dos mosaicos e corredores ecológicos como estratégia de conexão e conservação, assim como o histórico de amadurecimento para o SNUC. Também houve destaque por parte do diretor, do importante papel desempenhado pela Divisão de Mosaicos e Corredores Ecológicos – DMOC, como articulador para que a gestão territorial possa ser realizada, e que o cenário de inserção do projeto apresenta inúmeras dificuldades, tais como o avanço da fronteira agrícola, a fragilidade das instituições públicas, o turismo em bases primárias de desenvolvimento, entre outros. Por fim, o mesmo sugeriu que o projeto pudesse ser estendido por mais um semestre, com o intuito de permitir que as unidades de conservação da do estado da Bahia possam ser incorporadas no processo.

Em seguida, o Sr. Allan Crema, Chefe da Divisão de Mosaicos e Corredores Ecológicos do ICMBio e Gerente do Projeto Corredor Ecológico da Região do Jalapão, proferiu a apresentação da pauta desta reunião (em anexo), com a exposição dos resultados alcançados pelo Projeto em 2011, assim como, as ações a serem executadas em 2012. A apresentação dos resultados de 2011 foi separada por **Output** (Resultados Esperados) do Projeto, a exemplo da apresentação realizada na última reunião do comitê de coordenação conjunta. Destaca-se a inserção do governo do Estado da Bahia nos trabalhos do projeto, com a possibilidade de se firmar um Termo de Cooperação entre o ICMBio e o IEMA-BA. Em seguida, o mesmo apresentou a planilha de planejamento das Ações para 2012. Outra contribuição importante, condiz com a informação do início dos trabalhos a serem executados no Jalapão através da GIZ/BMU, projeto este que visa reduzir as emissões de carbono, e tem enfoque na prevenção e combate de incêndios florestais no cerrado, mas que as ações do projeto estão em consonância com o projeto CERJ.

O Sr. Fernando, representante do MMA, expôs a contribuição do projeto para as políticas públicas, principalmente para a conservação do Cerrado, destacando o apoio



do mesmo para o estímulo a criação de Unidades de Conservação de âmbito municipal. Desta forma, Fernando sugere que essa experiência possa ser apresentada na Rio +20, assim como o projeto CERJ.

O Sr. Sato, representante da JICA, também considera importante a exposição do conjunto de ações em prol a conservação do Cerrado, tendo o Projeto Corredor Ecológico da Região do Jalapão como o modelo a ser seguido.

O Sr. Allan expôs que ainda há alguns pontos a serem acertado, principalmente no que se refere a implantação do WebGIS no ICMBio, mas que se acredita que em breve possam ser solucionados, e a questão do Parque Estadual do Jalapão atualmente não contar com gestor, devendo se buscar algumas forma de pressionar o Estado para que efetive uma nomeação técnica.

O Sr. Guilherme, assessor da DIMAN, intercedeu dizendo que será agendada uma reunião entre a CTI e a JICA, para que se possam finalizar as discussões com relação a efetivação da plataforma WebGIS no Instituto.

A seguir, o Sr. Asano deu início a sua apresentação, a qual se propôs em apresentar as ações e estratégias para 2012, assim como, expor a data final do projeto.

O Sr. Yuri, representante da ABC, teve a palavra, e expôs da mesma forma q importância pela disseminação das experiências não somente deste projeto, mas de outros campos de atuação da JICA.

O Sr. Sato em seu momento de fala, expôs que houveram diversos avanços na condução do projeto, e que seria importante a definição de uma data para a Avaliação Final, sendo esta estimada para o os meses de novembro e dezembro.

Em decorrência da urgência do Sr. Pedro Menezes em atender a uma agenda previamente programa, o mesmo não pôde efetuar o fechamento desta reunião, sendo este ato realizado pelo Sr. Allan Crema, o qual destacou a importância do Mosaico de UC no papel de fortalecimento político e estratégico visando a conservação do território, e aproveitando a ocasião, vêm a agradecer novamente a presença de todos, assim como as contribuições ao projeto.

Efetuu-se o ato de assinatura dos Resultados de Avaliação da Missão e se deu por fim a reunião do comitê de coordenação conjunta do projeto Corredor Ecológico da Região do Jalapão.



PROJETO CORREDOR ECOLÓGICO DA REGIÃO DO JALAPÃO

5ª REUNIÃO DO COMITÊ DE COORDENAÇÃO CONJUNTA

Data: 31 de outubro de 2012

Horário: 14:30h – 17:00h

Local: sala de reuniões multimídia do ICMBio

Endereço: EQSW 103/104, Bloco "C", Complexo Administrativo,
Setor Sudoeste Brasília-DF

1. Participantes:

Brasil	Japão
i. Diretor de Criação e Manejo de Unidades de Conservação – DIMAN/ICMBio	i. Coordenador Técnico da Cooperação Técnica do Japão no Brasil
ii. Chefe da Divisão de Mosaicos e Corredores Ecológicos – DMOC/ICMBio	ii. Representantes da Embaixada do Japão no Brasil
iii. Representantes do Ministério do Meio Ambiente – MMA	iii. Responsáveis pelo escritório da JICA no Brasil
iv. Representante da Agência Brasileira de Cooperação – ABC/MRE	iv. Chefe da equipe de peritos da JICA
	v. Equipe de peritos da JICA

2. Pauta:

14:30h às 17:00h	14:30 - 14:45	Abertura da Reunião do Comitê de Coordenação Conjunta. ▪ Boas vindas e apresentação dos participantes.	Diretor do Projeto (ICMBio)
	14:45 - 15:45	Apresentação dos resultados da avaliação final ▪ Relatório conjunto de avaliação final ▪ Perguntas e respostas	Membro da missão de avaliação final
	15:45 - 16:45	Discussão sobre os resultados da avaliação final ▪ Conclusões da avaliação ▪ Lições aprendidas ▪ Necessidade de extensão do projeto ▪ Assinatura do documento	Membro da missão de avaliação final
	16:45 - 17:00	▪ Encerramento da reunião.	Diretor do Projeto (ICMBio)



AJUDA DE MEMÓRIA

5ª REUNIÃO DO COMITÊ DE COORDENAÇÃO CONJUNTA DO PROJETO CORREDOR ECOLÓGICO DA REGIÃO DO JALAPÃO

31 de outubro de 2012

1. No dia 31 de outubro de 2012, na sala de reuniões multimídia do ICMBio, em Brasília, DF, foi realizada a 5ª reunião do Comitê de Coordenação Conjunta do Projeto Corredor Ecológico da Região do Jalapão, com objetivo de avaliar os resultados alcançados pelo projeto até o momento.
2. Participaram da reunião representantes do Ministério do Meio Ambiente do Brasil, do Instituto Chico Mendes de Conservação da Biodiversidade (ICMBio), da Agência de Cooperação Internacional do Japão (JICA) e da Agência Brasileira de Cooperação (ABC/MRE), conforme lista de presença, em anexo 01.
3. O Sr. Bernardo Brito fez a abertura e deu as boas vindas aos participantes da reunião.
4. O Sr. Sato informou que a avaliação foi conjunta entre o lado brasileiro e o lado japonês da cooperação técnica. Informou que o Sr. Asano como chefe do Projeto ajudou bastante para a boa execução do projeto. Apresentou os itens mais importantes do relatório de avaliação e solicitou uma avaliação da equipe brasileira sobre o conteúdo apresentado.
5. O Sr. Komazawa informou que a troca de experiências entre Brasil e Japão está gerando bons resultados para a gestão ambiental em ambos os países. Além disso, ele apresentou e comentou os resultados positivos e alguns desafios que foram superados para a implementação do projeto. Realizou também os agradecimentos em nome da JICA a todos os que participaram do projeto. Mencionou que o objetivo geral do projeto deverá ser atingido nos próximos cinco anos. Solicitou ao lado brasileiro que garanta a continuidade das ações e dos processos desenvolvidos com o projeto.
6. O Sr. Okuda comentou alguns pontos gerais sobre os critérios utilizados na metodologia de avaliação do Projeto (eficácia, efetividade, relevância, impactos e sustentabilidade). Comentou que entende que esse é um projeto de sucesso e que se destaca de todas as experiências que ele pôde acompanhar anteriormente. Considerou que é alta a relevância desse projeto. Quanto à efetividade, os objetivos foram muito bem desenhados para a sua boa consecução em curto tempo. Comentou que os instrumentos legais gerados pelo projeto foram um ponto surpreendente dos trabalhos. Quanto à eficácia, considerou que todos os objetivos foram atingidos e que o projeto foi muito bem estruturado. Além disso, o grande empenho demonstrado pelas contrapartes brasileira e japonesa e a eficiente

comunicação entre elas foi muito importante para o bom desenvolvimento dos trabalhos. Quanto ao impacto do projeto, o mecanismo ecológico adotado para preservação do meio ambiente foi a criação do mosaico, que já foi atingido. Além disso, o planejamento estratégico, que está em sua fase final de elaboração, também contribuirá para que o objetivo maior do projeto seja atingido. A possibilidade de se adotar o mosaico criado por esse projeto como modelo para outras experiências de mosaico no Brasil representa também um grande impacto positivo. Quanto à sustentabilidade técnica, o Sr. Okuda comentou que a formação do conselho do mosaico e dos conselhos municipais de meio ambiente irá contribuir para o seu fortalecimento. Nesse sentido, ele considerou que a extensão do projeto irá colaborar com esse ponto. Com relação aos recursos humanos e financeiros, considerou que ainda há necessidade de ajustes que devem ser feitos pelo ICMBio para melhoria dessas questões.

7. O Sr. Sato comentou que o projeto tem grandes chances de atingir os objetivos estabelecidos desde o seu início. Quanto à sua relevância e aos seus impactos, ele considera que esses pontos já foram devidamente demonstrados. Mencionou apenas que a questão da sustentabilidade, no que se refere à consolidação das estruturas de gestão (conselhos municipais, conselho do mosaico, mudanças nos recursos humanos nas instituições participantes, etc), ainda é uma preocupação. Sugeriu assim a continuidade das ações de capacitação para que se possa garantir a sustentabilidade dessas estruturas. Recomendou que o ICMBio assuma a liderança dos diferentes agentes envolvidos, especialmente por meio do apoio aos governos municipais, para que se garanta o alcance do resultado maior do projeto. A boa execução do projeto também se deu, segundo o Sr. Sato, pelo fato de que a rotina do projeto se inseriu nas atribuições das instituições envolvidas. Considerou que a previsão do PDM para três anos de execução foi bastante adequado. Além disso, a flexibilidade para fazer os ajustes necessários durante a implementação do projeto também contribuiu bastante para os bons resultados. Considerou que se a comunicação com os diversos atores sociais tivesse sido feita desde o início do projeto, isso teria fortalecido ainda mais essa comunicação.
8. O Sr. Fernando Lima informou que durante o acompanhamento do projeto, ele pôde verificar o seu grande impacto positivo na região. Mencionou a relevância das ações de conservação no Cerrado e que isso é prioridade na agenda do Ministério do Meio Ambiente. Informou que ele está pessoalmente empenhado no reconhecimento do mosaico e que pretende finalizar a análise do processo até sexta-feira próxima e se colocou à disposição dos membros do projeto para futuras tratativas. O Sr. Fernando também sugeriu a continuidade do projeto para consolidação dos resultados obtidos.
9. O Sr. Frederico considerou a avaliação do projeto muito boa. Agradeceu ao ICMBio e ao Sr. Allan pelo excelente trabalho de comunicação junto à ABC sobre o andamento do projeto. Agradeceu e parabenizou a JICA por ter priorizado a área de meio ambiente e o Cerrado como foco de suas ações e comentou que a ABC também concorda com a extensão do projeto para que se possa fortalecer a integração do governo do Estado da Bahia na gestão ambiental dessa região e também para a consolidação dos resultados alcançados. Considerou que o envolvimento dos municípios nessas ações é de fundamental importância.

10. Após a finalização dos comentários da equipe de avaliação do projeto, iniciou-se a discussão sobre os resultados do projeto.
11. O Sr. Bernardo comentou que é necessário um arcabouço legal mais robusto para a sustentabilidade dos resultados do projeto. Mencionou que as instabilidades políticas e institucionais demandam esse fortalecimento. Com a criação do mosaico, ele acredita que o seu conselho irá abranger outros atores sociais, possibilitando assim maior abrangência dos impactos do projeto.
12. O Sr. Sato considerou que o fortalecimento dos conselhos é fundamental para a sustentabilidade dos resultados do projeto.
13. O Sr. Pedro Menezes informou que em breve pretende visitar a região do Jalapão, de forma a valorizar e fortalecer o trabalho dos atores locais que estão implementando as ações do projeto. Agradeceu pelo empenho da cooperação japonesa para a execução dos trabalhos.
14. O Sr. Sato também agradeceu ao forte empenho do ICMBio, do MMA, da ABC e dos governos municipais e estaduais para o sucesso do projeto.
15. Por fim, o Sr. Pedro Menezes destacou o empenho do Sr. Allan Crema e do Sr. Bernardo Brito para a boa execução dos trabalhos e em seguida fez o encerramento da reunião.



PROJETO CORREDOR ECOLÓGICO DA REGIÃO DO JALAPÃO

6ª REUNIÃO DO COMITÊ DE COORDENAÇÃO CONJUNTA

Data: 24 de outubro de 2013

Horário: 14:30h – 16:00h

Local: sala de reuniões multimídia do ICMBio

Endereço: EQSW 103/104, Bloco "C", Complexo Administrativo,
Setor Sudoeste Brasília-DF

1. Participantes:

Brasil	Japão
i. Diretor de Criação e Manejo de Unidades de Conservação – DIMAN/ICMBio	i. Coordenador Técnico da Cooperação Técnica do Japão no Brasil
ii. Chefe da Divisão de Mosaicos e Corredores Ecológicos – DMOC/ICMBio	ii. Representantes da Embaixada do Japão no Brasil
iii. Representantes do Ministério do Meio Ambiente – MMA	iii. Responsáveis pelo escritório da JICA no Brasil
iv. Representante da Agência Brasileira de Cooperação – ABC/MRE	iv. Chefe da equipe de peritos da JICA

2. Pauta:

14:30h às 16:00h	14:30 - 14:45	Abertura da Reunião do Comitê de Coordenação Conjunta. ▪ Boas vindas e apresentação dos participantes.	Diretor do Projeto (ICMBio)
	14:45 - 15:30	Apresentação dos Resultados do Projeto ▪ Resultados alcançados ▪ Perguntas e considerações.	Coordenador do Projeto (ICMBio) e Chefe da Equipe de Peritos (JICA)
	15:30 - 15:50	▪ Discussão sobre questões específicas	Diretor do Projeto (ICMBio)
	15:50 - 16:00	▪ Encerramento da reunião.	Diretor do Projeto (ICMBio)

AJUDA MEMÓRIA

DA 6ª REUNIÃO DO COMITÊ DE COORDENAÇÃO CONJUNTA DO PROJETO CORREDOR ECOLÓGICO DA REGIÃO DO JALAPÃO

No âmbito da Cooperação Técnica entre Brasil e Japão, referente ao Projeto Corredor do Jalapão, os representantes da ICMBio/DIMAN/DMOC, JICA, MMA/SBF e MRE/ABC, como Membros do Comitê de Coordenação Conjunta, reuniram-se para apreciar os resultados alcançados e concluir o Projeto.

Estiveram presentes:

• Roberto Ricardo Vizentin	Presidente do ICMBio
• Giovanna Palazzi	Diretora da DIMAN
• Felipe Melo Rezende	Coordenador Substituto do CGCAP
• Allan Crema	Chefe da DMOC
• Mariusz Antoni Szmuchrowski	Analista Ambiental
• Rodrigo Paranhos Faleiro	Analista Ambiental
• Ichiro Sato	Representante Sênior da JICA
• Kazuaki Komazawa	Coordenador do Projeto JICA
• Yuki Nango	Segundo Secretário da Embaixada do Japão
• Koji Asano	Chefe da Equipe da JICA
• Roberto Yamamura	Assessor para Assuntos Políticos
• Wofsi Yure de Souza	ABC/MRE
• Eron Carlos da Costa	ABC/MRE

Durante a reunião foram apresentados os resultados alcançados pelo Projeto, a partir dos quais, as equipes:

- Comentaram os resultados alcançados;
- Pediram esclarecimentos;
- Esclareceram as dúvidas;
- Afirmaram a relevância do Projeto para ambos os países com possibilidade de continuidade da cooperação.

Como resultado da reunião, ambas as partes alcançaram um entendimento comum sobre essas questões na forma como estão declaradas no documento em anexo.

Brasília, 24 de outubro de 2013.

Allan Crema
Chefe – DMOC/DIMAN

Koji Asano
Chefe da Equipe da JICA

ANEXO

AJUDA DE MEMÓRIA DA 6ª REUNIÃO DO COMITÊ DE COORDENAÇÃO CONJUNTA DO PROJETO CORREDOR ECOLÓGICO DA REGIÃO DO JALAPÃO

No dia 24 de outubro de 2013, às 14:30, na sala de multimídia do ICMBio sede, em Brasília, teve início a 6ª Reunião do Comitê de Coordenação Conjunta do Projeto Corredor Ecológico da Região do Jalapão.

O Senhor Allan Crema, Chefe da Divisão de Mosaicos e Corredores abriu a reunião agradecendo a presença de todos os participantes.

Em seguida, o Senhor Allan Crema, apresentou os resultados do Projeto (em anexo) e abriu espaço para perguntas e considerações.

O Senhor Koji Asano, Chefe da Equipe da JICA, complementou a apresentação com a exposição do Modelo Conceitual para Governança Local da Conservação (Modelo Jalapão) e do Mecanismo de Conservação Regional.

O Senhor Roberto Vizentin, Presidente do ICMBio, mencionou o avanço e a contribuição dos trabalhos. Para ele, visivelmente houve uma evolução na relação das instituições e parceiros (sociedade). Pois, já que o projeto envolve a criação, mobilização e atuação que, muitas vezes, esses resultados não são visíveis. Por isso, o que é visível demonstra transformações importantes. Elementos que são importantes para a escala de planejamento e gestão. Outra questão observada pelo Presidente seria o planejar e agir com o foco desviado da UC para o conjunto de UC que constitui o Mosaico. Perspectiva de um olhar mais amplo que contempla a abordagem setorial em um planejamento feito por paisagem. O Presidente finalizou sua fala perguntando se há interesse do Japão em multiplicar esta experiência.

O Senhor Ichiro Sato, Representante Sênior da JICA, concordou com os resultados, a leitura apresentada e agradeceu o ICMBio e o ABC. E, diante da questão apresentada, ele teceu suas considerações. Para o Representante, entre os inúmeros projetos da JICA no mundo, cujos resultados dificilmente são percebidos, observar tantos resultados alcançados é um mérito que atribuímos ao compromisso das equipes – ICMBio, governos estaduais e municipais, JICA e ABC. Em especial, a coordenação do Senhor Allan Crema e do Senhor Koji Asano. Diante disto, ele questionou a divulgação do material produzido e a demora em reconhecer o Mosaico.

O Senhor Roberto Vizentin, Presidente do ICMBio, assumiu haver uma demora ocasionada pela burocrática que, certamente, não impedirá a distribuição do material e o reconhecimento do Mosaico. Para tanto, o ICMBio continuará acompanhando o Ministério no encaminhamento dessas demandas.

O Senhor Ichiro Sato, Representante Sênior da JICA, agradeceu a resposta e demonstrou estar satisfeito com as explicações. Embora esteja ansioso em receber as respostas do MMA.

O Senhor Koji Asano, Chefe da Equipe da JICA, complementou os comentários dizendo terem sido executados e materializados no Projeto alguns conceitos já definidos no SNUC. Tais conceitos combinados com parâmetros técnicos utilizados no Japão que previam fluxo de trabalho de baixo para cima e de cima para baixo, mais o compromisso pessoal da equipe geraram os excelentes resultados.

O Senhor Wofsi Yure de Souza, representante da ABC, agradeceu o apoio de todos ao Projeto. Situou-o em um momento histórico, onde o Brasil deixava de receber cooperação bilateral de vários países. Sendo este Projeto uma das poucas exceções que garantiu a modernização da capacidade e a superação do desenho inicial. E, por isso, a ABC considera ser este um Projeto exitoso que servirá de referência para outros órgãos. Mérito das equipes do ICMBio e da JICA, e que mantêm as portas da ABC abertas para o acolhimento de outras propostas. Por fim, disse que a ABC/MRE continuará realizando gestão junto ao MMA em prol do reconhecimento do Mosaico conforme acordado no Projeto.

A parte brasileira agradeceu mais uma vez a presença de todos e encerrou a reunião.

添付資料 5: 収集資料一覧表

添付資料 B-1-3 収集資料リスト (JICA 様式)

収 集 資 料 リ ス ト

2010 年 12 月 16 日 作成

地 域	南米	調 査 団	ジャラポン地域生態系コリドープロジェクト	調 査 の 種 類	技術協力プロジェクト	作 成 部 課	
国 名	ブラジル	等 名 称	専門家チーム	現 地 調 査 期 間	2010 年 4 月 8 日～2010 年 12 月 28 日	担 当 者 氏 名	

番号	資 料 の 名 称	形 態	版 型	ページ数	オリジナル コピーの別	部 数	収集先名称又は発行機関	寄贈・購入 (価格)の別
1	Gestão de Unidades de Conservação e educação ambiental – Volume I	Book		116	Original	1	ICMBio	
2	Mosaicos de Áreas Protegidas – Reflexões e propostas da cooperação franco-brasileira	Book		145	Original	1	ICMBio	
3	Áreas protegidas e inclusão social – Tendências e perspectivas – volume 4 Número 1	Book		346	Original	1	ICMBio	
4	Corredores ecológicos – Uma abordagem integradora de ecossistemas no Brasil	Book		203	Original	1	ICMBio	
5	Mosaico Sertão Veredas – Peruaçu – Plano de Desenvolvimento Territorial de Base Conservacionista – DTBC	Book		60	Original	1	ICMBio	
6	Planejamento bioregional do Maciço de Baturité	Book		177	Original	1	ICMBio	
7	Jalapão – Expedição científica e conservacionista	Book		93	Original	1	ICMBio	
8	Formação, implementação e funcionamento de conselhos consultivos de Unidades de Conservação: Experiências em Minas Gerais	Book		36	Original	1	ICMBio	
9	Germinação de sementes e produção de mudas de plantas do Cerrado	Book		96	Original	1	ICMBio	
10	Diversidade biológica e conservação da Floresta Atlântica ao Norte do rio São Francisco	Book		363	Original	1	ICMBio	
11	Plano de ação nacional para a conservação do Pequeno Cetáceo Toninha (<i>Pontoporia blainvillei</i>)	Book		75	Original	1	ICMBio	
12	Roteiro metodológico para elaboração de Plano de Manejo para Reservas Particulares do Patrimônio Natural	Book		95	Original	1	ICMBio	
13	Áreas protegidas da Amazônia – Volume I	CD		-	Original	1	ICMBio	
14	Áreas protegidas da Amazônia – Volume II	CD		-	Original	1	ICMBio	
15	Série Corredores Ecológicos – Iniciativas e metodologias para a implementação do Projeto Corredores Ecológicos	Book		73	Original	1	ICMBio	

番号	資料の名称	形態	版型	ページ数	オリジナル コピーの別	部数	収集先名称又は発行機関	寄贈・購入 (価格)の別
16	Série Corredores Ecológicos –Implementação da porção marinha do Corredor Central da Mata Atlântica	Book		79	Original	1	ICMBio	
17	Série Corredores Ecológicos – Experiências em implementação de Corredores Ecológicos	Book		76	Original	1	ICMBio	
18	Série Corredores Ecológicos – Experiências em planejamento e implementação	Book		57	Original	1	ICMBio	
19	Áreas protegidas do Brasil – Gestão participativa do SNUC	Book, CD		205	Original	1	ICMBio	
20	As Caatingas – Debates sobre a ecorregião do Raso da Catarina	Book		213	Original	1	ICMBio	
21	Plantas medicinais do Cerrado – Perspectivas comunitárias para a saúde, o meio ambiente e o desenvolvimento sustentável	Book		261	Original	1	ICMBio	
22	Anais – V Congresso Brasileiro de Unidades de Conservação	Book, CD		86	Original	1	ICMBio	
23	Reserva legal: Uma oportunidade de conservação em paisagens produtivas	Pamphlet		9	Original	1	ICMBio	
24	A Convenção sobre Diversidade Biológica: Entendendo e influenciando o processo – Um guia para entender e participar efetivamente da Oitava Reunião da Conferência das Partes da Convenção sobre Diversidade Biológica (COP-8)	Book		70	Original	1	ICMBio	
25	Diretrizes e prioridades do plano de ação para implementação da Política Nacional de Biodiversidade PAN-Bio	Book		80	Original	1	ICMBio	
26	Terceiro Relatório Nacional para a Convenção sobre Diversidade Biológica	Book		366	Original	1	ICMBio	
27	Segundo Relatório Nacional para a Convenção sobre Diversidade Biológica	Book		347	Original	1	ICMBio	
28	Gestão integrada de Ecossistemas aplicada a Corredores Ecológicos	Book		472	Original	1	ICMBio	
29								
30								

Book Registration, 2011

Title (Portuguese)	Title (English)	Author (Organization)	Publication year	ISBN	Type No.	Classification No.	Registration No.
Terra Ahoj – Uma Iconografia do Monte Pascoal	Land Ahoj – An Iconography of Mount Pascoal	José Carlos Capinan (PETROBRAS / IBAMA)	1996		1	2	1
Catálogo de Árvores do Brasil	Book Trees of Brazil	José Athlete Alves, Camargos and others (IBAMA)	2001	85-7300-117-8	1	2	2
O Brasil da Soja – Abrindo Fronteiras, Semeadando Cidades	The Brazil of Soy – Opening Frontiers, Sowing Cities	Geraldo Hasse (CEVAL Alimentos)	1996		1	3	3
Atlas de Conservação da Natureza Brasileira – Áreas Federais	Biological Nature Conservation Atlas – Federal Areas	Ricardo Bomfim Machado and others (IBAMA)	2004	85-85371-57-9	1	2	4
Diversidade Biológica e Conservação da Floresta Atlântica ao Norte do Rio São Francisco	Biological Diversity and Atlantic Rainforest Conservation in the North of Rio São Francisco	Kátia Casavante Porto (MMA)	2006	85-87166-80-8	1	2	5
Natureza e Conservação – Revista Brasileira de Conservação da Natureza – N° 03	Nature and Conservation – The Brazilian Journal of Nature Conservation – N° 03	(O BOTTICÁRIO FOUNDATION)	2004		1	3	6
Natureza e Conservação – Revista Brasileira de Conservação da Natureza – N° 08	Nature and Conservation – The Brazilian Journal of Nature Conservation – N° 08	(O BOTTICÁRIO FOUNDATION)	2006		1	3	7
Natureza e Conservação – Revista Brasileira de Conservação da Natureza – N° 09	Nature and Conservation – The Brazilian Journal of Nature Conservation – N° 09	(O BOTTICÁRIO FOUNDATION)	2007		1	3	8
Natureza e Conservação – Revista Brasileira de Conservação da Natureza – N° 11	Nature and Conservation – The Brazilian Journal of Nature Conservation – N° 11	(O BOTTICÁRIO FOUNDATION)	2008		1	3	9
Pagamentos por Serviços Ambientais – Perspectivas para Amazônia Legal – N° 10	Payments for Environmental Service – Perspective for Legal Amazon – N° 10	Sven Wunder and others (MMA)	2009		2	3	10
Áreas Protegidas da Amazônia – Vol 01	Amazon Protected Areas – Vol 01	(MMA)	2007		1	2	11
Terceiro Relatório Nacional Para Conservação sobre Diversidade Biológica	Third National Report for Biological Diversity Conservation	Braulio Ferreira de Souza Dias (MMA)	2006	85-87166-99-9	2	3	12
Diversidade da Caatinga – Áreas e Ações Prioritárias para a Conservação	Caatinga Diversity – Priority Areas and Actions for Conservation	José Maria Cardoso da Silva and others (MMA)	2004	85-87166-47-6	1	2	13
Aptidão Agrícola das Terras – Xambióá	Capacity of Agricultural Lands – Xambióá	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	14
Aptidão Agrícola das Terras – Tocantinópolis	Capacity of Agricultural Lands – Tocantinópolis	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	15
Aptidão Agrícola das Terras – Marabá	Capacity of Agricultural Lands – Marabá	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	16
Aptidão Agrícola das Terras – Araguaína	Capacity of Agricultural Lands – Araguaína	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	17
Aptidão Agrícola das Terras – Imperatriz	Capacity of Agricultural Lands – Imperatriz	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	18
Geologia – Tocantinópolis	Geology – Tocantinópolis	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	19
Geologia – Marabá	Geology – Marabá	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	20
Geologia – Imperatriz	Geology – Imperatriz	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	21
Geologia – Carolina	Geology – Carolina	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	22
Geomorfologia – Xambióá	Geomorphology – Xambióá	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	23
Geomorfologia – Tocantinópolis	Geomorphology – Tocantinópolis	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	24
Geomorfologia – Marabá	Geomorphology – Marabá	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	25
Geomorfologia – Araguaína	Geomorphology – Araguaína	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	26
Geomorfologia – Imperatriz	Geomorphology – Imperatriz	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	27
Solos – Xambióá	Soils – Xambióá	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	28
Solos – Tocantinópolis	Soils – Tocantinópolis	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	29
Solos – Marabá	Soils – Marabá	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	30
Solos – Araguaína	Soils – Araguaína	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	31
Solos – Imperatriz	Soils – Imperatriz	(GOVERNMENT OF TOCANTINS STATE)	2002		2	4	32
Gaderno para Criação de Histórias em Quadrinhos	Creating Comic Books	(GAIXA)	2000		3	3	33
Apostila – Polícia Federal – N° 01	Federal Police Book – N° 01	(VESTIGOM)	2005		5	1	34
Fragmentação de Ecossistemas	Fragmentation of Ecosystems	(MMA)	2006	85-87166-48-4	1	2	35
Plano de Ação para Conservação do Pato- Mergulhão	Action Plan for Conservation of Brazilian Merganser (Pato-mergulhão)	(IBAMA)	2006	85-7300-226-3	1	2	36
Efetividade de Gestão das Unidades de Conservação Federais do Brasil	Effectiveness of Management of Federal Conservation Units of Brazil	(IBAMA – WWF)	2007		1	2	37
Gestão Participativa do SNUC (Sistema Nacional de Unidades de Conservação)	Participatory Management of SNUC (National System of Units Conservation)	(IBAMA)	2004		1	2	38
Uso Público em Unidades de Conservação	Public Use in Units Conservation	(O BOTTICÁRIO FOUNDATION)	2004		1	2	39
III Caderno de Experiências – Agroecologia Transformando Paisagens Desertificadas	Notebook Experiment III – Agroecology: Transforming Desertified Landscapes	(DIACONIA / SABIÁ / CAA TINGA)	2004		2	4	40
Projeto de Conservação de Ecossistemas do Cerrado	Ecosystems Conservation Project of Cerrado	(JICA)	2006		2	2	41
Natureza em Foco – Avaliação Ecológica Rápida	Nature in Focus – Rapid Ecological Assessment	(THE NATURE CONSERVANCY)	2003	1-886765-18-9	1	2	42
Apostila – Polícia Federal – N° 02	Federal Police Book – N° 02	(VESTIGOM)	2000		5	1	43
III Conferência Nacional do Meio Ambiente – Deliberações	Second National Conference of Environment – Deliberations	(IBAMA – MMA)	2005		2	2	44
A Estratégia Global da Biodiversidade	The Global Biodiversity Strategy	(WRI – World Resources Institute / O BOTTICÁRIO FOUNDATION)	1992	0-915825-74-0	1	2	45
Cidades Sustentáveis	Sustainable cities	(IBAMA MMA)	2000	85-7300-093-7	1	3	46
Agricultura Sustentável	Sustainable agriculture	(IBAMA MMA)	2000	85-7300-099-6	1	4	47
Redução das Desigualdades Sociais	Reducing Social Inequalities	(IBAMA MMA)	2000	85-7300-098-1	1	3	48
Infra-estrutura e Integração Regional	Infrastructure and Regional Integration	(IBAMA MMA)	2000	85-7300-098-8	1	3	49
Ciência e Tecnologia para Desenvolvimento Sustentável	Science and Technology for Development Sustainable	(IBAMA MMA)	2000	85-7300-097	1	3	50
Ações do MMA para Deliberações da I CNMA	Actions of MMA for Determinations of I CNMA	(MMA)	2005		2	1	51
Panorama da Biodiversidade da I CNMA	Panorama Global Biodiversity 2	(MMA)	2006	92-9225-040-X	1	2	52
Plano Amazônia Sustentável	Sustainable Amazonian Plan	(MMA)	2006		2	3	53
Desenvolvimento e responsabilidade ambiental	Development and Environmental responsibility	Capim Dourado Shopping	2008		5	3	54

Consumo Sustentável – Manual de Educação	Sustainable Consumption – Education Manual	MMA	2002	85-87166-43-3	1	3	55
Agroecologia – Sistemas Agroflorestais n.º 15	Agroecology – Agroforest Systems n.º 15	Revista Agroecologia	2002		5	4	56
JICA 25 anos de Cooperação – Instituto Florestal	25 Years of JICA cooperation – Forestry Institute	JICA	2005		1	2	57
Conservação Estratégica – Série 07	Conservatio Strategy Fourd – 17th Series	Gordon and Betty MOORE Foundation	2007		2	4	58
National Geographic Brasil – n.º 80	National Geographic Brazil – n.º 80	National Geographic	2006		5	2	59
Roteiro Metodológico de Planejamento – Parque Nacional, Reserva Biológica, Estação Ecológica	Roadmap Planning Methodologies – National Park, Biological Reserve, Ecological Station	MMA	2002		1	2	60
Roteiro Metodológico para Elaboração de Plano de Manejo para Florestas Nacionais	Planning Methodologies for the Preparation of Management of National Forests	MMA – IBAMA	2003	85-7300-157-7	1	2	61
Estratégias de Conservação da Biodiversidade no Brasil	Strategies of Biodiversity Conservation in Brazil	Nema Brasil	2007		1	2	62
Jalapaço – Expedição Científica e Conservacionista	Jalapaço – Scientific Expedition and Conservationist	Moacir Bueno Arruda – IBAMA	2002	85-7300-153-4	2	2	63
SNLUC – Sistema Nacional de Unidades de Conservação	SNLUC – National System of Conservation Units	MMA	2006		1	1	64
Workshop Internacional sobre Monitoramento da Biodiversidade em Unidades de Conservação Federais	Proceedings and Papers of the Workshop on Biodiversity Monitoring in Federal Protected Areas	IBAMA	1997	85-7300-053-8	2	2	65
Unidades de Conservação Federais do Brasil	Monitoring in Federal Protected Areas	MMA – IBAMA			3	2	66
Estação Ecológica do Itaim	Brazil Federal Units Conservation	MMA – IBAMA	1989		1	2	67
Estratégias para Conservação e Manejo de Recursos Genéticos de Plantas Medicinais e Aromáticas	Strategies for Conservation and Management of Genetic Resources of Medicinal and Aromatic Plants	MMA – IBAMA – EMBRAPA	2002	85-87697-12-9	2	2	68
Conservação sobre Diversidade Biológica – Protocolo de Cartagem sobre Biossegurança	Conservation on Biological Diversity – Cartage Protocol on Biosafety	PETROBRAS	2008		2	2	69
Jalapaço – Sertão das Águas	Jalapaço – Backland of the Waters	Miguel von Behr (PETROBRAS)	2004	85-89226-05-0	1	2	70
Séries de Estereo – Fotografias para Quantificar a Biomassa da Vegetação do Cerrado do Brasil Central – Volume I	Stereo Photo Series for Quantifying Cerrado Fuels in Central Brazil – Volume I	Brasilia University / United States International Development (USAID)	2001		2	1	71
Manual de Normas Administrativas Planejamento / Orcamentos / Financez	Standards Manual Administrative Planning / Budgets / Financez	IBAMA			5	1	72
Cerrado – Ecologia e Flora – Volume 2	Cerrado – Ecology and Flora – Volume 2	EMBRAPA	2008	978-85-7383-421-5	1	2	73
Ações do MMA para os Municípios	Actions Of Envorolment Ministry for teh Municipalities	MMA			2	3	74
Diretrizes e Prioridades do Plano de Ação para Implementação da Política Nacional da Biodiversidade	Guidelines and Priorities of Action Plan for Implementation of National Policy Biodiversidade	MMA	2006		1	1	75
Áreas Prioritárias para a Conservação . Uso Sustentável e Repartição de Benefícios da Biodiversidade Brasileira	Priority Areas for Conservation, Sustainable Use and Sharing of Benefits of Brazilian Biodiversity	MMA	2008	978-85-7738-096-1	2	3	76
Biodiversidade Marinha da Baía da Ilha Grande	Marine Biodiversity in Ilha Grande Bay	MMA	2007	978-85-7738-035-0	2	2	77
Plano de Ações Estratégicas e Integradas para o Desenvolvimento do Turismo Sustentável na Bacia do Rio São	Strategic Action Plan and Integrated Development of Sustainable Tourism in São Francisco River Basin	MMA	2006		1	3	78
Política Ambiental Integrada para o Desenvolvimento Sustentável	Integrated Environmental Policy for Sustainable Development	MMA	2006		2	3	79
Biodiversidade Marinha da Baía da Ilha Grande	Secretariat of Policies for Sustainable Development	MMA	2006		2	3	80
Co-gestão: Um processo em construção na várzea amazônica	Co-management: A process in construction in the Amazon floodplain	IBAMA	2004		2	3	81
Comissão Nacional de Biodiversidade	National Commission on Biodiversity	MMA	2008		2	1	82
Plano de Gestão Integrada de Resíduos Sólidos	Plan on Integrated Management of Solid Residue	MMA	2005		2	3	83
Conferência Nacional do Meio Ambiente – Deliberações 2003	National Conference on the Environment – Resolutions 2003	MMA	2003		2	2	84
Etnobotânica e Ecologia Populacional de <i>Syngonanthus nitens</i> : Sempre-viva Utilizada para Artezanato no Jalapaço, Tocantins	Population Ecology and Ethnobotany of <i>Syngonanthus nitens</i> : Used for Handicraft in Jalapaço, Tocantins	Brasilia University (UNB)	2005		2	3	85
Roteiro Metodológico para Elaboração de Plano de Manejo para Reservas Particulares do Patrimônio Natural	Roadmap Methodology for the Preparation of Management Plan for Private Reserves of Natural Heritage	MMA / IBAMA	2004		1	2	86
Unidades de Conservação do Brasil	Units Conservation of Brazil	MMA / ICMBio	2007		1	2	87
O Fogo no Parque Nacional das Emas	The Fire in Emas National Park	MMA	2007	85-7738-041-6	1	2	88
Biota Marinha da Costa Oeste do Ceará	Marine Biota of the West Coast of Ceara	MMA	2006	85-7738-036-X	2	2	89
Ações do MMA para Deliberações da II CNMA	Actions of MMA for Determinations of II CNMA	MMA	2008		2	2	90
Revista Brasileira de Educação Ambiental n.º 03	Journal of Environmental Education n.º 03	MMA	2008		1	3	91
I Seminário de Sistemas Implantados de Monitoramento e Controle do Desmatamento e Queimadas da Amazônia Legal Sustentável da Amazônia Brasileira	I Seminar Systems Deployed to Monitor and Control of Deforestation and Fires of the Legal Amazon Sustainable Amazon Plan – Guidelines for the Sustainable Development of the Brazilian Amazon	MMA	2006		2	2	92
Plano Amazônia Sustentável – Diretrizes para o Desenvolvimento Sustentável da Amazônia Brasileira	Sustainable Amazon Plan – Guidelines for the Sustainable Development of the Brazilian Amazon	Governo Federal	2008		2	2	93
Iniciativa Latino-Americana e Caribenha para o Desenvolvimento Sustentável – ILAC (Indicadores de Enciclopédia de Animais Ilustrada	Sustainable Development – ILAC (Monitoring Indicators) Illustrated Encyclopedia of Animals	MMA	2007		2	3	94
Uso de Flúidos Naturais em Sistemas de Refrigerações e Ar-condicionado.	Use of Natural Refrigerants	Edelbra	1992	85-7390-138-1	1	2	95
Revista do CONFEA – Matriz X Crise Energética	The use of Natural Refrigerants	MMA	2008		1	2	96
Fazendo Gênero na Amazônia	Magazine CONFEA – Matrix X Energy Crisis	CONFEA	2001		5	3	97
Região Oeste da Bahia	Doing Gender in Amazonia	MMA	2005		1	3	98
Revista Economia e Desenvolvimento	Western Region of Bahia	Bahia Government	2005		2	4	99
Áreas Protegidas do Brasil	Economy and Development Magazine	Goiás Government	2005		5	3	100
Agenda 21 e os Objetivos de Desenvolvimento do Milênio	Brazil Protected Areas	MMA	2005		3	2	101
Agenda 21 – o Semi-árido e a luta contra a desertificação.	Agenda 21 and the Millennium Development Objectives	MMA	2005		1	2	102
Meio Ambiente	Agenda 21, the semi-arid and combating desertification. Environment	MMA	2006		1	2	103
					2	2	104

Brazil – Tocantins	Brazil – Tocantins	Tocantins Government				2	2	105
Avaliação e Ações Prioritárias para Conservação da Biodiversidade da Caatinga	Evaluation and Priority Actions for Biodiversity Conservation in the Caatinga	MMA			2002	2	2	106
Instrumentos Econômicos para uma nova Política Ambiental no Brasil	Economic Instruments for a new environmental politics in Brazil	MMA			2006	2	1	107
Meio Ambiente – Ações Estratégicas	Environment – Strategic Actions	MMA			2003	2	2	108
Flora Nacional de Ipanema	Ipanema National Forest	IBAMA			2003	2	2	109
Grupo de Trabalho Amazônico – Rede GTA / Relatório Povos das Florestas 2002/2003	Amazonic Work Group – GTA network / Report on the Forest People – 2002/2003	Rede GTA			2003	2	3	110
Planejamento Estratégico par Preservação e Estudo dos Mamíferos Aquáticos		Fundação Mamíferos Aquáticos			2003	2	2	111
Revista Roteiro	Roteiro Magazine	Roteiro Brasília			2006	5	3	112
Almanaque Clubinho da Tararuga	Indian Brasil Magazine	Fundação Nacional do Índio			2003	5	3	113
Cartilha de Licenciamento Ambiental		IBAMA			2000	5	2	114
Atlas do Tocantins		Tribunal de Contas da União			2007	1	1	115
Produção de Mudas em Viveiros Florestais		Tocantins Government			2002	2	3	116
Plano Estratégico Nacional de Áreas Protegidas		São Paulo Government			1993	1	2	117
Alternativas para o Manejo Sustentável da Palmeira Juçara		MMA			2006	1	1	118
Meio Ambiente – Grupo Eletrobrás	Environment – Grupo Eletrobrás	Federal Government			2003	1	1	119
Áreas Protegidas – Uma nova história de Conservação no Desenvolvimento e Meio Ambiente – 2		São Paulo Government			2006	2	3	120
Série Meio Ambiente em Debate – Desenvolvimento Sustentável – 3		Eletrobras Group			2006	2	3	121
Competência Municipal para Regular o Uso do Fogo na Amazônia		MMA			1996	3	3	122
Licenças e Metodologias de um Programa Inovador		IBAMA / MMA			2006	1	2	123
Barreiras em Desenvolvimento		IBAMA / MMA			1996	1	2	124
Revista IBAMA – Ano II n.º 03		IBAMA / MMA			1996	1	2	125
Ações Prioritárias para Conservação da Biodiversidade do Cerrado e Pantanal		Cooperazione Italiana			2000	2	2	126
II Conferência Nacional do Meio Ambiente – Mudanças Climáticas		Cooperazione Italiana			2005	2	3	127
Revista Indígena Brasil n.º 5		Prefeitura de Barreiras			2008	5	3	128
Programa Nacional de Crédito Fundiário		IBAMA – MMA			2008	5	2	129
Pela Vida no Planeta		MMA			1999	1	2	130
Fundação O Boticário de Preservação à Natureza		MMA			2008	2	2	131
II Conferência Nacional do Meio Ambiente – Texto Base		Fundação Nacional do Índio			2007	5	3	132
Protocolos Municipais de Prevenção e Combate ao Fogo – Histórico, Metodologia e Textos Aprovados.		MMA			2003	5	2	133
Plano de Ação de Coordenação-Geral de Educação Ambiental		Ministério do Desenvolvimento Agrário			2005	2	3	134
Revista IBAMA – Ano II n.º 02		Conservação Internacional – Brasil			2005	3	2	135
Revista IBAMA – Ano I n.º 01		Fundação O Boticário			2005	2	2	136
Revista IBAMA – Ano I n.º 06		MMA			2003	2	2	137
Almanaque Brasil da Cultura Popular		Amigos da Terra – Amazônia Brasileira			2005	2	3	138
Oficina para Capacitação em Educação Ambiental		IBAMA – MMA			2008	5	2	139
Sugestões de Atividades para Multiplicadores em Educação Ambiental		IBAMA			2008	5	2	140
Plano de Ação para a Prevenção e Controle da Desmatamento na Amazônia Legal		IBAMA			2000	5	2	141
Em Busca de um Novo Equilíbrio – Detritizes para aumentar as oportunidades de conservação da biodiversidade por meio do manejo biorregional.		Associação dos Peritos Criminais Federais – APCF			2005	5	2	142
Jornal Terra Azul – Ano I n.º 0		Instituto José Bonifácio			2004	5	2	143
Pequi – Pesquisa e Conservação do Cerrado		Correios			2004	5	3	144
		Tocantins Government – NATURATINS			2002	2	3	145
		Tocantins Government – NATURATINS			2002	2	3	146
		Federal Government			2004	2	2	147
		IBAMA – MMA			1997	2	2	148
		IBAMA – MMA			2006	3	3	149
		ONG Pequi			2001	2	2	150

GIS Data List, 2011

DiskName	DataName	Organization	SizeMB	NumberOfFiles
Assentamentos_Tocantim	Assentamentos_TO 10/2008	INCRA	1.1	6
Tm 221-70-345	LANDSAT TM 221-70 (1995) CD-04		114.5	2
cd	Cena223_067_14/06/2003		272.2	7
Meu Disco1	Cena231_068_12/09/2004		279.3	
Sicad_10k	SICAD 1:10000 1991		644.5	492
040608_1600	imagem 232_66_98_Rondonia		152.1	1
New1	223_069_GO/TO_Passagem_22/08/02		247.5	11
NOVO1	APA CAFURINGA_FLONA_PEDOLOGIA DF_MAPAS_CONDOMINIOS		209.9	1113
	Cartas IBGE_ORTOFOTOS CITRUS_26/01/2006_CATI	IBGE		
060331_1227	Dados sp_cd-72		700.7	35
Pericia Ch Vead	Chapada dos Veadeiros_cd-73		83.2	405
Meu Disco2	Pericia de incendios ocorridos na Chapada dos veadeiros_relatorios_fotos_mapas		41.6	128
NOVO2	APA do Planalto Central_Ikonos_Base Brasil_Base Cartografica_relatorio APA_cascalheiras_condominios		642.2	471
Norte_TO	ZEE Norte Tocantins_Base dados Norte TO_Relatorios tecnicos Norte TO		686.3	3905
My Disc1	Missos Tocantins 2005_2006		4300	5746
Imagens landsat	Sistema de protecao da amazonia-SIPAM_Cenas landsat orbitas_222_064/222_065/222_066/222_067	SIPAM		
New2	imagem Landsat7 223_069_26/07/2001		607.5	45
CD_PDOT	Copia_Pdot_mapa.html		311.7	630
001207_1855	Fusao 5437 PAN 15m		475.5	3
010518_1628	Mapa ambiental 2000		150.8	394
VOL_20060518174411	Tocantins_Base Cartografica Digital Continua_shapefile 1:100.000		2680	60644
GT BR163	GT BR163		322.4	389
Meu Disco2	SIG_FUNAI	FUNAI	137.5	18
Base_To_CD2	Base_TO_CD2		285.2	11584
Base_To_CD1	Base_TO_CD1		619.8	526
01 set 2005	Rezoneamento da APA do Sao Bartolomeu		3.2	7
Mosaico Taquari	Imagem Taquari N.Rural Boa Esperanca I e II		552.6	1
Cartas Wac	Cartas Aeronauticas-Brasil		545.7	41
My Disc3	Linha Media de Enchentes ordinarias Teresina-PI		28.9	59
051104_1521	Base Cartografica Municipios To		6.4	7
Otofoto	ORTOFOTOCARTAS_ESTEIO-1996		4370	629
010518_1654	PDOT 97		89.5	47
001211_0123	221.71_10/10/88		207.3	6
021008_1534	SITURB_Sistema de Informacao Territorial e Urbana do Distrito Federal		142	604
010528_1110	Vegetacao no Serrado - Greentec RGP (PAN)-TIF DF 1999		119.1	5
Teresina	Base Cartografica de Teresina - PI		3760	351
Perito_Garcia	Dados do DF_Laboratorio de Geoprocessamento		2150	197
New3	Base Cartografica - SIPAM	SIPAM	452.1	255
Meu Disco3	Mapa fundiario - TERRACAP_2008	TERRACAP	24	2
Disc	JECMA_2009_69_Backup_Dados Campos		677.6	522
Meu Disco4	Mapa Fundiario - DF		7.4	1
Quickbird	Imagem QuickBird_2003_APA Gama e Cabeca de Veado_IBGE-RECOR	IBGE	4370	200
Por do Sol CD1	Ortofotos Setor habitacional Por do Sol CD-1	TERRACAP	595.4	18
Por do Sol CD2	Ortofotos Setor habitacional Por do Sol CD-2	TERRACAP	561.3	44
Meu Disco5	Companhia imobiliaria de Brasilia - TERRACAP_Zoneamento da Arie JK NCE Engenharia_2006	TERRACAP	295.3	159
Meu Disco6	Imoveis do setor habitacional Por do Sol Fonte: SEF-DF	SEF	0.356	1
Terras Indigenas1	Terras Indigenas (dgu) de M. ate Z_FUNAI_11/03/05_Mapa do Brasil	FUNAI	489.3	433
Terras Indigenas2	Terras Indigenas (dgu) de A. ate L_Terras Indigenas (GEOMEDIA) FUNAI_11/03/05	FUNAI	672.7	371
New4	221_067/221_070		391.3	13
Terras Indigenas3	Ti Amazonia		209.9	349
Tumucumaque_5	Projeto PNMT DISCO 5/5 M.TMCMQ		3820	27
Tumucumaque_4	Projeto PNMT DISCO 4/5 M.TMCMQ		4000	30
Tumucumaque_3	Projeto PNMT DISCO 3/5 M.TMCMQ		3990	31
Tumucumaque_2	Projeto PNMT DISCO 2/5 M.TMCMQ		4260	36
Missao Tumucu	Projeto PNMT DISCO 1/5 M.TMCMQ		4040	27
Imagem-Geo_CRS1	Imagem Geo de 2000 Estado do AM - IBAMA	IBAMA	64.5	1
Imagem-Geo_CRS2	Imagem Geo de 2003 Estado do AM/AC - IBAMA	IBAMA	510.8	
081013_0831	Base de estradas nao oficiais da Amazonia- arquivos cedidos pelo IMAZON out/2008		72.5	8
Base_Google_MT	Base Cartografica - MT Fontes: SEPLAN-MT_SEMA-MT_IBAMA-INCRA		355.8	50
INTERSAT1	Digital Globe DPF-0805_10/out/2004_10/nov/2004		503.3	86
INTERSAT2	Digital Globe DPF-0805_18/out/2004_10/nov/2004		511	30
INTERSAT3	Digital Globe DPF-0805		513.7	101
Salvador	Digital Globe DPF-0805_04/out/2004_04/nov/2004			
IMAGEM BORDAS	Imagem QuickBird_03/03/2007_Bordas de Ceilandia		959.2	117
Fotos Rafael	Fotos			
Meu Disco7	Amostra de imagem Kompasat-2_engemap		698.2	4
Landsat	Landsat_Pan_BSB		592.1	3
New5	P.A. Agua Fria_Imagem/Parcelamento		2.4	2
Meu Disco8	Nucleo Rural Boa Esperanca I e II NUVIS_GEFIS_DITEC_TERRACAP	TERRACAP	15.6	75
Policia Federal	Imagem TM/Landsat 5- 223_067_14/06/03		128.9	3
EIA-JB	EIA Jardim Botanico_Arquivo DWG		19.4	9
SEMATEC99	Inventario Hidrogeologico e dos Recursos Hidricos Superficiais do Distrito Federa_SEMATEC/DF_IEMA	SEMATEC	169.2	1839
ARCVIEW1	DSEE_3		406.7	
ARCVIEW2	DSEE_4		499	23510
sig_goias	SIG_GOIAS_Shapefile_Estradas_altimetria_Arquivos Corel Draw		649.1	2098
aer_jpa	T. IND. Potiguara. DGN JCRE'S DOMINGOS POTIGUARA MONTE MOR *.DEN		49.8	13
AC_Marcelo	Projeto Urbanistico do Condominio Alto da Boa Vista - CABV		34.1	4
INC_SOBRADINHO	Sobrevoos Sobradinho SANTER/DIP/DPF_Imagens ENVI_Agosto 2004	SANTER/DIP/DPF	182.1	71
VOL_200501051050	Sobrevoos Sobradinho SANTER/DIP/DPF_Imagens BRUTAS_Agosto 2004	SANTER/DIP/DPF	621.1	
VOL_200610111415	Voo teste Formosa-Forestmapper_01/07/2003 Disco 1/2		603.2	28
VOL_200610111345	Voo teste Formosa-Forestmapper_01/07/2003 Disco 2/2		698.7	7
PA_SaoDomingos	PA SAO DOMINGOS.dwg_Mun. Morrinhos-GO		2.7	1
VOL_200511011004	PA SAO DOMINGOS.dwg_Mun. Morrinhos-GO_5.500		68.6	24
VOL_200511011034	PA SAO DOMINGOS.dwg_Mun. Morrinhos-GO 7.500		68.6	25
BACIA1	Sistema de Informacoes Georreferenciadas de Energia e Hidrologia - HIDROGEO_BACIA 1	ANEEL	53.5	197
BACIA2	Sistema de Informacoes Georreferenciadas de Energia e Hidrologia - HIDROGEO_BACIA 2	ANEEL	37.7	196
BACIA3	Sistema de Informacoes Georreferenciadas de Energia e Hidrologia - HIDROGEO_BACIA 3	ANEEL	44.4	195
BACIA4	Sistema de Informacoes Georreferenciadas de Energia e Hidrologia - HIDROGEO_BACIA 4	ANEEL	37	195
BACIA5	Sistema de Informacoes Georreferenciadas de Energia e Hidrologia - HIDROGEO_BACIA 5	ANEEL	51.4	196
BACIA6	Sistema de Informacoes Georreferenciadas de Energia e Hidrologia - HIDROGEO_BACIA 6	ANEEL	61.8	200
BACIA7	Sistema de Informacoes Georreferenciadas de Energia e Hidrologia - HIDROGEO_BACIA 7	ANEEL	31.4	196
BAICIA8	Sistema de Informacoes Georreferenciadas de Energia e Hidrologia - HIDROGEO_BACIA 8	ANEEL	35.1	198
Meu Disco9	Aulas ANP		93.7	11
122_87	ORTUFOTOS 87 122		627.7	56
My Disc4	MI 2935/2_MI2935/4_MI2935/3		170.3	3
mapa	Areas prioritarias para a conservacao sustentavel e reparticao de beneficios da Biodiversidade Brasileira		43.8	977
tg98se	TopoGRAPH 98 V.2.36 4461		74	243
18 jul 2005	Resolucao 303 CONAMA APP	CONAMA	7.8	2
New6	http://glcfcpp.umiacs.umd		349.2	78
VOL_200511071250	Congresso Criminalistica		483.5	163
Meu Disco10	VC'S Grades, Landsat (Poligonos) fonte: IBAMA	IBAMA	56.6	164
BSB_LEGAL	Ortofotos 153		477	49

datalist

PBAS 2 PISTA AIB	Relatorio de consolidacao do primeiro ano dos planos basicos ambientais – PBAs	INFRAERO	146.7	3
My Disc5	JECMA1_2006_JECMA2_2006		4240	2669
040902_1107	ORTOFOTOS DF_SICAD_135ii3_135ii2_135ii6_150i5_150iii3	SICAD	193.6	10
Meu Disco11	IMAGENS QUICKBIRD_2007_09/11/2007_DISCO 01		2480	28
Meu Disco12	IMAGENS QUICKBIRD_2007_09/11/2007_DISCO 02		3890	76
Meu Disco13	IMAGENS QUICKBIRD_2007_09/11/2007_DISCO 03		3380	56
Meu Disco14	IMAGENS QUICKBIRD_2007_09/11/2007_DISCO 04		3310	64
Meu Disco15	SICAD – 9_IMAGEM SPOT 2003-DF_PLANO DE MANEJO ARIE JK		588.1	256
AMRO_segs01_52	AMRO-Segmentos 01 a 52 LVV		4360	51
AMRO_segs53_87	AMRO-Segmentos 53 a 87 LVV		4360	35
AMRO_segs88_121	AMRO-Segmentos 88 a 121 LVV		4290	34
AMRO_segs122_155	AMRO-Segmentos 122 a 155 LVV		4330	34
AMRO_segs156_187	AMRO-Segmentos 156 a 187 LVV		4300	35
AMRO_segs188_220	AMRO-Segmentos 188 a 220 LVV		4300	33
AMRO_segs221_237	AMRO-Segmentos 221 a 237 LVV		2320	22